

京都大学自己点検・評価報告書 2001(別冊)

**「国際交流」
- アンケートの回答 -**

平成 14 年 3 月

アンケートの概要

1. 平成 13 年度自己点検・評価項目「国際交流」を実施するにあたり、本学と関係のある留学生、外国人研究者及び海外教育研究機関からの意見、感想を聴取するため、平成 13 年 9 月にアンケートを実施した。
2. 『アンケート調査』では、
 - A: 過去 10 年にわたって受入れた留学生（平成 3 年(1991)4 月から平成 13 年(2001)3 月までの間に卒業・修了した留学生）のうち 1,576 名
 - B: 平成 13 年(2001)5 月 1 日現在在学中の留学生 1,149 名を対象にアンケートを依頼した。
3. 『アンケート調査』では、
 - C: 過去 3 年間（平成 10 年度(1998)から平成 12 年度(2000)）のうちに京都大学を訪れた招へい外国人学者及び外国人共同研究者のうち 852 名を対象にアンケートを依頼した。
4. 『アンケート調査』では、
 - D: 平成 13 年 9 月 1 日現在大学間協定または部局間協定を締結している大学・機関(203 機関)を対象にアンケートを依頼した。
5. それぞれ英文のアンケートを用意し回答を得た。
なお、アンケート本文及び回答は、和訳したものを掲載した。
6. それぞれのアンケートでは、アンケート用紙で回答を得る方法と、インターネットを利用し回答を得る方法を用意し、数多くの回答と貴重なご意見等をいただいた。
7. 回答のうち、判別できない文字の箇所は、 で表した。
また、本人又は企業が特定できるような表現や誹謗中傷に関する表現は、修正又は削除した。

目次

アンケート調査

アンケート回答集計結果(A:帰国留学生).....	1
アンケート本文(A:帰国留学生).....	29
アンケート回答集計結果(B:在学中の留学生).....	35
アンケート本文(B:在学中の留学生).....	58

アンケート調査

アンケート回答集計結果(C:外国人研究者).....	63
アンケート本文(C:外国人研究者).....	95

アンケート調査

アンケート回答集計結果(D:学術交流協定校).....	101
アンケート本文(D:学術交流協定校).....	112
資料 分類表.....	117

アンケート調査 A：帰国留学生対象（回答集計結果）

	回答	回答数	割合
Q1	(1)男	124	(67.8%)*
	(2)女	59	(32.2%)*
Q2	(1)20～29才	28	(15.1%)*
	(2)30～39才	106	(57.3%)*
	(3)40～49才	45	(24.3%)*
	(4)50才以上	6	(3.2%)*
Q3	居住国	185	(100.0%)*
Q4	出身国	184	(99.5%)*
Q5	(1)～6ヶ月	4	(2.2%)*
	(2)6ヶ月～1年	21	(11.4%)*
	(3)1年～2年	52	(28.3%)*
	(4)2年～3年	21	(11.4%)*
	(5)3年～4年	26	(14.1%)*
	(6)4年～	60	(32.6%)*
Q6	滞在学部等	181	(97.8%)*
Q7	(1)出身国側から	20	(10.5%)*
	(2)日本側から	156	(82.1%)*
	(3)その他	1	(0.5%)*
	(4)支援なし	13	(6.8%)*
	記述(3)その他	0	(0.0%)*
Q8	(1)正規生	102	(56.4%)*
	(1)のうち 学位：博士	52	(52.5%)*
	"：修士	34	(34.3%)*
	"：学士	5	(5.1%)*
	"：取得せず	8	(8.1%)*
	"取得年：～1991年	1	(1.3%)*
	"：1992～1996年	30	(38.5%)*
	"：1997～2001年	47	(60.3%)*
	"取得月：4～9月	23	(29.5%)*
	"：10～3月	55	(70.5%)*
	(2)研究生、聴講生	67	(37.0%)*
	(3)学術交流協定による留学	9	(5.0%)*
(4)KUINEP学生	3	(1.7%)*	
Q9	専門分野	175	(95.6%)*
Q10	(1)職に就いている	146	(79.3%)*
	(2)学校在籍中	30	(16.3%)*
	(3)その他	8	(4.3%)*
	記述(3)その他	2	(1.1%)*
	勤務先の業種	150	(81.1%)*
	仕事	145	(78.4%)*
Q11	(1)すぐれた教育研究指導	105	(56.8%)*
	(2)研究環境がよい	85	(45.9%)*
	(3)京都で学びたかった	89	(48.4%)*
	(4)母国の教職員の勤め	52	(28.1%)*
	(5)友人・知人の勤め	25	(13.5%)*
	(6)就職に有利	35	(18.9%)*
	(7)文部省から指定されたから	11	(5.9%)*
	(8)入学試験に合格したから	1	(0.5%)*
	(9)その他	28	(15.1%)*
	記述	31	(16.8%)*

別紙参照

*回答者数に対する割合（回答数/回答者数×100）

他はのべ回答数に対する割合（回答数/のべ回答数×100）

発送数 1,576
有効送付数 1,146
回答者数 185
回答率 16.1%

	回答	回答数	割合
Q12	(1)留学前の案内・説明	182	(98.4%)*
	大変良かった	39	(21.4%)*
	良かった	84	(46.2%)*
	普通	44	(24.2%)*
	あまり良くなかった	8	(4.4%)*
	悪かった	7	(3.8%)*
Q12	(2)留学中の対応	180	(97.3%)*
	大変良かった	52	(28.9%)*
	良かった	93	(51.7%)*
	普通	26	(14.4%)*
	あまり良くなかった	4	(2.2%)*
	悪かった	5	(2.8%)*
	記述	128	(69.2%)*
Q13	(1)講義は面白く、刺激的	170	(91.9%)*
	強く思った	30	(17.6%)*
	少し思った	60	(35.3%)*
	普通	53	(31.2%)*
	思わなかった	17	(10.0%)*
	ひどいと思った	10	(5.9%)*
	(2)研究活動に熱心、研究は高い水準	179	(96.8%)*
	強く思った	70	(39.1%)*
	少し思った	66	(36.9%)*
	普通	35	(19.6%)*
思わなかった	6	(3.4%)*	
ひどいと思った	2	(1.1%)*	
Q13	(3)教官・学生は友好的	179	(96.8%)*
	強く思った	59	(33.0%)*
	少し思った	61	(34.1%)*
	普通	41	(22.9%)*
	思わなかった	12	(6.7%)*
	ひどいと思った	6	(3.4%)*
Q13	(4)建物、図書館、実験の設備が充実	178	(96.2%)*
	強く思った	71	(39.9%)*
	少し思った	51	(28.7%)*
	普通	35	(19.7%)*
思わなかった	17	(9.6%)*	
ひどいと思った	4	(2.2%)*	
	記述	105	(56.8%)*
Q14	(1)進学に関して	152	(82.2%)*
	プラスになっている	65	(42.8%)*
		57	(37.5%)*
		11	(7.2%)*
	プラスになっていない	19	(12.5%)*
	(2)職業選択に関して	167	(90.3%)*
	プラスになっている	60	(35.9%)*
		73	(43.7%)*
		24	(14.4%)*
	プラスになっていない	10	(6.0%)*
	(3)昇進に関して	170	(91.9%)*
	プラスになっている	66	(38.8%)*
		79	(46.5%)*
		18	(10.6%)*
	プラスになっていない	7	(4.1%)*
(4)異文化理解に関して	177	(95.7%)*	
プラスになっている	127	(71.8%)*	
	41	(23.2%)*	
	6	(3.4%)*	
プラスになっていない	3	(1.7%)*	
(5)その他	省略		
特に役立ったものは？	154	(83.2%)*	
1. 知識や技術	116	(62.7%)*	
2. 人脈	95	(51.4%)*	
3. 学位や履歴	60	(32.4%)*	
記述	43	(23.2%)*	
	記述	125	(67.6%)*

Q3 居住国

国名	回答数(件)	割合(%)
日本	38	20.5
アメリカ	24	13.0
中国	14	7.6
ドイツ	10	5.4
フランス	8	4.3
インドネシア		
タイ		
フィリピン	6	3.2
カナダ		
英国		
韓国	5	2.7
台湾		
ブラジル	4	2.2
シンガポール		
バングラデシュ		
ポーランド	3	1.6
ケニア		
ミャンマー		
インド		
ペルー		
オランダ		
フィンランド	2	1.1
オーストラリア		
エジプト		
タンザニア		
マレーシア		
モンゴル		
スリランカ		
ネパール		
エクアドル		
チリ		
パナマ		
パラグアイ		
イタリア		
スイス		
デンマーク		
ハンガリー		
ブルガリア		
リトアニア		
ルーマニア		
ロシア		
イラン		
ヨルダン		
トルコ		
マダガスカル		
計	185	100.0

Q4 出身国

国名	回答数(件)	割合(%)
中国	28	15.2
アメリカ	13	7.1
韓国	12	6.5
ドイツ		
フランス	10	5.4
カナダ	8	4.3
インドネシア		
タイ		
フィリピン	7	3.8
台湾		
ブラジル		
インド		
英国	4	2.2
ケニア		
シンガポール		
バングラデシュ		
イタリア		
オランダ	3	1.6
ベルギー		
ポーランド		
ミャンマー		
ネパール		
チリ		
ペルー		
ハンガリー		
ブルガリア		
イラン		
エジプト		
タンザニア		
日本		
ヴェトナム		
マレーシア		
モンゴル		
スリランカ		
ヴェネズエラ		
エクアドル		
コロンビア		
パナマ		
パラグアイ		
オーストリア		
ギリシャ		
クロアチア		
フィンランド		
ペラルーシ		
リトアニア		
ルーマニア		
ロシア		
オーストラリア		
ニュージーランド		
ヨルダン		
マダガスカル		
計	184	100.0

地域	回答数(件)	割合(%)
東アジア	61	33.0
東南アジア	25	13.5
南アジア	7	3.8
北米	30	16.2
中南米	10	5.4
西欧	31	16.8
東欧	8	4.3
オセアニア	2	1.1
中東・中央アジア	5	2.7
アフリカ	6	3.2
計	185	100.0

地域	回答数(件)	割合(%)
東アジア	47	25.5
東南アジア	29	15.8
南アジア	10	5.4
北米	21	11.4
中南米	15	8.2
西欧	37	20.1
東欧	11	6.0
オセアニア	2	1.1
中東・中央アジア	5	2.7
アフリカ	7	3.8
計	184	100.0

・ Q6 滞在学部等

部局	回答数(件)	割合(%)
(10)工学部・工学研究科	61	33.7
(11)農学部・農学研究科	33	18.2
(6)経済学部・経済学研究科	14	7.7
(3)文学部・文学研究科		
(8)医学部・医学研究科	13	7.2
(1)留学生センター	10	5.5
(7)理学部・理学研究科	8	4.4
(5)法学部・法学研究科	5	2.8
(4)教育学部・教育学研究科	4	2.2
(17)化学研究所		
(23)防災研究所	3	1.7
(9)薬学部・薬学研究科		
(12)人間・環境学研究科	2	1.1
(2)総合人間学部		
(13)エネルギー科学研究科		
(14)アジア・アフリカ地域研究研究科		
(18)人文科学研究所		
(19)再生医学研究所		
(20)エネルギー理工学研究所	1	0.6
(22)食糧科学研究所		
(27)数理解析研究所		
(29)霊長類研究所		
(30)東南アジア研究センター		
計	181	100.0

系別	回答数(件)	割合(%)
文系	47	26.0
理系	128	70.7
融合系	6	3.3
計	181	100.0

・ Q9 専門分野

	回答数(件)	割合(%)	
文系	52	29.7	
理系	123	70.3	
計	175	100.0	
理系の内訳	(1)土木,建築,都市	22	17.9
	(2)工学,応用物理	36	29.3
	(3)化学,材料	17	13.8
	(4)医,薬,生物	48	39.0

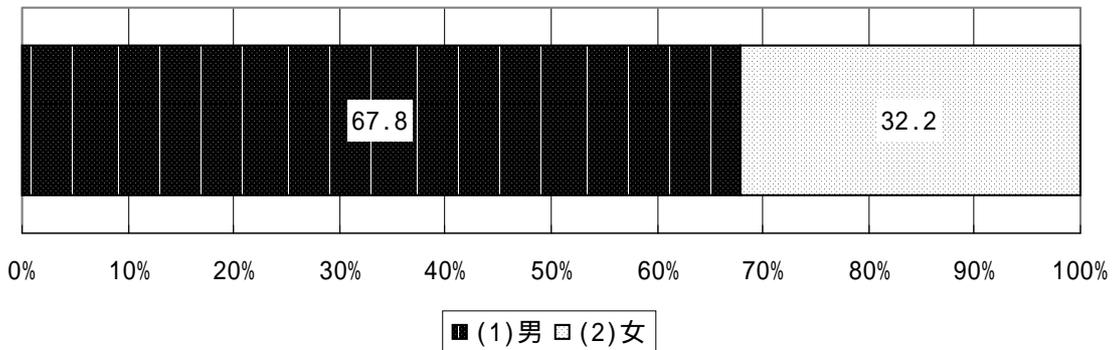
・ Q10 勤務先の業種

回答選択肢	回答数(件)	割合(%)
(1)製造業・建設業	23	15.3
(2)商業・サービス業	8	5.3
(3)金融・保険業	4	2.7
(4)運輸・電気・ガス	3	2.0
(5)マスコミ・広告	3	2.0
(6)通信・情報処理	6	4.0
(7)教育機関	48	32.0
(8)政府機関	15	10.0
(9)研究機関	28	18.7
(10)医療機関	8	5.3
(11)農林・漁業	3	2.0
(12)その他	1	0.7
計	138	100.0

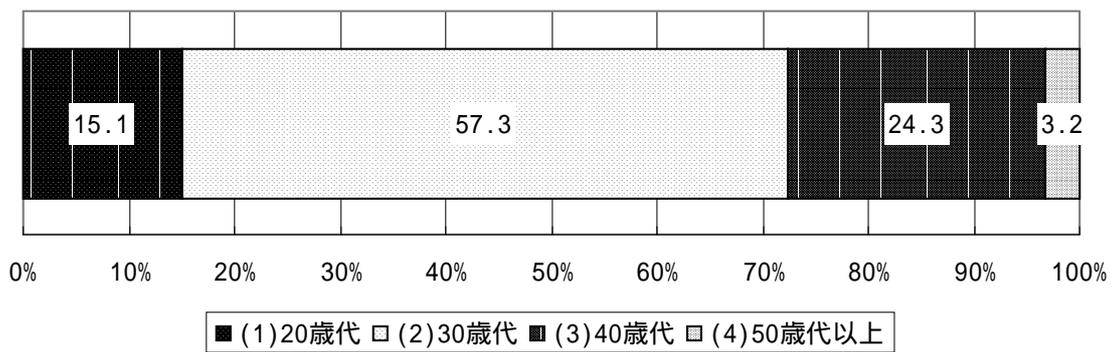
・ 仕事

回答選択肢	回答数(件)	割合(%)
(1)営業・販売職	2	1.4
(2)事務職	4	2.8
(3)技術者	23	15.9
(4)研究者	50	34.5
(5)教員	28	19.3
(6)公務員	12	8.3
(7)医師	10	6.9
(8)弁護士	1	0.7
(9)経営者	3	2.1
(10)その他の専門職	12	8.3
計	145	100.0

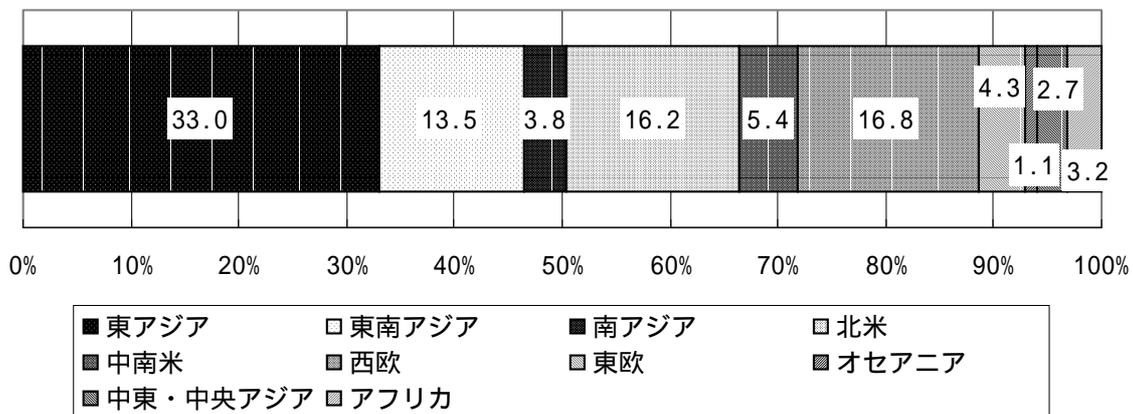
Q1. 性別



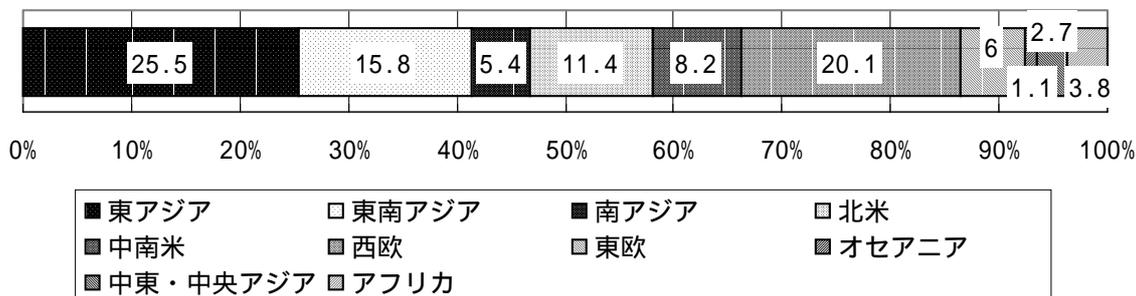
Q2. 年齢



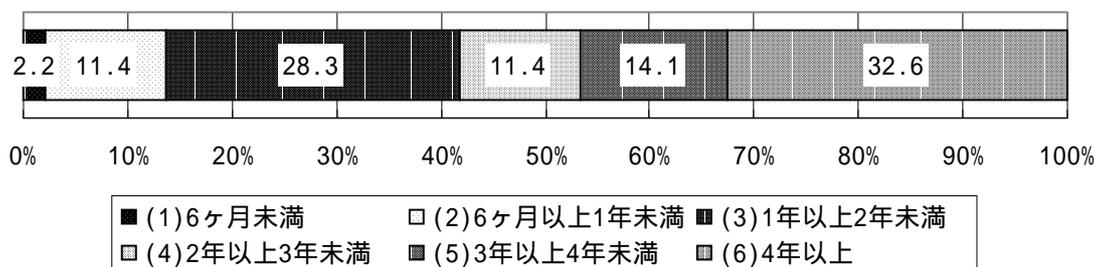
Q3. 現在居住している地域



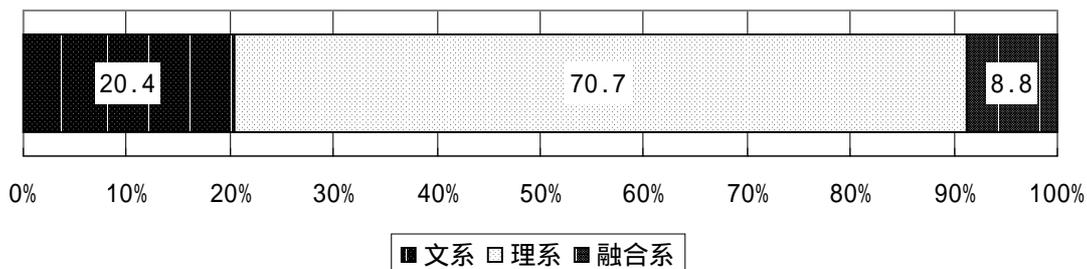
Q4. 出身地域



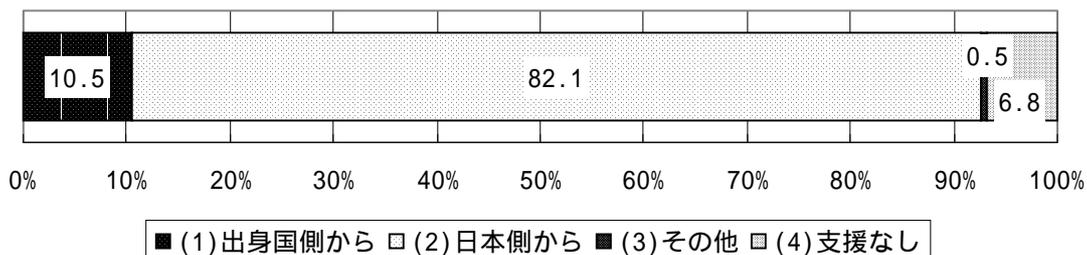
Q5. 京都大学での留学期間



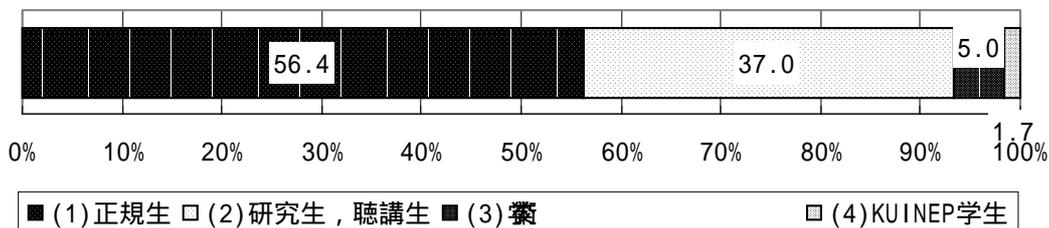
Q6. 滞在した学部等



Q7. 留学の際に受けた財政支援

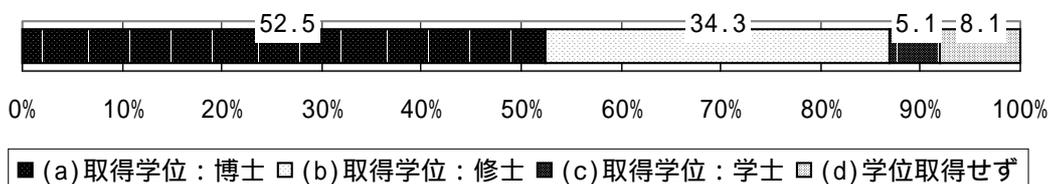


Q8. 京都大学における身分

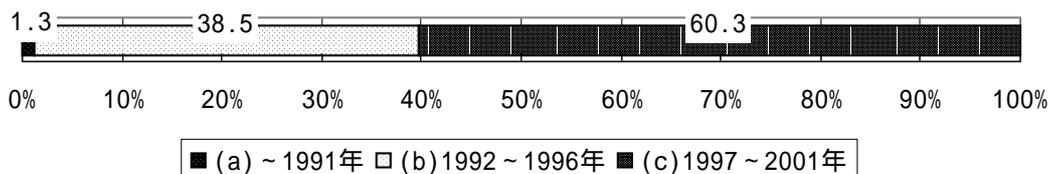


(1)と回答した者のうち,

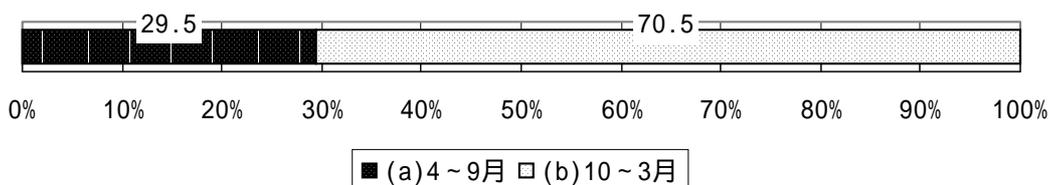
・学位の取得



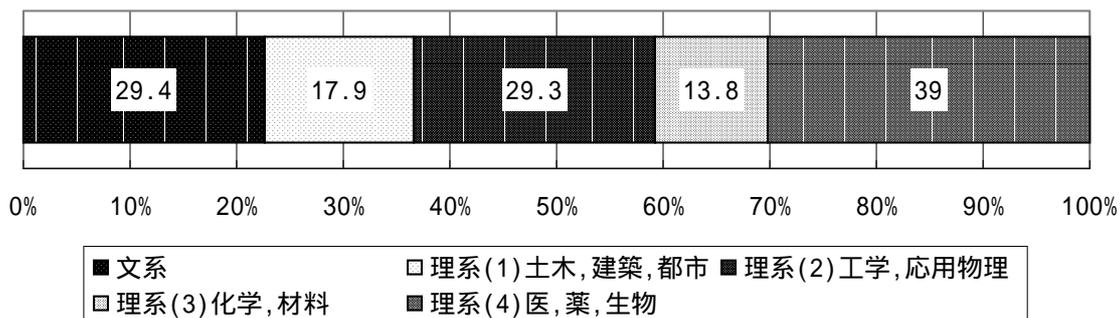
・学位の取得年



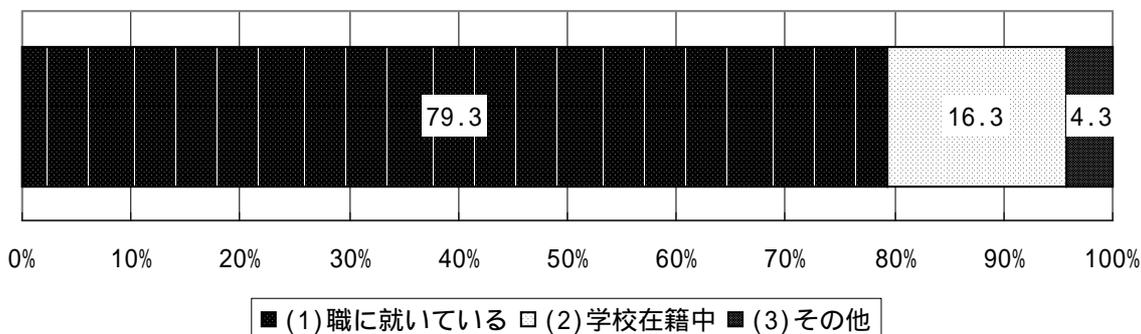
・学位の取得月



Q9. 専門の研究分野

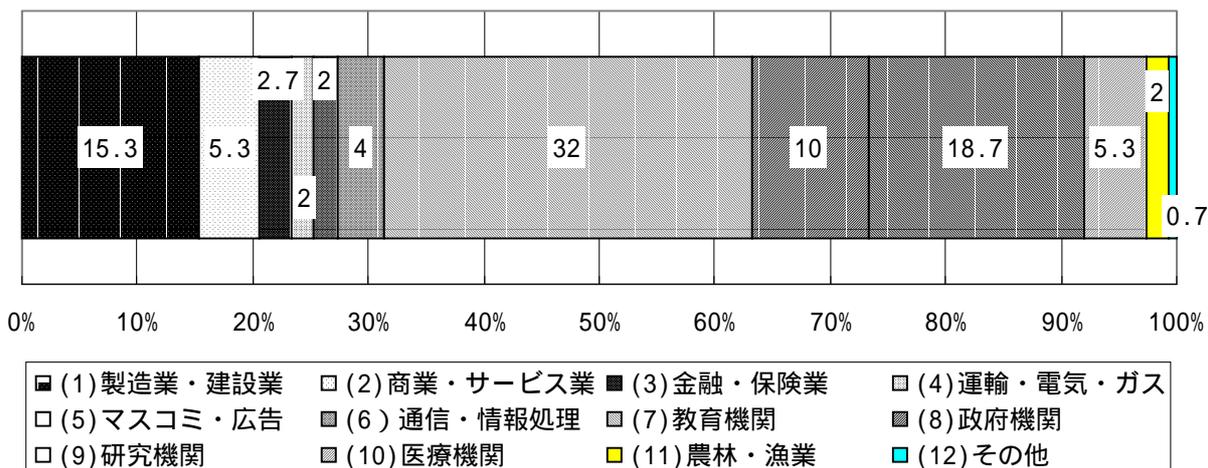


Q10. 現在の職業等について

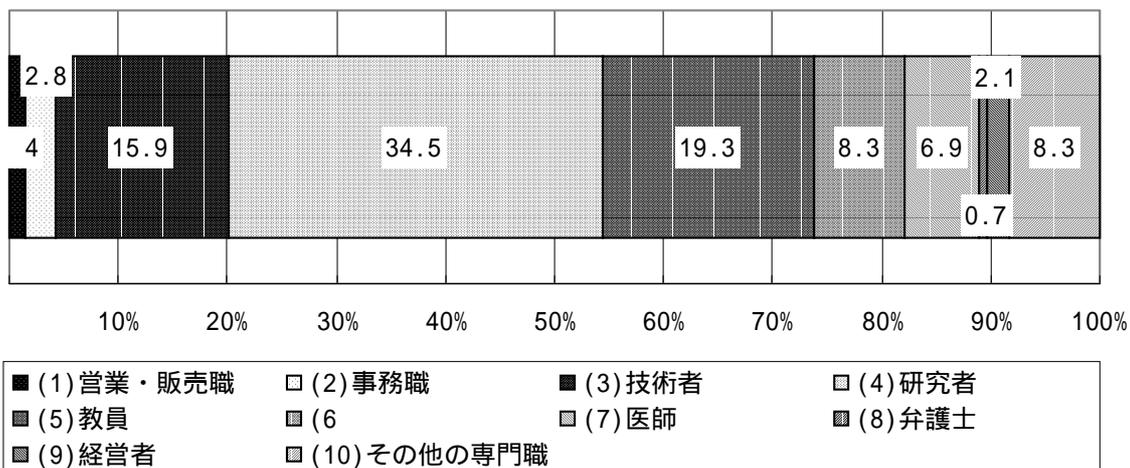


(1)と回答した者のうち、現在の仕事について

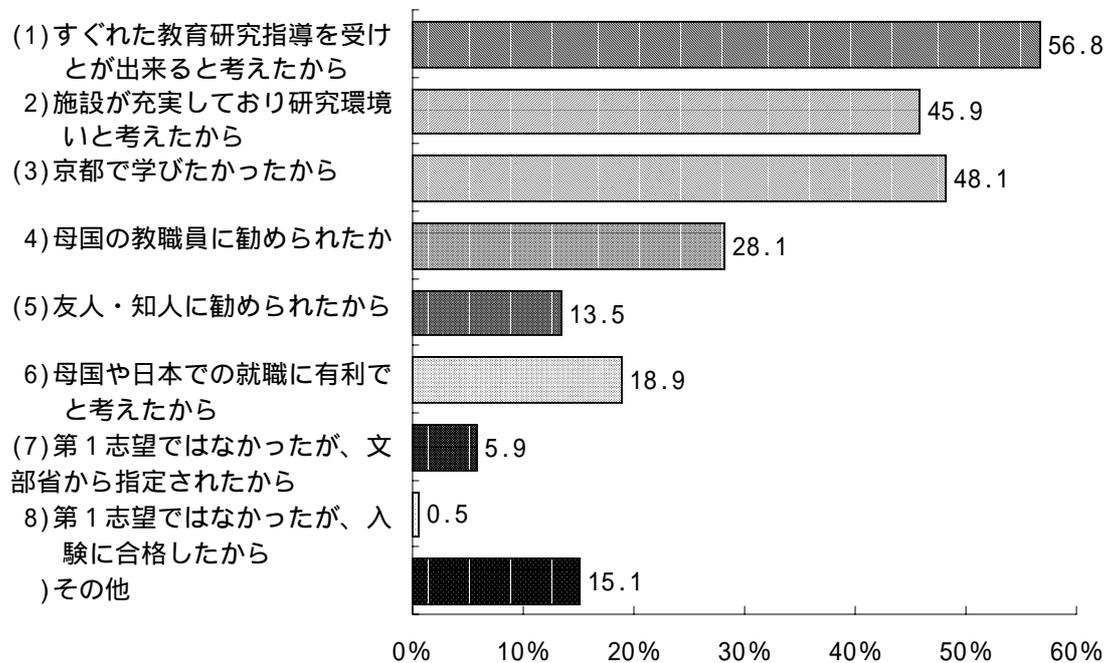
・勤務先の業種



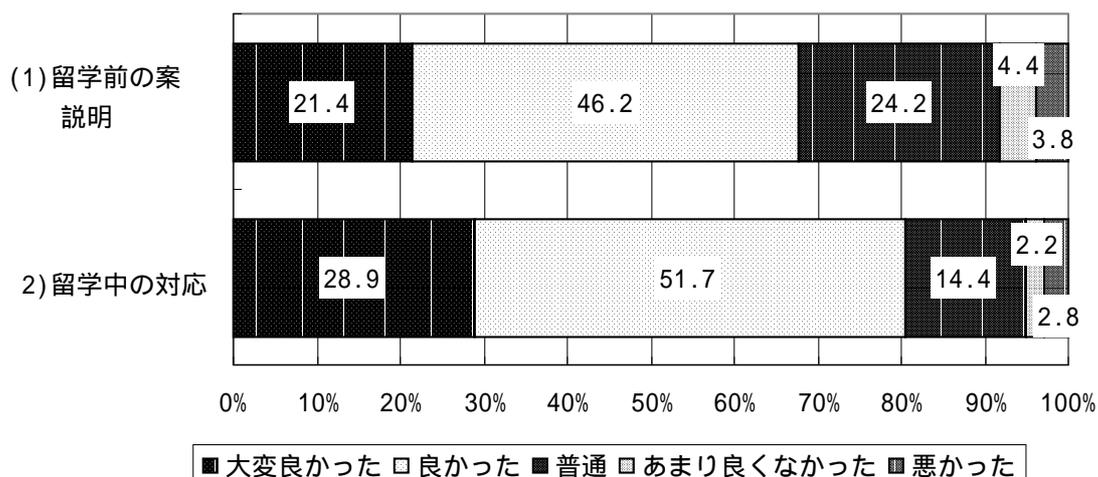
・主な仕事



Q11. 京都大学へ留学した目的



Q12. 京都大学の受入れ体制についての印象



Q12.

(3)京都大学の受入れ体制について、良かった点、悪かった点などお気付きになりましたことがありましたらご指摘願います。

文学部・文学研究科

私の場合、指導教官や教授陣の支援や学問的刺激が最も有益だったと思う。不便な点は、国費留学生のためのせっきくのチューター制度があまりうまく運営されなかったこと。チューター個人によって差が大きかったというのがみんなの評判だった。(文)

私はとても良い援助を受け、とても楽しい経験をした。(文)

私が京大に在籍した頃(1990-92)は、自分の知る限り留学生のサポートは全くなかった。(文)

一般的に、改善すべきような悪い点がそれほど多くあるとは思わない。ただ、京大を離れたとき、私はとても孤独だと感じた。

京大が中国人学生と日本人学生との交流を深めるサポートをもう少ししてくれたらよかったと思う。(文)

留学生センターのサポートシステムはよかった。センター主催の旅行(日帰り)は素晴らしかった。(文)

留学生は参加できないとされた、日本研究プログラムは学生の能力と興味にはそぐわないものだった。教官は適当に選ばれ効果的なコミュニケーションを学生ととらなかった。日本人学生との交流を深める努力はなにもなかった。反対に学生達は通常のコースを受けることをしなくなった。スタッフは様々な意義のある文化的イベントを催した。(文)

もし図書館の利用法や他の施設(キャンパス外の)についてオリエンテーションがあったら良かったと思う。(他大学での可能性)(文)

修学院の国際寮に部屋を用意してもらってとても幸せだった。(文)

官僚的な側面はかなり良かった(礼儀正しく、効率的で、正確である)。だが、教授からもっと多くの援助を期待していた。図書館は素晴らしかった。(文)

私が日本にいる間、留学生支援制度はとても役立った。(文)

何か起った時、この体制は役に立つ。しかし、日本人学生と留学生との交流を推し進めるような方法は見られなかった。(文)

教育学部・教育学研究科

入学した後の指導が大変良かったと思いますが、入る前に、どこに相談すればいいか大変苦労しました。(教)

留学生センターはいつも助けになった。しかし、私は修士が博士号を取る志があったのに(私はトップクラスで修士号をロンドン大学で取得した)京大の教育学部はとても保守的すぎると聞いた。私の指導教授は援助してくれなかった。(教)

入学時に受けた2ヶ月の日本語コースはありがたかった。学生寮はとても安かった。(教)

留学生センターのスタッフはとても親切で助けになった。悪い経験は何も無い。(教)

法学部・法学研究科

全ての面においてひどい。(法)

文部省奨学金を受けられて幸運だった。その結果、住居を準備してもらい、京大滞在中ずっと、留学生センターで日本語を勉強できた。(法)

良い点:留学生センター(とくにスタッフ)はとても助けになった。掲示板には新しい情報が掲載されていてよかった。悪い点:特になし。(法)

私の学部は奨学金を申請する手伝いをしてくれた。教授は親切で理解があった。しかし、私のセミナーの学生達はあまり助けがくれず、真の交流には興味がなかった。(法)

経済学部・経済学研究科

寮は良かったが、とても制限があった。多くの教科書が図書館にあり素晴らしい。研修旅行プログラムは良かった。欧米系とアジア系の学生達の間で幾分差別があった。(経)

文部省と留学生センターの援助はとてもよかった。また、日本語クラスもよかった。(経)

良い点:留学生の定期旅行。悪い点:留学生と日本人学生との交流に対する学校側のサポートがめったにない。(経)

私の意見として、京大はもっと経済的援助を全ての学生にすべきである。さらに、学問的グレードを、年齢、性別、国籍、その他の不条理な理由で決めるべきではない。(経)

留学生に対する下宿情報提供が十分ではありません。(経)

学部のアドバイザーの選定は行き当たりばったりのようだ。最初の経済研究所のアドバイザーはひどかった。不安をとめないながら、別のアドバイザーを探した結果、見付けることができた。大学外の日本人達に学生を紹介する努力は素晴らしかった。研修旅行はとてもよかった。(経)

いろいろな活動と組織に感謝します。(経)

良い点:留学期間、全ての援助を受けられた。悪い点:同窓生や先輩・後輩間のコミュニケーションや交流がないこと。(経)

留学生センターを代表とする官僚制度のような大学の支援体制は良くない。この大学での教育方法というのは、留学生にとって必ずしも母国の方法に似ているとは言えない。ということから、混乱が生じる。しかし、経済学の教職員による支援体制が素晴らしいことも、はっきり言っておかねばならない。これは、大学によって行われているシステムの結果ではなく、むしろ教授や個人、そして大学生協による結果である。大学による正規の支援体制は良くないが、学外の支援体制は素晴らしいということが言えると思う。(経)

理学部・理学研究科

最初の日本語コースとガイダンスは良かった。留学生の為の旅行は素晴らしかった。いったん研究室に入ると事実上何の援助も無かった。学外の指導員等がいれば助かる。(理)

京大に入る前と在籍時のガイダンスはよかった。(理)
下宿探しの援助は良かった。留学生センターの雰囲気はとても悪い。勉強に関する援助(アドバイザー...)は不十分だった。(理)
私は京大で自由に研究をしていると感じた。まるで、自分の研究室のようだった。わたしは研究室のドアの鍵をもらいいつでも研究室に入れたしインターネットも利用できた。サポートシステムは海外からすばやく科学的記事・論文を手に入れてくれた。このシステムによって、私は情報分析の高度な能力を身に付けた。よくわからないが、おそらく大学の寮は全ての学生が利用できるというわけではないだろう。入学試験はとても難しいが大学寮にいられる期間は制限されている。(6-12ヶ月)(理)

医学部・医学研究科

京大の学生援助システムに携わる人々はとても親切で、一生懸命働いていた。(医)
経済的援助は良かったが言葉の面では良くなかった。(医)
学生の日本滞在の面では非常に良い援助があった。外科分野の発達が乏しい。(医)
医学課程は概してあまりまとまっていな。指導教授は留学生の気持ちがよく分かっていないことがある。(医)
留学生にとって便利だと感じた。(医)
1)周りの教官たち、とても親切にさせていただいて、すごく感心した。2)入学したての時、京大の中に、日本語の強化コース(1ヶ月程度)があれば大助かりだと思います。(医)
京大での6年間、私は殆ど、留学生の為の情報を得なかった。(例奨学金をもらってなかった時、いつ、どこで、どのようにして授業料免除の申請ができるか等。)(医)
私が京都大学にいた頃、主任教授は紳士で、基礎科学研究の分野では非常に素晴らしい人であるが、外国からの医師に対して親切には見えなかった。教授から講義してもらうことはなく、要求のみだった。私は分子生物学の分野ではまだ初心者で、教官は私に自分自身で全てのことを学んで欲しかった。私はその頃かなり不満を感じていた。なぜなら、私はこの分野の勉強をどのように始めたら良いかさえ分らなかったし、ほとんど毎日非難されたからである。京都ではそんな苦い経験をした。留学も終わりに近づいて、私が京都を離れる前、教授は私が今までに使ったボトルを全て洗うように言った。さもない、タイペイにいる私の上司に言うと言った。日本の博士はいつも嫌なことを言うのではないのだろうか?と私はその時思った。もう1度強調しておくが、主任教授は素晴らしい人であり、私はまだ彼を大変尊敬している。私の京都大学でのそのような体験は、私の運が悪かっただけ、ということであろう。(医)

薬学部・薬学研究科

1年に2度の留学生ミーティング(旅行を含む)はとてもよかった。(薬)
公費留学生や短期留学生にとってのサポートシステム、例えば住まいなどは充実していると思いますが、長期留学の私費留学生にとっては、住まいや生活などにおいて、かなり苦しい面があるのは事実だと思います。(薬)

工学部・工学研究科

私は京大で研究生として在籍していたが、とても良かった。(工)
アジア系の学生とそうでない学生(特に白人)の扱いが多少違った。(工)
殆どの講義は日本語で行われてるが、研究関連の講義は留学生がもっと理解できるように英語で行うべきだと思う。(工)
工学部事務部の さんはいつも親しみやすく、いろいろ助けてくれた。関西国際空港に着いた時、次にどこに行くかとか何をするかという指示がなかったので、日本到着時に関する指示があると良かった。(工)
住居以外のサポートは良かった。国際寮は1年間しか提供されなかったので、もし滞在全期間利用できれば良かった。そうすれば、もっと外国人研究者達のコミュニティでの生活を楽しむことができた。(工)
一年目の京大の留学生サポートシステムは、大学のゲストハウスに滞在できるともよかった。もっと多くゲストハウスが年齢の高い学生の為にあったほうが良いと思う。その他の面では、語学学校と入学試験がうまく管理されている。そのまま続けて欲しい!(工)
私が学んでいたグループの教授が世話をしてくれた。留学生サービスによる活動等があったが、私個人には一度も知らされなかった。私は友人や他のグループからしかそのような情報を得られなかった。(工)
京都での滞在中、私はたった一人の留学生だった。そこでは冶金学と資材科学を学んだ。私が選んだコースの多くはキャンセルされた。残念だが仕方が無い。(工)
良い点:京大における殆どの留学生サポートシステム(図書館、研究施設、研究環境等)は良かった。悪い点:教授(指導教授)がとても忙しいので、私の研究について議論したり、監督してもらったりという時間があまりなかった。(工)
どこの大学でもあるように、最初のうちは、トラブルがあった。(工)
留学生センター主催の旅行は素晴らしかった。(工)
職員の反応は早く、受入れ体制に完全に満足していた。悪い点はなかったと思う。(工)
*大学のコンピューターサーバーでのメールアドレスの提供。*この国からの卒業生・在校生リストの提供。(工)
良い点:研究施設。悪い点:祈る為の設備。特にイスラム教徒の為の。(工)
非常に良い点:情報やアドバイスが必要な時には常に誰かがいた。とても助かった!少し悪い点:京都に来る前の大学やその場所に関する情報が十分でなかった。おそらく、自分が文部省奨学生だったからだろう。(工)
(悪い点)英語での情報が十分でなかった。(良い点)教官はとても親切だった。(工)
留学生の世話は良かった。寮設備も良かった。留学生の為の活動も良かった。工学部の英語広告は、とても特異であまり良くなかった。(工)
留学生係はとても助けになった。(工)
私にとっては楽しい思い出でいっぱいです。何の差別もなかったし。(工)
留学生センターのスタッフや教官達はいつも親切で助けになってくれた。(工)
サポートで良かった点:住居、企業へのツアー、日本文化発見の為の旅行、日本語クラスなどの企画。提案:文化的活動をもっと発展させたほうがよい。(工)
留学生寮は部屋が少なすぎる。一年間しかそこに住むことができないし、その後、部屋を借りるのはとても難しかった。(工)

学生が個人でアパートを借りるためのサポートは十分ではなかった。留学生が保証人を探すのは難しい。(工)
 情報が大きく欠如している。京大の構造、ライフスタイル、状況、規則等について留学生に情報を提供するミーティングを定期的に設けてはどうか？(工)
 文部省から経済的援助を受けていたが、その援助が切れた時、京大は全くサポートしてくれなかった。アジア系以外の留学生の殆どがアルバイトを探してもやとってくれるところが無いということを理解しておくといいと思う。援助が必要でも、それは全くなかったのだ。(工)
 良かった点:国際交流会館と生協。(工)
 私は、大学の図書館利用の為に設備、保健等のサポートシステムはとても良いと思った。そしてそれは私たちにとってとても重要である。(工)
 最初ドイツで、京大での勉強に興味を持った時、京大の教授とは何のつながりもなかった。留学生センターからあまり詳しく情報が記載されていない一般的な冊子を受け取っただけだった。もっと全学部や教授陣(私の研究に関連している)のリスト、研究分野、活動、講義等の情報が得られればよかった。京大で研究を始め、留学生サポートはとても親しみやすく助けになってくれた。(工)
 住んでいたところは心地よく安かった。大学からもそう遠くなく、歩いて研究室までいけた。大学にはレストランがあり昼食をとるのに便利だった。勉強するための時間を多く確保できた。(工)
 京都大学の留学生受け入れ体制はとても優れている。留学生にとって困難なことの1つは、主に日本語の習得である(京都大学の日本語の授業がたとえ優れていても、この点において努力と支援が必要であると思う。)。はじめに集中コース、そして日本語の語彙に重点が置かれた特別セッション(様々な研究分野の中で)。(工)
 ・良い点:1年目に学生寮に入ることができること。・良い点:家探しの支援と問題がある際の助言(留学生部、学生相談所)
 悪い点:英語での案内が非常に限られていること・改善点:留学生を日本学生の日常生活に溶け込ませること。(工)
 最初の滞在(1984-86)の際、留学生オフィスは京都での家探しの手助けをしてくれた。これは本当に助かった。(工)
 留学生にとって京都で住む場所を見付けることは難しい。京都大学はこの問題を解決するためのプランを立てねばならないと私は考える。(工)
 留学生のための日本語コースは良いことかもしれない。なぜなら、出来る限り早く日本語を習うことは、非常に重要だからである。(特に習い始めの頃は、小さいグループで学ぶことが好ましい。)(工)
 私は京都大学の留学生を扱うプログラムに正式に属していないので、ガイダンスを受けたことがほとんどない。しかし、私の担当教授には、非常に良くして頂き、また他の欧米の学生に混じって、無料で日本語クラスに参加させて頂いた。(工)
 教育研究システムが素晴らしい。しかし、多くの日本人学生が留学生と親密ではない。(工)
 とても良い点は、大学及び指導する教授陣が、留学生達に彼らの住居や日本の生活、日本の学生になじむように配慮していること。留学生は助けられているし、多くの配慮を受けていると思う。(工)
 日本語コースはとても役立つ。年末のパーティーは素晴らしい。(工)
 奨学金が少ない。時々評価が不公平に感じる。(工)
 指導教授に工学部電気工学科の基礎講座で学んでいる間、大変お世話になった。研究室の全ての仲間が、我々留学生の研究や、私が日本語を学ぶのを助けてくれた。時には意思疎通がままならなかったり、お互いの文化に対する誤解による困難もあったが、それは京都大学によるミスではない。京都大学は言語を学ぶのに良いコースを提供してくれた。(工)
 支援システムは私の日々の生活を更に良くするために非常に役立つ(住宅、旅行のための安いチケットなど)。私は日本人達と会えることを楽しみにしていたのだが、このことは他の留学生仲間と関わりを持つのにも役に立った。(工)

農学部・農学研究科

図書館は様々な本や出版物がある。トイレは最近新しくされた。研究設備は整っており、研究に役立っている。(農)
 彼らは非常に親切で助けになった。(農)
 留学生を支えることにおいて、京大の役割は良かった。留学生援助は、彼らの滞時に本当に助けとなった。留学生の言葉の問題や経済的問題、住居、医療面等において喜んで助言や援助をしてくれた。修学院の国際寮は京都での安らぎの場所であった。設備が整っており、便利な場所にあった。(農)
 日本語の授業は非常に良かった。(留学生センターでの)(農)
 外国人学生のための寮がもっとあれば良かったと思う。(農)
 留学生の為にサポートシステムは十分良かった。そのシステムは良く考えられ、留学生を真から助けようとしていた。しかし、何か足りない部分を感じられた。それが何だったか私にもはっきりしないが、受け取り側次第でこのシステムへの利用・アクセスが生かせることは確かである。おそらく、もっと活気良く、システムの的を絞ることが学生達の為に必要だったのだろう。(農)
 留学生サービスに携わるスタッフや職員はとても助けになり親身になってくれた。彼らは留学生と対応する時、いろいろ面倒を見てくれた。彼らの全てが英語を話せるわけではないが、それは別に悪くない。なぜならば彼らは指示(詳細な)を書いてコミュニケーションをとれたから。(農)
 最初、京大には初心者向けの日本語集中コースが無かった。(私にとって不都合だった。)その後、集中コースが開かれたが私は時間がなくて参加できなかった。(そのコースは、後々学生にとって助けになるので良かった。)(農)
 文部省奨学生制度はとても助けになると思う。京大のスタッフは健康保険や、研修旅行等で本当によくしてくれた。(農)
 居住施設の準備、京都の伝統的な景色。(農)
 奨学金はよかったが、住居サポートはもっと細かい気配りが必要だ。学生達は日本人研究者達によって書かれた本の英語版を買う必要がある。(農)
 まず最初に外国人研究者として、科学者で構成される研究チームで働くはずだった。しかし皆、自分の研究ばかりして、詳細な議論が全く交わされなかった。運のよい人は、他人が独力で研究をしなければならない時に、完璧に導いてくれる指導教授がいた。(農)
 京大からサポートを受けなかった。(農)
 大学に留学生センターがあってよかった。農学部での留学生に対するサポートはとてもよかった。うれしく思う。(農)
 時折、事務所の人に日本語の壁に対して勇気付けられた。彼らがなんとか英語で話せると一番良いだろう。(農)
 京都大学の留学生受け入れ体制は素晴らしいと思った。(農)

留学生に対する修学院ハウスの提供は、日本の生活様式に慣れるのにとっても時間がかかるので、たった6ヶ月ではなく、1年にすべきだと思う。(農)

留学生を受入れる"体制"は、特に大学全体にはなく、教授次第であるという概念が常にある。つまり留学生は、教授が留学生と合わない場合には重大な問題を抱えることになる。他方、教授が留学生に親切だと、時々学生はわがままになる。(農)

大学から行く旅行は内容が濃く、学ぶことが多い。必要な時に良い情報が流れる。インターナショナルハウスの入居期間が終わった後の住居がなかなか見つからなかった。(農)

指摘は出来ません。(農)

支援体制の内の幾つかはとても良い(住居の手配、様々な行事やガイダンスをしてくれること)。しかし、後で授業などで支援を十分にしてもらえないことを経験した。(農)

修学院にある京都大学留学生寮を提供してくれること。外国人が日本の生活に溶け込みやすい場所である。(農)

人間・環境学研究所

日本に長く住む留学生の為の経済的援助が十分でない。(人・環)

十分良かった。(人・環)

エネルギー科学研究科

もっとコミュニケーションが必要。(エネ科)

アジア・アフリカ地域研究研究科

良い点は世界中の学生が集まることであり、悪い点は学生の運命が時々チューターの道徳的質に依存することである。(ア・ア)

化学研究所

大学事務所にもっと英語が話せるスタッフがいるべきだ。彼らを理解させるのはとても大変だった。(化研)

人文科学研究所

私は、1992年から1994年の間、京都大学で学んだ。その時私は、留学生のための事務所、図書館の司書の方々や、文部省からの学生のための住宅斡旋のスタッフが素晴らしいことを知った。今挙げた人々は、皆とても有能な人達で、私を助けてくれた。現在のアドバイザーを除いて、年齢の若い教官から年配の教官まで、私の出会ったのは男性の教授であった。若くて外国人の女性の研究者に出会うことは出来なかった(例えば研究会でも)。討論や会話において、その中に私が加わることも、無視されることが多かった。私が前日に話をした教授が、翌日会ったら、目をそらしたということもあった。職業上、女性を受入れるのが嫌なのか、ただの無礼なのかは分からないが、私は誰かが教授達(特に年配の)にプロのあるべき姿を教え込む必要があると思う。門戸を開ける、とか、レディーファーストがナンセンスだとか言っているのではない。ただ、女性の研究者が男性の研究者と同じように扱われるべきだと言っているのだ。(人文研)

再生医科学研究所

経済的に満たされており、本を買ったり、研修旅行に参加できたりして良かった。大学教授やスタッフから圧力を感じたような経験はほとんどない。しかし、日本学の1年間のコースで学生達は個人的な研究のことに気をとられているせいか散発的性質が多少あり、チャレンジ精神に欠けていた。留学生と日本人学生を一緒にしたセミナーを設けることがいいかもしれない。(再生研)

食糧科学研究所

文部省による基金の状態が悪い。例えば、留学期間を終えねばならない時期に、基金の方から帰国のための飛行機のチケットを与えてくれないため、終えることが出来ない。もしそのような学生が留学期間を延長したら、それは基金からの援助なく勉強を続けなければならない学生にとって、不公平ではないかと思う。だから私がお願いしたいのは、もし留学生に対して援助を止めるのなら、その学生達に帰りの飛行機のチケットを与えてやってもらえるよう、政府に頼んで頂きたい。よろしく願います。国に帰って欲しい。(食研)

防災研究所

日本、そして京都大学は、留学生を大歓迎してくれた。(防災研)

数理解析研究所

受入れ体制は、特に京都大学数理解析研究所(RIMS)の指導教授、研究所や留学生オフィスの秘書など、とても優れている。誰かワルシャワから東京までの正確な旅程(大阪へ飛行する日時、大阪-京都間)を数週間前に連絡してくれれば助かると思う。(数研)

霊長類研究所

私には何も後悔はない。霊長類研究所は私に素晴らしい機会を与えてくれた。指導教授や他のスタッフはとても親しみやすく、快く迎えてくれた。JICAは私の為にいろいろと準備してくれた。感謝している。(霊長研)

交通機関や研究室で働く際の設備はとても良かった。私の指導教官として、動物生態学の分野を教えてくれるのにぴったりな教授がいなかった。(霊長研)

東南アジア研究センター

一年間、援助(経済的援助を含む)があつて良かった。日本人学生との調和や、互いに影響し合う事は自分自身が率先する

かどうかにかかっている。(東南ア)

留学生センター

熱心なスタッフからの援助。彼らは常に問題が解決するように努め、楽しい計画や面白い文化的な旅行を企画してくれた。(留セ)

.あなたがたがしてくれたことはとても素晴らしかった。(留セ)

彼らは私たちが日本で元気に過ごせるように気を使ってくれたと思う。とても助かった。(留セ)

私が京都に来る前、誰も情報を送ってくれなかったので何をすればよいのか全くわからなかった。文部省からは一般的な情報を受け取ったが、それは京大のことについてのもではなかった。出発の数週間前まで私は自分の住所すら知らなかった。生活にかかる費用や、どのように通学するのか等何も知らなかった！しかし、日本に到着してからは、皆とても助けになってくれた。(留セ)

留学生センターは私たちの面倒を本当によくみてくれた。彼らは下宿先や勉強の事などについて良い解決案を教えてくれた。それを押し付けたりもしなかった。私は何でも自分のしたいことが自由にできると感じた。留学生センターにはいつも誰かが私たちを助けるためおり、何も問題が起ころないよう気を配っていた。本当に素晴らしい活躍をしてくれた。(留セ)

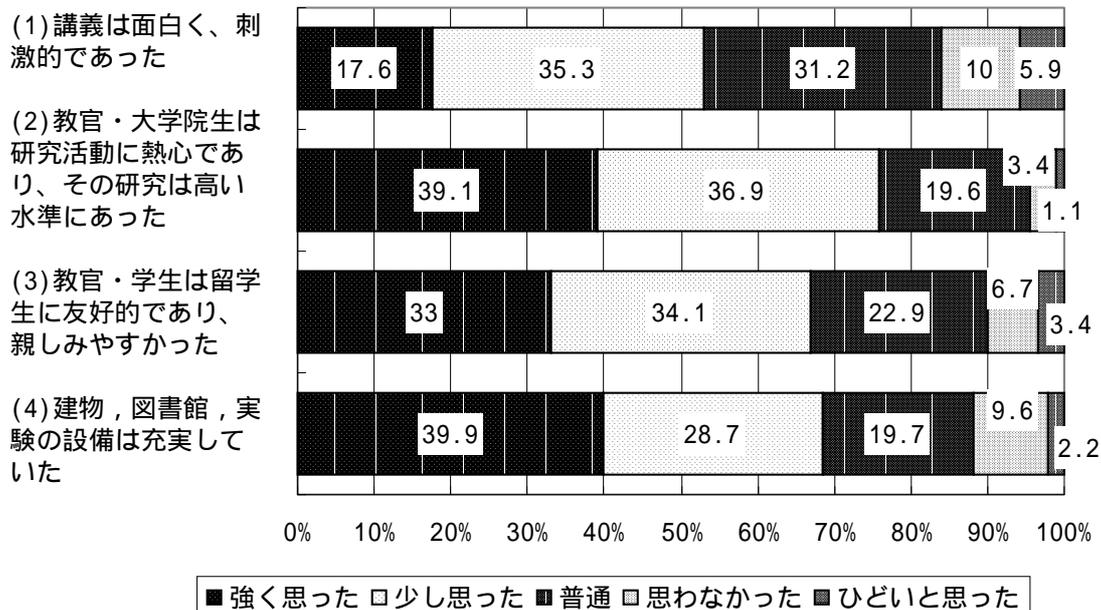
京都大学に滞在している間に支援を求めた覚えはない。留学生オフィスの人には好感を持っていたし、何か必要とした際には喜んで助けてくれたのは確かである。しかし、実際に受入れ体制がどのようなものかは知らない。(留セ)

留学生センターの人達はいい人で、いつでも助けてくれた。彼らが企画してくれた旅行や活動が、私は好きだった。(留セ)

コンピュータ/電子メールサポートは助けになった。(不明)

私の担当教授はとてもいい人で、必要な時には厳しくしてくれる人であった。必要な時にはいつでも自由に教授と話すことが出来た。研究室の学生も素晴らしい人ばかりだった。素晴らしい経験をする事が出来た。(不明)

Q13. 留学中に受けた講義あるいは環境等についての印象



Q13.

(5) 教育研究に関することで、ひどいと思われた理由等、お気づきになられたことがあればお書きください。

文学部・文学研究科

専門分野の資料が、質と量、ともに充実していること。しかし、各学科、学部、研究所に分散されていて、利用が不便であった。(貸出等の不便)また、中央図書館の開館時間は何とかならないか。住宅環境の悪い留学生にとっての休館の時間があまりにも長かった。(文)

図書館はとても使いにくく、整理されていない。しかし、文学部の再建設前だったからである。その後はどうなっているのか

からない。(文)

図書館の席が足りないことがよくあった。改善したらどうですか？(文)

多くのサポートがあったと思う。私はすでに日本語を知っていたのでかなり助かった。私が参加したいと言ったら、彼らが助けてくれた。(文)

教授陣は一般的に冷たい(多少の例外もあるが)クラスは学生が参加できる感じではない。研究課題は教授によって決められる。自分で研究を進められる部屋があまりない。広い範囲で、選ばれたテキストがある。図書館本館は整頓されているが、別館へのアクセスがわずらわしい。キャンパス内は(学生も教官も)圧倒的に男性ばかりだ。(文)

教官達はとても親しみやすく助けになった(5:強く思った)。大学院生は(1:ひどいと思った)。平均は(3:普通)以上?これをどのように改善できるかわからないが、私の学部の留学生は殆どみんな同じように感じているとおもう。(文)

日研生に関して言うと、研究の場に引き込んでしまうような面白い企画などがなかった。日研生に何の知らせもなく、授業が日本人の学生のいる一般の授業と一緒にされていることがあった。(文)

教育学部・教育学研究科

私は、1989年4月に京大の教育学部の研修員で入ったときに、まずビルのぼろぼろさに驚きました。学問的なレベルの高さに反していた設備の水準の低さが大変印象的でした。まるで鳥小屋から金の卵が生まれているような気がしました。でも、設備がぼろぼろでも、私が京都大学を愛する気持ちは変わりません。大変誇りに思っています。(教)

学生達は(学問よりも)サークル活動や就職活動に関心があると感じた。セミナーの質はとても低かった。よく、私たち学生は、何の議論もせず、単に本等を英語から日本語に訳していた。これは法学部でもあった。(教)

講義中に教官と学生が議論できる時間がもっとあればよかったと思う。(教)

法学部・法学研究科

教授達は非常に親しみにくい。(すばらしい日本語のスキルにかかわらず)ある教授は私が講義を録音することを拒否した。大学施設は特にひどい。(法)

私が京大にいた頃(1992年4月から1997年3月)、学生達は大学でインターネットにアクセスできるコンピュータがあまりなかった。(法)

クラス日程に記してあった内容と合わない講義内容のクラスがいくつかあった。 クラスは主に外国書の翻訳とまとめが中心だった。C(法)

私は自分自身の研究を進める手順が好きである。しかし学生達が自分達のアイデアを押し進めるのに臆病だったり、アイデアを練り出すことを嫌がったりしていることが多かった。(法)

図書館の閉館時間が早過ぎる。また法学部の建物内の換気が良くない。週に1度しか授業がないので、授業時間が長く、授業についていくのが大変な時がある。もし1回の授業時間を50分にして、授業の回数が週に2回、または3回になれば、授業内容も向上すると思う。(法)

経済学部・経済学研究科

特に社会科学の博士課程は明確なものではない。学位は授与されるものなのかどうか。ある学生にとっては無駄になる。プログラムは学生が参加すべきかどうか判断できるようなガイドラインとしてしっかりとした手順をつくるべきである。(経)

多少の例外を除き、私の学部では、他の大学院生とのコミュニケーションはとても貧弱だった。(経)

一つのセミナーに学生が多すぎる。(経)

2人目の経済学部のアドバイザーは私の研究に一番影響を与えてくれた。Q12のコメントを参照。(経)

あまりにも有名な大学ですが、一部の教官は傲慢な感じを残してくれました。(経)

理学部・理学研究科

事実上、卒業後の指導はなく、コンピュータ等の便利なスキルの為のコースは日本語でしか行われていない。図書館は使いにくく、資源と時間の無駄である。研究室の設備はよく整っている。(理)

私の学部の研究室はとても古い。(理)

大学院の課程にもっと学術的な内容が含まれていれば(できれば英語で)より興味深くなり学生達を満足させる事ができると思う。これは、留学生(日本語の勉強に長い時間を費やさずに済む)と、日本人学生(国際会議や、研究の刊行物等で使用される英語で話したり、書いたりするという機会を得ることができる。)両者にとって有益である。(理)

私が出席した京大の講義には2種類あった。正規の授業と招聘講師によるセミナーである。正規の授業は、学生と教授の間での活発な議論や授業への参加に対してあまり積極的ではなかった。ホームワークやプロジェクトを通じた学生の活動のほうよかった。招聘講師による講義は興味深く私の研究の動機づけとなった。(理)

博士課程の質がとても低い。(アメリカやヨーロッパに比べて)(理)

何も言うことなし。(理)

医学部・医学研究科

京大の研究は世界でもトップレベルだと思う。彼らはそれぞれの分野で実にスペシャリストである。しかし他の分野に関してはあまり情報がない。講義の一般的な教科書は補強されるべきだと思う。(医)

私は良いスーパーバイズが欠けていると感じた。運営スタッフはときどきアジア系の留学生に無関心である。博士課程には良い評価システムが無かった。(医)

当時、私は留学生の為に旅行に参加し、とても良い印象をもった。(医)

おそらく、私が日本に滞在した短い期間で日本語を学ぶことは難しかった。だから英語と日本語のコンビネーションでの講義を役立てることは難しいし、その質を判断することも難しかった。しかし、私が思うに講義は学術的というよりもむしろ研究や臨床中心のものであったと思う。(医)

私は日系であるにもかかわらず、学部の日本人医師達に差別された。だから、学業や研究の向上に大きな壁を感じた。(医)

薬学部・薬学研究科

研究体制や教官たちの指導のレベルは確かに高いと思いますが、研究設備のボロさにはびっくりしました。それに、学部・研究科間の格差もしみじみと感じました。(仕方ないこととはいえ、外国籍のものにとっては目の前にあるのは京大そのものだと印象付けるものです)(薬)

工学部・工学研究科

1、2年の学部生用の施設がかなり劣化している。(工)

言葉がコミュニケーションにおける一番の問題である。日本人学生はもっと英語で留学生と話すべきである。(工)

研究室の人々は歓迎してくれ親身になって助けてくれた。時間はかかったが(おそらく文化の違いのため)、そこで何人が友人もできた。(工)

学生達はコミュニティに住んでいなかったため、学生間の交流が無かった。運動場のような大学設備の外観がさらに交流を妨げた。大学での学生生活が多少足りない。(工)

私が気付いたことは、プログラムはスケジュール通り行われ、不必要な閉鎖はない。教育システムは面白く勉強する刺激を与えられる。(特に旅行がトレーニングや学習時に組込まれている時に)私は日本での滞在と大学での勉強を楽しんだ。(工)

私は講義には参加せず、研究グループでのみ研究していた。皆、とても親しみやすかったが、仲良くなるのは難しかった。(工)

ある教官達は自分達が論じようとしていることについて興味を起させようという方法で表現できなかった。ある教官達は学生が講義に関して質問したり、コメントしたりする機会を与えなかった。(工)

図書館は素晴らしかったが、建物と研究室はとても粗末だった。しかし、化学部の NMR や MS のような特殊設備は良かった。(工)

研究室でのガイダンスが少なすぎる。(工)

講義の仕方が好きではない、講義をする人は自由に話し、聴講者に反応すべきだ。しかし講義の質は素晴らしかった。私はインターネットが普及する前に京大に滞在していたので、この新技術が情報をもっと入手しやすくするだろう。(工)

英語での講義が足りなかった。(工)

高いモチベーションのある教官と学生。(工)

農学部の図書館の開館時間が短すぎる(昼休みを含め)教授と話することができるような決まった時間がなく、彼らを見付けるのも大変だった。多くの本は教授や研究室に借りられ、利用できなかった。(工)

悪い点、研究設備(ガラス製品等)。(工)

教授達は多くの活動や会議で忙しいので、講義の内容がおろそかになっていた。たぶん工学修士号に対する信用はかなり低くなり、ある教科に費やす時間が必要になる。(工)

研究レベルはとても高い。学生は自分達がやりたいことをする自由が多くある。レクリエーション・スポーツ施設はよくない。(工)

日本語がわからない留学生は講義に全くついていけない。もし、京大が留学交換を改善したいのなら、英語で講義することを考えるべきだ。東京大学は英語での講義がある!!(工)

大学での学習:研究室は、科学的に質が劣っているだけでなく安全性にも欠ける。(フード、目を守るための目がね、実験用コート等がなかった。)実験道具立ては古く、コンピュータも古い、シンクは錆びていて、窓は壊れていた。冬には暖房設備がなく、重いコートを着ながら実験した。夏はクーラーがなく40度にもなった。私たちは夏に実験で40度の化学溶剤エーテルを使っており、非常に危険であった!!!(工)

概して建物の状態が非常に悪い。(不快で、狭く、汚いなど)図書館は本や CD-ROM 等の面においてとても限られている。(工)

ある研究室の設備はとても古かった。自分が訪れたことのある大学や、修士号を取得した他の大学と比べて...。(工)

日本人学生はおとなしい?、おそらく教官達が学生達が意見をすることを好まず、もし質問があるのなら講義が終わった後で話したほうがいいからなのだろう。もし全員が講義に参加できれば、もっと面白くなるのと思った。(工)

私の日本語はとてもレベルが低かったが研究生として勉強していたので、京大の教育についてはコメントできない。ただ、わたしが参加した数学のセミナーの学生による詳述の技術的質がとても高かったことに感銘した。私にとって重要なことは図書館の内容や私が欲しい物ほとんどすべてを見付けることができたということだ。(工)

日本語クラスがすきだった。日本語上達にとっても良い機会だった。大学が企画した旅行は素晴らしかった。その旅行を通して多くの日本文化を理解した。(工)

施設に関して2つの問題点がある: 1) 研究室が狭い 2) 図書館の開館時間をもっと遅らせる、または夜間にする。(だが、図書館で働く職員はとても親しみやすく、親切である。)(工)

・講義の出席率が相対的に低い。・英語による講義が少なすぎる。(工)

最初の滞在(1984-86):京都大学の日本語コースは良くなかったため、プライベートスクールで勉強しなくてはならなかった。現在、日本建築史を専攻する学者である。博士課程(1988-91)で3年京都大学に在籍したが、日本に行った時に、建築学科の図書館の利用が現在難しくなっている。中央図書館の終身カードを持っているのにもかかわらず!これは非常に不便である。(工)

研究施設の改良と、実験施設の拡大の必要がある。(工)

違う科の教授に何かを尋ねる際の手間が減ったので、学部内の違う研究室同士のコミュニケーションがうまく進むようになったかもしれない。多分これは学部内の各人の研究テーマや学生と知り合うためにも、皆で大きなセミナーを開くためにもいいだろう。(工)

私のいる研究グループ内では、学生に対して、学問のレベルや研究に対する期待が高かった。しかし、教材は無味乾燥で数理的、また単調なものを使っていた。しかし、奥深い内容でバラエティーにとんだ日本語(日本文化)のクラス(他の留学生達とも一緒に学んだ)は、本当に楽しかった。日本語の授業は新鮮で面白い。(工)

私は交換留学生のプログラムのための特別講義のみに参加した。教授も学生も親しみやすく、協力的であったが、あまり親しくはなれなかった。(工)

コメントはない。(工)

学習環境について:とてもおとなしい学生(ヨーロッパ諸国の学生とは違う)は、多分大学院でたくさんのレポートを作成してい

るのだろう。(工)

私はアメリカの大学にいた頃、学友会にいたことがあった。もし食事をする場や、学習または催しの場を学部や学生のために提供するようなことを京都大学の学友会で経験出来ればいいなと思った。(工)

農学部・農学研究科

京大での学業と研究は冗漫である。学生達は忍耐、先導力、臨機応変な能力を身に付け、勤勉な働者になるように教育をうけている。(農)

私が京大の農学部で研究していた間、気付いた点について述べたい。学生達は研究所での研究や、他の学生とお互いに影響しあいながら学んでいく。そして、研究分野を深め、優れた技術を得る。その一方、他の学部や、研究室との研究者とは影響し合う機会が少ない。(農)

自分の分野と関連のある講義があれば良かった。(農)

私は学生達の研究に対する貢献と熱意が好きだったが、彼らの研究のやり方は好きではなかった。多くの学生達は自分が何を研究すればよいのか分かってなかった。教官からの監督が多少あったが、もし、学生達と教官達がお互いにもっと誉め合えば、研究をより良く進めていくことができたと思う。教官達は、自分達と学生達両方の研究分野について知識が豊富であるべきだ。監督者である教授は学生達の研究分野におけるエキスパートであるべきだ。また研究前に、教官と学生で十分に提案が話し合われるべきである。教官と学生は自分達の行う研究の基礎的な知識について知らなければならない。提案と概要については全て十分に話し合わなければならないのだ。テクニカルレポートを書く時は、学生達はどのように正確に書くか教えられるべきであり、本からそのまま情報を写したりすることや、日本語にのみ訳すことは避けるべきである。(農)

京大での勉強は大きな挑戦であり懸命に努力した。私は自分が思っていた以上に多くの事、特に自分の分野について学んだ。(農)

当時は、全てが、新しく、素晴らしい、新しい社会に感じられた。2年が過ぎた頃、私の考えは変わった。特に夜や夕方、日本の精神や日本の生活はいいなと感じた。私は自由時間に京大の近くの哲学の道をジョギングした。京大で学んでいた間のような生活が私の考え方を換え、新しい人生を導いたのだ。(農)

私は食物科学の研究を指定され、ある教授の宇治の研究室で学んだ。そこに着いたとき、彼は私の研究プログラムを2つ変更した。私は外国人で、研究で要求される事に適応しなければならなかったのでその変更を簡単に受入れた(日本語集中コースの5ヶ月間は素晴らしかった)。しかし、真の技術者としての研究を自由に考えられなくなり、私の研究はとてもひどく無意味になった!(農)

言葉の問題以外はすべてOKだった。(農)

留学生は日本語を流暢に話せるように努力し、日本人学生は英語などの世界に通用できる言葉話すような心がけが必要だ。全学生に日本語を学ぶ機会が与えられればいいのに。その他のシステムはいいと思う。(農)

ある研究室はきちんとした換気システムがなく、構造改善の為に資金が足りない。(農)

講義や参考文書が英語であればいいだろう。(農)

もし日本語を知っていたら、全ては大丈夫である。しかし、もし英語で研究や文書を書かなければならず、さらに、母国語が英語でないと、問題である。外国人研究者は自分のパートナーである日本人研究者からいろいろと手伝わってもらわなければならないことを気に留めておいてほしい。たとえば友情や、日本語のコマンドで動く日本製機器の使用などである。これらの問題に何度も直面し困難な状況に遭遇したのだ。このような機器を試している時、日本人パートナーを見付けられず困ったことがあった。(農)

ある教官はあまり留学生と接しようとしな。博士課程の学生は講義がない。実験のみ。もちろん、ある教官とある研究室。(農)

留学生は勉強を始める前に日本語クラスで学ぶサポートを受けるべきである。京大はその点とても良かった。また、学生が研究方法について学べるクラスがあるべきだ。多くの教授はそのことについて気に掛けず、ただ学生に研究させただけだ。(農)

3番について、日本語が分かる場合のみ真実である。日本語は日本で学ぶ上で極めて重要な問題だと思う。だからこそ、日本語コースは一層厳しくすべきであり、研究生になるまでに優れたレベルに達するようにすべきである。(農)

住宅施設に関しては重大な問題がある。留学生寮はとても制限されている。(農)

学生の学びたいことに対し、実用的で素晴らしい研究方法と自由な環境がある。大学院での私の勉強と学部の勉強である経済学を関連させて学ぶことが出来なかった。(農)

答えられない。(農)

講義の多くはつまらないものだった。私がこう感じる理由には、私が他国で教育を受け、異なった経験を持っていること、私も他の留学生も特別なサポートが必要だったということがあると思う。一般の設備は、明確で理解しやすい官僚的システムのような素晴らしいものである。(農)

高水準の研究で、周囲で起こった新しい問題にも対応できる。(農)

人間・環境学研究科

京大から去った後、自分がどれほど京大で学び学業を達成できたか気付いた。京大で学んだことが潜在意識によく出てくる。(人・環)

熱意に欠け、心を開く能力が乏しい。(人・環)

化学研究所

教官と学生との関係がよくなかった。京大で研究を続ける魅力を感じなかった。言葉が大きな壁となった。(化研)

人文科学研究所

1.私はほんの少しかだけ講義に出席したが、教官と学生が相互に論じ合う形式ではなく、教官から学生という、古い形式の一方的な授業であった。このようなことから、私は教授の方々が学生を物事に対して批評したり分析したりするように導こうとしているように思えなかった。だから、学生達が授業中に眠ったり、他のことをしたりするのは当然だと思った。3.上の私の回答をこ

覧頂きたい。学生は皆親しみやすかった。4.図書館はすばらしかったが、講義の建物の幾つかは、今にもつぶれそうだった。また、家具・備品などが、今どきの学生達には小さすぎる。(人文研)

再生医科学研究所

教授達はとても知識が豊富で親しみやすかった。しかし、もっと留学生に対して、日本語の熟達だけでなく自分達の研究分野での学術的卓越を期待してもいいと感じた。学生の研究に対する建設的意見は助かると思う。(再生研)

食糧科学研究所

数人の教官方が、留学生に対して親しみやすくなかったし、良くして頂けなかった。(食研)

数理解析研究所

研究環境は大変優れている。(数研)

霊長類研究所

9ヶ月の間、研究所で学びとてもよかった。また戻りたい。私はイギリスで生物保護学の修士を取得した。京大が博士課程に入れてくればいいと思う。(霊長研)

図書館にはセルフサービスのコピー機や、色々な国の様々な雑誌もあり、学生達の勉強を支えている。必要な化学薬品は、研究室の管理者の方を通じて手に入れることが出来た。(霊長研)

東南アジア研究センター

クラスや教官のレベルが低い。教官の準備が悪い。(東南ア)

留学生センター

非常に劣化している設備がある。学生達のある政治的活動は非常に気持ち悪い。(もし、ヘルメットをかぶり竹棒を持った人達があなたの隣で警備員のように立っている間、排尿を楽しむことができれば別だが...)(留セ)

幅広いトピック(日本史、日本社会、日本文化)が扱われとても興味深かった。しかし校舎がとても古く気分が暗くなる。また、冬は寒い!(留セ)

ときどき、ほとんどの日本人学生がアジア系留学生と接することを拒んでいることが分かった。彼らはアジア人よりも欧米系の学生達と友達になりたいのだなと強く思った。このことが自分の日本語向上にたいする意識を低下させた。とにかく、教官達は良く、とても親しみやすく学生達を助けてくれた。(留セ)

なんとなく、ときどき学術的すぎた。しかし教官はクラスを面白く、相互作用ができるようにしてくれた。(留セ)

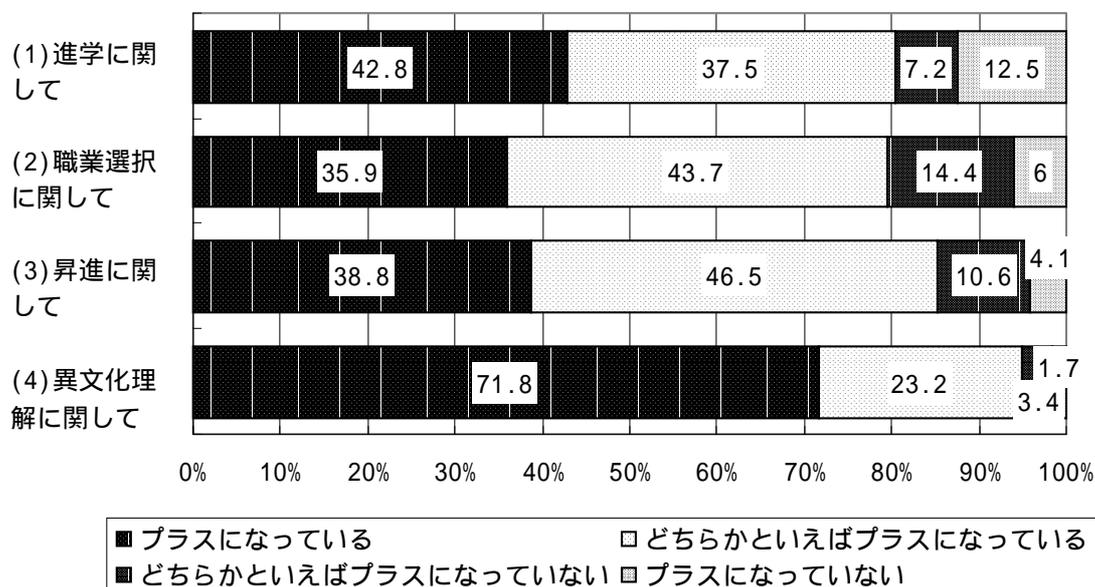
京大にあのような性差別があることを知りとても苦悩した!私は数名の女性しか博士課程のサイエンスプログラムにはいないことがわかった。私の研究室では、唯一の女性だった。さらに男性の学生達から日本の教授は女性が科学工学を卒業することを励ましたりしないと言われた。偏見のある入学受け入れ方針を改善するまで、京大は"偉大な研究所(大学)"とみなされることはできない。(留セ)

私のプログラムのスタッフはとても素晴らしかった。(先生、いろいろとありがとう!)講義は80%面白かった。さらに彼らは私に京都の歴史や伝統をできるだけたくさん見せてくれた。図書館は平均的というよりも...もっといい図書館がポーランドのワルシャワにある。教室はとても粗末な設備だった。でも長い目で見れば、見た目ではなく中身である。(留セ)

図書館システムは明瞭に説明されていなかったの、京都大学の蔵書は京都大学の名声に見合わなかったという印象が残っている。(留セ)

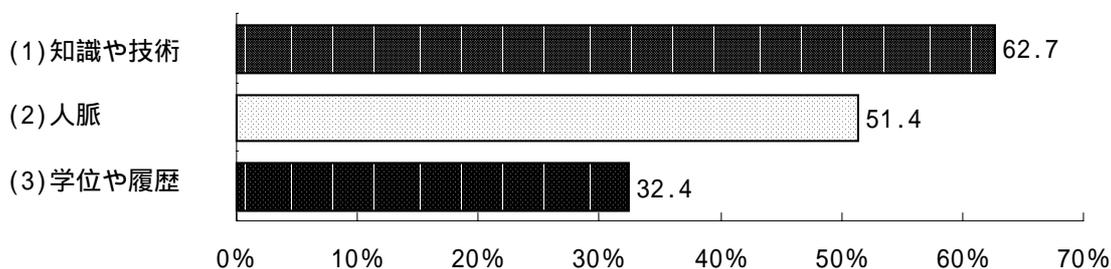
私は図書館が大好きだった。というのは、勉強や研究活動に際して、良い環境だからである。(留セ)

Q14. 京都大学における留学経験について



・特に役に立ったもの

(「プラスになっている」「どちらかといえばプラスになっている」と回答した者のみ)



Q14.

京都大学における留学経験は、あなたにとってプラスになっていますか？
プラスにならなかった理由はどんな点にあるとお考えですか？

文学部・文学研究科

この質問は理解しにくい。(英語の問題か??)あなたがたが何を知りたいのか理解できない。(文)

数年後、私は学術的キャリアから法律関係に変更したので、京大での研究は個人的には利益になったが、キャリアにはあまりプラスにはなっていない。(文)

私は自分で会社を興した。だから誰も私の学歴について尋ねる人はいなかった。(文)

教育学部・教育学研究科

私は研修生としてまったく相手にされず、何のガイダンスも得なかった。(教)

我が国では、自分が学んだ分野におけるキャリアを生かせる見込みがない。職場でも日本で得た知識を生かすことができなかった。(教)

京大で学ぶ前、修士課程のみで自分の学業を終わらせようと決めた。(教)

法学部・法学研究科

私が受けたガイダンスはとても良かったと思う。アドバイザーは私と一緒に研究することに全く興味がなかった。住居を探す時、全く援助がなかった。教授はセミナー中に寝ていた。(法)

経済学部・経済学研究科

学士号のみを取得した時、大学院に進む必要がなかった。これはごく当たり前のことで、特別なことではない。なぜなら私は京都大学で学士の資格を取得したのだから。(経)

理学部・理学研究科

キャリアに関する情報が乏しい。特に自分の分野に関して。(理)

京大だけでなく他の日本の大学も一般的に異文化理解における適所ではない。(理)

もし日本で働くとしたら、私の京大での経験はとても有利になるだろう。京大は素晴らしい大学だが、マダガスカルのような発展途上国では殆ど誰も知らない。日本大使館を通して日本政府は京大のようなエリート大学からの学位を安定させるという面で何らかの策をとるべきである。(理)

京都大学には留学生のための職業指導センターがない。(理)

医学部・医学研究科

放課後、校舎を去った時、自分が保守的な日本人たちの中真ん中に住んでいるという困難に直面した。彼らは親切だったが、心を開けなかった。(医)

私は教育研究所には入ろうとしなかった。それは個人的な選択であり、なぜならば、現在、興味深い非政府研究所で殆どフルタイムで働いているからだ。そこで研究を続けている。京大での経験は決して妨げとはならない。もし、いつか教育研究所に入るようになったら、京大での経験があるので、自分のカリキュラムが認められるだろう。(医)

バン格拉デシュでは、日本で取得した医学の学位は医学協議会では簡単に認識されない。だから私の資格が有利となることは、しばしば困難である。(医)

京大で私は顕微解剖を学び博士号を取得した。しかし論文を通常の4年で卒業するのに十分書いたのに、5年間もかかった。だから私が差別を受けている間、非常に長い時間を卒業するためだけに費やした。(研究生の最初の1年を含めると6年間)(医)

私がこれまでに述べたように、京都での辛い日々を思い出すことは、まるで悪夢のようなものである。(医)

工学部・工学研究科

私はシンガポール政府に属していたので、キャリアや職業を選ぶという事となるとあまり選択肢がない。現在はシンガポールの防衛庁に所属している。私が日本で学んだ分野の知識や技術、また日本語も必要とされていない。(工)

関連無し。(工)

外国で勉強することはドイツでの大学での学問、研究参加において大きな影響はない。キャリア向上にはとても大きな効果がある。(工)

京大での研究生交換プログラムで Mainz で学ぶ学生達と十分に交流が持てた。それゆえ自分のキャリアには何も影響がない。(工)

キャリア。3ページのコメント参照。(工)

私は研究分野を変更し、また、担当の教授が定年退職されたので、コンタクトがとれなくなった。その後、2回、大学を訪れ、そこで人々との会話を楽しんだ。(工)

1) もはや学術的活動にはかかわっていない。2) 京都に来る前に日本文化についての理解がすこしあった。(工)

日本に来る前にそれを選んだ。(工)

日本の大学はフランスで考慮に入れられない。(工)

1) 私はドイツに戻り博士課程の卒論を終えた。私に必要な情報は全て、文学からのものだった。2) 私は現在企業で働いているので京大で得た知識を活用できない。(工)

教育はもっと実習指向にすべきだ。(工)

京都に来る前、さらに勉強して博士号を取ることに興味はなかった。そしてこの気持ちは京都にいる間も変わらなかった。(工)

農学部・農学研究科

1) すでにどの分野に進めばいいか知っていた。2) 日本で勉強した友人の経験のほうが自分より上まっていた。3) 私は、非常に柔軟性が高いということを示した。(農)

京大の学風が好きだった。(農)

私は自分の研究分野のエキスパートであるとはあまり言えない。京大でいろいろ学んだが様々な要素の効果について議論すること等にはあまり自信が無い。私はあまり教授や仲間達から情報を得なかった。私は学びたかった。「京大にいたとき～を学んだ」と言いたいのが、いずれにせよ、そうは言えない。なぜならば、私の教授も教えてくれたり情報をいくらか与えてくれたけれど、ほとんどは本から学んだからだ。(農)

私は外国の研究所で様々な研修プログラムに参加した。日本での経験は素晴らしかった。しかし、宇治研究所での研究のやりかた、学び方は私にとってあまり良い影響になつたとは言えない。研究所にいたとき、いらだちを感じた。なぜなら、私はフランスで工学の学位を取得しているにもかかわらず、ただの修士課程の学生(それは、日本、または、研究室ではただのアシスタント)として扱われたのだ。そこにいた2年間、彼からはただ日本のシステムを学んだだけで、私自身の研究をすることができなかった。(農)

該当無し。(農)

私は政府官僚なので自分の興味のあるキャリアを選択することは難しい。留学後が自分のキャリアにとって有利になるようなこともないと感じている。すべては私の国の状況しだいである。(農)

私の教師は気難しかった。かれは学生に対し責任を持っていなかった。私が彼の研究室に志願した時、彼が私の提案を受入れたのでその研究室に入った。しかし私の提案は無視され、ある日本企業の研究を私に押し付けた。ひどいことだ。(農)

フランスで哲学の博士号が取得できなかった。(農)

多分授業は日本で教育を受けていた学生を対象にしたもので、留学生のような違う経歴を持つ学生に対する配慮は見られなかった。(農)

人間・環境学研究所

京都に住むためには、勉強し、良い関係を築く。(人・環)

エネルギー科学研究科

USAの企業を選んだので。(エネ科)

アジア・アフリカ地域研究研究科

日本に来る前に、とても良い職業に就いていた。(ア・ア)

留学生センター

京大とは関係ないが、むしろ自分が選んだキャリアの選択からと言える。研究をフルタイムでしていた頃、私にとってのキャリアではないと気付いた。研究には興味がまだあったが、フルタイムでしたい事ではない。(留セ)

答えるのは簡単だ。現在の仕事は日本とはまったく関係がない。京大での経験はわたしのキャリアには影響がなかったが、実に人間としての向上に関わった。私は京都の文化的建築物や景観の美しさに打ちのめされた。異なる文化をもつ人々を理解し出会う事によって私は更に以前よりも深く人間性を感じるようになった。(留セ)

京都大学での留学生生活を振り返って、今特に京都大学に何かメッセージがあれば、自由にお書きください。また、本アンケート調査に対するご意見、ご感想がありましたらお書きください。

総合人間学部

私は引っ越しをした。新しい住所は.....(英文参照)(総人)

文学部・文学研究科

関係者の皆さんに深く感謝しております。(文)

京大で学んだ頃から10年たち何かが変わったことを期待する。しかし、日本で博士課程を学んだ私の経験は一般的ではないかもしれない。私はほんの少しのガイダンスしか受けなかったが、基本的に、自分の希望通りに自由が与えられた。教育レベルが少し低い学生には良くないだろうが、私には良かった。もっと実用的な手助けがあればよかったらう。例)生協の会員システムはどのようになっているか等。(文)

私は日本史学部でとても幸運だったと思う。学生、教官、スタッフはとてもオープンで気持ちよく迎え入れてくれた。別の学部の私の友達はそれほど幸運ではなかった。学生間の問題があったのだ。各学部によって状況は違う。この調査はとても素晴らしいアイデアだと思う！おそらく大学は日本人学生と留学生間について理解するうえで何か助けになるのではないかと、日本人学生は留学生が直面している多くの問題について知らないようだ。そして留学生と友達になろうとしない。(特に学部生)。(文)

1) 外国人留学生と交流する機会をより多く提供。2) カリキュラムを企画し教師を選ぶ際に学生の評価を取り入れること。3) 学生に京大が提供できることを活用させ、それを可能にするためのカウンセリングの提供。(文)

私の経験は大きなプラスになった。(文)

日研生コースは、留学生に比べて社会活動は少ないし、研究生に比べて学問上の対象もないし、中途半端に見えた。そんなところが日研生をがっかりさせ、孤立させるのである。日本語の授業の質も様々であった。身近に素晴らしい日本語の教官がいたが、あまり素晴らしいとは言えない教官もいた。(文)

京都大学で友人を見付けることは容易なことではなかった。私は同志社大学のクラブに所属し、そこで多くの友人に出会った。(文)

教育学部・教育学研究科

学術的厳しさをもっと重視するべきである。友人が教えてくれたが、例えば修士課程の全員がまったく同じ成績をとったらしい。日本人の学生はアメリカで勉強する為に推薦状を教授に頼み、教授は学生に推薦状を自分で書かせてサインをするらしい。それはおかしい。図書館はとても良かったし寮も素晴らしく料金も割安だった。京都は美しい都市である。(教)

京大で学生として過ごした年は私の人生において一番素晴らしい時間だった。それは仏教史に根づいて発展した京都独特の性質のおかげである。この素晴らしい都市で過ごせたことをいつまでも感謝する。京大の教師の質もとても肯定的な影響を私の人間的成長に及ぼした。この調査はとてもよいアイデアだ。私の答えたことが助けになればいいと思う。(教)

京大で学んだことを振り返ると、素晴らしい思い出が甦る。1) 図書館の学習環境2) 研究室で勉強させてくれた指導教授。そこでは他の留学生と日本人学生と共に学んだ。様々なトピックについて議論し合った。はじめて日本人の考え方に触れた。短い間の滞在だったが、学生生活における調和はすぐとれ、皆と同じように大学に属しているという感じを得た。この機会をつかって、みんなが研究室に入れるように励ましたい。社会科学を学んでいた留学生から聞いたのだが、彼らが学ぶ研究所ではコンピュートルームが利用できない。私もこの問題に直面した。インターネットでいろいろ調べるとき、夜間もコンピュートルーム

が使えると助かった。(教)

法学部・法学研究科

私は京大で学ぶ機会が持てとてもうれしく思う。住所が変わったが、今後も文書など送っていただきたい。新しい住所は……(英文参照)どうもありがとう。この調査アンケートはとてもいい考えた。(法)
ちょうど10年間も京大の学生だった。だから私がそこで学生だった時の感想は複雑である。概して、日本で最も優れている大学である京大に入れたことを荣誉に感じる。幸運にも友達になれた日本人学生や留学生との交流によって人間的にも豊かになった。学生としては、言葉の問題で自分の考えを表現できないと感じることが多く、また、オープンで率直な議論において、クラスメートや他の日本人学生が興味を示していないと感じた。私が気付いたことは国際政治の分野でとても自信のない雰囲気があり特に重要な問題の議論においてそうだった。(法)

経済学部・経済学研究科

京大は日本のトップレベルの大学の一つであり、たぶん世界においてもそうだろう。しかし、京大は日本以外では限られた役割しか持たない。もっと、毎年、国際セミナーやシンポジウムなどを主催して学術的な活動をするべきである。(経)
私はとても良いチューター(日本人学生)と素晴らしい教授がいて幸運だった。彼らがいなければ、おそらく同じことを達成できなかっただろう。チューター制度を保護し続けていって欲しい。(経)
私の全体的な感想は京大は、教授や、学生や、運営においてとても高いレベルなので、学ぶのに都合のよいところだ。しかし、もっと人を引き付ける大学にするには、間にかくれた部分について触れなければならない。1) 留学生の観点から、奨学生は、学生の成績や学術的能力とはまったく関係なしに決められているようだ。これは海外からの優秀な学生を引き付けるような大学の存在でいられるかどうかに対する脅威である。2) 京大は国際教育機関として有名であるが、留学生の側から言わせてもらうと、そうとはいえない。もっと英語での講義や、世界中からの教師がいるべきである。このような状況である理由は全て大学側にあるが、経済的事情もあるだろう。心から京大が学生のよりよい将来を助長していくことを望む。(経)
外国において、京都大学に関する宣伝は足りないと思う。(経)
京大で経験したすてきな思い出を振り返る。ごくわずかの人数だけが私が経験したような日本で勉強するという機会を得る。日本政府による経済的援助や、京大で多くの教授や学生達がサポートしてくれたことに対し深く感謝する。最初にもっと日本語の勉強を事前におけばよかったとおもう。大阪外大で3ヶ月日本語を学んだが、1989年の春から受けた大学院レベルのセミナーで意義のある参加ができるようなレベルには明らかに不十分だった。かなりの自主勉強をして自分で満足できるような日本語レベルまで上げた。修士課程の一年目にあった発表に教授と学生達は実に忍耐強くそして寛容だった。次に、文部省の調整によって、大学と留学生が個々に適したアドバイザーを得ることができればいいとおもう。殆どの否定的体験は経済学研究所の教授と私が合わなかったせいであった。一度、教師が割り当てられたら(問題がある場合の)策はなにもない。留学生のためのオンブズマン(または特別擁護)を置き、このような困難な状況から助け出すシステムあればよいと思う。もし問題が起きた当初に何か策を講じてもらえれば、状況が解決し、みんなに役立つ。三番目に留学生に日本人家庭を紹介し日本の社会に溶け込むチャンスくれたプログラムは有り難かった。日本での最高の瞬間の一つは、留学生寮を離れ普通の日本の生活をした時だった。最後に私の学部のアドバイザーの教授、教授、修士課程の修了を成功に導いてくれてありがとう。特に教授とは連絡をとりあっている。なぜなら、彼は、私の創造的刺戟となる人である。(経)
アメリカなどの先進国や東京大学などの有名な大学のほかに、途上国や日本の普通大学にも、勉強したり、尊敬したりすべきだと思う。(経)
京都大学はまだ保守的な大学で、日本人の学生の多くは留学生と親密になっていない。留学生の多くは、留学期間のほとんどを日本人の学生よりも同じ留学生達と過ごし、お互いの文化の交流や学術研究の情報交換を行い、更に友好を深めた。個人的には京都大学で勉強している間、多くの日本の学生と仲良くなったが、卒業してからは付き合いのあった友達とは連絡を取り合っていない。特に留学生は同窓会では忘れられていて呼ばれていない。(私は卒業後年に1度仕事で日本に行ったが、私が会えたのは私の担当だった教授だけ。)(経)
私は4年間、だいたい自分の思うがままに、京都で暮らすことが出来た。しかし、滞在中全てがうまく行っただけとは言えない。日本語や日本人の文化を理解することや、逆に私の国や文化について理解してもらうこと、留学生が直面する様々な問題、例えば日本独特のやり方やアパートの保証人を見付けることを対処することはとても大変だった。私がまだいるいることが理解できていない未熟さや大学側が日本の事情について十分に説明してくれなかったことが私の研究に支障をきたし、色々出来なかったことも多かった。一般の日本人大学生は留学生に対して親切ではないということも経験した。という訳で、知識や文化間の交流は難しかったというより、ほとんど不可能だった。しかし、これらのことは私が日本に滞在した不思議な理由でもある。私が立ち向かったり乗り越えてきた辛かった出来事や試練は、きっと私を今より素晴らしい人間にしてくれると信じている。ありがとう。(経)

理学部・理学研究科

京大で学んでいて問題だと感じたことは、外国人留学生だけでなく、日本人学生にも当てはまる。最大の困難は多くの研究室が孤立していることで、問題は自分の研究室の教授があるトピックに詳しく無い場合に、アドバイスをどうやって得るかということだ。私自身の問題は統計値で誰かに見てもらうのに6ヶ月もかかりそれ一回きりだった。大学か教授は統計値、コンピュータ等、その分野のスキルがあるアドバイザーを学生につけるべきである。(理)
京大での経験はとてもプラスになった。私の研究所の雰囲気はとてもよく教授との学術的議論は常に重要であった。しかし留学生は日本文化に慣れることと同時に研究にも携わらなければならないので、学生として日本に滞在することは簡単なものではないようだ。大学滞在中のことでも懐かしいのは研究所の日本人の友達と、学術だけでなく人間的に交流がもてたことだ。このことは海外の、すくなくとも私の国の大学とは大きく異なる。また教授と学生の開けた関係に感謝したい。学んでいく過程がもっと実りある経験となるようにするには、教授と学生の相互作用の向上により、大学のレギュラーコースは改善するとよい。(理)
この機会を利用して、私は日本での寮にとっても満足したと言いたい。そしてマレーシア人で最初の京大卒業生であることをうれしく思う。日本人教授との個人的つながりのおかげで京大で高度の学問を遂行するチャンスを得た。そこでの学業は挑戦のしがいがありとても大変だったが京大の最先端のサポートシステムにより、自己批判や自己想像などを含めたスキルを身に

付けた。このようなエリート大学を卒業できたのはいいが、人々から並外れた期待をされることを理解しておいたほうがいい。私たちはトップレベルであり続けるため(特に優れた人格を持つ人間になるために)卒業後も、とても一生懸命働かなければならない。この調査が京大の現状改善に役立つことを希望する。心からの感謝の気持ちと京大生へのサポートを捧げたい。終われば全てよし。(シェイクスピア)敬具(理)

医学部・医学研究科

京大の皆さんに感謝を述べたい。私は知識と技術を得た素晴らしい時を過ごした。また、とても親切で熱意のある教師や学生達に出会った。しかし、外国人学生に対するポリシーについて提案したい事がある。新しく来る留学生の数と国については焦点を置かないでほしい。私は多くの学問的質に欠けた学生達をみた。だから、入学の厳しい選定基準をつくらなければならない。それで高い経済的援助と質の良いサポートをすることができる。おそらく海外から多くの素晴らしい学生がやってくるようになる。私は奨学生選定について苦い経験がある。私は医学部に3番目の成績で入った。(約150人の日本人を含め)京大で文部省奨学金を応募した当時、外国人留学生の中では一番だったのだ。いつも通り、奨学金をもらった学生は奨学金委員会や影響力の強い上司に関係のある人達だった。私は最後の年まで海外からの経済援助なしで奨学金も受けられず過ごさなければならなかった。なぜならば私の上司は影響力がなかったからである。奨学金制度はクリーンで公平なものに変わらなければならない。(医)

成績がとても良く信用のある学生をサポートをして欲しい。(医)

まず、この調査を企画してくれた機関に感謝する。日本に行き、日本語の格言「一期一会」により私の人生のイデオロギーは形成された。日本滞在中、「現在」の重要性と、人々との相互作用を学んだ。振り返ってみると多くの思い出が混ざり合い、その殆どは楽しいものである。指導教授(核医学部)に大変お世話になったことを決して忘れない。博士課程でのとても効率のよい研究経験を決してわすれない。私と家族は都合がよい時に、是非もう一度京都を訪れたいと思っている。(医)

京大は世界でもトップレベルの大学だと思う。京大が好きだ。このアンケート調査を通して京大での経験を思い出した。ありがとう。(医)

文部省の経済的援助で京大での研究を可能にしてくれた日本政府に感謝する。京都で過ごした間、多くのことを得た。小さな国、京都、日本の人々、留学生について知り、研究技術を学んだ。大学、プログラム、技術などの情報や援助に満足した。(案内書やリーフレット等)大学で企画された旅行、寮、プログラムは全てよくまとまっていた。(医)

あなたがたはとてもいい人達だ。京都で過ごした日々を決して忘れない。あなたがたが幸せでありますように。(医)

京大での1年間の生活は、私の人生に一番大きな影響を与えた。そのおかげで、私はいい会社に入る事が出来ると思う。心から感謝します。本当はもう一度京大に留学したいと思う。もしチャンスがあるなら連絡していただけないだろうか。(医)

京大は外国人学生を受入れることに対してオープンである。京大が必要なことは、1. 日本的考えを変えもっと外国人にオープンになり、彼らと競争することを恐れるな。2. 留学生への情報提供の改善(英語を含め)例えば例年の健康診断、奨学金等。3. 京大の教師や博士は、京大が日本、または世界で、重要な大学の一つであると考えるのはやめる必要がある。なぜならばそれは真実ではないからだ。もし彼らがこの考えを変え、よりよい大学にしようと努力すれば多分この大学は向上するだろう。たぶん!!!しかしまず京大誇示の考えを変えなければならない!!!(医)

乏しい経験からではあるが私が思うには、留学生を担当する教官は、多少なりとも選ばれた人にして欲しい。というのは、教官は留学生にとって多大なる影響を与えるからである。教官と学生が出会う前にも、出会った後にも、相互理解とコミュニケーションは必要である。私は現在タイペイで開業医をしている。しかし、未だに日本が、特に東京が大好きである。京都を離れて3年後、私は再び日本に戻った。そして、東京の病院の 博士という素晴らしい教官に出会った。教官は本当の皮膚手術がどのようなものであるか、また医師とはどんなものであるか、そして教官がどのようにご自分のキャリアを楽しんでおられるか教えて下さった。だから、東京では本当にいい経験をする事が出来た。京都には良い研究者だけでなく、良い教官がもっといただろう。不満ばかり述べて申し訳ない。もし私に何か連絡があれば、次のアドレスまでご連絡頂きたい。email アドレス × × × 連絡を待っている。敬具(医)

薬学部・薬学研究科

京大滞在の間(1993~1995)、私にとってすべてがよかった。そしてあなたがたの全てにおいて今も素晴らしい経験であり感謝している。他の人も私のこの経験ができればいいと思う。皆さんどうもありがとう。(薬)

工学部・工学研究科

私は京大の電気工学で信号処理を研究生として学んでいた。京都にいるあいだとてもよかった。私はとても多くのデータ処理の技術を学んだ。素晴らしい教授だった。(工)

振り返ると、私は京大での滞在をとても楽しんだ。しかし、大学委員会は留学生と地元の日本人学生の交流を促進させるように常に働きかけるべきである。これは、私の滞在中見ているかぎり、欠けている。留学生と日本人学生が普段の生活の中で交流できる機会が多くなるような両者の為の寮の設立が良い方法であろう。京大卒業生のための同窓会はあるのか(外国人卒業生を含め)?(工)

私は京大在学中に自分が感じたことについて書く機会を得てとても幸せに思う。京都滞在は私の人生の中で鮮やかな生き生きとした日々の一コマであった。京大で私が興味のある分野の研究施設は素晴らしかった。材料工学科の指導教授と研究できてとても幸運だった。彼は私に素晴らしい研究設備を提供してくれた。また、 博士のことに触れないと不公平になってしまう。彼は私の友達、哲学者、私の学術的活動、そうでない活動も含めて先導者であった。私の研究分野について彼から多くを学んだ。このようなアンケートを企画してくれたことに感謝したい。(工)

京大での勉強は、自分のキャリアにとってよりも、おそらく人間的にとっても有益になったと感じる。日本語コースはとても役に立ち質も高かった。研究所での経験はそこで育んだ友情の観点から考えると価値のあるものだった。しかし同時にたやすい時ではなかった。私はどのように振る舞えばいいのかわきりせず、友達をつくるのに時間がかかった。私と研究室の学生達がお互いに理解しようとした努力がそこでの経験を生き生きとした価値のあるものにしたと思う。(工)

私の京大滞在はとても興味深かった。私個人の人生と仕事にとってとても有益な経験となった。京大で学ぶ機会を与えてくれてほんとうに感謝している。(工)

このアンケート調査はグッドタイミングで行われてる。価値のある情報が集まればよい。留学生はいろいろと拘束されているが、

留学生間のつながりが必要である。郵便や電子メールだけでなく実際に面と向かったコンタクトも必要である。大学は卒業生との誠意のある関係を保つべきだと強く思う。京大にとってははとて大変なことだが、卒業生の為に同窓会の企画を試みるべきだ。それはそれぞれの卒業生にとって確かに役立つだろう。(工)

最初、私の教授が、クラスで学ぶ間、厳しさと一生懸命学ぶ習慣をわたしに身につけさせた。大学の事務局の皆さん、親切な近隣の人々どうもありがとう。京大に関わったこと誇りに思う。すてきな思い出…そしてまた京大に戻りたい。(工)

ドイツで修士課程にいる間、1992年に京大で過ごした。京都に滞在して主に利益になったことは、化学的技術と知識においてではなく、とても難しい文化と異文化間のコミュニケーションにおいてであった。京都は私の2番目の故郷である！(工)

京大が若い交換留学生が日本の生活に適応しやすくするためカウンセリングを提供したらいいかもしれない。私は京都での経験を非常に楽しんだ。しかし、ときどき誰か自分の悩みなどを聞いてくれる人がいると理想的だった。私はカルチャーショックで少しばかりホームシックや憂鬱、不安になったとき自分でなんとかのりきった。皆がこういってことに立ち向かわねばならないが、留学生と日本人学生との素晴らしい交流を体験できると信じている。本当に、素晴らしいプログラムで何人かの人々に勧めた。より多くの方が、私が体験したように自分自身を高める機会が持てたらと希望する！(工)

このアンケート調査は感謝すべき素晴らしいものだ。この調査を通して京大の交換留学生制度がもっと改善することを祈る。(工)

日本人学生は研究生として外国を訪れる機会を得るべきだ。(工)

全体的なサポートシステムはとて良かった。そしてあまり改善するようなこともない。全ての悪い経験は自分が研究室で人と話すことが苦手なせいと起こった。その結果、日本での友達は外国人のみだった。しかし、このような調査の為にコンタクトはとて素晴らしいと思う。(工)

京都滞在中サポートしてくれた日本政府や京大の皆さんに感謝したい。私の人生は、約半年の研究室での経験から強く影響を受けた。もし、ハンガリーや他の国で高い地位に着くことがあれば日本の研究所と京都と協力し合いたい。日本はとて美しい国であり、今のまま次世代に引き継いでほしい。ありがとう。(工)

京都は私にとって初めて滞在した外国だった。北アメリカ(バンダービルト大学)やベルギーと比べると最も興味深かった。文化と日本の精神は憧れである。京都は日本で一番見るべき都市である。私の住所を。(英文参照)(工)

文部省奨学生にとって何も勉強しないことはとて簡単すぎる。彼らに責任をもたせるべきだ。定期的なチェックがなされるべきだ。なぜ留学生は殆ど決して落第しないのか？(工)

日本も今経済不振で大変だが、個人的には十分な奨学金を得てアルバイトをせずにもっと勉強したかった。アメリカの教育体制を参考にされるといいかもしれない。産官学共同というが、100%まねるのではない、日本に適した解決法が見つかるといいね。大学だけの問題でもなく、日本全体の百年の計が見えてない気がする。改革を大胆に進めてもらいたい。(工)

* 祈りのために使える場所の提供を考えてほしい。(特にイスラム教徒の為) * イスラム教徒が食べても安全な食べ物を提供してほしい。(特に食堂で出されるもの) 例えば豚肉が入っていないもの等。(工)

素晴らしい経験だった。とても気に入っていた。(工)

私が日本語を学ぶ前、英語での情報が足りなかったことが主な問題であった。(工)

京大は私の誇りです。私も京大の誇りになりたいです。初恋の思いのように初心を忘れずにがんばって行きたいと思っています。God Bless 京大!!(工)

京大で学ぶ機会を素晴らしい誇りに思う。しかし、わたしが気になるのは日本語の知識なしでアカデミックなことを完全に学ぶのは不可能であることだ。京大は大学院での英語導入を考慮したいと思っているかもしれないが、また、私が気付いたことは、京大で学術的スタッフになるためには、京大を卒業してなければならないということが一般的であるようだが、それは新しい発想を生む余地がなくなるということの意味する。また京大は外国人の学術的スタッフを雇うのだろうか？ 未永い発展を。(工)

京大がこの調査を行ったことをとてもうれしく思う。研究室についてのコメントを幾つか付け加えたい。1)一週間に2回(3時間)のグループミーティングがOHP無しで日本語でのみおこなわれた。とても無駄なことだった。しかし出席は義務だといわれた。

2)研究室では私は学生としてはみなされず、あまり多くの事をしないことが期待された。わたしは文化理解のためだけに存在した。フランスで考えていた、博士課程での一環の勉強のようなものではなかった。私は結果を出さなければならなかった。3)

研究室で唯一の女性だったので(35人中)上に述べたような問題が起こったのかもしれない。4)教授が留学生を迎え入れたいと思っても、研究室の学生は歓迎したいとは思わなかったようだ。5)主な提案:日本の研究室の留学生のために、二人監督をつけるべきだ。(教授と外部の学者、例えば留学生サービスのようなもの)6)研究室のスケジュールについてだが、学生はお昼に現れ、夜中に帰っていった。(通常2時から3時)、もしこのスケジュールに従わないと、普通の人でないと思われた。7)

研究室の学生は英語の知識(特に会話)が低かった。25人中5人が会話をすることができた。その結果、ある学生は"I"とyouの使用で混乱した。だから、私が実験機具を使用している時、誰かがそのあとで使用したい場合、彼らは"May I use this"(これを使ってもいいですか?)のかわりに"Want this"(これ欲しい)という。これが英語の低能力の結果生じることである。私は化学物質が入った瓶等を理解するために必要だった日本語を学んだ。(ひらがな、かたかな、基礎会話)コンピューターソフトは全て日本語で電子メールやワードを使うのが不便だった。小さな改善が大きな変化をもたらす。(工)

このアンケート調査は日本での学業が終わった直後に行われるべきだった。何年もたつと、細かいことを思い出すのがとても難しくなる。ただわたしが言いたいことは、京大で過ごした時間は私の人生で一番エキサイティングな経験であった。いくらか問題はあったが、そこでの学習はとてよくまとまっていた。ありがとう。(工)

この調査の企画はとていい考えだ。一番重要なメッセージは留学生に対する情報についてである。私が思うに、彼らももっと情報があれば、より外国での大学生活を有益にできる。(時間を無駄にせずに)どうもありがとう。(工)

私は京大から学位と、情報開放をうけたことを感謝する。それ以外は、私が気付いたことを幾つか挙げる。1)留学生は京大によって構成されたグループとして会うチャンスがめったにない。2)アジア系でない学生は言語や文化において日本を理解するチャンスがあてられない。3)教授はめったに学生のための時間を多くはとらない。大学の留学生コミュニティのフォーラムが每期行われるとよいと思う。多少の寄附と大学の援助が必要かもしれない。留学生にフォーラムへの参加を感じてもらい、管理者のスピーチはかりにならないように、この調査を歓迎できるだけ答えた。この用紙を送ってくれてありがとう。(工)

もしこのアンケート調査が日本語で行われていたらもっとよかった。なぜならば、京大でその答え方を学んだから。(工)

私は京都、京大で素晴らしい時を過ごした。私の学生生活の中で最も興味深くすてきな経験だったと思う。私が学んだ学部の人々はとて親しみやすく、教授もとても親切だった。私の研究で必要なものはすべて手に入ったし日本の生活がどんなものであるかも感じた。残念ながら、日本語は流暢には話せなかったので人々と深くは接することができなかった。しかし私の学部の学生や教授は英語が話せたのでそこで、コンタクトする機会があった。もちろんドイツと比べると不便で効率がわるい面もあ

ったが、重要なことではなかった。日本で学んだことにより私はものごとを違った方向から評価するようになり人生にとても役立っている。(工)

1. 図書館利用の簡易化と外国の参考書物や本の設置。2. 研究オリエンテーションの開設。しかし京大は素晴らしいコンディションだった。(工)

基本的に、日本/京都大学での滞在は、「世界指向」の人間になることに関して、とても肯定的であると思う。これは常に容易でないが、もう一度するなら、もう一度同じことをすると思う。(工)

京都市、大学、教授、京都大学の職員に好感を持っている。仕事面だけでなく、生活面でも京都大学から多くを学んだ。タイの学生がこうした機会を享受できるよう希望する。現在、King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabangの理学部で副学務部長として務めている。京都大学の「国際交流プログラム」に協力し、私の学生がこの機会を求めることを楽しみにしている。(工)

私は京都にいた6年間、自分の専門科目だけでなく日本文化も学んだ。このことは私にとって良き思い出で、私の研究分野の専門家になるというチャンスを与えてくれた。インターネットで留学生の卒業生ネットワークを作ってくれれば、国際協力に実際に役立つし、情報交換が出来ると思う。(工)

もう一度言うておくと、大学で学んだことは素晴らしいことで、交換留学がこれからも続き、参加する学生が増えることを願っている。お互いに知識だけでなく、それぞれの国でのユニークな経験を分かち合うことが出来る。私が受けた親切、関わりあい、堅い友情など-これらは、国際交流プログラムで長期間外国に滞在すれば、実現するだろう。当たり前のことだが、私は日本の大学のシステムを知ることが出来たし、私の日本の友人はドイツのことを知ることが出来た。異なる文化間におけるコミュニケーションと化学の分野における交流は、私にとって役に立った。もし相手の経歴や、相手の国の文化・伝統・作法、そして言語を知らなかったら、その相手との係わり合いが難しくなるだろう。だから、交流プログラムはお互いを理解するのに一番の方法なのである。このプログラムがますます素晴らしいものになるよう願っている。(工)

私は京都大学にいた頃の数々の良き思い出がある。留学期間のほとんどを、私がそれまでに会ったことがない素晴らしい人達と、研究や遊びに興じた。京都大学には素晴らしい心の持ち主がいる。(工)

京都大学で学んだことは、私にとって現在においてもとても重要なことである。私の普通の生活も、仕事におけるキャリアにも京都で生活した経験が非常に良い影響を与えている。私の妻は、日本を離れた後、京都にいた頃の知り合いを通じて出会った日本の女性である。私は、現在医療機器メーカーのアジア地区の販売マネージャーで、私が京都で経験したり学んだりしたことに関係のある仕事をしている。京都と京都大学は私にとって特別なもので、私は京都を行けることを毎回楽しみにしている。ありがとう。(工)

私は自分の大学である京都大学をいつも思い出す。というのは、京都大学は私に研究を続ける方法を教えてくれ、有名な教授や研究者に会わせてくれたり、異文化を学ばせてくれたりしたからだ。京都大学で研究を続けるにあたって、私を支えてくれて色々なアドバイスを下さった教授の教官方に心から感謝の意を表したい。また、このアンケート調査の主催者の方とその他の全ての方々に感謝する。これは京都大学の卒業生にとって、大学と連絡を取り続ける方法でもある。(工)

このアンケート調査は良いアイデアだと思う。アジア以外の国々から来ている留学生は、それぞれの研究分野について学ぶだけでなく、他国の文化を吸収しなければならぬということもあり大変だと思う。私は日本に留学していた頃に経験したことは、私のこれまでの人生で一番面白かったことではないかと思う。コミュニケーションの問題、母国と比べて作法などの違いで、困難な時期もあったが、これらを経験したことは非常に価値のあることだった。多くのことを学んだが、そのほとんどが研究分野でなく、人生経験としての学習だった。わたしを人間として更に成長させてくれたこれらの経験は私にとって大切なものである。楽しかった時間に比べれば、苦しかった時間は短いものだった。京都で勉強していた時は、楽しく幸せだった。全てにおいて感謝している。(工)

京都大学の国際交流を最も効果的なものにするため、自己点検および自己評価に着手したことは喜ばしい。京都で学んでいる間、私は修学院にある留学生寮で1年を過ごした。そこは良い場所であった。しかし、修学院の寮からアパートに引っ越した際は、ストレスを感じた。もし京都大学が引越し等、住居のことで力になってくれたら、ストレスを感じなかったのではないかと思う。この調査のQ14の(5)については、私はどのように答えてよいのかわからない。(工)

京都は美しい街で、私にとって特別な場所である。多分、それは私が勉強した場所だからであろう。私は京都で過ごしたことを決して後悔してはいない。生活のためにアルバイトをしなければならぬこともあったが、学びたいことを学ぶことができた。もし時間が十分にあれば、私はもっと素晴らしい研究成果を見せることが出来ると思う。(工)

京都にいた頃のことについていつも思い出すことといえば、ホストファミリーの手助けだろう。それは私にとって京都のすてきな思い出である。京都は日本で一番美しい街として、これから永遠に存在し続けるだろうし、外国人がこの街の色々なことを発見し、この街を愛してくれるよう願っている。5,6年ごとに増刷される学生名簿は有難い。もしインターネットでの学生名簿があったら、有難いのだが、ありがとう。(工)

あなたは息子の将来を案じて泣いている年離れた両親の面倒を見ること、地元で生活すること、女性と結婚して社会生活を送りたいと願っているのに追放される(インド・ニューデリー)人間を助けてくれるだろうか？助けて欲しい。恥ずかしさのあまり友達の前にも、親戚の前にも出ることが出来ない。私の教授で原子工学の教授が彼の監督の下で勉強させてくれた。私は意気消沈した。更に絶えられない状態になった。私は他の教官が留学生にしてくれたように、1996年の私の入学試験に書かれている日本語の質問を翻訳してくれるように教官に度々お願いしたが、その願いはかなわなかった。私は質問の意味を理解することが出来なかった。気兼ねなく言わせて頂くと、もし教官が翻訳してくれていたなら、私は試験に合格できたと、教官も理解して下さったと思う。私は教官に対して怒りを感じていない。あれは私の運命だったのだ。私は勉強のために多くのお金を失った。もしお金を得ることが出来れば、勉強するつもりである。もしご質問があったら、遠慮なく聞いて頂きたい。楽しみにしている。手を煩わせたことを申し訳なく思っている。(工)

農学部・農学研究科

私は京大で学び素晴らしい時を過ごした。私は自立すること、臨機応変になること、そして忍耐強くなることを学んだ。これは、私の国(フィリピン)のような発展途上国にとって、発展の鍵となる。漁業資源の研究室では皆がよくしてくれ、とても楽しかった。私の教授は皆、学習や個人的な問題の両方面でとても助けになってくれた。京大での研究はとても都合が良かった。なぜなら図書館に研究に必要な書物が全てあったからだ。私の研究室は研究設備がよく整っていた。研究分野に関連したことを学べる研修旅行はとても実りある経験となった。京大は学問を遂行する美しいキャンパスである。もし、研究生として学ぶ機会が

あるなら、京大で学びたい。このアンケート調査は京大の教育と留学生の学業の向上を測る物指しとなると思う。(農)
いろいろ助けてくれて感謝したい。私のメッセージは「続けていこう」、良い活動を続けて欲しい。(農)
たくさん、たくさん、どうもありがとう！大学の先生方と、できた友達を忘れない！日本のシステムと日本の方からたくさんをもらいました。チリに帰ることは大変でした。日本を恋しく思います。このアンケートを答えることできる...ありがとう！日本にいたあ

いだのことを、たくさん思い出した。(農)
京大に通っていた頃を振り返ってみて、いろいろと困った時や助けが必要な時に助けてもらった記憶があります。日本をたつ時にはあまり時間がなく、ろくに挨拶もできませんでしたが、この場を借りて皆様に感謝の気持ちをお伝えできればと思います。京大では私の人生の指標ともなるたくさんを身に付け、また習うことが出来ました。その中には、外国人学生のための特別プログラムからのものも多かったと思います。見学やその他の行事などで習ったことも多かったのですが、その中で出会った人から学んだことはもっと多かったと思います。(農)

京大で学ぶ機会を与えてくれて嬉しい。私は卒業生であることを誇りに思う。人々が京大は世界でもトップレベルの大学だと言った時に幸せに感じる。人からは最小限の監督で、実際には一人で多くを学びいろいろ達成した。文化的に高められた。学生、教官、スタッフはとも助けてもらった。留学生なので良くしてくれたのだろう。時々文化の違いで、物事を理解するのが困難になり、わかるのに何日かかかったこともあった。京大の教育システムがもっと統合され、相互作用があり、世界に通用するようになればいいと思う。京大は外国人にも門戸を開いているので、英語で講義や研究が行われるべきだ。大学言語が使用されるべきなのだ。これは留学生だけでなく日本人学生達にも利益がある。もちろん、日本語を学ぶことも、日本文化に自身自身を溶け込ませ、同化させる上で重要である。ありがとう。私の考えを分かち合ってもらえること、京大の更なる躍進を願う。(農)

京都での生活はとてもエキサイティングで、やりがいがあり、楽しく、そして献身に満ちていた。大学がいろいろな活動を留学生に提供してくれたので楽しかった。国際的催し(パーティー、セミナー、会議)や、留学生の為の研修旅行で、いろいろな国の人々と出会った。研究室や研究所(木材研究所)ではスタッフや研究員がとても暖かく家族のようだった。私のアドバイザーとスタッフは私の研究にとても援助的で同時に新しい考えや技術を思考することを教えてくれた。その研究所での研究はとてもたいへんだったが楽しかった。日本語のみで行われた会議やセミナーへの参加を決して忘れない。このことは私の日本語上達や、議論されている内容の理解に役立った。もした京大で学びたいかと聞かれたら、もちろん学びたい。特に木材研究所で、この調査を京大が以前に学した留学生の状況や活動について知る為にとっても重要である。(農)

ある夜夢を見た。私は誰かと、教官と日本語を話した。私たちは私の研究について議論した。ときどき京都で学んだ時のことかなと感じた。私は学業、研究などの良い機会を得、京都での生活を楽しんだ。京大は私にとって一番の大学だ。私は研究に関する技術を高め人生についての知恵を身に付けた。自分の人生を新鮮にしたいとき京大を再び訪れたい。最後に京大に関する私の意見を言わせてもらおうと、私がそこで学ぶ機会を持てたということは素晴らしい。日本の政府とお世話になった大学のスタッフに感謝したい。(農)

このアンケート調査に答えることができるとも幸せである。注意深く我々のメッセージに目を通してもらいたい。それぞれの文部省交換留学生は、京大での日本文化、日本語、日本人の親切に対して素晴らしい思い出を持っていると思う。しかし、もし外国人研究生に適した教育をとりいれなかったら、このプログラムは意味のないものとなる。それゆえ、できる限り日本文化に適応しなければならぬ。また、大学側は留学生が研究室で直面する問題を手助けする役割を果たさなければならない。残念ながら、わたしはそのようなサポートはなかったけれど！わたしは、研究室でとても孤独で役立たずと感じ、京大のスタッフに不満を述べたが、学長は、もし彼の現在の判断で変更したほうがよいとは感じなかったら、研究室を変えることは不可能だと私に説明した。もちろん、彼は、変更を受入れず、私は研究室で低レベルのことをし続けた。本当に残念だ！それゆえプログラムの改善に役立つように今書いている。次の学生には全期間、日本滞在できるように、このようなことが起こらぬよう気を付けてほしい。とにかく、最後には肯定的に終わらせたいので、文部省にこの機会を与えてくれて感謝する。さらなる情報が必要ならば遠慮なく連絡してほしい。(名前 & 住所は英文参照)(農)

京大での滞在中を楽しんだ。留学生の居住の問題にもっと注目する必要がある。よく理解できるようにする為、日本語は留学生全員に対して教えられべきだ。(農)

1) 留学生は自分の国に戻り多くの困難に直面している。なぜならば彼らが日本で得た技術を向上させるため、日系企業等からの励ましが無いからである。2) 言葉と研究に対する信念が改善されるべきだ。3) 大学で研究する良い機会を得たと思う。アカデミックスタッフはとても協力的であった。私はあまり孤独と感じたことはなく、それゆえ長い時間が過ぎても日本のことがとても好きである。4) この調査を企画し、それぞれの国にコンタクトしてくれた皆さんに感謝したい。5) 私たちは日本で培った知識と技術を使うことに興味がある。素晴らしい経験をした後自分の国に戻ってよかった。6) この調査を通して、私の教授や友達、そして日本で学ぶ機会を与えてくれた文部省に感謝したい。7) 京大では私たちのような年齢の学生用のリフレッシュメントプログラムはあるか？(農)

JSPSの研究者として京大に着いた。私は 博士のもとで学ぶことにより理解向上できると信じ、このチャンスを得るために奮闘した。アメリカの職場からは、一年しか学業休暇をもらえなかったが、京都で過ごしたその年は私にとって一番実りある幸せな時の一コマであった。その後私は仕事で4回日本を訪れ、多くの日本人同僚(学生や専門家)はアメリカの研究所を訪れた。この調査のような共同作業はとても重要であると思う。私を受入れてくれた京大にとっても感謝したい。(農)

京大が私にしてくれたすべてに感謝する。もし機会があれば、京大をまた訪れたい。(農)

私にとって京大で学ぶ素晴らしいチャンスだった。京大と京都での経験を決して忘れないだろう。留学生センターのスタッフはとても親切で個々をたずねてくれた。京大の責任者達皆さんどうもありがとう。(農)

正直にいうと、私のまわりにいる誰かが日本のことを口に出すと、私はまるで自分の国のことを言われているような感じがしてうれしくなる。なぜならば日本に家族と共にほとんど5年間滞在し、私の初子が生まれて8年目にして次男を宇治病院で授かったからである。私の妻は、息子のふるさは宇治だという。とても苦しい経済状況の中、私はアルバイトを強いられたが、多くの思い出をつくった。今でさえも、京都の多くについて思いがれる。おそらく来年私は JSPS を申込みようと考えている。それは科学の勉強だけでなく日本がとても好きだからである。私の娘は 小学校に5年間通い、日本的な物事を身につけた。まるで小さな島のように。彼女はいつもいつ日本に行くのかと私に聞く。この機会に、留学生と日本人の関係がよくなるように希望したい。私たちの気持ちを知らせてもらえるようなアンケートのチャンスをくれてどうもありがとう。私の現在の住所は...(英文参照) 追伸: 共同プロジェクトや JICA のサポートのもとで技術トレーニングコースに関して、私は自分の大学、WRI、文部省間の正式なつながりがほしい。それについて手助けできる人の名前や住所などを教えてくれるだろうか？どうもありがとう。手に入る範囲で日本についての書物を送って欲しい(例えば、今の京都や日本がどんな感じか等。)。ときどき自分の友達や学生

にみせてあげたいので、どうもありがとう。(農)

私は大学で学んだ日々を覚えている。あのような良い研究所で学び幸せと感じるべきである。しかし、前にも述べたように、留学生は日本語クラスだけのサポートだけでなく研究の方法に関する基本的な知識が学べるクラスが必要である。それが学生達の今後の研究をよりよくする手助けとなるのだ。(農)

最初、ユネスコプログラムで京大に研究滞在した。(1994～1995)わたしの面倒をみてくれた教授はとても親しみやすく助けになってくれて、そのおかげで博士課程での勉強を続けることができた。京大での研究環境はとても活動的、建設的で生き生きとしていた。研究室の設備はすばらしく私のアイデアと教授の導きによって自由に研究することができた。私の意見では、京大での研究は多くを学び私の経歴を高めるためのステップとしてのチャンスくれた。京大の印象はよく、京大を卒業したと誇りをもって言える。私の見解を述べる機会をくれてどうもありがとう。この調査はグットタイミングで行われ、これからの国際関係、提携、(特に外国人学生/研究生に関して)改善することを考えたり案をだしたりするきっかけになるだろう。今後の発展と共に、優秀な留学生が教育を遂行できる場として、欧米の大学よりも、多くの留学生を引き付けることを希望する。(農)

国際交流プログラムを評価している。京都大学で研究していた時、教員のエンジニアによって時々行われた特別講義に参加する機会に恵まれ、有益な知識を得た。農学部教員のシステムに対して高く評価している。なぜなら、我々(留学生)に、英語によるプレゼンテーションや論文を認めてくれたからである。(農)

京都大学で研究することができて非常に嬉しい。研究分野、友情、語学、文化、多様性について多くのことを学んだ。私の研究室は、数年でチリにある母校の大学の講師になる手段を与えてくれた。準備ができていたという理由だけで、非常に若くして助教にも昇進した。また、チリで有意義な政府機関の奨励金を受給することができた。これらすべては、常に科学で成功する方法を示してくれた私の指導教授のおかげである。京大の思い出は美しく、素晴らしい教官と優秀なクラスメイトとともに研究する機会に恵まれたことに感謝している。いつか戻る日を楽しみにしている。(農)

大学は留学生のためにより多くの学生寮を建設しなくてはならない。そうでなければ、大学は少なくとも、非常に高額な民間アパートの家賃を補助しなければならない。(農)

会話に問題があったために、研究に影響したこともあったが、日本の社会や文化の中で色々な発見をして、素晴らしい3年間を過ごした。私には今でも多くの日本の友人がいるし、勿論日本が大好きである。更に協力しあっていけたら、と思う。(農)

京都大学での留学を通して、特に東洋の文化や考え方に触れて私はさらに世界情勢について知り、色々な国々を公平に見ることが出来るようになった。京都での生活は、私に世界に対する広い視野と、母国を改めて知る機会を多く与えてくれた。同じように発達があり進んでいない国々から来た仲間と馴れ合いになってしまったことはいいことだったとは思わないが、学ぶところも多かった。母国で学部の勉強を完璧にして来たにもかかわらず、京都に来て初めてコンピュータを扱った時には、親友や仲間の手助けなしには出来なかった。教官や仲間には、私に対してとても寛容だった。私を留学前から知っている上司や同僚に、私が自立し、実用性を身につけ、働き者で、結果重視の人間になったと言ってもらった。この調査は、京都大学を色々な分野で発展し、卓越するために良いことだと思う。京都大学を誇りに思い、感謝している。基本を守って、これからの留学生を導き続けて欲しい。(農)

回答出来ない。(農)

私はいつも京都大学の方々の親切や配慮に感謝している。ありがとう。(農)

私の数々の経験は素晴らしいものであった。京都大学に在る間に問題が起こったのは、私が教育形態の違う国で育ったことに帰すると思う。このアンケート調査は、留学生が直面している問題を知り得るのに役立つと思う。ありがとうと感謝を述べるとともに、努力の結果素晴らしい成果を出されることを願っている。(農)

私は京都大学で経験した様々なことを愛しく思う。悪さをすることに加担してみたり、大学のプールで泳いだり、毎回カフェテリアで食事をしたりするのは楽しかったし、勿論仲間達と研究するのも楽しかった。現在私は大学で教えてはいないが、インドネシア政府に州立の自然予防医学の発展に力を入れている会社を手伝ってくれるよう頼まれ、そこで働いている。京都大学で多くのことを学んだので、我が国の自然予防医学の発展のためにその依頼を受けることは、難しいことではなかった。京都大学大学院の農学部農業化学科の研究室の教官方によるしく伝えて頂きたい。また以前私の担当教授でアドバイザーでもあった、奈良先端大学大学院の関係教授にもよろしく伝えて頂きたい。(農)

人間・環境学研究科

京大は国に戻る為の航空券をくれなかった！どうすればいいのかわからなかった。(人・環)

エネルギー科学研究科

京大での学生生活を楽しんだ。また京大に戻り勉強する機会があればいいと思う。(エネ科)

化学研究所

京都での滞在をとても楽しんだ。留学生の為の研修旅行を企画してくれてとても感謝する。しかし最初、下宿先を探すのとても大変だった。もっと新入生の為の国際的な寮などの居住施設があればいいと思った。全体的に京大での日々はとても楽しかった。また訪れたいと思う。(化研)

私は京都大学でとても良い経験が出来た。いつか京都大学に戻って、現在の私の大学との交流関係を持ちたい。このアンケート調査は非常に重要で価値がある。(化研)

人文科学研究所

これまでに批判的なことを述べたが、私は京都にいた頃の2年間が好きである。京都大学は現代日本史の学者である私の研究の発展に有益な場を提供してくれた。個々の学生は、大学が自分のために色々セティングしてくれることを非常に期待している。留学している時には、その人の弱点ばかりが目立つことがある。私の場合恥ずかしがり屋なので、専門分野での色々な人とのつながりを作ることや、新しい友達を作ることがとても重荷だった。だからここで提案したいのは、1学期の間に1度や2度、留学生のための小規模の親睦会を行って欲しい。ごく数人の研究仲間、数人の教授と同じ分野を勉強している日本人学生の多くとも15人ぐらいのグループで、個々の研究している分野の簡単なプレゼンテーション(格式ばらない所)やまたは学校でスナックなどを食べながら行うのである。これらの会合があれば、教授が例えば短い時間でも全ての学生と話しをすることが出来る。個々の学生との係わり方や、研究室に出入りしている学生がどんなことについて話したいのか、分か

るだろう。(人文研)

再生医学研究所

京大で一年間学べたことに感謝する。留学生が日本人学生に国際文化についてのイベントを実行しながら、文化や人間性について理解させるようにするというのはよい考えかもしれない。それでこそ真の文化交流が生まれる。一年間の日本学のカリキュラムをうまくデザイン(分野(文学、語学、歴史、社会学、学際セミナー)に分けたり)すればいいかもしれない。また、学生の学業に対してもっと厳しい評価が彼らのモチベーションの向上につながるだろう。この調査は、概して、良い考えである。(再生研)

防災研究所

私は京都大学の国際交流担当の方に、京都や京都大学に来る留学生に財政支援を受けさせるようお願いしたい。(防災研)
日本は生活するのに色々値段が高い。もし私が日本政府から援助を受けていなかったり、手ごろな宿泊施設を与えられていなかったら、私は日本で勉強出来なかっただろう。振り返ってみれば、私の日本で経験したことは、その後の私の人生に大きな変化をもたらした。日本がとても懐かしい。私は日本と、日本で出会った人々をとても尊敬している。(防災研)
このような調査はとても良いと思う。私に京都にいた頃の良さ出来事を思い出させてくれるし、京都の街の美しさを思い出させることができる。(防災研)

食糧科学研究所

京都大学で勉強させてくれる機会を与えてくれた京都大学と文部省の奨学生制度に感謝したい。京都の街も京都大学はとても良い所で、特に農学部事務所と留学生センターの人々はとても親切で良い人たちばかりだった。どうもありがとうございます。(食研)

数理解析研究所

留学生用の修学院ハウスはとても良い。そこにたった1年間しか滞在できないのは残念だ。京都は良い所であり、RIMS(京都大学数理解析研究所)は研究するのにすばらしい所である。京都での支援に感謝する。私の人生の中で実り多い期間だった。(数研)

霊長類研究所

私は、指導教授と彼のチームに感謝する以外は何も言う事がない。彼らのおかげでいろいろ学ぶことができた。スポンサーのJICAにも、日本に来ることを実現させてくれたことを感謝したい。私が来年以降、また京大で勉強することを考慮してほしい。私が京大で学んだことによってイギリスでのさらなる学問の道を切り開くことができた。おそらく、来年生物保護学の修士課程で学ぶと思う。その一年後、京都で生物保護学の博士課程に入りたいと思う。これについて考慮してほしい。(霊長研)
京都大学で学んでいる間のほとんどの時間、私は犬山市にある霊長類研究所にいた。だから、私は大学内のことをじっくり見ることが出来ず、京都にもたった1度しか行かなかった。大学のことについて詳しくコメント出来ないことを非常に残念に思う。正直に話すが、留学している時は順調に事が進み、楽しかった。私は離れた所にある調査所での仕事を紹介された。そこでは外国人は私だけだったのにも関わらず、大島や鹿児島で自由に仕事をすることが出来た。私が作成した科学報告書は、親切にも指導教官に和訳してもらい、東京にあるJICAの国際センターに送ることが出来た。京都は奈良の後に都であった街だということなど、日本の歴史について知った。両方の都には日本と文化的なつながりのある私の国と同じように語り継がれる文化やある。日本の遺産が、大切に保存されているのを目の当たりにしたことがある。これはとてもよいことだと思う。親切な日本の友達に、感謝の意を表したい。言わせてもらえるならば、このアンケート調査に、研究を続けて再度留学するためのプログラムについても質問を設けるべきだと思う。(霊長研)

東南アジア研究センター

このアンケート調査は新たな第一歩だ。(東南ア)

留学生センター

京大での活動を大変楽しんだ。一番の思い出を作った空手訓練のことをよく思い出す。(最初、そこに入るのも簡単でなかった。)京大で学んだことは決して後悔しない、もういちど感謝したい。お元気で!(留セ)

京大で過ごした時間はとても楽しかった。今も大学で出会った友達と連絡をとりあっている。いつも思い出す。いつも私たちのことを気にかけてくれ面倒をみてくれた、留学生センターの さん、どうもありがとう!(留セ)

一年間の滞在の間(1994年10月~1995年10月)京都で素晴らしい時を過ごせたことに感謝する。私は日本語、日本研究生だった。京大のような最適所で日本語を学べる機会を得て非常によかった。なぜならば、私は日本語だけでなく日本人の実生活も勉強でき、豊かな文化環境のおかげでそれについて明確に理解しやすかった。とりわけ、京都は歴史的な場所で日本の歴史を学ぶのに絶好であり、日本と日本文化をよく理解できた。さらに大学はいろいろと私の面倒をみてくれたので、かつて京大生であったことをとても嬉しく感じる。実際に、私はまた京大で学びたいが、現在の研究はそこでは合わないので無理である。どうもありがとう。(留セ)

私たちの殆どは十代で、様々の国の人と出会い(クラスで)、外国で生活を体験することは素晴らしいと思った。個人的にそのクラスの一人か二人と連絡を取り合っている。同じクラスにいることもお互いに仲良くなる理由の一つだが、寮生活もそれに大きな役割を果たした。私たちは週末、共にでかけることができた。なぜか京大は私の生活の中心ではなかった。私たちの質問に答えてくれたスタッフの努力には感謝するが、日本人学生とも交流しやすかった。毎日学校に行くことで地域の人々と出会えるということはそれほどなかった。(私は留学生センターに所属していた)(留セ)

京都学んだり生活したりするのに素晴らしい都市の一つであり、なぜならとても美しく文化に満ち溢れているからだ!!私の教授はとても親切でいい人だった。私の学友に関しては、彼らは最初とても恥ずかしがりやで親しみにくかったが時とともに変わった。彼らは女性は研究室には属さないものだと感じていたとおもう。私は彼らと同等にまじめに一生懸命学べる学生であると証明しなければならなかった。最終的には私を尊敬してくれ友達になった。国際センターでの日本語クラスはとても

楽しかった。全体的に、私は京大でいろいろ経験してとても幸せだった。友達にも勧めたい。私を迎えてくれてありがとう！（留セ）

1)日研究生プログラムのクラスや講義はとてもよかったが、興味の視野を拡大させることが必要と感じた。これらの必要性は改善されなかったと思う。留学生センターのクラスに出席しようとしたが、簡単ではなかった。2)私の大学の授業とくらべると、日本語クラスのレベルはとても低かった。しかし日本で、日本人と話し、彼らと毎日顔をあわせながら、日本語を学べるという機会はおもしろかった。3)京大の惨めな校舎を見た時(皆が不平を言っていた)自分の国の大学が世界で一番ひどいわけではないと感じ、よい経験となった。4)京大で学んだことを、いまも誇りに思う。私はいつも京大の学生証を身に付けている。(留セ)

京都大学での日々を日本での最高の時間としていつも思い出す。教育のみならず、世界中の多くの人々に会う機会など、実に素晴らしい経験だった。我々留学生と日本の学生との間には交流はほとんどなかった。京都大学を訪れる学生が正規学生とかわるように、受入れ体制を確立することができれば、プログラムは大幅に改善される。だが、全体として京都大学での経験に極めて満足していた。(留セ)

京大の日研究生コースに大変感謝している。個人的には、アジアの文化の一部として日本の文化を十分知ることが出来たこと、語学力を向上させたこと、日本の友人を含め様々な国の友人が出来たことは、私にとって素晴らしいことだったと思う。留学生課の皆さん、教官方、その他の方々、また空手部の先輩の方々にお礼を述べたい。この調査に関しては、世界中にいる京大の卒業生とコミュニケーションを取るのに、非常にいいアイデアだと思う。学生時代の良き日々を思い出したり、同じく京都大学の卒業生であるクラブの仲間を思い出すのも良いことである。京都大学で学ぶチャンスを与えてくれたことに感謝する。ここモスクワで京大で知り合った仲間に会えることを楽しみにしている。(留セ)

私は京都大学で素晴らしい日々を過ごした。いつかもう1度京都に行けることを楽しみにしている。(留セ)

私が研究生となった主な理由は関西で研究している間、正式に研究機関と提携しなかったからである。さらに人文研でアカデミックコミュニティとの接点を持つとても有益になった。(不明)

関係各位

このたび、京都大学におきましては、本学の「国際交流」の実状を把握し、現状の改善と今後の在るべき姿を探るために、自己点検・評価を実施することになり、順次作業を進めてまいりました。その作業の過程におきまして、本学へ留学された方のご意見やご感想をお伺いすることが不可欠であると考え、アンケート調査を企画いたしました。

つきましては、本調査の主旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願いいたします。

なお、この調査で得られたデータはすべて統計的に処理し、皆様にご迷惑をおかけすることはございません。

ご回答は、10月26日までに、同封の封筒により、**切手を貼らずにそのままご返送願**います。あるいは、インターネットを通して、次のホームページ（<http://www.adm.kyoto-u.ac.jp/kikaku/ki/>）で、回答を入力し、送信することが出来ます。

おって、この調査結果を踏まえて作成する自己点検・評価報告書は、2002年3月に、京都大学ホームページ（<http://www.kyoto-u.ac.jp>）上で公表する予定です。

平成13年9月18日

京都大学大学評価委員会
自己点検・評価等専門委員会
委員長 丸山正樹

自己点検・評価等専門委員会
「国際交流」作業部会
主査 紀平英作

A 留学生の実態調査(1)

あなたご自身についてお伺いします

Q 1 . 性別をお答え願います

- (1) 男 (2) 女

Q 2 . 年齢をお答え願います

- (1) 20~29 才 (2) 30~39 才 (3) 40~49 才 (4) 50 才以上

Q 3 . 現在居住されている国名・地域名をお答え願います

Q 4 . 出身国名をお答え願います

Q 5 . 京都大学での留学期間をお答え願います

- (1) 6ヶ月未満 (2) 6ヶ月以上1年未満 (3) 1年以上2年未満
(4) 2年以上3年未満 (5) 3年以上4年未満 (6) 4年以上

Q 6 . 留学した学部等をお答え願います

【留学生センター】	(1) 留学生センター	
【学部・研究科】	(2) 総合人間学部	(3) 文学部・文学研究科
	(4) 教育学部・教育学研究科	(5) 法学部・法学研究科
	(6) 経済学部・経済学研究科	(7) 理学部・理学研究科
	(8) 医学部・医学研究科	(9) 薬学部・薬学研究科
	(10) 工学部・工学研究科	(11) 農学部・農学研究科
	(12) 人間・環境学研究科	(13) エネルギー科学研究科
	(14) アジア・アフリカ地域研究研究科	(15) 情報学研究科
(16) 生命科学研究科		
【研究所・センター】	(ご記入願います) (17)()	

Q 7 . 留学の際に受けた財政支援についてお答え願います

- (1) 出身国の公的資金もしくは在籍大学からの支援
(2) 京都大学や日本政府など日本側からの支援
(3) その他の支援 ()
(4) 支援を受けなかった

Q 8 . 京都大学における身分についてお答え願います

- (1) 大学院正規生 / 学部正規生 ▶
(2) 研究生, 聴講生
(3) 京都大学との学術交流協定による留学
(4) KUINEP (京都大学国際教育プログラム) 学生

1) 学位を取得した... _____年 _____月取得
学位の種類:(a) 博士 (b) 修士 (c) 学士

2) 学位を取得しなかった

次ページへ続く

Q 9 . 専門の研究分野をお答え願います

Q 1 0 . 現在の職業等について差し支えない範囲内でお答え願います

- (1) 職に就いている
 (2) 大学院、その他の学校に在籍中
 (3) その他 ()

(1) と答えられた場合は、現在の仕事についてお答え願います

勤務先の業種	1) 製造業・建設業	2) 商業・サービス業	3) 金融・保険業
	4) 運輸・電気・ガス	5) マスコミ・広告	6) 通信・情報処理
あなたの主な仕事	7) 教育機関	8) 政府機関	9) 研究機関
	10) 医療機関	11) 農林・漁業	
	12) その他 ()		
	1) 営業・販売職	2) 事務職	3) 技術者
	4) 研究者	5) 教員	6) 公務員
	7) 医師	8) 弁護士	9) 経営者
	10) その他の専門職 ()		
	11) その他 ()		

京都大学への留学の動機についてお伺いします

Q 1 1 . あなたが京都大学へ留学した目的をお答え願います (3 つまで を付けてください)

- (1) すぐれた教育研究指導を受けることが出来ると考えたから
 (2) 施設が充実しており研究環境がよいと考えたから
 (3) 京都で学びたかったから
 (4) 母国の教職員に勧められたから
 (5) 友人・知人に勧められたから
 (6) 母国や日本での就職に有利であると考えたから
 (7) 第1志望ではなかったが、文部省から指定されたから
 (8) 第1志望ではなかったが、入学試験に合格したから
 (9) その他 (自由にお書きください)

次ページへ続く

京都大学の印象についてお伺いします

Q12. あなたが留学された時の、京都大学の受入れ体制について、どのような印象をお持ちですか？
(それぞれの数字に を付けてください)

	大変 良かった	良かった	普通	あまり良 く なかった	悪かった
(1) 留学前の案内・説明	5	4	3	2	1
(2) 留学中の対応	5	4	3	2	1

(3) 京都大学の受入れ体制について、良かった点、悪かった点などお気付きになりましたらご指摘願います。

Q13. 留学中に受けた講義あるいは環境等について、どのような印象をお持ちですか？
(それぞれの数字に を付けてください)

	強く 思った	少し 思った	普通	思わな かった	ひどいと 思った
(1) 講義は面白く、刺激的であった	5	4	3	2	1
(2) 教官・大学院生は研究活動に熱心であり、 その研究は高い水準にあった	5	4	3	2	1
(3) 教官・学生は留学生に友好的であり、親し みやすかった	5	4	3	2	1
(4) 建物、図書館、実験の設備は充実していた	5	4	3	2	1

(5) 教育研究に関することで、ひどいと思われた理由等、お気付きになりましたことがあればお書き
ください。

次ページへ続く

京都大学での留学がプラスになっているかお伺いします

Q14. 京都大学における留学経験は、あなたにとってプラスになっていますか？
(それぞれの数字に を付けてください)

	プラスに なっ て い る	どちらか とい え ば プ ラ ス に な っ て い る	どちらか とい え ば プ ラ ス に な っ て い な い	プ ラ ス に な っ て い な い
(1) 進学に関して	4	3	2	1
(2) 職業選択に関して	4	3	2	1
(3) 昇進に関して	4	3	2	1
(4) 異文化理解に関して	4	3	2	1
(5) その他 ()	4	3	2	1

(「プラスになっている...4」「どちらかといえばプラスになっている...3」と回答された方)
特に役に立ったものは何ですか？(いくつでも を付けてください)

- (1) 留学中に取得した知識や技術
- (2) 留学中に培った人脈
- (3) 留学中に取得した学位や留学したという履歴

プラスにならなかった理由はどんな点にあるとお考えですか？

次ページへ続く

京都大学での留学生生活を振り返って、今特に京都大学に何かメッセージがあれば、自由にお書きください。また、本アンケート調査に対するご意見、ご感想がありましたらお書き下さい。

ご協力ありがとうございました

アンケート調査 B：在学中の留学生対象（回答集計結果）

	回答	回答数	割合		回答	回答数	割合
Q1	(1)男	204	(66.7%)	Q11	(1)留学前の案内・説明	305	(99.7%)*
	(2)女	102	(33.3%)		大変良い	43	(14.1%)
Q2	(1)20～29才	172	(56.2%)	良い	118	(38.7%)	
	(2)30～39才	127	(41.5%)	普通	93	(30.5%)	
	(3)40～49才	7	(2.3%)	あまり良くない	45	(14.8%)	
	(4)50才以上	0	(0.0%)	悪い	6	(2.0%)	
Q3	出身国	302	(98.7%)*	(2)留学中の対応	304	(99.3%)*	
Q4	(1)～6ヶ月	14	(4.6%)	大変良い	47	(15.5%)	
	(2)6ヶ月～1年	10	(3.3%)	良い	134	(44.1%)	
	(3)1年～2年	35	(11.4%)	普通	85	(28.0%)	
	(4)2年～3年	47	(15.4%)	あまり良くない	35	(11.5%)	
	(5)3年～4年	84	(27.5%)	悪い	3	(1.0%)	
	(6)4年～	116	(37.9%)	記述	173	(56.5%)*	
Q5	滞在学部等	302	(98.7%)*	(1)講義は面白く、刺激的	287	(93.8%)*	
Q6	(1)出身国側から	23	(7.4%)	強く思う	43	(15.0%)	
	(2)日本側から	233	(75.2%)	少し思う	110	(38.3%)	
	(3)その他	8	(2.6%)	普通	94	(32.8%)	
	(4)支援なし	46	(14.8%)	思わない	32	(11.1%)	
	記述((3)その他)	2	(0.7%)*	ひどいと思う	8	(2.8%)*	
Q7	(1)正規生	222	(72.8%)	(2)研究活動に熱心、研究は高い水準	298	(97.4%)*	
	(2)研究生、聴講生	76	(24.9%)	強く思う	108	(36.2%)	
	(3)学術交流協定による留学	5	(1.6%)	少し思う	122	(40.9%)	
	(4)KUINEP 学生	2	(0.7%)	普通	48	(16.1%)	
Q8	(1)：目的としている	285	(93.4%)	思わない	17	(5.7%)	
	：博士	185	(60.7%)	ひどいと思う	3	(1.0%)*	
	：修士	78	(25.6%)	(3)教官・学生は友好的	301	(98.4%)*	
	：学士	14	(4.6%)	強く思う	82	(27.2%)	
	(2)：目的としていない	20	(6.6%)	少し思う	89	(29.6%)	
Q9	専門分野	293	(95.8%)*	普通	77	(25.6%)	
Q10	(1)すぐれた教育研究指導	218	(71.2%)*	思わない	43	(14.3%)	
	(2)研究環境がよい	178	(58.2%)*	ひどいと思う	10	(3.3%)*	
	(3)京都在学がよかった	111	(36.3%)*	(4)建物、図書館、実験の設備が充実	302	(98.7%)*	
	(4)母国の教職員の勧め	69	(22.5%)*	強く思う	95	(31.5%)	
	(5)友人・知人の勧め	32	(10.5%)*	少し思う	99	(32.8%)	
	(6)就職に有利	63	(20.6%)*	普通	66	(21.9%)	
	(7)文部省から指定されたから	15	(4.9%)*	思わない	38	(12.6%)	
	(8)入学試験に合格したから	13	(4.2%)*	ひどいと思う	4	(1.3%)*	
	(9)その他	21	(6.9%)*	記述	157	(51.3%)*	
	記述	8	(2.6%)*	記述	111	(36.3%)*	

別紙参照

*回答者数に対する割合（回答数/回答者数×100）

他はのべ回答数に対する割合（回答数/のべ回答数×100）

発送数 1,149
 有効送付数 1,104
 回答者数 306
 回答率 27.7%

・ Q3 出身国

国名	回答数(件)	割合(%)
中国	94	31.2
韓国	41	13.6
タイ	27	9.0
台湾	20	6.6
インドネシア	15	5.0
バングラデシュ	11	3.7
ブラジル	9	3.0
ヴェトナム		
フランス	5	1.7
タンザニア		
シンガポール		
フィリピン	4	1.3
イラン		
カンボディア		
マレーシア		
アメリカ		
ドイツ	3	1.0
ポーランド		
エジプト		
トルコ		
スイス		
ハンガリー		
ロシア	2	0.7
ニュージーランド		
ラオス		
モンゴル		
インド		
スリランカ	1	0.3
ネパール		
カナダ		
アルゼンチン		
コロンビア		

国名	回答数(件)	割合(%)
イタリア		
オーストリア		
ギリシャ		
スペイン		
ベルギー		
ウクライナ		
ルーマニア		
オーストラリア		
イスラエル		
サウジアラビア	1	0.3
レバノン		
エチオピア		
ガーナ		
ケニア		
コンゴ		
スーダン		
コートジボアール		
ナイジェリア		
南アフリカ		
モロッコ		
計	301	100.0

地域	回答数(件)	割合(%)
東アジア	155	51.5
東南アジア	63	20.9
南アジア	14	4.7
北米	4	1.3
中南米	11	3.7
西欧	15	5.0
東欧	9	3.0
オセアニア	3	1.0
中東・中央アジア	13	4.3
アフリカ	14	4.7
計	301	100.0

・ Q5 滞在学部等

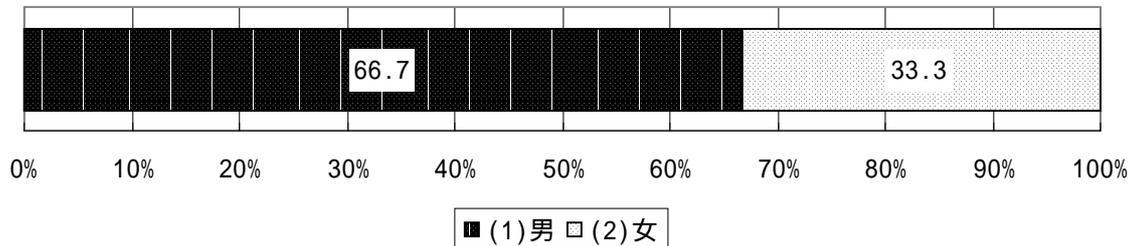
部局	回答数(件)	割合(%)
(10)工学部・工学研究科	75	24.8
(11)農学部・農学研究科	39	12.9
(6)経済学部・経済学研究科	35	11.6
(8)医学部・医学研究科	25	8.3
(7)理学部・理学研究科	17	5.6
(12)人間・環境学研究科	16	5.3
(15)情報学研究科	15	5.0
(3)文学部・文学研究科	14	4.6
(13)エネルギー科学研究科	12	4.0
(5)法学部・法学研究科	11	3.6
(14)アジア・アフリカ地域研究研究科	8	2.6
(9)薬学部・薬学研究科	6	2.0
(2)総合人間学部	5	1.7
(16)生命科学研究科	4	1.3
(25)ウイルス研究所		
(1)留学生センター		
(20)エネルギー理工学研究所	3	1.0
(23)防災研究所		
(26)経済研究所	2	0.7
(4)教育学部・教育学研究科		
(19)再生医科学研究所		
(21)木質科学研究所	1	0.3
(29)豊長類研究所		
(30)東南アジア研究センター		
計	302	100.0

系別	回答数(件)	割合(%)
文系	66	21.9
理系	194	64.2
融合系	42	13.9
計	302	100.0

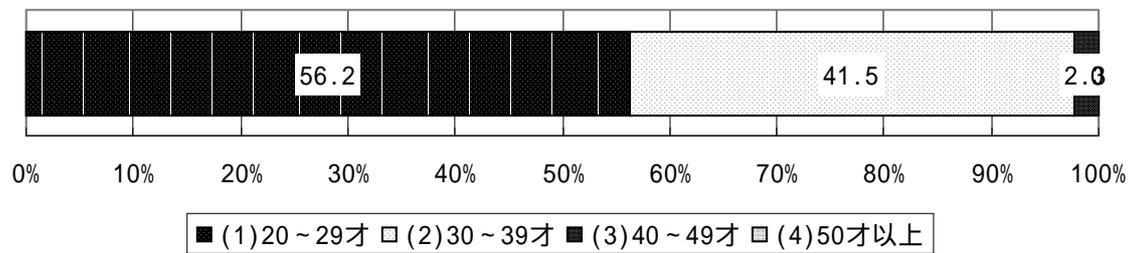
・ Q9 専門分野

	回答数(件)	割合(%)
文系	92	31.5
理系	200	68.5
計	292	100.0
理系の内訳		
(1)土木,建築,都市	54	27.0
(2)工学,応用物理	54	27.0
(3)化学,材料	16	8.0
(4)医,薬,生物	76	38.0

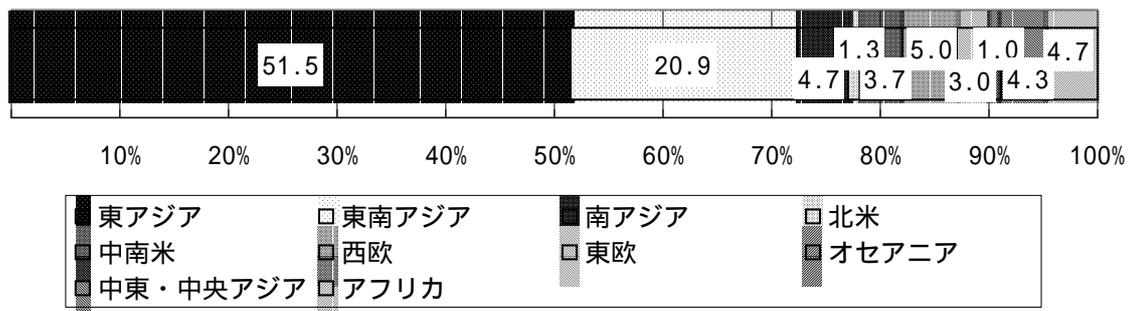
Q1. 性別



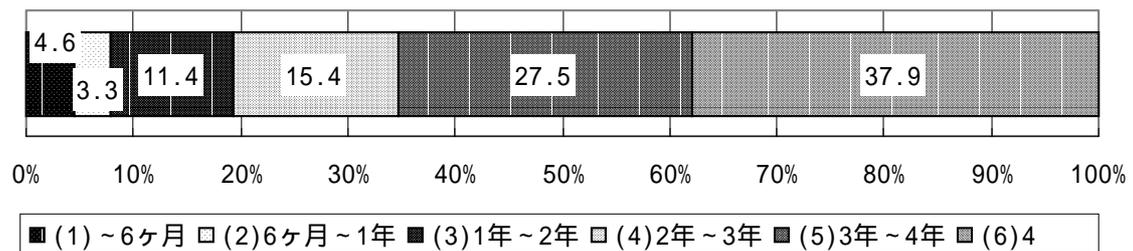
Q2. 年齢



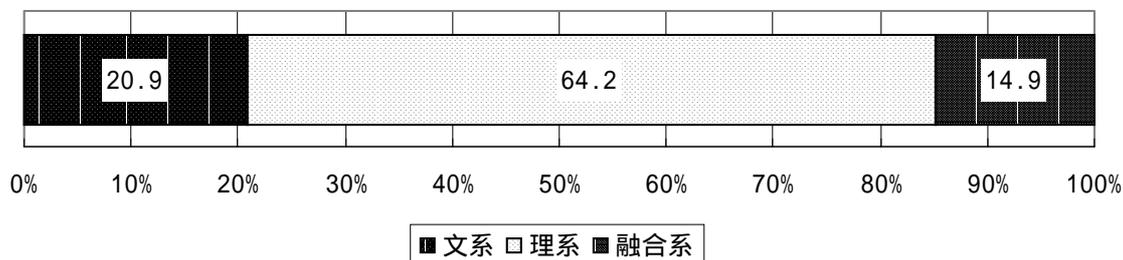
Q3. 出身地域



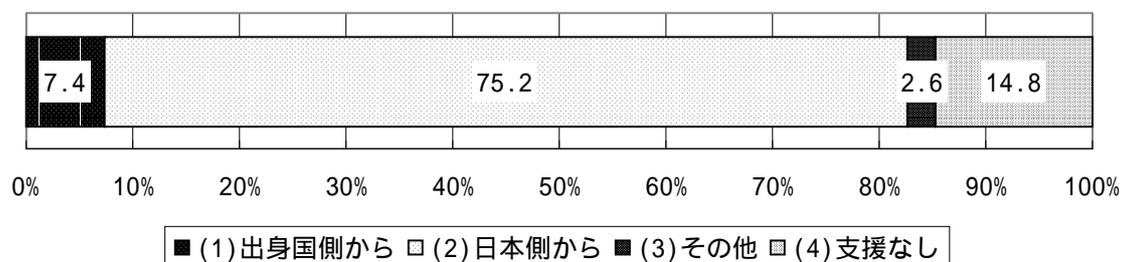
Q4. 京都大学での留学期間 (予定)



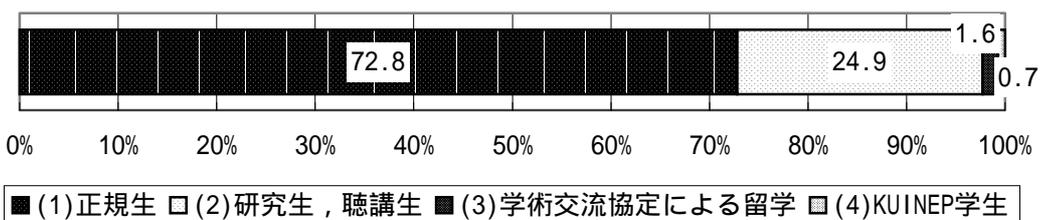
Q5. 所属している学部等



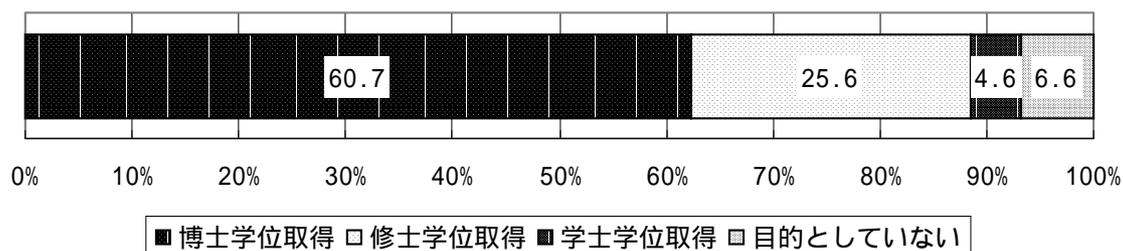
Q6. 現在の財政支援



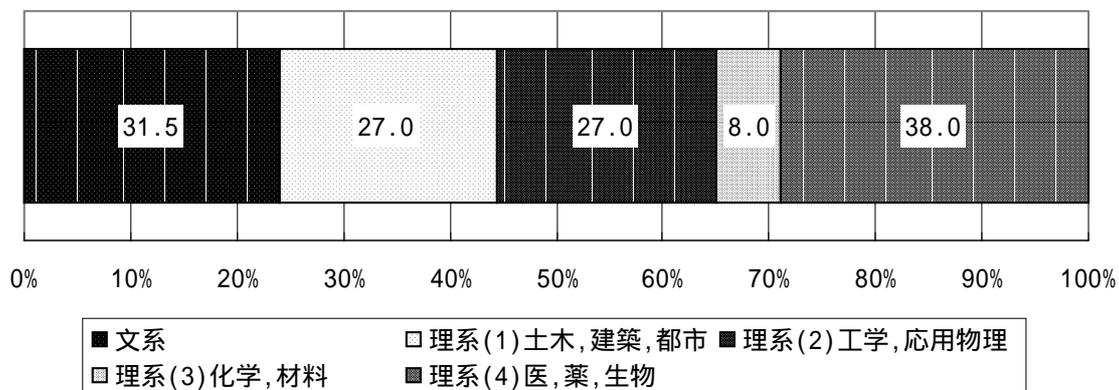
Q7. 京都大学における身分



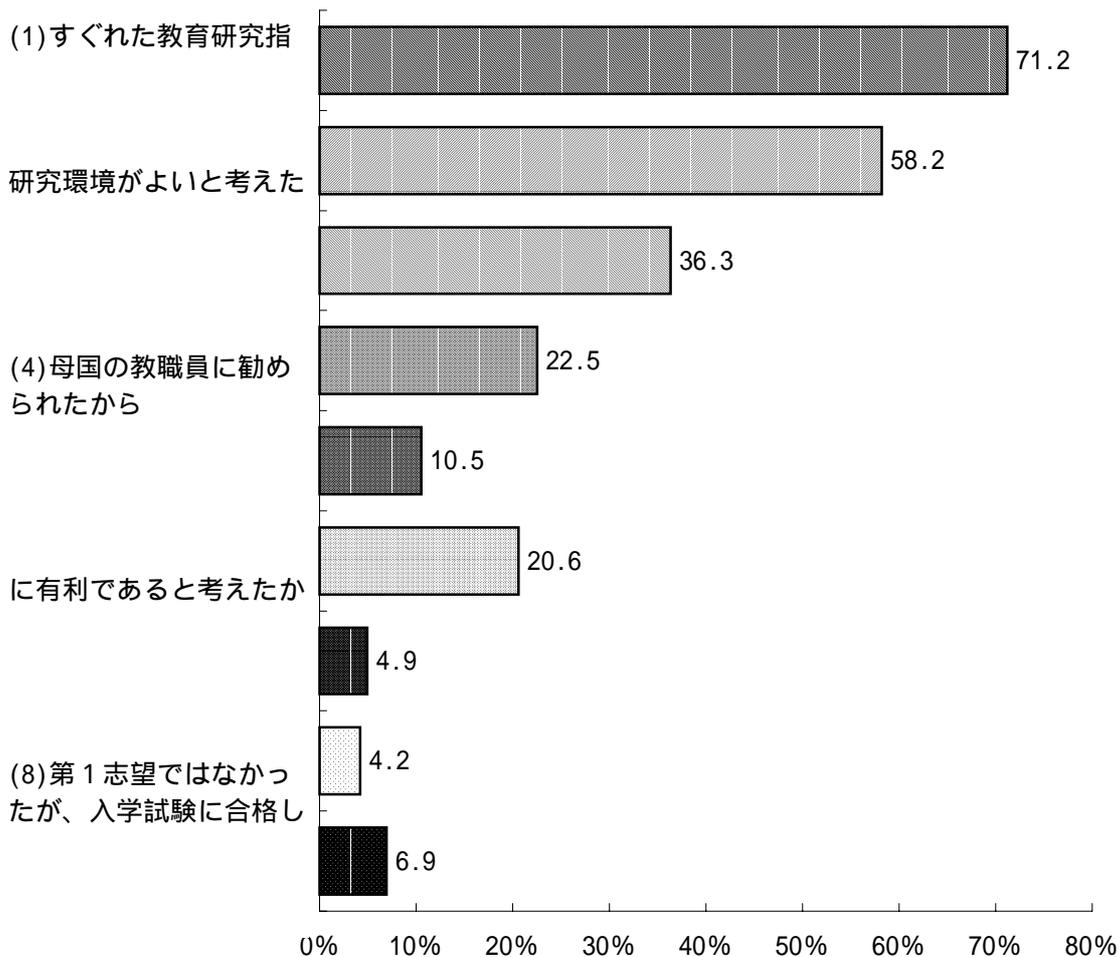
Q8. 学位の取得について



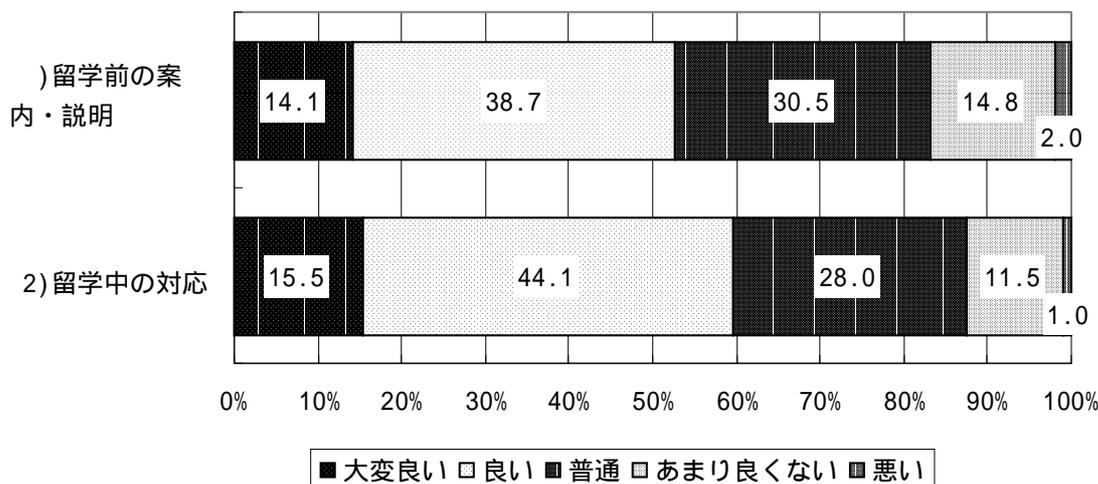
Q9. 専門の研究分野



Q10. 京都大学へ留学した目的



Q11. 京都大学の受入れ体制についての印象



Q11.

(3) 京都大学の受入れ体制について、良い点、悪い点などお気づきになりましたらご指摘願います。

総合人間学部

良い点: チューター制度(総人)

長所: 留学生センターがいろんな情報を提供してくれる。短所: 留学生向けの寮が少ない。(総人)

文学部・文学研究科

京大のチューター制度が私の研究の基礎になっており、非常に役に立っている。研究生に対する研究空間がないことが悪いと思う。(文)

外国人留学生が、まとめて Information を受けてもらえるところがあればいいと思う。(文)

留学生センターが提供する手引きは非常に良いと思う。管理手続きや研究について質問がある場合、センターの職員がいつも助けてくれる。(文)

新人が京都大学やその周辺に親しめるように、キャンパスツアー、京都市ガイドなどのオリエンテーションプログラムがあるのは良いと思う。(文)

留学生センターの職員は常にどんな問題に対しても助けてくれる。(文)

a. 留学生に対して特別な入学試験がない。留学生の居住(研究生であっても)を保証する宿泊施設があることを希望する。(文)

日本語プログラムは良かった。(文)

日本語コースの語学テストは、クラスを選択する前に書いてみれば、もっと有効になるはずだ。テストは授業を受ける資格を得るためのものではなく、日本語の語学力レベルを判断するためのものである。クラスが自分のレベルより高かったり低かったりすると、学生に問題が生じて教官も学生も影響を受ける。(文)

A: 留学生センター: 援助しようとしてくれたが、効率があまり良くなく、個人的なケースや特殊な場合の情報が不足していた。

B: オフィスは非常に効率が良く、教官の援助も大きかった。学生はあまり興味を示さず、外国人が近寄ると困惑しているように見えることも多かった。受入れ先の教授のあらゆる援助と配慮について特に述べておきたい。教授はいつも私を励ましてくれた。(文)

教育学部・教育学研究科

夏に大学仲間と行った富士山旅行は楽しかった。十分にリラックスして、世界中にたくさんの友達ができ、非常に感謝している!(教)

法学部・法学研究科

外国の学生・研究者のための研究室がない。(特に研究生など)上記の理由もあって日本人の学生・研究者との交流の機会が意外に少ない。(法)

英語でのオリエンテーションに休んだので、最初の数週間はかなり途方にくれた。しかし、日本人の友人からの多くの援助を

受けた。(法)

台湾には京都大学に関する情報があまりない。(法)

留学生向けの日本語教育がすごくいいと思う。留学生向けの活動が少ない。(法)

チューターという制度は、留学生にとって、とても役に立つと思っている。ただし、研究生は研究室が用意されていないので、日本人との交流や会話能力の向上には、やや検討する余地があるのではないかと考えている。(法)

外国人学生の旅行は非常に良かった。(法)

メールで連絡を取ることが重要である。今までに連絡を取ってきた人とは、非常にうまくメールを活用することが出来た。(法)

経済学部・経済学研究科

京都大学経済学部の窓口担当者の方々がもっと親切に対応してくれればと思う。経済学部図書館の担当者たちはとても親切に対応してくれる。(経)

京都大学の留学生受入れ体制は、学生が住む場所を見付ける手助けについては、良くない。私の経験では、部屋を借りるために保証人探しが本当に大変だった。おそらく、管理が難しいだろうが、留学生局に保証人システムがあれば改善されると思う。(経)

受入れ体制がもっと効率的に機能することを希望する。例えば、向島学生センターへの入館を申し込んだ時、留学生課に登録し3ヶ月待った後、返事を得るため、自分でもう一度入館について尋ねたら、担当者は私の申し込みは受理されていたとだけしか言わなかった。(経)

チューター制度は決してうまく機能しない。(経)

京都大学の留学生への一般的な支援は良い/役立つ。(経)

おそらく、研究するには十分だと思う。京都での生活のために大学からより多くの支援を望む。(経)

人種差別(経)

良い: 1) 留学生無料ツアー(しかし、人数が少なすぎる。) 2) 多くの日本語コースの提供、非常に良い教官。悪い: 緊急に必要とし探しているものは、優良で安価な部屋、安い国際電話カード、仲の良い日本人の友人であるが、京都大学はそれらに対して十分に機能していなかった。(経)

宿泊施設の割り当てはお粗末である。大学寮の割り当て面積は限られている。また、大学は外部の宿泊施設を見付ける手助けを本に行うことができない。故に、日本人の保証人がいない留学生は困っている。(経)

中国の学生に対する奨学金は支給が少し困難である。(経)

日本の医療費は非常に高額なので、医療資金援助プランは留学生にとって良いと思った。(経)

バイトの紹介や、進路の相談などについて、助けて欲しい。(経)

研究生として、研究に関して全く配慮を受けられなかったと強く感じている。最初、何をどうやって研究すれば良いのかわからなかった。情報は同じ国の先輩学生からしか得られなかった。ただし、チューター制度は良いと思う。有益だった。(経)

特に、入学した直後は日本語の不自由もあり、生活も新しく整えるというのもあって、本当に大変な時期だった。全てを楽にしてもらうということはないが、授業の登録や申込などについて、もう少し説明してもらえたら良かったと思った。(経)

大学は外国人学生のためにもっと安価な部屋を提供するべきだ。(経)

正直に言うが、全てうまくいっており、悪いところはない。留学生に対する大学の支援システムはいつも良い具合に助けてくれた。(経)

京都大学のいいところは、素晴らしい図書館があり、才能豊かな教授がいるということである。しかし、京都大学留学生の日々の生活について言うと、私はサポートをしてもらえなかった。住む場所を探す時も、京大でスポーツ活動がしたくて色々探している時にも、サポートを受けられなかった。正直に言うと、全てにおいて遅い。入学して2,3ヶ月以内、というのではなく、入学と同時にほとんどの施設が使えるようお願いしたい。コンピュータ室や図書館への出入りが出来るようになるまでものすごく長かった。(経)

理学部・理学研究科

個人的には全て良い。宇治キャンパスでの大学院課程の文部省奨学生に関して、1つ少し不便だと感じることもある。それは、毎月サインをするために、メインの吉田キャンパスに行かなければならないことである。宇治キャンパスでサインができればいいと思う。(理)

京都大学はあらゆる学生にすばらしい研究環境を提供していると思う。しかし、留学生が教授に受入れられるのは難しい。(理)

正直に言って、受入れ体制による特別な支援は何も受けていない。(理)

実際、否定的な印象は何も持っていないが、私の明確な印象を短く書きたいと思う。京都大学を傑出させる4つの基本的な事柄は次の通りである。1)地滑りセクションの実験室にある、私の教授によって設計された最新式装置。2)コンピュータ、本、機関紙、特別な出版物などの最新の研究教材。3)私の教授の財政的援助による、地滑り現場への頻繁な視察、現地調査。4)新しい事柄や異種な考えを学ぶ機会を与えてくれる毎週のセミナー。これらは他のどこにもないと思う。(理)

教官は非常に親切で、京都大学の外国人学生支援プログラムも非常に役に立った。(理)

大学は、研究における学生の可能性を引き出すよう努力している。重要な資料だが日本語しかないものがあった。(理)

良い点: 留学生センターに留学生担当の教官がいて、相談することが出来ること。悪い点: 自分が積極的に情報を収集していないと、わからない事が多い。自分を助けないといけない。留学生センターではなく、他学部の事務の対応が悪いときがある。また、留学生に対する情報を、把握していない時がある。(理)

大学が大きすぎるため学生一人一人、特に外国人学生には目が行き届かない。多くの外国人学生は、教育制度についてや、日本の数多い規則をどうやって守るかについて誰も教えてくれないという同じ問題に直面している。(理)

良い点: 図書館、情報など。悪い点: 研究協力。(理)

留学生センターの職員は学生の問題に迅速に対応していた。(理)

京都大学の留学生の受入れ体制は非常に整備され、個人的および学問的問題に関してガイダンスや説明を受けている場合、学生交流センターで研究に関する如何なる情報も見ることができる。(理)

日本人学生と留学生に、それぞれ別の詳しいガイダンスが必要だった。(理)

医学部・医学研究科

悪い点は、日常生活必需品やその他の情報についての英語の説明が十分でないことだと思う。良い点は数多くあり、実際には上記の問題点を上回る。例 1)十分な図書館 2)学習施設へのアクセス、24 時間、使用時間自由 3)留学生事務所の親切的な職員 4)その他。(医)

1 年間は良かったが、1 年経った後、突然予告なくあらゆる支援が減少した。特に、研究、コミュニケーション。(医)

京都大学内の違う場所で入手した情報が、同じ見解のときでさえ、異なることがある。学習プランを立てることができないことがある。(医)

留学生のための無料日本語レッスンがとても役立つ。(医)

京都大学の留学生受け入れ体制はかなり良い。だが、漢字がわからない者は、非常に不便である。1 年が経過したが、日本人は私たちを助けたいと思っていない。彼らの多くは留学生に技術を教えるのをとても嫌がっていると感じた。(医)

良い: 大学生協。悪い: 寮。(医)

京都大学は、私の研究にとって素晴らしい教育環境にあった。(医)

大学院生として研究、学習するにあたって総合的なオリエンテーションが受けられたら良かったと思う。(医)

日本の歴史的な場所への旅行: 非常に良い。カウンセリングサービス: 非常に良い。新入生の受け入れ: 良い。(医)

最初は申し分なく支援してもらったが、実際みんな他の重要な研究で非常に忙しい。外国人学生と過ごす時間はほとんどない。言葉の問題やその他の原因がコミュニケーションの妨げとなる。(医)

京都大学には非常に良いホームページがあり、外国人学生は研究に関する多くの役立つ情報を得ることができる。少し気になったのは、情報によっては日本語でしか書かれておらず、日本語のわからない外国人学生(私のように!!)には読めないものがあつたことだ。(医)

京都大学は、外国人学生に多くの援助や手助けをしている。大学や教育制度に関して、読んで分かるような情報をもっと増やすと良いと思う。(医)

一般的に言って、外国人学生の支援はさほど悪くなかった。(医)

FSS(Foreign Student Section)では外国人学生セクションと書かれているのに、何か話したり尋ねたりしたときに、誰一人として英語をまともに話せなかったのは意外だった。(医)

残念ながら、この質問にどう答えればいいのかわからない。支援システムはほとんど利用したことがない。(医)

良い点: 無料の日本語コースと、年に一度の旅行。悪い点: 京都での生活に困難を来している外国人学生への援助。(医)

非常に良かった。(医)

京都大学には外国人学生が非常に多く、大学の支援システムは、特に住居や財政支援の面で十分ではない。(医)

英語が話せる人が少ない。教材のほとんどが漢字で書かれていて、理解するのに大変である。(医)

薬学部・薬学研究科

大学の紹介は良いが、外国人学生にとっては住居や援助組織への連絡場所などの実的な情報が十分ではない。リンクに役立つウェブサイトをもっと載せて欲しい。(薬)

旅行に行きたかったがチャンスが得られなくて残念だ。(薬)

留学生センターは、興味深いプログラムをいくつも提供している。(薬)

留学生のためのサポートが少ないと思う。京都大学には留学生が多いのに、サポートがあっても小人数向けであることが多いという覚えがある。(薬)

工学部・工学研究科

そのような受け入れ体制があるとは認識していなかった。(工)

日本語が達者な者にとっては有利であると分かっている。しかし、最初に来日し、日本語が全く分からない者には、特に書類手続きなど、どんなにトラブルに直面しているかを認識すべきである。(工)

率直に言って、留学生と日本の学生の対応の違いについては何も感じない。これは長所であり、また同時に短所でもある。長所は、留学生がより自立するようになったことであるが、問題に直面している者もいるかもしれない。(工)

留学生センターの職員は非常に有能で新しく来た者に親切である。他の学部(例えば、建築)の職員は外国人を受け入れる準備があまりできていない。(工)

留学生センターの日本語の授業が日本に来たばかりの学生にとって、生活環境に慣れるのに役に立った。(工)

研究資料が多い(本・図書館など)。留学生福祉施設が少ない。留学生奨学金が少ない。(工)

研究を始める際、職員は根気よく助けてくれ、相談にのってくれた。(工)

大学で新人研究生として、博士課程研究を始める前に、この2年間で研究に関する基礎を学ぶことが期待されていた。しかし、専攻分野を除く、一般的なことで支援を得るのが困難であると感じた。研究に関して幅広い知識を得ることが、研究を始める時期に中心分野を知る上で役立つと考える。従って、例えば、方法/"研究の始め方"などのような研究に関する講義が非常に役立つと思う。(工)

日本語コースは実際良くない、出来るだけ早く改善すべきである。作業プロセスのシステムや日本の労働スタイルのチャートは理解しにくい。(工)

履修単位の説明が明瞭でなく分かりにくい。(工)

日本語コース、医療資金援助プラン、団体旅行などは非常にすばらしく、役立つ。しかし、受け入れ体制の他の内容はあまり知らない。(工)

京都大学の受け入れ体制は非常に良い。必要な情報は全て入手している。アドバイザーはよく助けてくれる。(工)

物質面は完璧かつ優れている。セミナー、ワークショップ、現地調査などの多くのイベントにより、学生の技術が向上する。優秀な教授、講義、講義内容を吸収する能力は、講義が日本語で行われることが最低限考慮されている。(工)

我々(私)が日本について思っていたことは、間違っていたこともあつた…(工)

国際ハウスはとても便利が良いが1年だけである。奨学金もとても良いが受給が簡単ではない。留学生センターの抽選はとて

も公平だが、私は毎回運がない。(工)

1.研究および実験環境はとても良い。2.実験室仲間との人間関係やコミュニケーションは良くない。3.新人留学生のためのオリエンテーションは良くない。おそらくコミュニケーションが不足しているためである。4.講義は厳しくなく、受ける恩恵も限られている。(工)

教授によって、京都大学に志願することは簡単である。(工)

高専編入留学生に対する制度の不十分な点が目立っている。(工)

京都大学の留学生センターに日本語の授業があるのはなかなかいい。(工)

留学生のために毎年旅行を計画するのはとても良い。これにより、日本をより理解するのに役立っている。(工)

京都大学に関する情報は台湾にはあまりない。台湾のほとんどの人は、日本の有名大学に関する詳細な情報を得ることができない。それ故、全ての情報を入手する手段は、W.W.W. によってのみである。しかし、その情報も詳細でない場合があり、かつ日本に留学した友人や親戚を頼っている。(工)

同行した家族に対する「日本語授業」がなかった。東京大学ではあった。(工)

外国人学生として、日本人の、特に京都大学の日本人学生と友達になれて非常に嬉しい。彼らとの交流を通して、日本について多くを学び、実際に日本語を使えるようになった。彼らもまた世界中の様々な国の文化を学ぶことができる。いくらか便宜を図ってもらえるとたいへんありがたい。(工)

学部生コースの入学システムは外国人学生には適用されなかった。科目のトピックや発表などの基本的な情報が得られなかったためだ。このような情報を外国人学生向けに明確にすべきだ。そうでなければ、試験(中)の成績によって、十分なオリエンテーションを受けられないために学生が拒否されることもある。(工)

留学生のための、旅行補助や授業料免除などは、本当に助かっている良い制度だと思う。(工)

非常に良い: 年4回の外国人学生のための研究旅行、実地研究プログラム。(工)

医療に関する情報支援は良かったが、宿泊施設の情報支援は非常に悪かった。(工)

チューターと呼ばれる人(お金をもらって留学生のサポートをする日本人学生)は、ただの「お金を受け取るための穴」だ。私や他の留学生達は、このチューターたちからサポートを受けたことはない。KOZA は日本人をサポートするためだけにただお金を使っている。(工)

留学生と共に研究したり働いたりするスタッフは、もっと英語を話さなければならないと思う。(工)

住むところを見付けるのにほとんどの留学生が苦労している。私達が家を借りる際、保証人が必要である。しかし、我々留学生は保証人になってくれる人がいない。こういう問題に京都大学側が助けてくれることを願っている。(工)

大学が研究者達に提供している施設は本当に素晴らしい。しかし、私が自分自身の研究のために受けたガイダンスは、注目に値するような十分な内容のものではなかった。(工)

日本政府による奨学金制度や京都大学が留学生に対して行う財政支援よりも他の奨学制度の方が良い。しかし、奨学金はそれぞれの分野の研究成果は関係なく、日本語が良く話せるという留学生の方が優先されている。私が言いたいのは、日本での勉強が終わった後、留学生はそれぞれの国に帰って働かねばならない。個人的な意見だが、留学生に対する財政支援の評価方法は不公平である。(工)

農学部・農学研究科

研究環境は良い、例えば、機器、試薬、スタッフ。だが、友人を作る機会(校内でのミーティング、サークル活動)はほとんどない。(農)

授業料奨学金を受けることができると思っていたが、実際には給付金を既に受けていたので奨学金を受けることができなかった。(農)

日本語で書かれた書類にサインをするのが心配なことがある。非常に慎重を要する書類もあり、個人的すぎる書類だとは思いますが、誰かが代わりに翻訳や記入をして、ただ終わりにサインだけをするようにすべきだ。例えば、医療用レポートや契約書など。(農)

受入れ体制は十分公平であり、留学生の滞在を快適なものにしている。個人的な意見として、地方にある図書館ではなく、中央にある図書館ならば、学生に便利だっただろう。(農)

京都大学の学習環境はとても良い。京都大学は留学生に支援を提供できているので、留学生に対する受入れ体制は良いと思う。(農)

留学生に対する援助はとても良い。今のところ悪い点はない。(農)

ほぼ毎年、学費を支払うのは良くないと思う。本は非常に高価であり、それを購入しなくてはならない。学校に支払うそんなに多くのお金は持っていない。(農)

日本語クラスはとても役に立ち、興味深い。留学生ツアーも面白い。さらに、ツアーを水曜から金曜ではなく、金曜午後から土曜に行くのもっと良い。留学生オフィスのコンピュータ、雑誌、テレビは留学生にとってとても役立っている。(農)

研究環境は良いが、住宅環境はお粗末だ。(農)

立派な外観より、なかが重要である。(農)

良い: 外国人に対して礼儀正しく、尊敬し、忍耐強い。素晴らしい第1印象。悪い: 職員の下手な英語によるコミュニケーションの壁(当初、英語を母国語として話さないで、私の英語能力も低かった。)(農)

京都大学の受入れ体制は非常に良いと思う。職員は常に親切である。しかし、我々は日本語で全てを説明できない時がある。英語で話すことができる職員の数が少ない。また、英語版のない情報もある。(農)

生活費を持ち、大学や日本政府からの支援されていない学生を支援することは非常に重要である。京都大学は留学生、特に自費留学生を支援しなければならないと思う。(農)

良い: 各学生や様々な言語のための手引書。他の留学生受入れ体制について知らないので何も言うことができない(どこが悪い点かも)。しかし、手助けが必要なときはいつでも、農学部の留学生センターに行き助けてもらう。(農)

外国人学生の支援システムは多くの点で素晴らしい: a) 常に対処が早い。b) いつも重要事項(ピザの更新、特別講義、研究旅行の情報など)に注意を向けさせてくれる。今のところ「悪い」と思う点はない。(農)

外国人学生の支援システムは文部省の学生にとっては優れているし、メインキャンパスで研究している他の学生にとっても良いだろう。しかし、特に日本の言語や文化の基礎知識がない学生にとっては、プログラムや入学試験について十分に明確で

ない。最も重要なのは、日本語よりも英語を学習している学生に対して、英語によるガイダンスがほとんどなされないことだ。チューター制度は有益だが、多くのチューターは何をすれば良いかわからないようだ。(農)

寮が必要だ。(農)

Q1- 講義を受けていないので答えられない。Q3- 教官も学生も友好的だが、親しくなるのは簡単ではない。いつも忙しそうに話す時間がなさそう。Q4- 図書館が所蔵する書籍や雑誌は素晴らしいが、早朝や夜間にも開館して欲しい。大学に優れた図書館があることは知っているが、私だけのものではない。とても混雑しているので、本を広げたり研究したりするスペースが見付けられない。また、外部の雑音(これは本当に問題だ)だけでなく、学生仲間も常に騒がしい。追記: 研究室に必要な設備がなく、購入する予算も足りなかったため、研究計画を変更せざるを得なかった。しかし、決して高額なものではない。以前の大学では同じ予算が認められていた。(農)

外国人学生には、定期的なカウンセリングが必要である！担当教授が学生の面倒を見なければ、学生はどうしてよいかかわらない。管理面の優秀なカウンセラーが絶対に必要だ。(農)

研究場所(と目的)、施設とその使い方、教育制度などに関するオリエンテーションが必要だ。(農)

良い: ・住居/受入れ家族を探すための手助け・非常に役に立つ留学生センター・素晴らしい語学のクラス。悪い: ・期間が短すぎるチューターの費用。(農)

良い面と悪い面: 京都大学には日本語の授業があるが、教官が留学生を教えるほどの専門家でないときがある。というのは、英語を流暢に話すことができず、指導している教科について詳しくないときがあるからだ。(農)

良い点は、実際に見たり学んだりする機会が、相対的に多かった。しかし、反対に研究テーマに対する勉強の環境は良くなかった。そして日本人学生向けの講義に比べ、独創的な研究に欠けた。(農)

我が国に比べ教育体制がかなり違うので、適応するのに時間がかかった。教育体制に関する説明があったらいいのに、と思う。現に留学生向けのオリエンテーションは、非常に良かった(国からではなく民間の留学生も対象としたもの)。それぞれのオフィスの職員はとても親切で助けてくれている。(農)

人間・環境学研究科

留学生課の人々は親しみやすく、助けてくれる。日本語の授業を1年間(2年前に)受けたが、あまり興味深いものではないと思った。1995-96年に筑波大学で1年間勉強したが、筑波大学の日本語の授業の方がかなり良かった。(人・環)

毎年コース変更があるにもかかわらず、1年目だけに、コース履修便覧が渡されたのに驚いた。しかし、外国人学生の活動情報を受け取って嬉しかった。(人・環)

私の国(台湾)については、受入れ体制はかなり満足が行くものだと思うが、他の国の友人(例:中国人)に対しては、財政的支援を行う必要があると思う。(人・環)

研究を始める前に、ガイダンスや説明はほとんど何も受けなかった。(人・環)

研究を始める前に、大学は何の情報もくれなかった。(私は文部省を通して京都大学に志願していた。)研究生として京大に来る前の、当時の受入れ体制はとても良かった。正規学生として戻り、新しい環境に順応することはより困難だと思う。(私は既に大学を知っていて、問題はないが、他の人は難しそうに見える。)(人・環)

1. 京都大学の寮の数は少なく、そのほとんどが古く汚い。 2. インターネットのスピードは信じられないほど遅い。(人・環)

読みたい本の種類がわからないことがあった。情報がなかった。(人・環)

研究中に問題が生じたときに支援を受けたり、約6ヵ月間の入院を認めてもらったりと、京都大学の支援システムにはたいへん満足している。京都大学が授業料を免除してくれたことは、外国人学生として本当に必要としている支援だった。(人・環)

残念ながら私の日本語レベルが低いので、大学のコースや生活の多くで理解できないことがある。そのためコミュニケーションに問題があると思う。(人・環)

英語によるコース説明の記述が不十分だった。(人・環)

エネルギー科学研究科

留学生の奨学金申請の面接には、英語の使用は歓迎されなかったように思える。(エネ科)

非常に良い。(エネ科)

京都大学の外国人学生支援のシステムは優れていると思う。何故なら、日本語のクラスや授業は無料で、様々な奨学金制度があるからだ。(エネ科)

気になった点: 外国人学生用の寮が十分でない。外国人学生の特別なサポートに関する情報が十分でなく、例えば医療補助を受けられることを知っている学生は少ない。(エネ科)

特になし。(エネ科)

良い点は、全てのシステムが役立っていること。授業のシステム、施設、そして待遇。短所は未だに見つからない。(エネ科)

私達が日本に到着する前に、京都大学での学習に関する情報、特に留学生に対する学習に関する全ての情報を送ってもらうことは可能だろうか？(エネ科)

アジア・アフリカ地域研究研究科

例えば、留学生に対する奨学金制度・授業料減免制度などが留学生の日本における学習生活に役立つと思う。(ア・ア)

おそらく、図書館、各学科が提供するコース、インターネットの使用などの大学施設に関しては、一層の支援が必要とされる。(ア・ア)

良い。(ア・ア)

ガイダンスや説明がほとんど日本語で、理解できない者もいる。(ア・ア)

何を求めているかわかっているときは、非常に良い。しかし、日本の教育システムの特徴(独自性)を知らないか理解していない外国人学生には、個人的なガイダンスがほとんどない。(ア・ア)

掲示板の連絡事項は、日本人学生だけでなく外国人学生にも非常に重要な情報であっても、通常日本語でしか書かれていない。(ア・ア)

情報学研究科

医療扶助に関して、大学の支援は非常に良い。病気やけがの時に大変役立つ。(情)
 外国留学生のための見学旅行などのサポートが良い。(情)
 掲示板は全て日本語で書かれているので、財政支援(授業料免除、京都市の国民医療システム支援など)の最終受付日に遅れてしまった。(情)
 留学生の就職についての支援は全然見えない。留学生センターの若いスタッフの態度が悪い。(さんは優しい。年を取った2,3人のおじさんも優しい...) 学部の教務掛の窓口に座っている2人の女性、態度が京大一悪い。皆そうだと思う。(情)
 準備段階の時に、英語で書かれた手引きや説明は、日本語が困難な学生にとってとても重要である。(情)
 私の知る限り、京都大学のスポーツ施設は、いくつかのクラブにだけに公開されており、一般の学生には使いやすくない。我々も使用できるように何かしてほしい。(情)
 大学寮の数が少ない。新人でさえ「会館」に入寮できなかった。(情)
 留学生の活動がほとんどない。(情)
 (1) 研究を始める前に、ガイダンスや説明はなかった。しかしこれは、学生は日本に来る場合、やる気になっている筈なので、悪いことではないと思う。(2) 受入れ体制はなく、教授が何を起こすかを決めていた。私の場合、好きなように自由に動いている。何かを頼まないかぎり、特別な支援はない。(情)
 良い。(情)

生命科学研究科

適当なアパートを見付けるのが困難で、契約を交わすのが非常に複雑だった。(生命科)
 留学生が記入しなくてはならない申請紙が数多くある。京都大学は、留学生が自分達で容易に記入できるように、2ヶ国語の申請紙を提供すればいいと思う。(生命科)

木質科学研究所

私費留学生のためにある寮がない事が良くないと思う。国費留学生には、入る事が出来るが、私費留学生はなかなか入る事が難しいと思う。(宇治の場合)そして、学生寮なのになぜ研究員が入っているのかわからない。経済的に考えても、私費留学生が一番苦しいのに。(木研)

ウイルス研究所

ほとんど良かったが一つだけ問題があった。それは、外国人学生が研究期間中滞在するための特別な宿泊所を設けて欲しいということだ。(ウ研)
 非常にたやすく資料を見付けることができた。京都大学の研究環境は素晴らしい。(ウ研)
 この点についての意見は、一般に大学の人々に紹介するときの結果と同じだ。(ウ研)

経済研究所

受入れ体制はとても良い。私個人には、研究や日常生活で助言してくれるチューターがいる。研修生や学部が留学生向けに小旅行を行ってくれたが、これは日本文化と人間関係を体験するのに役立った。(経研)
 奨学金申請の情報や助言をもっと欲しい。(経研)

霊長類研究所

スタッフは親切だったが、ほとんど英語を話せない。外国人学生向けの情報が混乱しており、何が行われるのか(旅行、授業、日程など)を把握するのにとても時間がかかる。(霊長研)

東南アジア研究センター

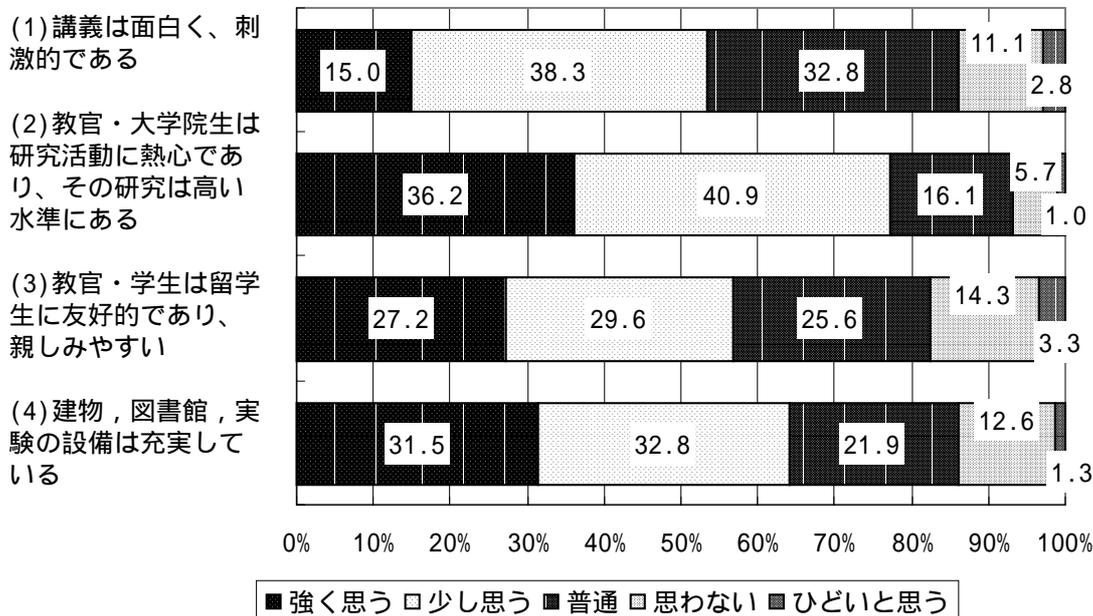
新入生(研究生を含む)は入学前に1週間詳しいオリエンテーションを受けられるようにしてもらえるとありがたい。「研究生」の期間は何をすれば良いか、試験準備に何をすべきか、どれくらい日本に滞在できるかなど、大学のシステムやプロセスについて細かいところまで理解したい。全ての情報を、ばらばらではなくまとめて入手したい。(東南ア)

留学生センター

奨学金制度は良くないと思う。(留セ)

京都大学は私の研究に貢献してくれるだろうと思った。(不明)
 ボケゼミがとてもいい。(不明)

Q12. 留学中に受けている講義あるいは環境等についての印象



Q12.
 (5) 教育研究に関することで、ひどいと思われた理由等、お気づきになられたことがあればお書きください。

文学部・文学研究科

私のような研究生は研究空間がありません。研究室より図書館を利用する機会が多いが、図書館の開館時間が短い気がする。時間を延長してほしい。(文)
 京都大学の図書館はとても良い施設とサービスを提供していると思う。(文)
 概して、文学に関する理論書が不足している。それ以外は、京都大学の教育システムに満足している。(文)
 学生や教授には、暖かい思いやりが欠如している。(文)
 教官の中には留学生に対して偏見に満ちている者がいると思う。彼らは、外国人は日本語で学ぶことができないと考えている。全く残念だ。さらに、日本人学生の中には指導教官にただ追従している者もいる。(文)
 講義は一方的な教え方なので、いつもかなり退屈である。より多くの議論やコミュニケーションが必要である。(文)
 ガイダンスではいくつかわかりにくい点があった。例えば、聴講生は学期の初めに健康診断を受ける必要があるのかどうか、誰も分かっていなかった。(文)
 授業や研究室に顔を出すということが、実際何をやるかということよりも重要なようだ。そこに居さえすれば良く、講義中に寝ていても構わない。授業ではあまりディベートが行われず、フィードバックも不適當なことが多い。結果として多くの授業は単調だった。一部の教官と大半の学生は、外国人学生との交流に興味を示さない。ただし担当教授は例外で、心を開いてくれた。(文)

教育学部・教育学研究科

京都大学での研究に満足しており、継続したい。(教)

法学部・法学研究科

学生は教室でやりたいことをすることができる。これは良いことだとは思わない。(法)
 図書館の中に本があまり多くない。参考資料も少ない。読みたい本はほとんど自分で買わなければならない。でも書籍代が高い。(法)
 法学部図書館から100冊まで1年間の期間というのは、学生に対する最大の尊重だと思う。ただ、これからはインターネットの時代で、研究室にインターネットの回線がないのは外国の資料を収集するにはやや不便だ。(法)
 講義を受ける際、私は留学生センターでとてもがっかりするような経験をしたことがある。というのは、履修登録した科目のレベ

ルが私のレベルに合っていないからだ。留学生に対するガイダンスが柔軟性に欠けることが本当に問題だと思う。現在法学部の授業に参加しているが、私はまだこのことが言えずにいる。(法)

経済学部・経済学研究科

建物が古いので、改善が必要だと思う。(経)

京都大学で学び、日本の学生の行動に呆れた。講師は自分の講義にだけ集中し、学生はたいてい他のことに集中している。出席した講義で居眠りをしている学生までいた。概して、日本人と親しくするのは難しいと感じた。仲のいい友人も留学生である。(経)

教科書を使用しない授業もあるのは分かっている。だが、これにより留学生は授業の下調べや見直しが少しづらいい。(経)

一般企業のインターンシップは必要はなはずである。(経)

OK だと思う。(経)

学校当局は極めて柔軟性がなく、カリキュラムに関して私の要求を満たすことはできない。これは、概して日本文化が原因だろう。(経)

私がミーティングや他の団体に加わる時はいつも、彼ら(全員日本人)はせっかちで私の意見を待ってくれない。これは留学生生活のほんの一例であり、毎日多くの冷たい日本人と接している。私は外国人だが東洋人であるのに、基本的な尊敬に値しないのか?(経)

低い授業出席率、指導/講義はかなり退屈である。図書館システムは英語ユーザーに対応していないので、留学生には不便である。貸出し方式はお粗末で、オンラインの借入れ延長システムが必要である。(経)

活気あるアカデミックな雰囲気、欠如・教科書にある知識を伝えるのではなく、おそらく、思考、分析、創造的である能力に重点が置かれるべきである。図書館施設はひどく不十分である。(どうして英語の教科書や参考書がそんなにも利用できないのかわからない、従って残念な状態で利用されている。)(経)

英語による情報のデータベースはともお粗末だと思う。英語の本や重要な機関紙の情報をたくさん見付けることができない。(経)

経済学部のゼミ制度だが、小人数がいいが、もっと自由に参加できるようになりたい。また、一人に一つのゼミだけでなく、いくつも参加できたらいいなと思った(経)

図書館は非常に素晴らしく使いやすいと思う。研究するのに良い環境で、必要な書籍も豊富にあった。自分の研究室がなかったので、図書館は唯一の研究場所だった。しかし京都大学で過ごした年には教授からほとんど指導を受けられなかった。大学院入学後に、もう少し教授から指導を受けられるよう希望する。(経)

(1)非常に興味深く、意欲をそられる講義もいくつかあった。しかし、良くない講義もあった。(4)研究室の施設は分からないが、図書館(経済学の図書館も含む)については、より新しい資料を置くよう希望する。(経)

教官、研究者のレベルは本当に高いと思うが、その知識、教育を他人に伝える(教える)といった面では、もう少し努力が必要だと思う。3,4年生以上になると、自立して勉学を出来るが、1,2年生の学生にとっては、教官からの指導はとも欠かせないものだ。(経)

外国人学生と日本人学生の関係は、期待していたよりも、また私の国で経験したよりも良くない。日本人学生は外国人に無関心であるようだ。(経)

困っていることはない。授業にも、日本の学生の中にも楽に溶け込んで行けた。ただ、思うところが1つある。教官方は留学生を日本の学生と同じように考えているのではないだろうかということである。例えば試験の採点等の時にそう感じるのだ。日本人の学生が2,3日で読める本を我々留学生は全部読むのに数週間かかってしまう。それでも留学生は日本人学生と全く同じ条件下で勉強しなければならないのだろうか。(経)

科の学生として、私は何の不満も持っていない。(経)

理学部・理学研究科

京都大学と自国の施設の比較だけしかできないが、全ての研究施設や図書館は素晴らしいと思う。(理)

留学生として、日本語で話される授業は理解が困難である。教授の日本語は早すぎて理解できないと思う。(理)

良く準備された実験施設があるが、特に英語の教科書など、本は十分ではない。問題なのは、日本語で書かれた本がほとんどであることだ。図書館は非常に早く閉館する。(理)

ここで、成果をあげるには独学しなければならない、授業から多くのものは得ることはできない。(理)

1)ある国の友人は人種差別のことで不平を言っているが、私はここでは何ら人種差別的なことを感じていない。他の全ての人のように、あらゆる施設、場所、人に対して同等の権利を持っている。実験室は外国人学生が溢れ、人種差別はない。2)教授や共同研究者との関係は素晴らしい。これは、教授らの国際的な性質と関係があると思う。3)京都大学の学生はおおらかで、留学生と親しく交流し、あまり苦勞せずに留学生を理解し、付き合っている。(理)

言葉の問題で、セミナーの発表の内容を理解するのが難しかった。(理)

私の知る限り教官は皆優秀で、研究熱心である。(理)

知性を開発する環境としては極めて優れている。(理)

宇治のほうにある化学研究所も留学生センターで日本語が習えるような環境にして欲しい。英語での授業が少なすぎる。チューターをつけて欲しい。同じ研究科の人で、日本での研究をやって行く上でアドバイスをしてくれる人が欲しい。(理)

チームワークの精神が素晴らしい。同時にどの学生も研究熱心である。スピーチ実習も良い。ほとんど全員が明確なスピーチをしたり、体系的に準備を進めたりすることができる。しかしその一方で、課題の負担が大きい。特に外国人学生は経済的な問題や時には孤独感を抱えているので、学生の精神状態への配慮が必要だ。(理)

リソースをふんだんに利用できた。成果 = 係数 * リソース + b この係数は非常に小さい。(理)

宇治キャンパスの書店で英語の書籍や新聞を販売して欲しい。(理)

京都大学の日本語授業以外では、正規の講義に出席したことがないため、Q12には答えられない。日本語の授業が終わった後、DPR1の桜島火山活動研究センターにいる監督教官に直接合流した。しかし、研究室の施設は素晴らしかった。ご存知の通り、この研究室は京都大学から遠く離れている。(理)

研究や仕事量のスケジュールは、忙しいのは続くが忙しすぎるのではなく、他の活動もできるくらいに、よく調整されている。

(理)

日本語による授業が私には難しい。(理)

医学部・医学研究科

出身国と比較して、図書館や図書館施設と同様に、コンピュータやコンピュータ施設へのアクセスにかなり圧倒された。これらに畏敬の念を覚えた。既に前述したように、私の唯一の不満は、英語の情報を十分入手できないことである。(医)

講義に参加しなかったが、多くのセミナーや機関紙クラブに参加した。(医)

ほとんどの講義の内容は研究と関係がないが役に立つ。確かに、言葉はその理由の1つである。(医)

学問的な日本語を教えるシステムも必要である。日常的な日本語しか習っていないので、セミナーやミーティングを理解することができず、何も学ぶことができない。(医)

医学図書館が小さくて古い。(医)

京都大学は研究の印象が良く、教育レベルの条件も良いと思う。(医)

私の日本語能力が低いいため、学生に交流を躊躇され、大学の講義の多くを受けられなかった。(医)

1. 語学プログラムはあまり良くなかった。理解できるようになるには、1年半の日本語実習では不十分だ。(医)

私の日本語レベルは日本語の講義を理解できる程高くない。それでも指導に対する態度には良い印象を持っている。博士課程で、紙には書かれているが日本人学生さえ誰も出席していない講義があった。(医)

京都大学は、日本と言わず世界中で最も優れた研究環境の一つであると思う。教授の講義は素晴らしく、仲間の学生も優秀で、外国人学生が知識を交換し、改善するのに適した大学だ。ただ、ときどき教官の言うこと全てに従っているような学生がいる!!(医)

ほとんどのものが素晴らしかった。可能であれば、夜間か週末に日本語コースを設けてもらえないだろうか?(医)

大学院の講義は重要であるが、日本語で行われている。そのため外国人はほとんど何も理解できない。(医)

なし。(医)

特に悪い点はない。(医)

特になし。(医)

勉強や研究のほとんどをそれぞれ学生自らでしなければならぬ。研究期間に何が起るのか分からないのにも関わらず、後にプレゼンテーションや討論会などをこなさなければならない。留学生の勉強や生活をややこしくしている日本人学生と競う場面が多い。留学生は日本人学生が何を言わんとしているのなかなか理解出来なかったり、自由に話し合ったりすることも出来ないのに。海外から研修に来ている医師には、研修期間、患者に触れることが許されていないという難しさもある。これは海外から来ている医師達には本当に困ることである。彼らはいつか彼らに大きな期待を寄せている他の医師や患者の待つ母国に帰らねばならない。もし期待に添えなかったら、恥ずかしい思いをするのは彼らであるが、日本の大学や教育システムに対する印象が悪くなるのは必至だろう。(医)

薬学部・薬学研究科

研究は良いが、大学院生(修士、博士号)向けの講義は非常に質が悪い。実際、こうした講義からは何も学ぶものがない。このことを考慮して欲しい。(薬)

なし。(薬)

留学生センターが設置され、日本語コースを提供しているのは素晴らしいことだが、コースの内容を改善すればもっと効果的だろう。(薬)

京都大学は、自由な校風を持っているためかもしれないが、教授たちには授業の内容をけっこう自由に教える者が多いと思う。よって、授業の内容を良く理解したいなら、自分でたくさんの本を読む必要がある場合が多いように感じている。(薬)

工学部・工学研究科

講義がほとんどの場合日本語で行われている。(工)

京都大学での講義については、まだ研究生の身分のため、私の受けている全ての講義は留学生センターで、日本語で行われている。(工)

図書館に本がない。実験室それぞれが本を置いている。本を見付け出すのが困難である。(工)

図書館システムの再構築を提案する。本は実験室の全体に亘り分散している。これにより、本を見付けるのが困難になっている。(工)

大学はクラブや課外活動にほとんど関心を持っていないように見える。クラブハウスや施設は非常に荒れ果てている。大学は最新の施設に吉田寮を改善するなど、学生の福利厚生のために何か行うべきである。(工)

大学図書館はお粗末で、図書館には本がほとんどない。図書館が所蔵する良い本は、研究室に置かれている。研究室でその本を探すのに2、3日を要する。それが見つからないこともときどきあった。ここで取り上げているのは、土木工学図書館や土木工学関連の本を所蔵する図書館についてである。(工)

日本の学生は翻訳に時間をかけすぎると思う。翻訳を減らし、ディスカッションを増やせば、研究はもう少し「知的な」ものになり得ると思う。(工)

あまりなし。(工)

京大は専攻分野を研究するのに適している。研究する上で最初に困ったことはコミュニケーションである。言語の違いはかなり大変であるが、言語がわかるようになるよう熱望している。そうすれば、研究にも役立つ。(工)

図書館の場所の表示がはっきりしていない。より具体的な「館内地図」が小規模な図書館では必要とされる。赤色の点で印を付けられた全体地図も場所を特定するのに分かりにくい。(工)

研究、作業、協力に関して日本式やり方では、研究テーマを自由に決めることが困難である。しかし京大の研究環境はすばらしい。(工)

大学での教育や研究はかなり良いと思う。(工)

京都大学での研究はとても興味深く、生産的であると思う。希望通りに研究をすることができればいい。(工)

おそらく、最大の障害はやはり言葉である。講義が主に日本語で行われるため、留学生は2倍苦労しなくてはならない、つまり

研究しなくてはならないだけでなく、十分に習得するために語学も学ばなければならない。(工)

もちろん、私自身は日本に敬意を払っている…とにかく、日本はあなた方の国である、親愛なる読み手の皆さん！だが、日本人は常に私たちを嫌っている！好きでないなら、どうして我々が日本に留学するように求めたのか？申し訳なく思うが、これが私の本当の気持ちである…(工)

京都大学には最高の教授と最高の機器がある。(工)

大学院生を対象に厳しく指導する上級コースの必要性を感じている。教官の研究という点でなく、一般分野における上級コース。(工)

京都大学で博士号や修士号を取るのには困難である。(工)

建物が古い。(工)

私がまだ授業を受けていないので良く分かりません。(一応、研究室で勉強しています。)(工)

夕方に研究する場所がない。図書館はとても早くしまり、夕方にコンピュータを利用することができない。(工)

教育や研究に関しては全てに満足している。(工)

外国人学生が容易に理解できるよう、英語での講義を増やすべきだと思う。(工)

講義やコースの内容を改善して欲しい。土木工学の図書館は非常に質が低い。(工)

カリキュラムの説明やその他の教育に関する書類は、もっと英語で書くべきだ。(工)

教官と学生間の意見交換が乏しい。(工)

学部生とは違って、大学院生の授業は皆で参加して討論ができていいのじゃないかなと思うが…。(工)

非常に良い：週一回の発表、教官が親切に相談に乗ってくれたこと、研究チーム内の関係(工)

京都大学の研究施設には心から感銘を受けたが、ほとんどが日本語で書かれているため、理解するのが難しい。(工)

大学構内の風景について言いたい。(工)

アンケートの質問は、正確に答えることが出来なかった。1つの質問に多くの内容が含まれていたためだ。例えば Q2 は、1つの質問の中に4つの違う内容が含まれていた。しかし答えられるのは1つの内容に関してだけ。この質問に関しても同じようなことが言えるだろう。このアンケートは誰が考案したのかと思う。(工)

3番目のような質問については、今度から質問内容を分けて欲しい。教官は親しみやすかったが、学生達はそうではなかった。日本人の学生の多くは、あまり英語が理解出来ないため、彼らは日本語を話せない留学生と話すことが好きではない。(工)

私は京都大学に研究生として来たので大学院に入るまで一切正規の授業を受講することが出来なかった。だから京都大学の教育システムはあまりよく知らない。研究室でも特に困っていることや問題はない。(工)

この大学の留学生に対する教育システムは、留学生自身が自主的に、自立して勉強等をするのを重んじている。それゆえに教官と同じくらい学生に課せられた役割は重く、留学生にとってこの教育システムは見かけだけで効果的なものではない。(工)

教官の中に英語を話せない方が何人かおられた。だから、折角授業のテーマが興味深いものであっても、内容が理解出来ない留学生にとっては面白くないことがある。全ての教官がそうだと言っているのではない。(工)

農学部・農学研究科

日本に多くの友人がいるが、彼らは皆、2年以上授業料奨学金を受けていた。私は非常に不幸である。(農)

京都大学の教育システムは他の大学より優れている。留学生は多くの知識を学ぶことができ、自らのテーマに関する多くの実験ができる多くの実験室がある。(農)

日本語の授業はもっと会話を取り入れるべきである。優れた教師がいるのにもかかわらず、会話が不足していると感じる。授業以外では、会話をする機会があまりない。というのは、日本人は英語を練習したが、私の友人はほとんど英語だけで話すからである。研究については、今始めたばかりなので、まだ意見は持っていない。(農)

ここで研究することはとても良いと思う。最も興味深い研究だと思うところに入ることができれば素晴らしいと思う。(農)

全て良い、特に留学生用施設(寮)。エレベーターやトイレ、部屋の名前、図書館、食堂は英語で書かれていれば尚良い。(農)

講義に出席していないのでこの質問に答えることができない。コースを履修していない。(農)

図書館に中国語の本がない。教官たちは日本以外のことはあまりご存知でない。(農)

留学生センター(京都大学)で1年の日本語プログラムを受講した。残念ながら、日本語がとても上達した者はほんの少数だった。留学生の指導に関連した問題があるのではないかと？留学生センターの少数の教師は留学生を担当していなかった。(非常に粗野で失礼な者もいた。)(農)

日本語クラスを受講し、授業は全く理解できないが、コースを修了した留学生(修士)を多く知っている。このようなクラスの受講は役に立たないと思う。学科を修了することは重要なことではない。重要なのはどれだけ学んだかである。しかしながら、研究面は学生、とりわけ将来、産業界での仕事に非常に適する/役に立つ。(農)

十分お金がない者に対する住宅サポート(農)

(1)1番目の質問について、日本語を理解できていないのでコメントするのは難しい、だが、受講しなければならないクラスは、多くの学生が居眠りをしていたが、あまり面白くなく、意欲が湧かなかった。(4)の質問について、京都大学で必要とする本を見付けることはできなかったが、東京大学や大阪大学などの他の大学では見付けることができた。京大の建物や実験室の印象は良くない。なぜなら、古くて、汚くて、保全状態が悪いからだ。(農)

講義については、教授によっては、外国人学生も講義に出席していることを知っていて、話すときは日本語を、説明を書くときは英語を使う。これは日本語を十分に話せない外国人学生にたいへん役立つと思う。特に、6ヵ月間の日本語学習後の修士レベルの講義に出席している外国人にあてはまる。教官がこうした方法で外国人を援助するよう努力してくれることを希望する。(農)

講義を十分に利用できない唯一の原因は、たとえ日本語がかなり話せる学生であっても、日本語の講義を理解できないことだ。ときどき英語の発表があつてたいへん助かるが、それでも OHP に書かれてはいない。(農)

日本人の学生や教授は、我々外国人学生が彼らに提供できるものに対してさほど興味がないようだ。我々は自国の文化や言語を教えられるだけでなく、日本の研究者と自国の研究者を結び架け橋となることができる。だから、留学生センターが日本人の興味を刺激してはどうかと思う。その一方で、我々外国人は日本社会の有益さを実感し、取り入れられるようになるだろう。

(農)

外国人学生を受入れる前に、担当する予定の教授は外国人学生との付き合い方を学んでおくべきだ。(農)

日本語での講義は、科学や工学分野でなければほとんどの外国人学生にとって難しい。学生の大半は日本語を習得できていない。(農)

私の学部を訪れたくて海外からよく訪問客(教授や学生)があるが、受入れることはできないと思う。(農)

授業が日本語で行われていたため、留学生には理解しにくかった。これが、留学生が授業に参加した時にいい気にならない理由である。留学生は討論の内容も理解できなかった。(農)

全て良い。もう少し多く英語のクラスを設けてほしい。(農)

人間・環境学研究科

教授はアジア、ヨーロッパ、米国、日本の学生の様々な背景を理解すべきときがある。(人・環)

いくつかの図書館は開館時間が十分長くないので研究することができない。例えば、漢字情報研究センターなど。教師の中には外国の文化を良く理解していない者もいる、そのため留学生を適切に扱っていない。(人・環)

1.日本の学生は講義に積極的に参加しない。(質問が少ないなど)。おそらく講義が時々退屈になるのはそのためである。2.専攻科目に関しては多くのことを知っているが、その他のこと(例:政治、社会など)についての知識は非常に少ない学生が多い(多すぎる)と思う。(人・環)

コンピュータネットワークシステム(インターネットアクセス)が良くない。アクセスが他の一流大学に比べて非常に遅い。(また、頻繁に停止する。)(人・環)

図書館システムは改善が必要である。機関や"研究室"から本を借りるのが面倒であり、また本がない。(人・環)

教授は頻繁に休講にしている。事前に連絡しない教授もいる。(人・環)

エネルギー科学研究科

日本語が十分理解できないので、研究者のレベルを判断することができない。卒業資格が明確でなく、例えば、資格に関するガイドブックに書かれている内容と監督教官が求める条件が一致しない。監督教官によっては、卒業資格として論文提出が求められるが、大学院のガイドブックにはそれが明記されていない。(人・環)

残念ながら京都大学で講義を受けた経験がない。今年の10月から受講を開始する予定だ。(エネ科)

世界中の最新の情報や技術を知り、新しい研究結果を交換したり共同で行ったりするために、外国人の講師や教授をたくさん招くべきだ。(エネ科)

なし。(エネ科)

京都大学の3年間は、私にとって、思想の転換点であると思う。京大の率直敬慮、厳粛な学風を受け取り、真の独立と自由、そして、新しい学説を創造する聖域であると感じた。私は中国の山深い田舎を出て、京都大学に留学することができた。ここで、はじめて自分の小市民的な夢、幸福を願うだけの考え方、自分の不満、すべて社会と時代のせい、責任を社会に転嫁する態度は間違っていたと感じた。自分のねらいは大きなところにあるのだという、心の張り合いが必要である。あるいは、現代という時代を考え、小市民的な希望とは逆の、大きな夢を描いて勉強して、地味な仕事をしていくことである。自分の力は、この社会に貢献したい。そして、将来、先生方に、学校に、ご報告する。(エネ科)

授業のタイトルと授業の内容が合っていない。例えばある授業の科目が「A」だとしよう。しかし、授業では「A」についてはたった20%しか触れられず、後の80%は「B」という別のことについての内容だった。(エネ科)

私は多くの学生にとって授業が面白くないことに驚いた。もっと学問上多くの関心をもたれている分野の専門的な情報や説明(プリントなど資料)が必要である。特に、学術問題に関して:何をしなければならぬか、何をすればいいか。(エネ科)

アジア・アフリカ地域研究研究科

京都大学では、留学生の為にレベル別の日本語教室を開設し、これが留学生たちにより早く日本での学習生活に慣れることに役立つと思う。(ア・ア)

講師には講義を英語で、または半分英語(英語と日本語を50:50)で説明して欲しいと思う。(ア・ア)

留学生に対する教育は、日本語に固執しないことで、容易になるはずである。(ア・ア)

講義はほとんど日本語で行われたため理解できず、その結果教室でただ座っているだけだった。(ア・ア)

第一の問題は、日本語で自分を表現できない外国人学生は不利な条件に置かれ、多くの場合見下されることだ。(ア・ア)

なし。(ア・ア)

情報学研究科

留学生が使用できるように英語で書かれた情報が多くあればいい。(情)

コースや教科の適切な目的、スケジュール、概要、内容、評価、施設は改善する必要がある。これらは非常にお粗末なので、留学生は京都大学の教育システムに対応することができない。(情)

特に意見はないが、図書館が少し小さいと思う。(情)

教師は学生自らが、自らの能力により学ぶ教育を重視している。(情)

(1) 再度述べるが、講義は講師次第である。大学院コースは変化に富み、少し刺激的で、その他は非常に退屈である。(2)

上記(2)について、私が会った教授や学生の中には素晴らしい研究をしている者もいるが、そうでない者もいるということをお願いしたいと思う。上記(3)のいくつかについて、上記(4)を使用するのに日本語が難しい。機関紙が主な情報源であり、容易に入手できる。だが、本はとても難しい!!!(情)

日本の学生は、研究課題について話し合うのがあまり上手ではない。多分これは日本人の性格によるものなのだろう。(情)

ウイルス研究所

なし。(ウ研)

日本語授業は外国人学生にとって非常に有益だが、基本的な教育がおろそかで、例えばテーマの指定がほとんどなかった。(ウ研)

気になった点: 1) 今のところどの講義も 。 2) みんなとても勤勉である。研究のレベルについては、判断できる程の手段がないと思う。(ウ研)
英語の本を増やして欲しい。京都大学のホームページでも英語による詳細な説明が欲しい。(ウ研)

経済研究所

他のクラスについては、1度、クラスの名称が講義で説明されているものと全く関係のないことがあった。(経研)
外国人学生寮は整備されていない。(経研)

霊長類研究所

講義は常に日本語で行われ、学生同士や教員とのやり取りはなかった。教員は非常に優秀だが、指導よりも研究に興味があるようだ。良い図書館だが他の言語の論文が足りなかった。(霊長研)

東南アジア研究センター

すぐに親しくなれたわけではないが、非常に友好的だ。英語の本が少ない。(東南ア)

留学生センター

建物が粗末すぎると思う。取り壊すべきである。(留セ)
インターネットアクセスの方法がわかりにくい。パスワードをもらうのに長い間待たされたが、図書館にアクセスするときに学校を変えると失われてしまう。(留セ)

学生の共通の問題点は、学びたいことが京都大学では教えられていないことである。大学に入学する前、私は多くの質問を持っていた。大学では質問が答えになるはずと信じていた。1年半大学に在籍したが、質問は質問のままである。少し失望している。授業に変化がなければ、ここを卒業しても質問のままだろう。目的は、教育され研究者になることである、しかしその前に、プログラマーにならなければならない、そうでなければ研究をすることができない。先輩は私に自分でプログラミングを勉強しなければならぬと言う、私もそのつもりである。しかし、独力で学ぶには難しすぎる。これについて教授にもっと教えて欲しい。(不明)

京都大学における教育システムは、留学生にとって非常に良いと思う。(不明)
教室の施設がそんなに良くない。照明が暗くて黒板が良く見えない。(不明)

京都大学での留学生活を送っている今、特に京都大学に何かメッセージがあれば、自由にお書きください。また、本アンケート調査に対するご意見、ご感想がありましたらお書きください。

文学部・文学研究科

あまり学校に出られない留学生のため、情報をインターネットホームページなどに掲示して欲しい。(文)
中央図書館の効率的な利用方法を習得できる午後のコースのようなものが役に立つと思う。留学生としては、日本の文献(例えば、中央図書館の全てのデータベースやCD-ROMなど)や記事を見付けるのはたいへん難しい。故に、このようなガイドプログラムを設ければ非常に役立つと思う。全ての留学生が調査や研究に有用な文献を調べるのにあらゆる方法が利用できればいいと思う。(文)
京都大学で外国人がプレッシャーを感じずに、自由に学べるように支援して欲しい。平均的な外国人でも優れた日本の大学で学び、研究することができる。社会学の修士課程で外国人が極めて少ないのに非常に驚いた。"漢字"を知っている中国人でさえ極めて珍しい。なぜか?(文)
部屋を探しているときに、留学生センターの方々にはたいへんお世話になった。また、富士山旅行にも感謝している。とても楽しかった!(文)
生活の援助や文化間交流に力を注いでくれたことに感謝する。非常に大切なことだと思う。(文)

教育学部・教育学研究科

間違いなく皆良い仕事をしている。全ての外国人学生に対する配慮に心から感謝している。どうもありがとう。(教)

法学部・法学研究科

とにかく、この場所が気に入っている。(法)
京都大学に勉強に来て、とても幸せだと思う。優れている環境の中でみんな遅くまで勉強するのは、今の時期だけではないかといつも考えている。ただ、一番困っているのは、本代があまりにも高すぎるということだ。生活費の中で一番高いのはやはり本代だ。図書館に通っているが、一番新しい本や、違う分野の本は図書館には置いていない、バイトをして好きな本を買いたいと思うが、勉強の邪魔になったらだめだと思いあきらめた。くやしいけど仕方がないと思う。(法)
留学生に対する様々な規則について、疑問に思うことがある。文部省の研究生として、我々は留学生センターで6ヶ月の日本語講習を受け、合格しなければならない。それが終わると10月からは研究生になった。来年の2月にもし入学試験に合格す

れば、私は正規の大学院生になれる。このことが問題なのではない。もし私の本来の目的が京都大学で研究することだとしても、私は日本にまで来て、それを完全に成し遂げることは出来ない。なぜなら本を借りたり、コピーカードを入手してコピー出来るようになったり、コンピュータ室に出入り出来るというのは、学生として最低限の権利なのに、私の前には多くの困難が立ちだかっているからである。私が正規の学生になったら全ての施設が使えるようになる、と毎回同じ説明を受けるのだが、そうなるまでには日本に来てから1年もかかるのである。これはかなり時間の無駄であり、このような理解しがたく困難な問題によって、私の研究だけでなく生活までもが影響を受けている。(法)

経済学部・経済学研究科

この種のアンケートをもっと頻繁に(例えば、年に1回)行うべきだと思う。そうすれば我々全員に有益だと思う!(経)
正直に言って、関西地域で最も良い大学である、京都大学で研究することができ非常に幸運であり幸せである。ここで学びたいことの多くを教えてもらい、良い教官や友人と懇意になった。難しいとは思いますが、大学は留学生と日本の学生の関係を深めるようなもっと多くのことをして欲しいと思う。単なる支援体制ではなく、より深い理解と心からの尊敬を希望する。最後にこのアンケートで私の意見を述べる機会を与えてくれたことに感謝し、良い結果を楽しみに待ちたい。(経)
私は私費留学生であり、国から何の援助もなしに日本で勉強、生活している。入学する前に一生懸命勉強し、国立大学に入りたいと決意したのは、授業料免除をもらえると思ったからだ。しかし実際はそうではなかった。他の国立大学と比べ、京都大学の留学生へ対する支援(金銭上、精神上、生活上)は乏しかったと思う。周囲の私費留学生を見てみると、やはり皆アルバイトに追われている。その現状を改善するために、授業の全額免除は最低限必要条件だ。そうでないと、我々は落ち着いて勉強に打ち込むことが出来ないのだ。今回このアンケートは私に一言を言わせる機会をくれた。すごく感謝している。これからもこういうアンケートを定期的に実施しつづけて欲しいと思う。ありがとうございます。(経)

留学生委員会の設立。(経)

二ヶ国語の標識など、英語ユーザーの多くが利用しやすい環境が必要である。(経)

無料学習の伝統は素晴らしいが(個人的にとでも感謝している)、システムは非常に悪用されているように思われる。日本で最も重要な教育機関の一つとして、学生のやる気を起こさせ、才能を育むことができ、さらに学生が喜んで行く気にさせるような、活気に満ちた学習環境を創出するために何の努力もされていない。恐らく京都大学は国内外の他大学から学ぶのに十分謙虚になるべきだ。妙に思えるかもしれないが、滞在1年半の私が見た現実の京大は、ほとんどその名声に見合っていない。故に失望している。(経)

私たちの立場に立って、いろいろ考えて欲しい。(経)

言いたいことだが、外国人学生に対する態度がひどい教官がいた。おそらく多くの外国人学生に会いすぎて我慢できなくなっているようだが、このような教官に会ったのは初めてで、記憶に残るだろう。ただしこれは一部の話で、全員ではない。また、セミナー以外で日本人学生と交流する機会がほとんどなかった。例えば私はスポーツが好きなのだが、学校のテニスコートの使い方もわからず、一緒にバレーボールをしてくれる仲間の見付け方もわからない。外国人学生がスポーツ施設を利用できる機会が増えるよう希望する。(経)

実際のところ、研究をしていて困難は感じない。よって、この調査を通じて何らかの改善が見られることを楽しみにしている。(経)

京都大学で教育を受けていることに、私は、いつも満足を感じ、そして誇りに思っている。留学生に対する様々な姿勢にはいつも感謝している。もし、これだけあればよかったというのであれば、留学生のための寮が、もう1ヵ所あったら良かったと思うことがある(今は宿舎に困っていませんが、)。(経)

ここまで色々コメントを書いたが、私が回答したことが、留学生のこれからの生活や研究に反映されて良くなっていったらと思う。ありがとう。(経)

このアンケート調査は良いことだと思う。しかし、これで何かを変えることが出来るだろうか?調査は調査、現実には現実である。このアンケートの結果を受けて、色々たくさんのことを変えることは止めて頂きたい。システムが更に機能してくれるようになればそれでいい。物事を軌道に乗せるには時間がかかる。もし時間を掛けずにすることが出来れば、京大は更に活気のある良い大学になるだろう。可能であるならば、留学生の住宅を見付ける手助けをしてやってほしい。留学生にとってこれは大変に困難なことである。(経)

理学部・理学研究科

京都大学で研究できて嬉しく思う。京都大学は日本の有名大学であり、研究水準は非常に高い。多くのことを学ぶために一生懸命研究している。しかし、私費留学生として、奨学金なしで生活するのはとても難しい。だから毎日、生活の心配をしなくてはならない。大学から財政的支援を得ることができれば、非常にありがたく、自分の時間を全て調査や研究に充てたい。これは心から言いたいことである。(理)

時が経つにつれて、ここで研究するのに慣れてきた。独学がここでのすべてであると強く思う。だが、このことが分かった時には、1学期が過ぎ、私は何も得ていない。(理)

このアンケートは非常に重要である。私のような人々が内々に関係当局に意見を述べたり、京都大学の学術的環境についてどのように感じているかを伝えたりするのに役立つのは確かである。個人的には今回が、環境に対する、内々ではあるが心からの感想を述べる初めての試みである。京都大学は実際、素晴らしい所である。他の追随を許さない施設から寛大な教授や学生に至るまで、忘れ難い印象が心に浮かんでくる。指導教授の財政的支援を受け、数え切れない学術会議や現地調査、セミナー、有益な旅行に参加したことを忘れることはできないと思う。いかなる形の差別にも苦しまなかったことも忘れることは難しいと思う。京都大学を忘れない。父親のような指導教官や共同研究者、気楽にさせるために何があってもやめない私の周りの日本の学生が賞賛されてしかるべきだ。彼らはちょっとした要求にもいつも集まって助けてくれ、単なる友人や同僚としてではなく、兄弟として常に受入れてくれる。私が彼ら全員にいかにか恩義があるかを十分に伝える言葉がない。彼らが私に注いでくれた善意を正しいと証明するために何でもするだろう。私は優秀な学生として残るのに、あれこれと助けてくれた指導教授、共同研究者、その他の教授に恩義がある。私はこれを義務として捉えるつもりである。私は行動や研究において彼らを失望させない。(理)

この調査は簡潔で良い。大半の外国人学生にとって、言葉が大きな障壁となる。つまり、日本語の授業で教えられるレベルでは、セミナーや授業に必要な学術的な語学力が身につかない。研究の成果は、学生が自国へ帰ると調査や研究活動を行う

ことができない。これが大きな障害となる場合がある。学生が自国に帰った後で、自国で研究を応用し、直接評価するのが妥当だろう。(理)

京都大学で研究する機会に恵まれ、非常に幸せに思っている。教官は優秀で、素晴らしい。研究環境も非常に良い。京都という街は、誰もが知る通り、落ち着きがあって美しい。おかげで研究に集中することができ、忙しいときはリフレッシュできた。京都で過ごした楽しい日々のは決して忘れないだろう。(理)

世界の多くの様々な地域の人々と協力するよう努力して欲しい。そこから豊富な新しいアイデアが生まれる。(理)

留学生センターの対応はとても良く、感謝している。毎年行われる留学生のための旅行も素晴らしい。他研究科の留学生と交流を深めるチャンスでもあるので、これからもがんばってください。(理)

京都大学は他の大学に比べて、外国人学生に配慮した非常に体系的なネットワークを構築していると思う。しかし、まだ完璧とは言えない。外国人学生用の寮の不足は大きな問題だ。留学生センターは学生の世話をしよう努力していると思うが、留学生センターだけではなく、外国人学生を指導している教授も責任を感じるべきだ。私が見たところ、外国人学生の全員が研究室で十分に面倒を見てもらっている訳ではない。特に中国や韓国の学生はそうである。自分が外国人学生の一人でなければ、彼らの本当の声を聞くのは難しいだろう。(理)

京都大学の発展は文部科学省にかかっている。(理)

京都大学での研究は私にとって素晴らしい経験だと思う。私の指導教官はとても親切で、研究を行う上で大いに助けてくれる。クラスメートは、日本の学生も他の留学生も、常に私がセミナーのテーマについて意見を述べるように励ましてくれる。京都大学の職員もとても親切で、とても親しみやすい。多くの研究施設のある素晴らしい研究環境があれば、京都大学で研究することは留学生にとってすばらしい機会であるというのが私の意見である。(理)

日本に来て間もない者にとって、日本に住むことは難しい。もし来て間もない者に対して京都大学側が暫くの間インターナショナルハウスに入居させてくれたら、留学生にとってはとても有難いことなのだが。(理)

医学部・医学研究科

1)概して、ここで享受している待遇、支援、施設の全てにかなり満足している。それは恐らく出身国と比較しているためだ。ここにある物は極めて優れているので何ら不足は感じていない。2)かつて同種のアンケートで気付いたのだが、匿名性が実際に重んじられているのなら、性別や国籍などの問いは求められるべきではない。これは、同じ国の人が非常に少なく限られていると、単に国籍を述べるだけで、身元がわかり、もはや匿名ではなくなるからだ。例えば私の場合、留学しているのは2人だけで、私だけが男性である。このアンケートに私の性別と国籍を記入すれば、全てのことが容易に追跡することが可能である。もちろん、今まで全てのアンケートに参加しており、それほど嫌だと思っていないが、こうしたことは将来考慮されるべきだと思う。(医)

留学生を宇宙人としてではなく同じように考えて欲しい。自国の基準で、留学生に対応しないでほしい。言葉は概してコミュニケーションの最大の問題であるが、私は幸運にも、専門である英語が上手な良きガイドを得た。財政的援助について：日本での生活は私費留学生にとって非常にお金がかかる。財政的支援なしでは極めて困難である。(医)

図書館からより多くの基礎的な知識を調べ、習得しなくてはならないことがあるが、資料が十分でなく最新のものでない。(医)

既に述べたが、日本人が留学生に親切ならば素晴らしいことだ。我々のことを重荷ではなく、日本人の一部として考えてくれることを希望する。(医)

特にメッセージはないが、研究している全ての人々にとってより良い教育条件が必要である。(医)

継続を！(医)

我々の現状に関心を持ってもらい、感謝している。今後も外国人学生が京都大学で研究できる機会を与え続けていって欲しい。(医)

研究し、日本の優れた文化を学ぶために来た。数年後また戻って来たい。だから日本人のように扱ったり、日本人と比較したりしないで欲しい。(医)

なし。(医)

京都大学で4年間研究を続けている。このキャンパスの学術的な環境がとても好きだ。また、歴史的な街なので、日本文化を楽しむこともできる。教官や教員はほとんど皆友好的である。コミュニケーション上で小さな問題はあったが、優れたサービスのおかげで快適に生活できている。1つだけ提案したいのは、管理事務所の職員の方は外国人学生にたいしてもう少し寛容になって欲しいということだ。ありがとう！(医)

私は結婚しており家族は中国にいるので、年に一度程度家族が日本に来て、1、2ヵ月一緒に過ごす。経済的な問題で現在小さなアパートに住んでいる。家族が来て一緒に生活するのは非常に難しい。だから、私のように家族を自国に残して日本で研究している者のために、家族が日本に来たときに大学が宿泊施設を用意してくれると、非常に助かると思う。(医)

このアンケート調査には感謝している。後にこの調査の結果が留学生に、そして彼らが今求めていることに関して良い役割を果たしてくれることを願っている。海外で生活し学ぶということ、特に母国とは言葉や習慣がかなり違う国で暮らすということは、困難を伴う。このアンケート調査は、この美しい国で暮らす留学生にもっと目を向けるきっかけとなり、彼らに一筋の希望の光を与えてくれるだろう。がんばって欲しい。ありがとう。(医)

薬学部・薬学研究科

先に述べたように、大学院生の教育制度を変える必要がある。日本の外に目を向けても、このような制度はどこにも見付けられないだろう。特に書籍、シラバス、トピックが必要だ。講義はそのトピックに関してなされるべきだ。最後には試験を行うべきだ。修士及び博士号は次の2つによって決まる：1) 50%のコース、2) 50%の研究。もちろん、京都大学にもコースはあるが、学生はただ出かけていって出席日数を稼いでいるだけだと思う。私の意見を検討し、考慮していただくことを希望する。(薬)

京都大学には留学生が多いので、留学生センターの方は、年中いろいろなイベントを催しているが、大体の人数向けだが、平均すると一人が参加できるチャンスが少ないと感じている。例えば、僕は旅行に何回も申し込みましたが全部外れた。だから、私個人として、京都大学に入ってから、学校の活動に参加したことはあまりない。これに対して、残念な気持ちを持っている。そして、留学生として、自分の祖国を離れて、毎日異なる文化圏の中に生きて、母語と異なる言葉を操る人と接触しているので孤独感を持つことは自然なことだと思う。よって、大学側から、こうした問題を解決しようとする活動を良く行うことはいいことだと思う。(薬)

工学部・工学研究科

研究に対して強い意志を持つ者にチャンスを与えてほしい。私費留学生に対する奨学金受給の審査を再考してほしい。自家用車を持ちながら奨学金を受給する者がいる一方、本当に必要としている者が何も受給できない。(工)

より多くの教官が、学生に継続的な努力をさせることなく試験を通すではなく、成績を付ける際に評価、課題、レポートを考慮に入れるべきである。(工)

この調査により、留学生が経験している情報を収集することができ、こうした情報が京都大学において情報源を増加させるのにさらに利用されると思う。(工)

言葉はコミュニケーションのためにありがたく、必要なツールである。語学の授業は非常に役立つ。個人的には、日常生活を何とかやっていくために少なくとも数ヶ月間、個人的なチューターが必要だと思う。(スピーキング、コミュニケーション)(工)

この4月に始まった日本語コースは、集中型で、長時間の、実践向きのプログラムであると思うが、こうしたコースが日本語を学習する時間の余裕がない新人、研究者、学生に提供されるべきである。日本語は、日本で他の知識を習得するために重要なツールであるため、とりわけ日本で生活を始めた時期に、日常生活や日々の研究に日本語を上手く使えることが留学生にとって最初に、一番重要な事であると思う。おそらく、夜間や夏休みの日本語集中コースは最も役立つと思われる。ほとんどの図書館やビジネスが"活動中/営業中"である日中は研究に忙しいため、夜間や営業時間外が、言語を学ぶのに適している。(工)

ここで研究できてとても幸福であり、ここに居られてとても嬉しい。日本での研究において悪い点はもちろんあるが、それは社会レベルの問題であり、京都大学レベルの問題ではない。食べ物、生活環境、日本の習慣などの問題である。京都大学が留学生のために管理や準備するレベルでは、よくできていると思う。しかし今後、より改善することを忘れて欲しない。(工)

このアンケートは良いと思うが、最も重要なことは実際に支援することである。まだ受入れ体制についてよく知らない。困難に直面した時、どうすることもできなくてよく感じた。このアンケートについてさらに考えたい。(工)

京都大学での研究の日々はとても興味深い。私は努力してかなり長い時間を京都大学で過ごしている。新しい発想を得て、それに取り組むことができるだろう。このことは私にとってかなり重要なことである。優れた図書館を利用でき、職員が有用ならばいいと思う。(工)

今まで、京都大学で研究できることに満足している。ここで研究して以来、日本語のほか、英語の向上など多くの恩恵を受けている。さらに、建築の研究に関して、ワークショップ、セミナーなどの多くのイベントもある。私の研究に関する多くの資料も入手できる。これらはかなり完全なものだが、徐々に最新のものにすべきである。私が受けた講義は素晴らしく、教授や講師もそうであったと言える。すべて日本語で行われるため、私にとって唯一の問題は講義内容の理解である。だが、大いに努力して、近い将来こうした問題を無くすることができると思う。(工)

私は宇治エリアで学んでいるが、中央キャンパスに行くことが多い。だがスクールバスは1日に4回しか走っていない！中央キャンパスと宇治の間のバスを増やして欲しい。(工)

もっと親切にして欲しい。この受入れ体制に感謝の言葉を言うのは良くない。心から思うべきである！私は母国ではなかなかの学生だった。だから文部省奨学金を受給することができたのである！どうして日本の学生は、私が文部省からお金を得ていて悪く思うのか！申し訳ないが、私の本当の気持ちである。私は本当の気持ちを伝えるのは拒まない。人間は常に正直であるべきだ！(工)

1. 研究室の活動に参加せず語学コースに費やした6ヶ月は個人の学習能力を無駄にするものだったと感じている。語学コースは集中コースの一環であるべきだと思う。例えば、語学コースが数学や化学、経済学などの様々な分野のコースを含むことができる。また、学生の学習意欲が沸くような評価や点数をつけるべきである。2. 留学生センターは留学生や指導教官、実験室の仲間、その他の日本のコミュニティの間で意思疎通を問題なく行うために積極的な役割を果たすことができる。(工)

1年半の間、京都大学で研究し、ここでの生活に慣れた。来日した最初の日に日本語が少ししか話せなかったことを今でも思い出す。時々、生活や研究が本当に難しいと思ったが、私の指導教授である 氏や他の教官、友人が助けてくれたため、今はよく思えるようになっている。数人の日本人と友達になり、非常に仲良くしており、いつも助け合っている。実際のところ、ここでの研究はかなり難しく、困難である。というのは、日本語には多くの漢字があるため、できるだけ英語の本を読もうとしなければならないからである。前期が過ぎ、よく研究できると思う。そして私の希望は、修士課程の後、京大での博士課程に進むことである。I love Kyoto, Kyoto University and my Lab.(工)

生協という機関が良く分かりません。留学生に対して、何も案内してくれませんでした。生協って京都大学の一つの機関ですか？(工)

外国人学生に対する財政支援について、大学当局に心より感謝している。(工)

留学生のために、公共住宅をたくさん建てて供給してほしい。(工)

この調査には感謝する。たいへん良いことだ。継続していつて欲しい。(工)

京都大学で研究する機会に恵まれ、幸せに思う。ありがとう。(工)

外国人学生にも医療制度が必要だ。現在、健康上の問題が生じたときに医療センターの職員とコミュニケーションをとるのはかなり難しい。何故なら、医師を除いてほとんどの職員が英語で話ができないからだ。学期に一度、学内で日本人学生と外国人学生のスポーツ活動や競技会などがあると良いと思う。(工)

私は台湾から来たため、京都大学と台湾との国際交流活動は見当たらない。私が卒業した台湾の大学は何度も京都大学に働きかけていた。しかし、京都大学が国際交流に興味がない理由を説明する返答は得られなかった。保守的な態度から見て、京都大学が本当に国際交流を行う気があるのか、疑問に思っている。(工)

おはようございます。私は国際コースで1年半の予定で学ぶ学生(文部省からの学生)である。私は留学期間を3年に延ばし、ここ京都大学で哲学の博士号を取得するための勉強をしたいと思っている。しかし、現状では研究期間を延長する方法が見つかからない。国際コースで学ぶ学生にとって、こういう希望がかなえられることを願っている。全てにおいて感謝している。(工)

私は宇治のキャンパスで学んでいる。宇治には公的施設が少ない。またスクールバスがうまく具合にない。例えば朝大学に行きたくとも、11時までバスがないのである。スクールバスが朝にも走るようにして欲しい。(工)

日本の文化や社会構造は、留学生にとって特別な印象を与える。というのは、大学のスタッフは、我々留学生を(例えば短期留学生であっても)そういう厳しい階級社会で何十年も過ごしてきた日本人と同じように扱おうとするのである。これは留学生にとって大変困難なことであり、状況を改善するよう考慮されるべき問題である。(工)

メッセージはない。(工)

大学のスタッフについて:学生をわずらわしいものと考えていたり、全く国際感覚のない人がいたりする。しかし中には心を開いて理解しようとしてくれる人もいる。各分野で活躍している素晴らしい教官もいる。文部省の奨学金制度について:留学生を文部省からの賄賂と考えている教授がいるのだろうか? (a.k.a.の特別収入/KOZAの支援)奨学生制度について:奨学生の認定のための評価は、アジア以外から来た人には有利である。これは差別だ! 大学で勉強している欧米人はとても優遇されている。中国人や韓国人には……。 (工)

農学部・農学研究科

私はただ、授業料奨学金を受けられることを希望している。既に高額な給付金を受けたが、授業の後に働かなければ授業料の支払ができるとは思えない。授業料を支払うならば、研究が忙しいため、京都大学で4年目を迎え、重い負荷を負うことになる。(農)

推薦:できることなら、留学生に渡される重要書類(例えば、医療記録、様々な契約書)を英語で用意されると非常に助かる。そうすれば、書類に関して混乱や誤解が減るだろう。(農)

このアンケートにより、留学生の意見を把握する手段が得られるだろう。彼らの意見に目を通せば、受入れ体制の成果を分析することが容易になるだろう。(農)

来日以降の全ての支援に感謝している。この種のアンケートは非常に重要であり、外国人への支援を改善することができると思う。心から感謝する。(農)

現在、熊野寮に住んでいる。というのは、アパートで暮らすお金がないからである。熊野寮はとても汚く、環境は劣悪すぎる。従って、大学が留学生向けに良い寮を持っていれば、とても助かる。(農)

自分は京都大学で勉強することが出来るのがとても嬉しい。でも周りの人は留学生が重要でないと思う人ばかりだ。生活などの事は重要だが、学校だから、学生だから、勉強・研究は一番大切だと思っている。留学生たちは、もっとがんばらせれば、素晴らしいことが出来るかもしれない。(農)

京都で京都大学に入学できて非常に幸運であると思う。指導教官との関係は素晴らしく、このことは私の研究の前提となっている。私の文化と日本の文化の間には多くの相違点があることを認識している。最善を尽くしてまず日本語を勉強し、次に同僚や他の人と友好的な関係を築こうとしている。大変満足している。日本語は、とりわけ2年以上の研究プログラムに着手したい留学生にとって必要不可欠である。言葉を通じて、多くの日常の簡単な問題(住宅、研究など)を克服することができる。この側面は学生が専門的な研究を追及する上でも重んじられるべきである。友人の中には指導教官から日本語の学習を勧められている者もいるが、この傾向は間違っていると思う。(農)

このアンケートの実施を評価する。これは、特に留学生に対して大学の施設の改善や職員の向上が望まれている表れである。京都大学はアジア太平洋地域で優秀な大学の1つである。大学には外国人学生を対象としたプログラムがある。日本語をよく理解できない外国人に配慮して、近い将来すぐに、留学生向けの支援がさらに改善されることを希望する。(例:掲示板の告示は(少なくとも)英語にも翻訳されているべきである。)(農)

私は、奨学金、住居、受入れ体制に関する問題を抱えている。大学は、奨学金や他の支援を受けていない学生を推薦しなくてはならない。文部省やJSPSの奨学金を受けている学生ではなく!(農)

日本で有数の優れた大学で学ぶことができ大変嬉しいと思っているが、非常に失望しているとも言わなければならない。まずはじめに、日本に来る前、少なくとも6ヶ月間は日本語を学習する(そして文部省の奨学金を受ける)と聞いていた。だが(文部省は日本語を学習し、新しい生活に適応するための時間を全ての学生に与えることを推奨しているのにもかかわらず)、私は、日本では修士課程に登録されていることがわかった。このことに不満を言ったところ、留学生の受入れ体制は全く中央集権化されておらず、誰も何も知らないということが分かった。さらに教官までも留学生受入れ時の手続きの仕方を知らない。私の忠告は、留学生の受入れ手続きを教授に教えてほしいということだ。教官に対して忠告や説明は行われなかった。留学生の扱い方すら知らない教官もいる。もう1点は、改善が必要だと思われる日本語コースであるが、ここで私はブラジルの母校の大学(UNICAMP)付属の語学センター(ブラジル政府が支援)を訪問することを薦めたい。ここは外国語を教えるインフラが整っている。時々、日本語を学ぶためにプライベートスクールにお金を払うほうがいいのではないかと思う。そこは、留学生だけでなく、大学生にも、またポルトガル人だけでなく、イギリス人、日本人、フランス人、その他多くの人を教えている。他の大学との交流は常に望ましい。新しいことを学び、大学改善を試みることができる。最も恐ろしいのは、学生と他の大学について話している時に、その大学で学べば良かったと思うことだ。話は変わるが、私は土曜日が休みであることを望んでいる。あなた方が京都大学に関する我々の考えを理解しようと、改善しようとしていることを嬉しく思う。(農)

この調査は、外国人学生が京都大学での研究をどのように感じ、考えているかを理解する上でとても役に立つだろう。感謝している。(農)

この調査は本当に良いと思う。何故誰もこうした調査を実施しないのかずっと前から不思議に思っていた。可能であれば、宇治キャンパスで日本語の講義があると、宇治キャンパスで研究時間の多くを費やす大学院生は非常に助かるだろう。特に関連分野の英語の特別講義があると非常に便利で、週一回の日本語の講義よりもずっと多くの知識が得られるだろう。(農)

なし。(農)

施設とその使い方、図書館、研究に関する情報システムなどのオリエンテーションがあると、外国人学生が新しい環境にすぐ適応できるのではないかと思う。この調査は、外国人学生が自分の意見や建設的なコメントを伝える機会が得られるという意味で、間違いなく称賛に値する。(農)

農学部の建物は非常に汚いので大学で対応して欲しい。主に、階段(5階!)、廊下、事務所である。京都大学は清掃サービスを雇う余裕もないのか? そうすれば、特に海外からの訪問者に、より良く印象づけることができると思う。(農)

1. 私は文部省の奨学生なので、カンファレンスに行く場合、その費用のためにお金を使わなくてはならないと研究室では言われている。今、このアンケートで、"文部省奨学金はカンファレンス代として学生に対し1年にどのくらい支援するのか?"を聞きたい。カンファレンスの費用は高額なため、私は気が狂いそうになる。例えば、東京に3日間行かなければならない場合、新幹線代、ホテル代、食事代、カンファレンス登録料などの全てを我々のお金で支払わなければならない。2. 来日して以来、教育体制が、特に私に対して、時々公平でないと思う。どうして! というのは、私の指導教官は急に留学生に指示を与え、留学生が出来るだけ早く従うことを望むが、出来るときもあるが、言葉の問題のために、時間がかかるときもある。3. このアンケートは、どの留学生に何が起きたかを理解することができるので、非常に良い。(農)

幾つかの学部では入学試験が留学生のために英語に訳されていない。だから希望の学部に入れず、学部を変えねばならな

い。(農)

大学側が留学生のためにこのようなアンケート調査に時間を割くことは素晴らしいし、学生にとっても励みになる。留学生福祉への理解に反映されるだろう。このような姿勢が、留学生が一番に京都大学を留学先に選ぶことにつながるだろう。事務局のスタッフも学部のスタッフと同じように良い人達で、素晴らしい性格の持ち主である。このようなことは更に続けて頂きたい。(農)

人間・環境学研究科

京都大学にはヘルスクラブ、学生の健康を考えた場所がない。これは良くないと思った。(人・環)

博士号の英語名称が日本語の直訳になっており、日本以外では妙に聞こえる。私の博士号は"D. HUM AND ENV. ST."か、同様に奇妙なものになる予定である。どうして学位の英語名に"PH.D."などの広く認知されている名称をつけないのか、これは今や世界のあらゆる分野(哲学を除く)でスタンダードになっている。努力と研究の年月の後に、私の教育レベルを英語で人々にすぐに伝えられるような学位を取得したい。(人・環)

暖かい支援に大変感謝している。ここで研究をして4年以上経つが、今までの支援に対しても感謝している。京都大学は将来性のある教育機関であり、輝かしい将来に世界の3つの一流大学になるよう、さらなる改善を希望する。(人・環)

私が留学を始めて以来、受けた親切に対し本当に感謝している。研究生として、京都大学の大学院の中には入学試験が留学生にとって公平でないと思う。大学自らが国際的な学問分野に対する貢献を望む以上は、英語の講義を増やし、英語で書かれた小論を選択的に認めるべきである。(人・環)

まず最初に、留学生センターの方々が、京都大学での我々の生活を快適にしようと最善を尽くして下さったことに感謝したい。外国人学生は自分の専門分野だけでなく、日本の文化や社会についても学びたいと考えている。そこで京都大学に提案したいが、様々な文化的背景を持つ多くの外国人学生に、京都での日本社会を紹介するような文化的な活動に外国人学生が参加できると良いと思う。また、外国人学生を通じて、京都大学と学生の母国の学術機関との間で、学術的な関係を築くことができる。この点に関しては経験を語らせてもらいたいのだが、私と監督教官は、京都大学とスーダンのハルトゥーム大学の間に学術交流のメモランダム設立を達成した。(人・環)

エネルギー科学研究科

今年は、私が京都大学に来て3年目である。私の考えは変化したと思う。この学校は熱心で、威風堂々とし、真の自立と自由を持ち、新しい原理が生まれる場であると思う。山深い国の出身である私は、京都大学で研究をした。ここでまず、私は小市民のように夢を持ち続ける考えを持ち、ただ幸せな生活だけを望んでいた。だが、社会と時代の過ちのため、不満を覚えるようになった。自己の責任を社会に転嫁するのは間違いである。私は大きな目的をもつべきであり、必要なことは精神が大いなる関心を持つことである。現代と呼ばれる時代に、小市民のような希望は覆される。希望を叶えるために、大きな夢を描き、最善を尽くす努力をしなければならない。私の能力がこの社会に貢献し、将来、教官や京都大学に報告することができることを望んでいる。(エネ科)

京都大学に来て3年になるが、こうしたアンケートを受けるのは初めてだ。しかし今まで毎年発行していたかどうか確信はない。発行されていなかったのなら、何故アンケート調査を行わなかったのだろうか。アンケートを行うことで、外国人の学生や研究者の管理を改善し、修正することができる。また、京都大学が思想の偏りや極端な愛国主義のない時代を続けていることを外に示してはどうだろうか。(エネ科)

アジア・アフリカ地域研究研究科

もっと留学生と日本人学生間の交流活動を増やしたいのではないと思う。互いに理解を深めるのに、とてもいいと思う。また、互いに相手の国の言語をマスターするのも役立つと思う。(ア・ア)

留学生の私は、現代史、政治学、国際関係論に関する英語の本がほとんどないと思う。図書館システムは非常に複雑である。学部ごとに多くの図書館があり、システムはそれぞれ異なっている。図書館の間には共通仕様がないように見える。本を見付けたり、図書館を利用したりすることは非常に複雑だと思う。(ア・ア)

すべてOKである。(ア・ア)

このアンケートは留学生を向上させるために非常に有益である。留学生オフィスは留学生により多くの支援をするために強化されるべきであると思う。(ア・ア)

学生が他人とのコミュニケーションがすぐにとれるようにするため、前もって日本語コースを設定するべきだ。セミナーに集中して日本語コースの期間が短く、十分理解できなかった。(ア・ア)

この調査は良いと思う。前のページで述べたように、最大の問題だと思うのは日本語(読み、書き、話す)を学習中の学生が、努力しているにも拘らず、自分を表現できないと見下されてしまうことだ。日本人学生を時間の20% - 25%は英語で書いたり話したりしなければならない教育環境に置けば、日本人学生が国際化されて外国人学生とのバランスが取れた公平な環境が得られ、双方にとって役に立つのではないだろうか。(ア・ア)

情報学研究科

-(情)

経営管理側が京都大学の"国際交流"の現状を懸念しているならば、直ちに改善を実行すべきであり、そうすれば少なくとも現在の学生は経営管理側からの厚い援助を受けることができる。正直、私自身はすぐに援助が必要であるが、それはいつも叶えられない。皆さんお元気で。(情)

京都大学世界ではかなり良い大学である。研究環境はよく、ほとんど全ての教官や学生は優秀で勤勉である。しかし、日本の学生と留学生の関係は幾分…冷たいものである。(情)

研究に対する教官の態度はとても真剣なので、優れた研究成果を得て、京都大学のために尊敬を受けることができると思う。彼らは皆、特別な目的に関して、それを学びたいと思っているのだが、幅広く、豊かな知識をもっている。(情)

大学での研究を非常に楽しんでいる。外部の助けなしに、全く新しい分野に進出するのは極めてやりがいがある。さらに、RASCの外国人研究者との交流は信じられないほど刺激的で、これはRASCの偉大なる財産にちがいない。科学的調査は学術的交流(ジャーナル、会議、有給休暇など)を行い、大学が顔を突き合わせて行う交流の促進のために始めた活動は、全て

の参加者に莫大な利益をもたらしている。私自身としては、前述したことは、英語でほとんど行うことができている。科学分野での留学生"受入れ"に関して大学の最大の短所は、留学生に対して日本語を奨励していないことである。留学生の日本語コースは不十分であり、日本語の専門用語を体系的に学ぶ方法を教員は知らない。私は場当たりの方法や英語で何とかやっているが、プレゼンテーションや会議のために日本語能力を身に付けたい。このことは、非公式に行うには容易ではなく、公式なレベルでも支援されていない。京都大学と生産的な共同研究を行う日を楽しみにしている。(情)

生命科学研究科

世界の一流大学なので、京都大学で学びたい人は多い。一般に日本語を勉強する十分な時間がないため、最大の障害は日本語の習得である。こうした理由を踏まえ、京都大学は自然科学や工学などの分野のための国際プログラムを設けるべきである。(生命科)

経済研究所

このアンケートは外国人学生についての状況を知る良い方法だと思う。また、単なるアンケートではなく、将来の生活や研究の水準を向上させる手段となることを希望する。(経研)

留学生センター

私はここでは留学生である。お金を稼ぐために仕事を見付けたい。だが、留学生が仕事に就くのは非常に困難である。だから、大学に助けてほしいと思う。(留セ)

まだアンケートに書けるようなメッセージはない。京都大学でもっと色々な経験を積んだ時には色々コメントを書きたい。(不明)

アンケート調査 B：在学中の留学生対象（本文）

関係各位

このたび、京都大学におきましては、本学の「国際交流」の実状を把握し、現状の改善と今後の在るべき姿を探るために、自己点検・評価を実施することになり、順次作業を進めてまいりました。その作業の過程におきまして、留学生の方のご意見やご感想をお伺いすることが不可欠であると考え、アンケート調査を企画いたしました。

つきましては、本調査の主旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

なお、この調査で得られたデータはすべて統計的に処理し、皆様にご迷惑をおかけすることはありません。

ご回答は、10月19日までに、同封の封筒により、学科事務室までご返送願います。あるいは、インターネットを通して、次のホームページ（<http://www.adm.kyoto-u.ac.jp/kikaku/ryu/>）で、回答を入力し、送信することが出来ます。

おって、この調査結果を踏まえて作成する自己点検・評価報告書は、2002年3月に、京都大学ホームページ（<http://www.kyoto-u.ac.jp>）上で公表する予定です。

平成13年9月18日

京都大学大学評価委員会
自己点検・評価等専門委員会
委員長 丸山正樹

自己点検・評価等専門委員会
「国際交流」作業部会
主査 紀平英作

B 留学生の実態調査(2)

あなたご自身についてお伺いします

Q 1 . 性別をお答え願います

- (1) 男 (2) 女

Q 2 . 年齢をお答え願います

- (1) 20~29才 (2) 30~39才 (3) 40~49才 (4) 50才以上

Q 3 . 出身国名をお答え願います

Q 4 . 京都大学での留学期間(予定)をお答え願います

- (1) 6ヶ月未満 (2) 6ヶ月以上1年未満 (3) 1年以上2年未満
-
- (4) 2年以上3年未満 (5) 3年以上4年未満 (6) 4年以上

Q 5 . 所属している学部等をお答え願います

【留学生センター】	(1) 留学生センター
【学部・研究科】	(2) 総合人間学部
	(3) 文学部・文学研究科
	(4) 教育学部・教育学研究科
	(5) 法学部・法学研究科
	(6) 経済学部・経済学研究科
	(7) 理学部・理学研究科
	(8) 医学部・医学研究科
	(9) 薬学部・薬学研究科
	(10) 工学部・工学研究科
	(11) 農学部・農学研究科
	(12) 人間・環境学研究科
	(13) エネルギー科学研究科
	(14) アジア・アフリカ地域研究研究科
	(15) 情報学研究科
	(16) 生命科学研究科
	【研究所・センター】

Q 6 . 現在の財政支援についてお答え願います

- (1) 出身国の公的資金もしくは在籍大学からの支援
-
- (2) 京都大学や日本政府など日本側からの支援
-
- (3) その他の支援 ()
-
- (4) 支援を受けなかった

Q 7 . 京都大学における身分についてお答え願います

- (1) 大学院正規生, 学部正規生
-
- (2) 研究生, 聴講生
-
- (3) 京都大学との学術交流協定による留学
-
- (4) KUINEP(京都大学国際教育プログラム)学生

次ページへ続く

Q 8 . 学位の取得を目的とされていますか

(1) 目的としている

学位の種類： (a) 博士 (b) 修士 (c) 学士

(2) 目的としていない

Q 9 . 専門の研究分野をお答え願います

京都大学への留学の動機についてお伺いします

Q 1 0 . あなたが京都大学へ留学した目的をお答え願います (3 つまで を付けてください)

(1) すぐれた教育研究指導を受けることが出来ると考えたから

(2) 施設が充実しており研究環境がよいと考えたから

(3) 京都で学びたかったから

(4) 母国の教職員に勧められたから

(5) 友人・知人に勧められたから

(6) 母国や日本での就職に有利であると考えたから

(7) 第 1 志望ではなかったが、文部省から指定されたから

(8) 第 1 志望ではなかったが、入学試験に合格したから

(9) その他 (自由にお書きください)

次ページへ続く

京都大学の印象についてお伺いします

Q 1 1 . あなたが留学されて、京都大学の受入れ体制について、どのような印象をお持ちですか？
 （それぞれの数字に を付けてください）

	大変 良い	良い	普通	あまり良く ない	悪い
(1) 留学前の案内・説明	5	4	3	2	1
(2) 留学中の対応	5	4	3	2	1

(3) 京都大学の受入れ体制について、良い点、悪い点などお気付きになられたことがありましたら
 ご指摘願います。

Q 1 2 . 留学中に受けている講義あるいは環境等について、どのような印象をお持ちですか？
 （それぞれの数字に を付けてください）

	強く 思う	少し 思う	普通	思わ ない	ひどいと 思う
(1) 講義は面白く、刺激的である	5	4	3	2	1
(2) 教官・大学院生は研究活動に熱心であり、 その研究は高い水準にある	5	4	3	2	1
(3) 教官・学生は留学生に友好的であり、親し みやすい	5	4	3	2	1
(4) 建物、図書館、実験の設備は充実している	5	4	3	2	1

(5) 教育研究に関することで、ひどいと思われた理由等、お気付きになられたことがあればお書き
 ください。

次ページへ続く

京都大学での留学生活を送っている今、特に京都大学に何かメッセージがあれば、自由にお書きください。また、本アンケート調査に対するご意見、ご感想がありましたらお書き下さい。

ご協力ありがとうございました

アンケート調査 C：外国人研究者対象（回答集計結果）

		回答	回答数	割合			回答	回答数	割合
Q1	(1)男		266	(82.6%)	Q12	目的の達成度合	320	(99.4%)*	
	(2)女		56	(17.4%)		十分な成果を上げた	174	(54.4%)	
Q2	(1)20～29才		14	(4.3%)			132	(41.3%)	
	(2)30～39才		105	(32.6%)			14	(4.4%)	
	(3)40～49才		107	(33.2%)		まったく上げられなかった	0	(0.0%)	
	(4)50～59才		60	(17.5%)		記述	288	(89.4%)*	
	(5)60才以上		36	(11.2%)		記述	201	(62.4%)*	
Q3	(1)大学		225	(70.1%)					
	(2)研究機関		67	(20.9%)					
	(3)民間企業		13	(4.0%)					
	(4)政府機関		12	(3.4%)					
	(5)その他		4	(1.2%)					
	記述（(5)その他）		4	(1.2%)*					
Q4	居住国		322	(100.0%)*					
Q5	出身国		322	(100.0%)*					
Q6	(1)招へい外国人学者		165	(53.4%)					
	(2)外国人共同研究者		144	(46.6%)					
Q7	(1)～6ヶ月		217	(67.6%)					
	(2)6ヶ月～1年		34	(10.6%)					
	(3)1年～2年		37	(11.5%)					
	(4)2年～		33	(10.3%)					
Q8	滞在学部等		321	(99.7%)*					
Q9	専門分野		317	(98.4%)*					
Q10	(1)出身国側から		65	(18.4%)					
	(2)日本側から		272	(76.8%)					
	(3)その他		9	(2.5%)					
	(4)支援なし		8	(2.3%)					
	記述（(3)その他）		4	(1.2%)*					
Q11	(1)特別講義を行うため		59	(18.3%)*					
	(2)教官との共同研究		217	(67.4%)*					
	(3)書物・資料の調査のため		25	(7.8%)*					
	(4)教員・研究者との情報交換		125	(38.8%)*					
	(5)関西地域の日本研究		25	(7.8%)*					
	(6)その他		48	(14.9%)*					
	記述		62	(19.3%)*					

別紙参照

*回答者数に対する割合（回答数/回答者数×100）

他はのべ回答数に対する割合（回答数/のべ回答数×100）

発送数 852
 有効送付数 835
 回答者数 322
 回答率 38.6%

・ Q4 居住国

国名	回答数(件)	割合(%)
アメリカ	44	13.7
中国	39	12.1
タイ	22	6.8
英国	21	6.5
フランス		
ドイツ	19	5.9
韓国	16	5.0
日本		
インドネシア	15	4.7
シンガポール	9	2.8
カナダ		
台湾	7	2.2
インド		
ロシア	6	1.9
オーストラリア		
マレーシア	5	1.6
ブラジル		
スウェーデン		
ポーランド		
ハンガリー		
イタリア	4	1.2
オランダ		
スペイン	3	0.9
チェコ		
トルコ	2	0.6
ヴェトナム		
フィリピン		
スイス		
フィンランド		
ウクライナ		
イスラエル		
エジプト		
スリランカ		
ネパール		
アルゼンチン	1	0.3
エクアドル		
ペルー		
メキシコ		
オーストリア		
ベルギー		
ラトヴィア		
ルーマニア		
ニュージーランド		
ケニア		
計	322	100.0

・ Q5 出身国

国名	回答数(件)	割合(%)
中国	63	19.6
アメリカ	28	8.7
ドイツ	25	7.8
タイ	22	6.8
フランス		
インドネシア	17	5.3
韓国	16	5.0
英国	13	4.0
ロシア	10	3.1
台湾	7	2.2
マレーシア		
インド	6	1.9
オーストラリア		
ブラジル	5	1.6
イタリア		
ハンガリー		
ポーランド		
シンガポール		
スウェーデン	4	1.2
カナダ		
オランダ	3	0.9
スペイン		
ウクライナ		
チェコ	2	0.6
エジプト		
トルコ		
ヴェトナム		
フィリピン		
オーストリア		
フィンランド		
イスラエル		
イラン		
ケニア		
日本	1	0.3
スリランカ		
ネパール		
アルゼンチン		
エクアドル		
キューバ		
ペルー		
メキシコ		
アイルランド		
スイス		
デンマーク		
ノルウェー		
ユーゴスラヴィア		
アルバニア		
ラトヴィア		
ルーマニア		
モロッコ		
計	322	100.0

地域	回答数(件)	割合(%)
東アジア	78	24.2
東南アジア	55	17.1
南アジア	9	2.8
北米	53	16.5
中南米	9	2.8
西欧	81	25.2
東欧	22	6.8
オセアニア	7	2.2
中東・中央アジア	7	2.2
アフリカ	1	0.3
計	322	100.0

地域	回答数(件)	割合(%)
東アジア	87	27.0
東南アジア	54	16.8
南アジア	8	2.5
北米	31	9.6
中南米	10	3.1
西欧	84	26.1
東欧	29	9.0
オセアニア	6	1.9
中東・中央アジア	10	3.1
アフリカ	3	0.9
計	322	100.0

アンケート調査
C 外国人研究者

・ Q8 滞在学部等

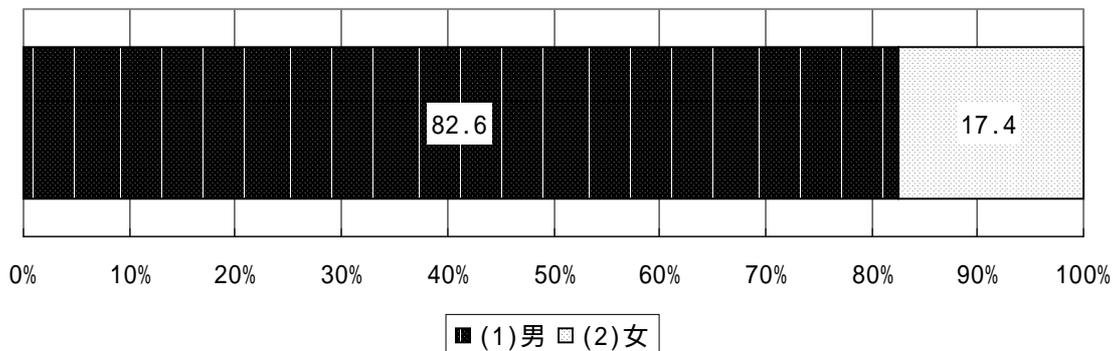
部局	回答数(件)	割合(%)
(9)工学部・工学研究科	47	14.6
(10)農学部・農学研究科	39	12.1
(6)理学部・理学研究科	25	7.8
(7)医学部・医学研究科	23	7.2
(22)防災研究所	17	5.3
(16)化学研究所	17	5.3
(26)数理解析研究所	16	5.0
(8)薬学部・薬学研究科	12	3.7
(23)基礎物理学研究所	10	3.1
(20)木質科学研究所	10	3.1
(21)食糧科学研究所	10	3.1
(29)東南アジア研究センター		
(11)人間・環境学研究科		
(14)情報学研究科	9	2.8
(17)人文科学研究所	7	2.2
(2)文学部・文学研究科	7	2.2
(5)経済学部・経済学研究科	5	1.6
(32)宙空電波科学研究センター	5	1.6
(12)エネルギー科学研究科	4	1.2
(15)生命科学研究所	4	1.2
(1)総合人間学部		
(13)アジア・アフリカ地域研究研究科	3	0.9
(25)経済研究所		
(18)再生医科学研究所		
(24)ウイルス研究所		
(27)原子炉実験所	2	0.6
(28)霊長類研究所		
(33)生態学研究センター		
(3)教育学部・教育学研究科		
(4)法学部・法学研究科		
(19)エネルギー理工学研究所	1	0.3
(30)大型計算機センター		
(38)高等教育教授システム開発センター		
(44)アフリカ地域研究資料センター		
計	321	100.0

系別	回答数(件)	割合(%)
文系	27	8.4
理系	264	82.3
融合系	30	9.3
計	321	100.0

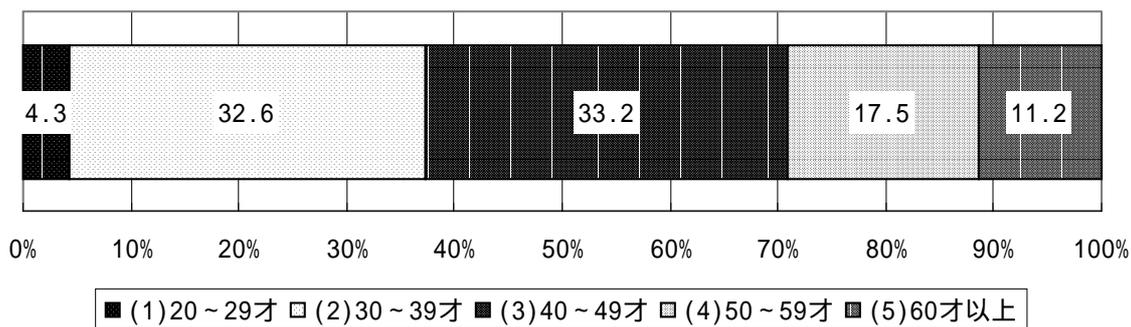
・ Q9 専門分野

	回答数(件)	割合(%)
文系	43	13.7
理系	272	86.3
計	315	100.0
理系の内訳		
(1)土木,建築,都市	40	14.7
(2)工学,応用物理	102	37.5
(3)化学,材料	64	23.5
(4)医,薬,生物	66	24.3

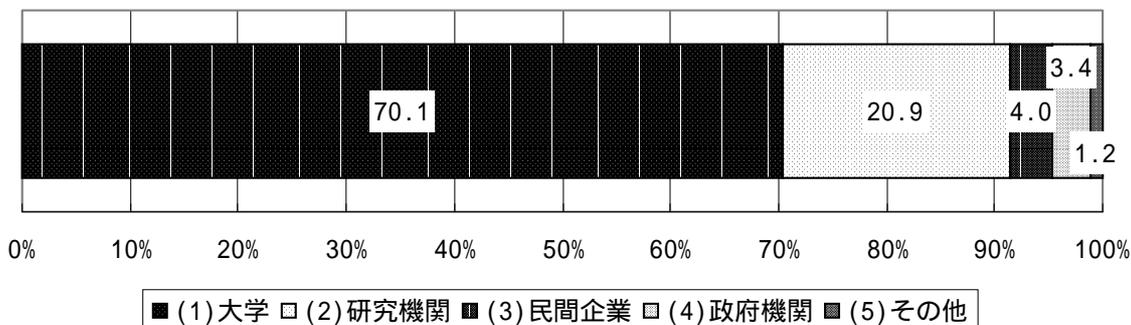
Q1. 性別



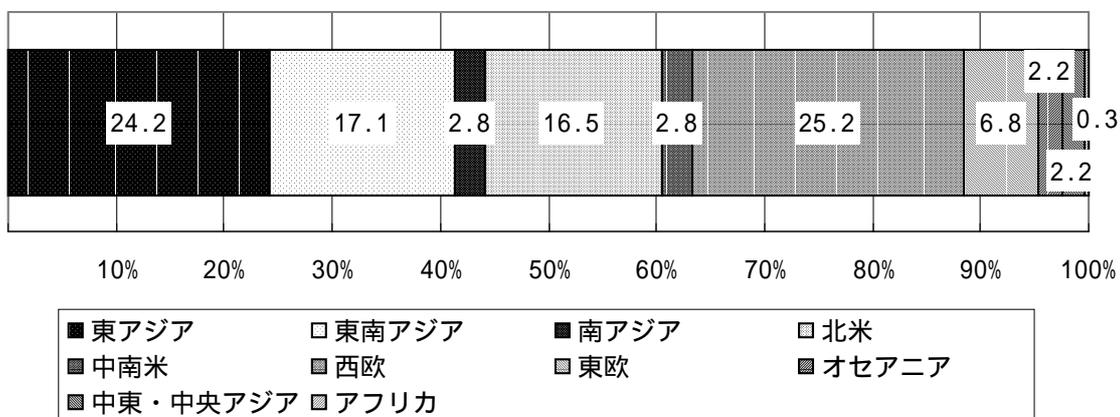
Q2. 年齢



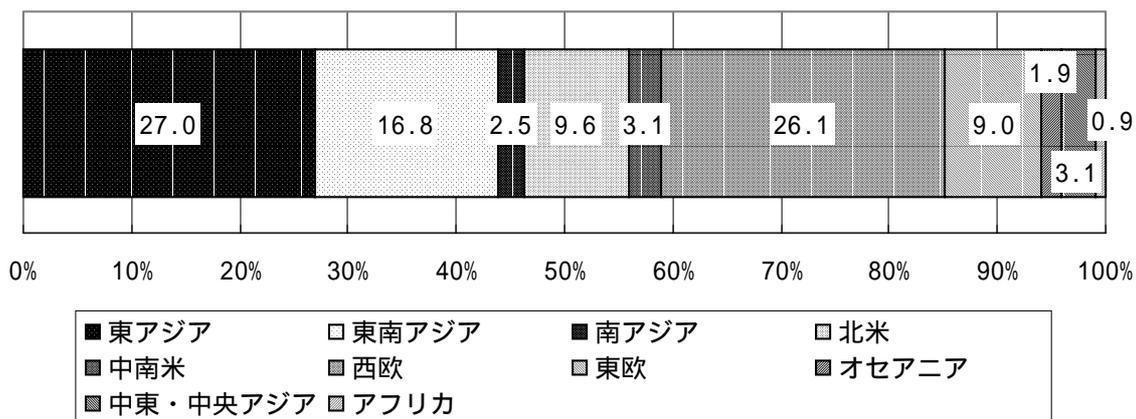
Q3. 現在の勤務先等



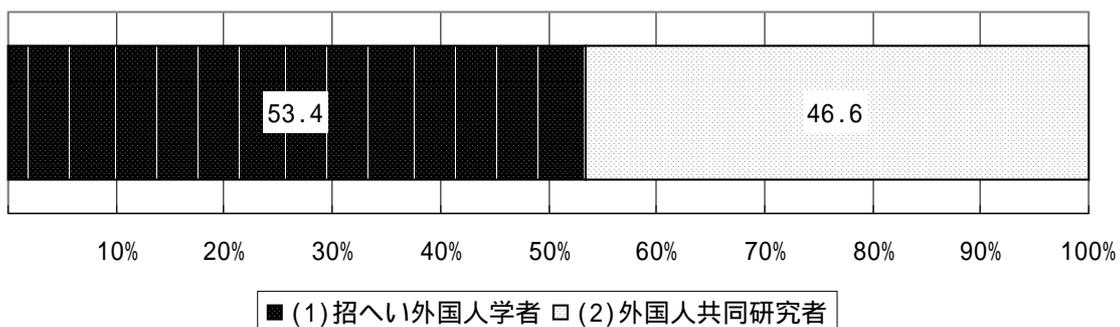
Q4. 現在居住している地域



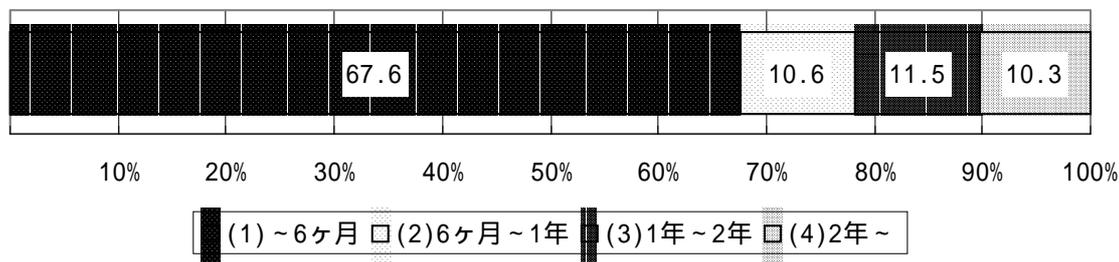
Q5. 出身地域



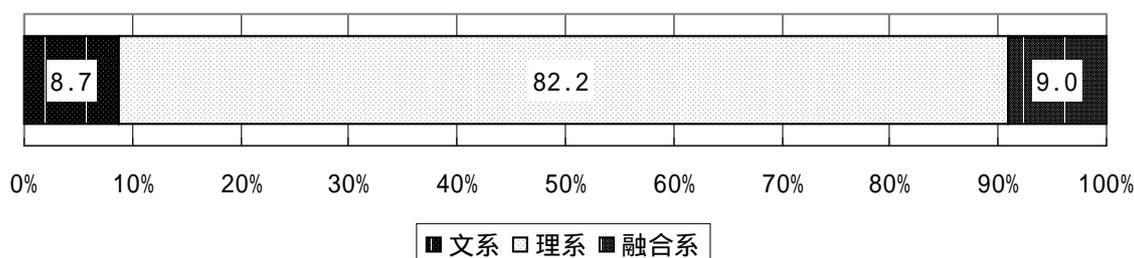
Q6. 京都大学滞在時の資格



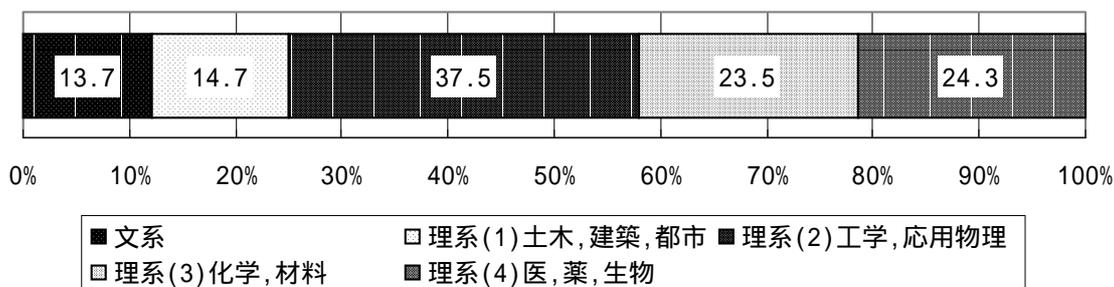
Q7. 京都大学での滞在期間



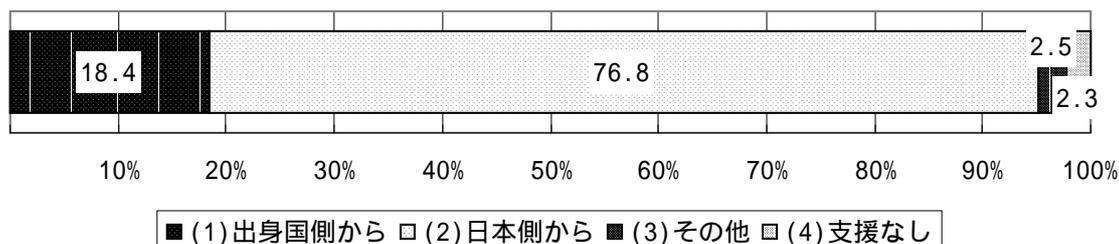
Q8. 滞在了した学部等



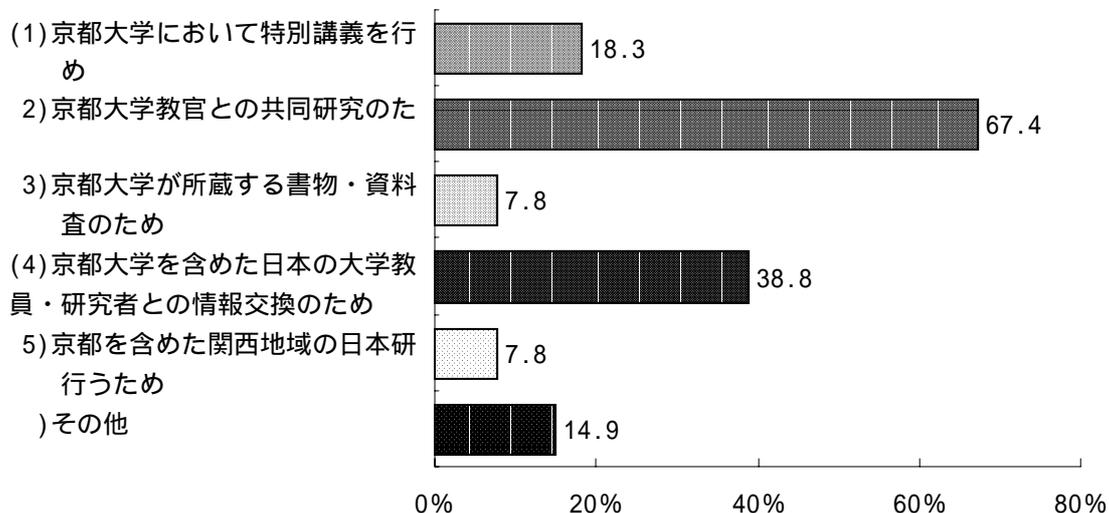
Q9. 専門の研究分野



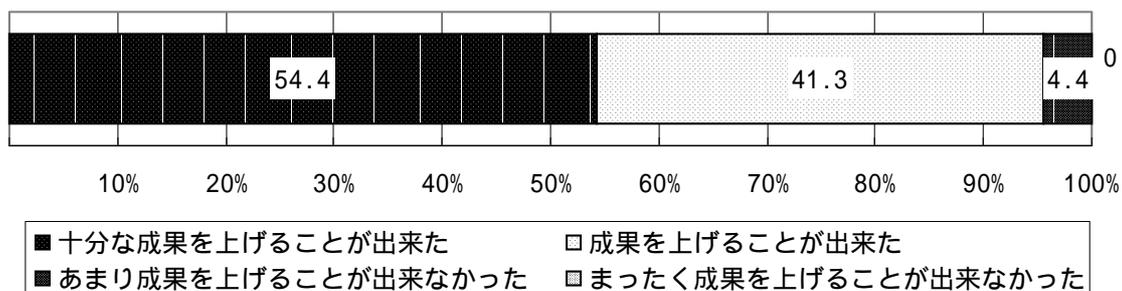
Q10. 滞在にあたっての財政支援



Q11. 滞在の目的



Q12. あなたは滞在を終えられて、当初の目的に関して成果を上げることが出来たか？



Q12.

成果を上げることが出来なかった理由、または成果を上げることが出来た理由等についてお気付きになったことをご指摘願います。

総合人間学部

担当の 教授に非常に世話になった。幼稚園を紹介してくれたり、研究の手伝いをしてくれたりする大学院生を紹介してくれた。滞在施設(大学のゲストハウス)はとてもよく、値段も手ごろであった。日本語をもっとうまく話せたらと思ったが、私が会ったほとんどの人、特に大学で会った人は、上手な英語を話した。(総人)

京都大学では多くの研究活動が行われているのがわかった。教員は活発で、参加できる興味深い研究が常にある。京都大学の研究パートナーと常にアイデアの交換をし、私たちの双方が研究課題にとっても興味があった。それで、私の滞在は大きな

成果を納めた。(総人)

文学部・文学研究科

* 図書館や文書の利用といった点で、私の研究条件は非常に優れていた。* 大学からEメールの利用が提供された(私は自分自身のコンピュータを使ったが)。* 同僚とのディスカッションは良かったが、大人数の教職員と会うのは非常にまれであった。* 研究の必須事項である京都の芸術を見学する機会が数多く広範にあった。博物館・展示会・美術館を訪問し、友人がディスカッションを率いてくれた。* 借りていたアパートも研究をするうえで、刺激的で静かな環境であった。(文)
滞在は学術専門誌での論文のもととなり、それ以降の研究出張など、京都の仲間との継続的な共同研究へとつながった。(文)

私は1999年夏と2000年夏に京都大学に滞在にやって来た。滞在目的は、日本の原稿を読むことに関連した精神物理学の実験を行うことであった。私と主に共同作業を行ったのは、間もなく博士課程を終えようとしている若い研究者であった。基本的には、私たちの共同研究は大変成果が上がり、得た結果の一部は既に発表されている。若干不満足に思った唯一のことは、データ収集に要した時間であった。異常に長くかかったのである。その遅れは、実験の計画作りと実施に援助が得られなかったことによるものであった。(文)

研究室で、教授と博士と10ヶ月間に及ぶ研究を行ったが、その研究室の学生やスタッフ達と綿密に連絡を取り合い協力してみんなには大いにお世話になった。とくに博士(現在はその教官であるが)と共同で、滞在の成果として国際ジャーナルやミーティングに10本の論文を発表することができた。博士には研究だけでなく、日常生活でも、とくに日本人や日本社会をより理解できるよう日本語を学ぶのにも大変力になっていただいた。その点では恥ずかしながら、あまり上達はみられなかった。私の日本語では、コミュニケーションをとるのがかなり困難であった。しかし、博士のそうした助力にはとても感謝している。10ヶ月間の京大というトップクラスの大学での研究は私の人生で誇れるものである。(文)

京都大学でとても愉しくまた意義あふれるものであった。教職と事務的な仕事からは手を離れて、世界クラスの研究者や機会を与えられ、私の研究もとても愉しく生産的なものとなった。機会があれば、次また京都大学にこれららと思っている。(文)
京都大学に9ヶ月の間滞在するために資金面での協力をしてくださり、感謝を述べたい。また("研究分野")についてどのようにfeatureを探し、使い、分析するかなどを私に教えてくださった教授にも感謝したい。博士をはじめ研究室のメンバーにも感謝したい。京都大学での研究のあと、私は同じ研究をつづけ、たくさんの論文を発表することができた。中国科学省の大学の植物研究所での重要なポジションも得ることができた。それは私の能力だけでなされたものではなかった。教授も私の、彼の論文の共同著者になるといつてくれた。近いうちにそれがかなうといいと思う。ありがとうございました。(文)

教育学部・教育学研究科

ホストの教授や分野のアドバイザーの方々には大変親切にいただいたこと、また京大の素晴らしい研究設備のおかげで、私の研究活動も成果をあげることができた。(教)

法学部・法学研究科

1. 京都大学は、あらゆる種類の研究施設が揃った日本の稀有な学術センターである。2. 法学部の教授特に 教授は、与えられた任務を遂行するうえで配慮の行き届いた同僚となってくれた。3. 京都の自然も、学術研究に刺激を与える魅力を持っている。(法)

経済学部・経済学研究科

私は2年前にちょうど1ヶ月京都大学に滞在した。そのときは終日を図書館で過ごし、有益な資料を入手したが、大学の学者を訪問する時間はなかった。京都大学の図書館は素晴らしいが、書籍の中にはデジタル化されていないものもあった。近い将来京都大学を訪問できればと願っている。(経)

全てが素晴らしい。(経)

10ヶ月にわたって集めた材料によって本を1冊書けたことから、滞在は大きな成果を上げた。ただ、経済学部の日本人の同僚とは意見交換をする機会がほとんどなかった。というのも、彼らの研究がほとんど計量経済学的アプローチによるものだからである。(東京と比較して)もうひとつの関西の特徴として、きちんと紹介してもらわなければ私企業や政府機関と接触するのが難しいところがある。私が既に日本に馴染んでいなければ、実地調査を行うことは全く不可能だっただろう。京都大学図書館の効果的なシステムには非常に感心した。(経)

京大の研究室の同僚たちとはよく研究の議論を話し、京大以外の日本の研究者たちを紹介してもらった。(経)

理学部・理学研究科

教授と 教授のグループには、優れた科学的環境があった。そこには、私の研究に必要な器具が全て揃っていた。京都大学で研究できた機会をありがたく思っている。(理)

全ての点で滞在を楽しんだ。(理)

学科には多くの運営・技術・科学的施設が揃い、非常に優れた構成になっていると思った。人はとても親切で、学生は講義中も実習中も意欲に満ちていた。滞在中には、教職員と学術的なニュースを交換し、科学的な を高める機会と、京都の美しさを楽しむ もあった。(理)

* 3つの異なる学科にわたるセミナーや交流: 物理学、化学、航空工学。* 京都大学で私が行った講義のフォローが、日本の数大学の教授や研究者によって行われた。* その後パリ大学の教授職への招請を数件受けた。* 共通の出版。(理)

受入れ科学者/教授が行っている生物医学的/MEMSの研究を知ることができ、付随して得られたものは実り多かった。これらの研究に触れたことにより、新たな考え方や将来の共同研究の可能性がもたらされた。しかし、施設の制約のためにそれ以降の共同研究はまだ具体化していない。それでも、滞在は訪問職員にとって、絶対に報いの多い経験である。(京都)大学と日本政府に、今回の機会を与えてもらったことを感謝する。(理)

教職員と学生は非常に協力的で親切だった。(理)

京都大学での滞在は、新たに興味深い国で暮らし、非常に優れた編成の科学的グループで研究するという、素晴らしい経験となった。この共同研究の間に、私の研究技術が新たなレベルに上がり、研究所の活動に実りある貢献ができたのではと期待

している。(理)

私が1998年に行った科学的研究は日本学術振興会の支援によるもので、「 」というタイトルであった。研究論文は「 」という名前の国際的な専門誌に発表された。京都大学は、ものごとをうまく開発する点で多くの成功を収めており、それは特に運営面で顕著であり、科学的研究にとって大変優れた環境がある。京都大学滞在中に私には日本人や現代的歴史的文化に直接触れることができ、好印象を抱いた。(理)

私には 教授や共同研究者との共著がある: 1. ... 2. (理)

とても素晴らしく友好的な雰囲気と、京都大学の日本人の友人の特徴である研究に対する熱意に立派な機器があいまって、有意義な結果を得させてもらった。第1回の滞在中に得た結果でさえ、今でも実際に生きており重要である。(理)

成果を上げた: *高性能の受入れ担当チーム。*高レベルな学科。*自由に閲覧可能な大量の蔵書が備えられた素晴らしい図書館。*京都大学だけでなく日本中の他の大学の仲間との実り多いディスカッションや交流。*招待ゲストとして日本の2つの会議に参加。*同僚や日本人一般の親切。*美しい環境。(理)

非常に素晴らしい支援と研究施設。受入れ研究室は で継続的研究に熱心であった。(理)

実験の計画開始が遅過ぎた。技術面での困難さにより、研究目的は完璧には果たすことはできなかった。(理)

京都大学の施設は非常に素晴らしかった。私を担当した教授は潤沢な資金がある研究室を持っている。私たちは行った全ての研究を発表することができた。(理)

最も意味のある成果は、若手の協力者とも、個人的な契約を確立できたことであった。(理)

日本での研究は、私にとって初めての外国体験だった。私と同じ分野に携わる日本人の研究者たちは驚くほど優れた研究を行っている。彼らの勤勉さには非常に良い印象を受けた。京都大学(京大)は日本一の大学といって良いだろう!(理)

今回の訪問は、JSPSと京都大学の教授に申し分なく準備していた。一般の財政支援で、移動や滞在の前に非常に効率良く整えてもらった。私の講義に何人かの若い学生が出席し、熱心に耳を傾けてくれた。受入れ教授と一緒にいくつかの核生成の研究を終え、滞在から帰ってすぐに発表し、第22回低温物理学国際会議でも発表した。これは京都のグループとの新しい共同研究の始まりとなった。例えば、 氏は共同研究継続のため、2001年に7ヶ月パリの私の元に滞在中、 教授も1ヶ月滞在中。(理)

受入れ先の教授や大学の物理学部の原子核理論グループの同僚の協力のおかげで、学術的に非常に有意義な訪問となった。また、私が参加した他の学部のセミナーも全て英語で行われていた。おかげで積極的に参加することができた。(理)

2001年1月27日から2001年3月26日まで、日本学術振興会と中国科学院との科学協力事業のフレームワークの中で教授に招かれ、京都大学理学部宇宙物理学教室で、Be星とそれに関係する早期型星に関する共同研究を行った。1. ("研究内容")2. ("研究内容")3. ("研究内容")4. ("特別講義内容")5. 空き時間を使って、 教室の図書館員に日本語を習い、1年以上学習してきた日本語が上達した。おかげで日常生活において日本語でやりとりできるようになった。(理)

スーパーコンピュータを正式に利用することができなかつたし、マニュアルが全て日本語で書かれていた。もっと学生と交流を持ちたかつた。(理)

京都大学は数学、特に代数幾何学での国際的なセンターである。京都滞在中の2週間に、京都大学、大阪大学、名古屋大学で講義を行い、次の3つの会議に出席した: 1) ("会議名")、2) ("会議名")、3) ("会議名")。私は日本の幾何学者30人以上と話しをした。今回の訪問を基に、代数幾何学に関する論文を1件書き上げた。我々はまた、両国の代数幾何学者団体の間に良好な関係を築いた。例えば、日本の数人の代数幾何学者は代数幾何学の国際会議で、我々を援助してくれている。我々は合同会議を開催する計画を立てている。中日代数幾何学会議(私の大学で)。(理)

京都大学滞在は、得られた結果のおかげで成果を上げた。これらの結果は成功したと推定しており、プロジェクトのもとで研究して得た知識は、この分野の今後の調査で使用することができる。ここ京都大学では、前には使ったことのない実験機器を使う機会があった。日本で開催された国際的なシンポジウムに参加し、結果を報告する機会は非常に重要であった。(理)

滞在に関しては、大変気持ちの良い手配をしていただいた。京都大学は国際的に数学の特に確率論の分野で認められており、大変高度なレベルの研究が京都大学および関西では行われている。(理)

医学部・医学研究科

受入れ教授は学術面で名高い素晴らしい人物である。私の訪問について気を遣ってくれた。私たちは自由にアイデアを交換し、私は教授から多くを学んだ。(医)

私の滞在はまだ終わっていない;現時点では、私の研究成果はうまくいくであろう。恐らく非常にうまくいくであろう。(医)

医学研究科の細胞生物学と神経生物学部門で研究した。今回は短期間であったが、非常に実りの多いテストを行った。これらの手法を勉強できたのは、 教授が施設と何らかの点での自分のスタッフの援助を提供してくれたからである。(医)

私は1999年の1月6日に、中国の University から、博士課程を修了した研究員として京都大学へやって来た。私の中国での元々の分野は薬理学であった。京都大学の医学研究科では、 教授の指導のもと、("研究内容")を勉強した。2年間の研究活動の後、私は を発見・証明した。我々の原稿は一流専門誌の一つに提出された。これにも増して、指導教授である 博士の指導と指揮に感謝したい。 博士の研究室では、厳格で広範な指導を受けた。毎週のグループミーティングでは、 博士は我々の実験について具体的な指示を与え、我々が実験の中で遭遇した問題をつきとめるのを手伝ってくれた。毎日の研究活動では、 博士の助手の博士が、特に日本に到着した最初の数ヶ月の間、私の研究プロジェクトのために多くの助力と指示を与えてくれた。それに加えて、 博士のグループミーティングでは、全員が英語で話さなければならず、発表資料は英語で書かなければならなかった。この経験が、私の英語を話し書く能力を高めてくれた。毎週、我々には火曜日と土曜日の午前中に2つのセミナーがあった。頻繁なセミナーが、最新の生命科学に関する私の知識を新たにし、見解を広めてくれた。私自身も、京都大学に滞在した2年間に、セミナーで数回発表を行った。私にとって非常に有益な訓練となった。 博士の研究室は非常にうまく組織され運営されていた。助手、技術者、大学生などを含むそれぞれが、明確な責務を負っている。例えば、技術者の任務は助手の研究活動を支援することであった。彼らは優れた技能を備えており、研究者が優れた信頼できるデータを得るのを助けるために最大努力をしている。特に、("研究作業")、大規模な("研究作業")などといった決まりきった研究作業の一部は、個々の技術者の担当であった。そのため研究者は、日常業務にさほど時間を割く必要がなく、自分のプロジェクト活動に集中できた。研究者にとっては大きな時間の節約となり、実験費用も安くなった。こういう理由から、 博士の研究室は非常に効率が良かった。一言で言うなら、京都大学での2年間の研究活動は私にとってまさしく本物の経験であり、科学研究者としての基礎的集中訓練を提供してくれた。(医)

私の研究室は設備が整い、良好な技術支援を受けることができた。このことが私たちの研究を生産的なものにした。こういった要因は受入れ施設によって大きく異なることから、成功/失敗を予測するうえでは有効な特徴と捉えることはできない。(医)

*耳鼻咽喉科の医師たちは私にとってもよくしてくれた。親切に手厚くもてなしてくれ、私が気持ちよくいられるようにとあらゆる面でできる限りのことをしてくれた。*研究活動に関して様々な意見を交換することができ、インドに戻ってから、博士を講座のディレクターに迎えて、音声手術の研修会を行った。*インドでは行われていない様々な手術を学んだり見学したりし、今ではインドでも同じことを行っている。*京都と大学さらには何にも増して人々は、今まで会った中で最高である。(医)

日本滞在の際には、京都大学で実験室の記録システムの構築と実験の実施を主に行った。システム構築は滞在の最初の1週間で終了。記録室は、アメリカの私の研究室で日本に来る以前に製造した。しかし、その他の記録用機器は京都大学の学部で組み立てられた。私の日本滞在の2週間は、教授や教授と、実験に従事した。("研究内容")(医)

成果を上げられた理由: *JSPS 研究員としての日本政府によるサポート *研究所のリソースの豊富さ *教官と教官の奥様の援助。(医)

成果が上げられたのは、一緒に研究した人々がその研究分野において非常に優秀で、また親切だったからだ。彼らはよくわかる英語で話してくれたので、日本語のできない私でもそれほど不自由することはなかった。(医)

2000年9月1日から11月30日まで、京都大学で、研究プログラムを終えた。今回の研究では、教授をはじめ、あらゆるドクターやテクニシャンの方々の特別な援助を受け、また核医学・画像診断学科の多くの核医学のマシンや設備のモデルを利用させてもらった。現在、私は 大学と 病院の院長を務めており、京都大学で得られた知識を研究や学生や患者のために活用している。(医)

京都大学病院に滞在した3ヶ月の間に、("研究内容")。言葉の問題(私は日本語ができない)があったにもかかわらず、この実習コースの期間に、肝臓移植について多くのことを学ぶことができたと思う。それでも、ほとんど全ての会議やディスカッションが日本語で行われていたことから、もし日本語が分かれれば、きっともっと多くを学ぶことができたであろう。残念ではあるが、私にはこのサービスの潜在能力を最大限利用することはできなかった。(医)

私たちは素晴らしい共同研究が行え、結果としてよい論文が書くことができた。いまだに研究室の教授やスタッフやポストドクや学生たちと連絡をとりあっているくらいである。(医)

私が所属した研究室のスタッフや学生たちは、私が過ごしやすいようにいろいろと手助けをしてくれた。(医)

("研究分野")の世界的権威である 教授のお誘いに預かり、「新しい("研究分野")」の先駆的な研究に携わることができてとても光栄だった。(医)

京都大学での滞在中にとっても印象に残ったのは、教授も学生たちも大変研究に熱心だったことだ。私の京大での研究も成果がでたのも、こうした世界的な共同研究のおかげである。(医)

薬学部・薬学研究科

私は、2000年6月から11月まで、6ヶ月間京都大学(薬学部、研究室)で研究を行った。私の日本訪問は教授の寛大な招請と、日本学術振興会からの財政援助によって実現した。私の日本滞在は、職業上の成長と教養の向上の両方の観点から、大きな成果を上げた。教授の研究室では、実り多い実験活動と理論的活動のあらゆる機会があった。私は、("研究内容")に加わっていた。私の主な任務は、("研究内容")ことであった。教授、博士、日本人学生からの継続的な支援のおかげで、私はこの任務をうまくこなすことができた。得られた結果は2つの会議で発表され、2つの論文にまとめられた(そのうちの一つは に既に発表されている)。(薬)

私はイリノイ州に拠点を置く Corporation の上級研究科学者である。 は("研究分野")に非常に興味と関心を抱いている。私は、 教授とそのチームが行っている("研究分野")の進展状況を観察するために、1999年夏に派遣された。大学院生と大学院を終えた両方の研究者が研究実施に非常に熱心なのが判った。教授のチームはまた、この分野で別の教授のチームと密接に協力して研究をしていた。3ヶ月という短期間に、私たちは に発表するのに十分なデータを生成した。私はこの論文の共同執筆者である。この経験から蓄積した知識により、新しい("研究分野")にさらにうまく対処できるようになった。(薬)

日本での滞在は驚きの連続だった。研究グループに参加させてもらえて非常に嬉しかったが、いくつかの理由により「十分な成果を上げられた」とは言えなかった: 1. 論文を発表するという約束があった、2. ミーティングが日本語で行われた、3. 我々が必要としているのは温かい対応で、堅苦しい対応ではない。特に来たばかりの頃に助けを必要としている、4. 日本人は外国人を信用していない、5. おそらく期間が短すぎた。(薬)

京都の滞在では、学部や学科のメンバー、その他多くの人々の温かく迎えてくれたおかげで成果を上げることができた。(薬)

学部の人たちは私が滞在しやすいように心配りしてくれた。研究での助力はもちろんのこと、私の日本国内での旅行や、住む家についても配慮してくれた。おかげで、大学から数ブロック先という近くにアパートを見つけることができた。(薬)

京都大学の滞在期間はとても限られたものだったが、日本の同僚たちとの共同作業で、研究において様々な成果をだすことができた。科学に関して今でもコンスタントに連絡を取り合っている。(薬)

1. 素晴らしい指導者。2. 活動的、協力的で親切的な研究室のメンバー。3. 卓越した学問環境。4. これら全て欠くことができない。(薬)

私は4度京都大学のほうへ訪れたことがあるのだが、どの滞在も素晴らしいものであった。それには2つの点があげられると思う。1点目は、研究環境、器具や装置などが素晴らしく、またこれらを扱っている会社が修理したりなどというサービスも充実している。2点目は、 教授、 教授など("研究分野")において大変レベルの高いかたがそろっており、また大変心安く付き合ってくれたことである。私の日本滞在中だけでなく、中国にいるときもその協力的な研究が行えているのである。私たちのこうした共同研究作業から私は大学へは大変よい印象を受けた。京都大学と私の大学同僚に感謝の意を述べたい。(薬)

工学部・工学研究科

私の滞在は全ての面で非常に素晴らしいものであった: (i) 優れた科学的共同研究 (ii) 素晴らしい京都 (iii) 日本の人との数多くの友好関係 (iv) 興味深い文化(工)

京都大学の研究室は、研究設備が非常によく整っていたので、比較的よく研究に従事できたが、研究室がドイツの研究室よりも狭かった。教授と他の研究者ならびに学生は大変親切で、彼らと一緒に問題なく研究できた。残念ながら他の研究室との交流が殆どなかった。1年間で私の京大での研究を終わらせるのは無理だった。最低2年は京大で研究をしたかった。(工)

教授というとても素晴らしい担当教授と巡り会えた。教授は大変根気よく、私のために大変素晴らしく行事がほぼ100%の滞り期間を設けてくれた。教授の大学院生と講義は大変役立った。教授の研究室の設備は大変素晴らしく、私が研究課題をより理解するのを助けてくれた。工場視察は大変有益で適切であった。また、視察の全般的な立案や実施も非常に優れていた。自分の研究に関係のある多くの論文を集めることができた。(工)

* 私が知らなかった実験や京都と日本で得た結果について学んだこと。* コンピュータ操作の問題で博士課程の学生を手伝った。* 受入れ担当者は非常に親切で、私の訪問を非常に効率よく手配してくれた。* 研究所から離れて暮らしたことで、本を書く時間が得られた。* 受入れ担当者は非常に親切で、私の訪問を非常に効率よく手配してくれた。* 京都大学と東京大学で講義を行った。* 数大学を訪問した。* 受入れ担当者は非常に親切で、私の訪問を非常に効率よく手配してくれた。(工)

(i) 学科の教授と 教授は両方とも、世界的に名高い優れた科学者である。(ii) 学科には、素晴らしい研究機器がある。(iii) 運営スタッフは非常に協力的である。(工)

京都大学の研究仲間との非常に密接な関係により、私の滞在は実り多いものとなりました。この密接な研究状況によって、私たちの研究は迅速に進みました。米国に帰国するにあたって、私たちの共同研究はペースを速めて続けられました。私たちの共同研究はつい最近、国際会議での数件の発表へとつながり、それらの会議の会報に掲載されました。(工)

日本で、高品質で高性能な機器を使えることにより、非常に興味深い結果が得られる。(工)

すべてのことが非常に効率よく編成されていたため、私の滞りはうまいことだった。教授は優れた科学者であるだけでなく、非常に素晴らしい担当教官にもなってくれた。教授とその学生は私の滞在を快適で実り多いものにするために、できるだけのことをやってくれた。また、言語の壁が時には非常に高かったとしても、京都大学で関わった他の誰もが私に対して親切で、とても丁寧であったことを付言する。(工)

質の高い教職員。大学院生の興味と熱意。受入れ担当者からの厚遇。(工)

京都滞在中は、教授から大きな支援を受け、それで("研究分野")という元々の私の研究目的を達成することができ、その後非常に簡単にレポートを完成することができた。そういった支援には、私が必要とした関係資料や情報の提供、関連学者や関係者の紹介(これらの人は私が研究課題についての多くの疑問に回答を出すのを手伝ってくれた)、関連した事例の実地調査などが含まれる。(工)

受入れ担当者は私の滞りがうまいことのようにとても尽力してくれた。国際交流会館での滞在を心から楽しんだ。(工)

日本の学者と学生の熱意と寛大さ、個人的で規定によらないアプローチ、高レベルな学術研究。(工)

私のパートナー(教授、博士)とそのチームからの素晴らしい協力(工)

ここでの環境(実験室での)が、自分の研究分野に関する理解を深めるチャンスが多く与えてくれた。それにも増して、教授たちは非常に知識が豊かで親切である。(工)

1)JSPS と京都大学は優れた研究環境を提供している。2)私の担当教官はその研究分野では有名な研究者(科学者)である。3)その部署の同僚は非常に親切で協力的である。4)研究分野やプロジェクトが進んでいる。5)京都大学や日本の他の教授や研究者とのディスカッションは非常に有益である。(工)

私は、を専門に扱っている韓国の政府機関の研究員である。その機関の私たちのグループは、特に を扱っている。京都大学滞在中に私の研究グループが行ったプロジェクトの一つが の開発、設計をすることであった。帰国後、私たちは を製作し、成功した。この国で成功した の第1号である。(工)

京都大学の多くの研究室を見学したり訪問したりして、特に研究や研究に使われている機器に関連して多くのことを学んだ。京都大学の少数の教授や講師と、彼らの研究および共同研究の可能性について話し合った。マレーシアで自分の研究を確立するうえで、本当に役に立っている。(工)

* 非常に協力的で親切な研究室のメンバー。* 研究室内の柔軟性に飛んだ協力関係。* 私の滞在に対する優れた手配と支援(例えば京大の日本語クラスを訪れる機会など)。(工)

京都大学の教員や職員はとても親切であった。京都大学や他の場所でのミーティングやディスカッションの手配を手伝ってくれた。それらのミーティングでは実り多いディスカッションやコメントがあった。(工)

厚意、優れた研究設備、とても素晴らしい受入れ担当者。(工)

* あらゆる設備を利用する機会。* とても温かく親切な歓迎。* 組織的には若干お粗末であった。;「本当の共同研究」

自分でものごとを手配しなければならなかった。* 京都大学からは何の財政援助もなかった(地元で行われた会議参加のためでさえ)。(工)

優れた機器が実験の成功を支えている。教授と全スタッフの親切と励ましが、あらゆる達成の後押しをしている。ありがとう!(工)

京都大学滞在中は、6ヶ月間 教授の研究室に所属した。教授と 博士からは大きな尽力を得、到着後すぐに落ち着いた研究活動を始めることができた。研究活動以外にも、教授は私のために多くの企業視察を手配してくれ、興味深い会社を訪問してその技術者と話をする機会が得られた。私の滞在の成功にとっては、担当教授が極めて重要な役割を果たした。(工)

担当教授、助教授との良好な関係のおかげで非常に優れた科学的結果を得られたことから、京都大学でのこの1年間の滞在は大きな成果を収めた。開放的であることも、研究室にも京都にもうまく受け入れられる上で大きくプラスに働いた。(工)

* 京大の人からの良好な受入れ状態。* 京大のチームの高い科学的能力。(工)

京都大学で私が参加したグループは、世界の一流グループである。そこでは非常に多くのことを学んだ。後の私の研究活動にとって、計り知れないほど貴重な経験となった。(工)

(+)担当教授との素晴らしいディスカッション。(+)優れた技術設備/支援(コンピュータなど)。(+)大変友好的な教授、学生、その他のスタッフ。(+)研究室から自転車を貰いとても役に立った。(+)言葉の問題から、学生とのコミュニケーションが少し大変なときがあった。(+)国際交流会館での快適で廉価な滞在。(工)

* 幅広い研究者との実り多いミーティング。* 大学内の学問分野を超えた良好な協力関係。* 日本国内の様々な異なるグループ間の良好なコミュニケーション。* 好奇心に駆られた研究に対する支援。(工)

受入れ担当者の大きな厚意。非常に良好な研究条件。私たちの共通の科学分野に関する効率のよい日々のディスカッション。(工)

1)ヨーロッパでの研究に関して、日本の学者からの真摯な興味を発見した。2)将来の協力関係のために良好な状況を築こうとする強い衝動(これは訪問した大学のほとんどに当てはまる)。(工)

私(あるいはほとんどの科学者)に、ディスカッションや京都大学の研究所を訪問する時間がもっとあったならば、大きな成果を収められたであろう。(工)

数年にわたり京都大学の教授と共同研究を行う機会があった。(工)

教授の寛大な支援のおかげで、京都大学での私の滞在手配が完璧だったことに非常に感謝しなければならない。京都大学の有名な科学者たちと多岐にわたるディスカッションを実施し、で私たちの("研究内容")のためのデータを入手した。私には、日本に以前滞在したときにできた友人が京都大学にいる。ディスカッションは和やかで独創的な雰囲気の中で行われた。教授(とても若くとも有名)には非常に刺激を受けた。私は今でも彼のデータの研究を行っている。今回は私にとって2度目の京都大学滞在であった。(工)

この研究は日本人の同僚にとっても、私にとっても興味深いものだった。この仕事は幾度も議論を重ねなければ不可能だっただろう。残念ながら期待していたような結果は得られなかった。そのため「十分な成果を上げることが出来た」を選択しなかった。今度はまた別の研究を行いたいと考えている。何故なら京都に滞在中に行った科学的な議論が非常に好ましかったからだ。(工)

ホストの教授が、協力者として最も優秀な学生の一人である氏を紹介してくれた。氏は我々が予定していたいくつかの実験で素晴らしい成果を上げた。(工)

今回の滞在中、研究面では確実に成果が上がった。仲間たちとたくさん意見交換し、非常に意味があった。指導面では、学生の質にショックを受けた。また、対話式の授業や課題に十分に取り組むという概念がないのには驚いた。印象としては、学生は熱心に研究していないのではないかと感じた。(工)

「経験していない現象はモデリングできないし、予想していない現象は効率良く測定できない」挨拶状のこの部分が状況を説明している。(工)

非常に良い点は、京都大学や民間会社が関わった最新の研究で、("研究分野")に関するものだ。(工)

日本の機関や多くの素晴らしい人々の好意により、日本には研究目的で3回来たことがある。職業の上でも人間的にも非常に感謝したいと思う。おかげで日本や日本の人々、文化、生活の仕方も好きになった。日本の同僚たちはいつも私に優しく丁寧で、快適な研究環境で大いなるモチベーションを与えてくれるので、最終的に研究や協力関係に良い結果が生まれる。唯一残念だったのは滞在中が短すぎて、基本的な日本語さえ覚えられなかったことだ。覚えていたら大変役に立っていただろう。京都大学には非常に感謝している！京都も日本も大好きだ。(工)

京都大学には研究活動を支えるための施設や財産がかなり十分にある。図書館と図書館の文献検索システムはスピードが速くてアクセスしやすい。実験研究のための質の高い様々な設備と、数値シミュレーションを行うのに十分なコンピュータとワークステーションがある。研究者間のコミュニケーションやディスカッションは研究室のミーティングを行うことで維持されており、研究レベルを高めるためのコメントや質問を集める機会を与えてくれる。国際交流が非常に活発であり、そのことが、人々が世界規模の研究活動に接する機会をひいては研究プロジェクトで新しい課題に着手する十分な機会を与える。(工)

教授との共同研究は非常に有意義だった。(工)

(1) 滞在中にいくつかの論文の執筆を終え、国際雑誌で認められた。京都大学研究センターに在籍する前だったからだ。サンプルも目標も全てうまく準備できた。(2) この期間に、グループ内の学生と頻りに意見交換した結果、実験がやりやすくなった。(3) 受入れ先の教授の助けが大きかった。教授と教授は私の研究プロジェクトについて質問し、議論してくれた。(工)

1. 滞在中、京都大学の支援を受けて多くの大学や研究機関を訪れた。そこで意見を交わしたことが、台湾で研究プログラムを進めるのに非常に役立った。2. 滞在中、いくつか京都大学の研究プログラムを展開した。(工)

農学部・農学研究科

1. 研究を担当してくれた教授は、文化の違いに非常に理解を示してくれ、親切で、教授がどんなに忙しくても、私は一緒に研究することを楽しんだ。2. 学生は(最初は恥ずかしがっても)友好的で、とても親切で協力的であった。3. 施設よく開発され、利用できるよりにされている。(農)

私は、1995年1月 - 1996年1月、1998年7月 - 12月、1999年12月 - 2000年1月の3回、京都大学に行った。

実験室の教授との共同研究で大きな成果を上げ、実験室の講師や学生から親切な支援を受けた。私は5件の論文を書き上げ、国際的な専門誌と日本の専門誌で発表された。元々の目標であった、農学博士号を受けた。(農)

ドイツにはない新しい技法を完璧に学ぶ機会を得られたため、滞在は非常に興味深く大成功であった。同僚は大変協力的で、一切問題を感じることなく研究ができた。管理上の疑問や問題も大してないまま、非常に簡単に研究作業を開始できたことに驚いた。ドイツでさらに研究するための、非常に興味深いサンプルを多く入手することができた。多くのディスカッションが大きな成果を上げた。最後になったが、日本の文化特に京都について多くを学ぶ機会があった。非常に素晴らしい時を過ごすことができ、私たちは非常に緊密な形で共同研究を続ける計画である。(農)

担当の教授は、大変丁寧に指導してくれる。博士課程終了後の研究者や大学院生は、とても親切に、自分の研究についての考えや、私の研究についての意見を披露してくれる。彼らは英語に難点を抱えているが、コミュニケーションを取ろうと一所懸命になってくれ、それが非常に大切である。(農)

京都大学滞在中の私の研究がうまくいった理由は: 1. 京都大学内の器具や実験室の使いやすさ 2. 論文で引用するために多くの専門誌や参考書が検索可能(農)

第一に、監督教官が私の研究課題と内容に賛同してくれた。また、日本学術振興会(JSPS)の委員会が、日本滞在中の私の博士号プログラムの資金を援助してくれた。多くの日本人科学者から技術協力を得、全ての先生から機器、材料、励ましのディスカッションを提供してもらった。特に先生からは、京都大学での私の研究中には特別の指導、アドバイス、監督を受け、全ての原稿作成を励ましてもらった。私の論文提出については委員会から素晴らしい賞賛を貰い、京都大学での博士課程を修了する手配をしてもらった。(農)

暮らし方、教育、文化、環境など多くの側面から日本の印象を受けた。学術的な経験と博士号も得ることに成功した。(農)

1995.12-1996.10 UNESCOの微生物コース。("研究内容")。1999.7-2001.6 JSPSのポスドク。("研究内容")の研究を行い、興味深い新しい反応を発見し、いくつか論文を書いた。発表済みのももあり、今後質の高い国際雑誌で発表されるものもある。大きな目標が達成できた要因は、受入れ先の研究室が研究を行うのに申し分のない環境であったのと、協力関係が素晴らしかったことの2つが挙げられるだろう。京都大学は非常に研究に適した場所で、調査や研究に大いに役立った。(農)

日本訪問は良い機会であった。日本人の科学者の方々と一緒に研究するチャンスがあり、日本が何故これほど速く成長できたかがわかった。日本の生活スタイルは私の国とは全く異なっている。誰もが非常に熱心に働く。そのことに強い印象を受けた。(農)

研究室では学生もスタッフのメンバーも非常に友好的で、援助してもらった。これはプロジェクトを成功させるのに重要な要因である。(農)

私は("研究内容")を研究していた。これに関していくつか成果を上げることができたが、原因の解明という問題は解決できなかった。(農)

成果が上がった理由: 研究活動に関しては、私の監督教官(教授)と議論を交わす機会に恵まれ、研究の提案をうまく変更できた。成果が上がらなかった理由: この分野で博士号を取得するため、日本からのさらなる財政支援を希望していたのだが、未だ情報が得られていない。横浜の ITTO(国際熱帯木材機関)に申請し、機関からの推薦を待っている最中である。(農)

最終的に京都大学で博士号を取得した。(農)

・滞在中で成果が上がるかどうかは、計画の出来と現地の支援によって決まる。私の場合、仲間や職員の一人から全面的な支援を得ることができた。・素晴らしい図書館・英語による情報がある(読み、書き)のは良いが、言葉によるコミュニケーションは2人の職員としか持てなかった。大学院生と議論するのは困難だった。・国際交流会館の宿泊施設は非常に便利だった。・京都の文化環境は独特であった。(農)

ご存知の通り、日本への科学的目的を持った訪問は、1999年にJSPSの招きで実現した。JSPSに提出する研究レポートの中で述べているが、京都大学や機関の研究者の方々や質の高さに心から感銘を受けた。日本でのプログラムで、多くの科学者やエンジニアの方々と会う機会があった。農村の統合開発計画や耕地整理について様々な問題を議論した。科学的な議論は非常に好ましく、有意義である。その後、日本の農村で実施されているプロジェクトにも強い印象を受けた。今回の訪問で、日本についてだけでなく農業従事者の方々についても知るチャンスが得られた。(農)

学内ではとても居心地のいい環境だった。私は大学の外国人用の建物に滞在したが、とても住みやすく、値段も高くはなかった。京都はとても美しい街だった。(農)

教授とともに研究をし、その結果として国際ジャーナルに4ページの論文が掲載された。(農)

今回の来日で、2つのことで成果があった。ひとつは、化学に関して、以前はそれほど詳しくは知らなかった分野の素晴らしい知識をえることができた。二つ目は日本人や彼らの生活習慣についてより知るようになった。これは私にとっては前者よりも意義深いことである。ホストの教授はとてもいい方であり、またグループのメンバーも私の滞在をよすばらしいものにしてくれた。京都という街もとても魅力的であった。私がこれまで訪れた街の中で、一番すばらしいと思う。(農)

担当教官やそのほかの研究員のメンバーも私の研究には詳しくなかったのか、関心を持ってもらえなかった。その他の日本の大学教授たちにも、彼らの論文に対する私のコメントに関心を持ってもらえず、ほとんど議論にならなかった。(農)

文化も豊富で美しい街に滞在できて素晴らしい。教授のおかげで、滞在中研究成果も出せた。修学院の国際交流会館のサービスのおかげで、私のような日本に不慣れな者にとっては多くの時間や労力を省くことができたと思う。(農)

教授の指導のもと、("研究分野")への理解が深まり、大変幸せである。教授は大変有名な学者であるとともに科学者であり、外国人客員研究者を呼びよせることに大変熱心である。彼からは新しい方法やアイデアをたくさん学び、現在中国でより高度な研究を行っている。彼の研究室の人たちもいると私を助けてくれた。私が接した事務の人や秘書のかたたちもとても親しみやすく親切だった。京都大学での思い出はとても素晴らしいものである。(農)

私の研究の主題は、("研究内容")である。私の研究の重要な部分は京都大学で実際に行われている実験を観察して理解した上での理論の応用である。このモデルは、("研究内容")が基本となっている。(以下"研究内容")(農)

研究室のみんなはとても親切であったが、研究のほうでは、計算に関して私のモデルは成果があまりなかった。(農)

京都大学での滞在中が有意義だったのも、教授のおかげだと思う。とても素晴らしい滞在中を申し出てくださった。大学院生のために2つ講義を行い、私のグループが研究している大変興味を持っているトピックの福岡での会議にも出席するチャンスに恵まれた。また東京、広島、瀬田、福岡の大学を訪れる機会をえて、セミナーを開き、最近研究室で行われている研究の発展についている議論もあった。日本人の科学者と知り合える機会に恵まれ、そのうちの何人かとはよい友達になれた。

教授とともに("研究内容")について共同研究を行い、私の滞在中以来、この先2つの論文が発表されることと思う。(農)

京都大学の建設的な研究環境のもと、素晴らしい実験結果を使って私たちはいくつかの興味深く挑戦的な研究を行い、結果を質の高いジャーナルで論文として発表できた。また、京都大学の優秀な科学者たちと研究して、新たな方法論やアイデアを学べた素晴らしい機会を得ることができた。(農)

私が所属した と の学部は国際的にもとてもレベルが高く、研究室であったもう一人の外国人客員研究者もまた同じくらいレベルの高い人で、滞在中はすばらしいものになった。ホストの教授はとても力になってくれた。(農)

日本人の同僚との研究はとても実りのあるものになった。その共同研究からいくつかの科学雑誌に論文を掲載できた。(農)

1.京都大学とその他の日本の大学の研究者の間で相互関係を結ぶことが促されること。2.研究者が外国に行き、研究のあらかじめ決められたテーマに関しての時間的なことへの変更の自由があること。3.より一般的な環境での地元の人との交流。以上のことが成されたらもっとよいだろう。(農)

私が京都大学にきたことによって、教授と彼の研究グループとの間の長期にわたる研究共同作業が確立された。共同作業は私の京大滞在中以降も続いた。(農)

教授と 教授とは長い間協力関係にあり、おかげで国際科学的な会議や国際的な科学ジャーナルにいくつもの共同研究論文を発表することができた。(農)

京都大学は研究においても教育においても世界でトップレベルの大学である。大学の人々、特に化学研究所の 教授と 教授の研究室の人たちはとても優秀で温かくもてなしてくれた。また 教授の研究室では、("研究分野")についてたくさん学べた。(農)

1.私の滞在中のあらゆる面で教授はとても協力的だった。2.彼はその分野においては日本だけでなく世界でも先端を行く人で、私のために気持ちよく招待してくれた。3.学部内や学部外のような分野の教授たちと議論する機会に恵まれた。そうすることで、研究に関してだけではなく、大学の行政組織や事務組織についても知ることができた。4.他の4つの大学でセミナーや講義を開く機会を与えられ、他の大学を知る良い機会になった。(農)

京都で得たものは大きく、おかげで帰国したドイツでよりよいポジションを得られる結果となった。大学はドイツでのいいポジションを見付けるのにも手助けしてくれ、また、コンピュータなどの素晴らしい設備のおかげで研究としてもよい成果を得ることが

できた。京都大学で以前は全く知らなかった方法論も学んだ。京都大学は研究環境もすばらしく、研究室のメンバーとの共同作業で私の研究の素地が、また外国に住んだことで自分の視野もひろげられた。私が京都大学を去ったあとも、研究の共同作業は続いている。(農)

研究グループの質はとて高く、コンピュータや本、ジャーナルなど様々な必需品も自由につかうことができた。また、コンピュータの設備はすばらしかったが、UPS タイプの電源が足りなくて、2 度ほどトラブルにあってしまった。同僚の日本人の、コンピュータのソフトやハードの両方の専門技術は目をみはるものがあった。私がお世話になったスタッフたちは年齢に関係なく、私の研究に素晴らしい理解を示してくれ、共通の部分ではアドバイスもくれた。多分あの複雑な計算を行えるところは世界でも類をみないであろう。研究環境は素晴らしくみんな親しみやすかった。彼らは私の異なった文化背景をよく理解してくれ、日本の生活スタイルに私が慣れるよう助けてくれもした。何人かの学生は英語でのコミュニケーションに困難を覚えているようであったが、それは能力が欠落しているのではなく、精神的なものであるようだ。その他の学生は英語の能力もたかく、一緒に研究して何も不便を感じなかった。私は日本語を学ぶ機会をえることができ、一般の京都の市民にも暖かく迎え入れられたし、また私の国から来ている学生たちにも会うことができた。私は家族と離れて日本にきていたので、祖国の学生たちとの出会いはとても心む思いだった。研究室の人たちには日常生活、特に住むところを探したりすることもお世話になった。修学院のゲストハウスに滞在できるように京都大学もいろいろと手配してくれた。私はそのインターナショナルでフレンドリーな雰囲気がとても気に入った。京都での滞在中、論文を一本かくことができ、またほか 2 本の論文のための材料をみつつけることができた。京都市はとてもうつくしかった。全ての神社仏閣を訪れることはできなかったが、様々な重要文化財にふれることができたと思う。健康にも問題がなかったが、北出身なので、夏はとてもつらく、AC はよく助けてくれた。岡崎と東京の会議に出席でき、京都で出会った人とこれからも連絡を取り合うつもりである。(農)

私の滞在中、スタッフや学生たちはいろいろと助力してくれて、とても快適に過ごせた。(農)

人間・環境学 研究科

1. 研究室メンバーの積極的助け。2. 総合人間学部図書館の積極的協助。3. 中央図書館の自由利用。(人・環)
私の滞在中、学科の支援スタッフはとて親切であった。受入れ教授の 博士も、私の滞在中は大きな助けとなってくれた。もともとは博士に Eメールで連絡をしたのであったが、親切にも返事をくれ、奨学金のための論文を手伝ってくれ、その奨学金で自分の研究のために京都大学に行けるようにしてくれた。(人・環)
京都大学では、("研究分野")の研究室に所属したのであるが、 教授や彼らのスタッフはとてよい方たちで、私の日本に来る以前から行っていたの研究をゴールに導く手助けをしてくれた。京大とあと舞鶴の水産実験所での研究に必要なものを与えてくれたり、環境を整えてくれたりした。また、私が舞鶴に滞在中に大変お世話になった 博士夫妻にも感謝したい。(人・環)
("研究分野") に関しての国際共同研究が成果を出したことで、アメリカと日本もその恩恵にあずかっていると思う。(人・環)
滞在はとても有意義なものであったが、日本学術振興会からの研究費に限りがあり途中でつづけることができなくなったのは残念であった。(人・環)
京都大学は国内でも世界的にも有名な大学で、勉強、研究、交換留学するにはとて素晴らしい環境だった。過去の実績に基づいて研究をスムーズに進められたのはとて効果があった。(人・環)
私は、1995.1-1996.1, 1998.7-12, 1999.12-2000.1. の 3 回京都大学に滞在中。研究室の 教授とも素晴らしい共同研究ができ、また研究室の学生たちにはいろいろと親切にもらった。また、米の遺伝子を見付け、登録することもできた。日本のジャーナルと国際ジャーナルの両方に 5 本の論文を載せることができた。私の当初の目的である農学博士とることができた。(人・環)
素晴らしい情報センターや私がかかわった人はその分野において、世界でも認められている存在だった。(人・環)
1999 年に日本学術振興会の招待で私は来日できた。教授陣や大学、研究所の質の高さに本当に感銘を受けた。日本では多くの科学者や技術者に会うことができ、地域開発や地盤強化に関して様々なことを話し合え、そうした議論は大変実のあるものであった。また、日本の地域開発プロジェクトに高い関心を持ったと同時に、日本の農家の人々にも出会えてとてもよかった。(人・環)

エネルギー科学 研究科

京都大学での滞在はほんの 1 週間であったが、私の経歴の中で最良の学術訪問の一つであった。 教授は、受入れ担当者として模範的だった。 教授や教授の学生たちと、アイデアを交換できた。出版を目的としたレポートの科学的指導、編集上の指導の点で、かなりの援助を提供する機会も与えられた。私の訪問は、私自身と京都大学さらには、 大学のセンターにとって非常に価値のあるものとなった。(エネ科)
学術スタッフと技術スタッフは非常に親切で、素晴らしい研究環境を提供してくれた。自分自身の研究についての講義を行うのと、 研究室で行われている数多くのプロジェクトを緊密にフォローすると両方の機会があった。それ以降も研究室とは密接に研究を取っており、数回研究室を訪問する機会があった。(エネ科)
1. 最近の機器や設備が充実。2. 優れた研究室。3. 経験と知識が豊かな講師。4. 研究が活発。5. 卒業率が高い。6. 私たち(パートナー)の間の充実した協力と交流。(エネ科)
若い人たちに講義を開いて、私の研究への考えがまとまり成果がでた。("研究分野")に関する私の講義が日本人研究者を刺激し、("研究分野")の方法論をとったようだ。(エネ科)

アジア・アフリカ地域研究 研究科

教授と 教授とは長い間協力関係にあり、おかげで国際科学的な会議や国際的な科学ジャーナルにいくつもの共同研究論文を発表することができた。(ア・ア)

教授のグループとともに研究を行った。研究の面でも、日常生活の面でもグループの人たちは私の滞在が良いものになるよう手を尽くしてくれた。今でも私たちは共同出版のために一緒に仕事をしている。グループがないで、様々なことを議論したのであるが、メンバーの年配のひとは英語をうまくつかいにさせるが、大学院生はまだまだ努力が必要なようである。京都大学だけでなくほかの大学の研究グループともコンタクトをとることができた。日本での滞在を本当に楽しめた。(ア・ア)
京都大学という有名な大学で働くチャンスを得られてとてうれしかった。特に、("研究分野")の分野では世界的に有名な

教授と働けたことは格別である。("研究内容")を終了した。これらはドクターコースにいた私の 〇〇の研究を広げてくれた。(ア・ア)

情報学研究科

私は、〇〇教授と〇〇教授と共に研究を行うために、2000年4月に1週間京都を訪れた。私たちは1つのプロジェクトをやり遂げ、もう一つの方では興味深い前進を遂げた。大学の近くに、とてもすてきな滞在施設を提供してもらえた。訪問者にとっては大変助かる。(情)

担当教授やその学生との科学的なディスカッションは本当に素晴らしかった。私たちは短時間で、("研究分野")について新たな独自の研究結果を見付けるのに成功し、ほどなくして〇〇に2つの論文で発表され好評を得た。私は数回の講演に招かれ、有能な聴衆を見出し、他の大学やセンターを数ヵ所訪問することができた。京都大学の研究環境(研究室、コンピュータだけでなく、必要品を買う店、食堂)も非常に優れていた。私が興味を抱く広範な分野の様々な質の高い施設が豊かに揃っており、("研究分野")の研究を超え、私の滞在を刺激的で実り多いものにしてくれた。温かく素晴らしいもてなしにとっても感謝している。それには、私を日本の文化や生活様式を示す重要な場所に案内してくれたことも含む。(情)

*あらゆる類いの研究支援を受けた。*担当教官と技術的なディスカッションを何度も行った。*わたしたちは国際的な専門誌/会議に多くの論文を発表した。*私の訪問は新たな分野を開始し、私たちは国際レベルで新しい会議を開始した。大変な厚遇を受けた。(情)

1.京都大学の研究者たちと多くの新しいアイデアを交換した。2.データベースと画像処理をベースとする私の研究に関する特別講義が、京都大学の大学院生を対象に行われた。(情)

とても良い環境。良いキャンパス。良い人たち。(情)

日本の教育制度についてさらには、京都大学の教職員や学生について - 彼らの研究や良好な関係について、理解を深めた。(情)

京都大学は友好的な場所で、公正に組織されているように思われた。私の JSPS 研究員はとても余裕があり、快適に過ごすことができた。だが、自分の研究に対する興味が徐々に失われ、十分な成果は得られなかった。おそらく、学部の職員がもう少し積極的に私と関わりを持ってもらえたら助かっただろう。しかし、滞在中の成果が期待外れだったからといって彼らに責める気は全くない。(情)

毎年2ヶ月間京都大学で過ごしている。訪問によって成果が上がったと考える理由は2つある。1つ目は、受入れ先の教授が非常に親切にもてなしてくれたこと、2つ目は、教授が多様な技術を良く理解し、社会や技術の変化を鋭い目で観察していることだ。(情)

京都大学滞在中に、教授、学生、スタッフから継続的な助力と支援を受けた。自分の研究展開の意欲を起こさせられる環境があり、素晴らしい経験であった。京都大学には優れた基幹施設や設備、非常に親切で用意周到なスタッフが揃っており、私の研究展開がさらに興味深く実り多いものとなった。こういった理由により、自分の元々の目標を達成できただけでなく、他の分野での知識を広めるとともに、予期していなかった多くの研究を行うことができた。併せて、担当教授の忍耐に感謝したい。言語の壁は自分の目標達成にとって障害ではなかった。(情)

生命科学研究科

多くの研究経験。(生命科)

活動的な〇〇教授の研究グループを訪問することができたのは、貴重な経験だった。また学生たちがどのように教授と接するかとか地元の産業とどう接していくかというのを学んだ。特に通信産業関連会社などを訪れることができたのは、とてもよい経験だった。(生命科)

6度京大のほうへ訪れたことがある。たいていは〇〇教授か〇〇教授の招きである。京都大学の滞在は大変居心地のいいもので、私に講義の内容を選ばせてくれるし、数学の素晴らしい図書館が使える、研究する時間も豊富にとれる。(生命科)

化学研究所

私個人の場合は、日本語が話せ日本の文化を十分に理解していることが、大いに滞在を成功に導いてくれた。(化研)

1. 何の制約を受けることなくプロジェクトの目標・目的を追求する自由。2. 教職員/同僚スタッフとの素晴らしい交流。3. 研究施設や候補地を見学する素晴らしい実地研究。4. 宇治キャンパスの国際交流会館という素晴らしい滞在施設。5. 優れたコンピュータ設備と世界の科学的文献、人物、ウェブサイトへのEメールによる通信。6. 海岸工学分野での世界の他の一流研究者の存在。(化研)

私が訪れた研究所は、私たちが行っていた研究にとって非常に優れた機器が揃っていた。誰もが最大級の尊敬を持って私に接してくれ、とても歓迎されていると感ずることができた。京都滞在中の2週間に、私たちはプロジェクトの非常に幸先のよいスタートを切ることができた。研究はその年の後に、研究を続けるためにマンチェスターの私の大学に研究学生がやってきた際に継続された。(化研)

1987年10月から1994年10月まで京都大学に滞在し、そこで理学修士号と博士号を受けた。その後中国に帰国し、大学に勤務しながら日本で行った研究を継続している。しかし、その間も自分の研究でよく問題(実験上、理論上)に遭遇し、日本で行っていた研究室に行くとそれらの問題を解決できたらと願っていた。というのも、その研究室は私たちの分野では世界最高だからである。京都大学での滞在を支えてくれたAIEJに感謝する。京都大学では、多くの実験に関する理論的、技術的知識を〇〇教授に授けてもらった、私たちの研究分野で展開中の傾向に関する情報も得た。今では、支障なく問題を解決し研究を行うことができる。最後に、研究室のリーダーである〇〇教授に謝意を伝えなければならない。私の滞在について非常に多くの面で尽力してくれ、私が成果を収めたと言えるなら、これが理由である。(化研)

京都大学の化学研究所は、日本の科学者と共同研究をするだけでなく、ポーランド・韓国・中国・米国・カナダ・英国・ドイツ・フランス・インドなど、様々な国からやってきた大勢の研究者や学生と会う素晴らしい機会を提供してくれた。本当に素晴らしい国際的経験、技術・アイデア・知識の交換であった。〇〇教授と〇〇教授(〇〇研究室)の指導のもと、私は国際的な科学専門誌に5件の論文を発表した。そういうことで、目的達成に関して成果を収めた。(化研)

研究室は非常に親切な受入れ先で、有能な共同研究相手であった。懸命に努力して、私が歓迎されていると感じさせてくれた。私たちの研究努力も大きな実を結んだ。数ヵ所で宿泊したが、宇治の国際会館の価格が最も手頃で宇治キャンパス

に最も近いことから、絶対に最良であった。夏期日本プログラムでは、最初の1週間に日本語と日本文化の指導をしてくれた。私の滞在を楽しく成功させる上で、これは非常に有益であった。(化研)

* 日本文化のよい経験、* 英国では行われていない新しい科学技術を馴染み深い材料に試してみる機会。(化研)

研究プロジェクトや研究プログラムの実施方法について、教職員から多くを学んだ。(化研)

温かいもてなしと、日本の科学者との良好な協力関係、高品質の実験機器、日本の共同研究者の高い能力。(化研)

科学的交流が非常に優れていた。私は温かく迎え入れられ、全てのことが私にとって容易だった。(化研)

京都大学は設備が整っており、研究活動を行うには優れた環境だ。(化研)

今回の滞在ではまあまあの成果が上がった。何故なら滞在期間が1ヶ月と非常に短く、あっという間に終わってしまったからだ。(化研)

京都大学では、化学研究所の 教授や 教授に、研究と生活の面で大変助けていただいた。おかげで多くを学び、後の私の研究の確固たる土台となる有益な研究を行うことができた。広島、仙台、東京、新潟など、多くの場所へ行った。非常に良かった。日本の環境も非常に良い。水は澄んで、山は素晴らしい。日本人の勤勉さには心を打たれた。(化研)

京都大学も我々の機関もお互いの長所を持っている。京都大学には世界で一流の研究技術や設備が整っている。我々には伝統的な経験や多様な資料がある。これらによって研究成果を上げることができた。(化研)

2年間の京都大学での滞在中に、私は2つのプロジェクトで研究を行った:1つ目のプロジェクトがうまくいかないと分かったとき、テーマを変更することが決められた。この新しい研究分野の中で、我々は将来さらに興味深い研究につながりそうな興味深い結果を発見した。収集した実験データの全てが、元々予見していた結果を得ることは不可能ということを示しているとかかなり早くに指摘したにもかかわらず、残念なことにテーマの変更を認められたのは1年半経ってからであった。それで、それ以上に成果を上げた2つ目のプロジェクトにつき込む時間は半年ほどしか残されていなかった。そのように短期間では、本当に徹底的な研究が不可能なのは明らかである。研究分野の変更がこれほどに遅れた大きな理由は、本当の科学的なディスカッションが一切行われなかったことだと考えている。滞在中に、この問題が日本の教育システムに備わったものであることを実感した。しかし、このことはまた、日本にやってくる意欲に燃え通常は十分な教育を受けている科学者のほとんどが、アイデアを交換したり知識を高めたりすることができないということでもある。日本側にとってはとりもなおさず、恐らく違った研究分野の知識が豊かな科学者の知識から恩恵を受ける多くの機会を無駄にしているということの意味する。外国からのほとんど客員研究者が直面するもう一つの問題が、言葉の壁である。科学の国際言語である英語で意志疎通が図れる学生がほとんど皆無であることに本当に驚いた。特に初めの、配置や機器にまだなじんでいないときには、たくさんの単純な質問をして明確にしなければならぬ。しかし、この言葉の壁のせいで、簡単なことの手配でも非常に長い時間を要することがしょっちゅうあり、それによって効率性のなさに繋がっている。さらには、私は日本語だけで行われている学生のセミナーに出席することを求められた。自分の日本語を向上させる良い機会ではあったが、自分がお金を払っている研究活動という点では、時間の無駄以外の何ものでもなかった。(化研)

宇治の化学研究所に2000年の1月の1ヶ月間滞在中、 教授と 博士と一緒に研究を進めるという環境に恵まれ、研究論文を仕上げ発表することができた。研究室には親しみやすくまた刺激的な環境にあふれ、京都大学のたくさんの蔵書にも触れることができた。以来私たちは連絡を取り合っている。私は現在のメンバーである。(化研)

私は化学研究所の教授グループのゲストで来日した。教授は("研究分野")の創設者でありリーダーの一人である。教授と物理研究所の教授と一緒に綿密な共同研究が行えた。今化学と物理の分野では話題になっている("研究分野")についても話し合えた。学生やポスドクとともに教授の活動に参加できた。教授は素晴らしい方だ。(化研)

人文科学研究所

京都大学での滞在中は、博士課程の研究の重要な時間を占めた。人文科学研究所は、自分の研究にとって非常に恵まれた環境だと思った。図書館では日本語で書かれた非常に重要な論文を多く見つけることができ、さらには、フランスや中国本土では絶対に見つけることができなかった中国語のもの(出所は台湾)もあった。 教授と さんからも非常に大きな援助を受けた。もちろん、日本語がよくわからないという事実は日本語の論文を読む際にも、私と同じ分野の研究をしている多くの人とコミュニケーションの点でもハンディではあった。現在は、博士課程を終えようとしており、フランスの中国研究グループで仕事を始めることを希望している。近い将来、京都大学の研究者との関係をもっと深められるようになるためには、時間を掛けてもっと日本語を勉強しないといけないと分かっている。(人文研)

1. 歴史的な文献が豊富で使いやすい。2. 研究所の高レベルの専門家からの大きな助けを得、私たちは大幅に前進した。3. 研究の条件や環境が非常によい。4. 生活の条件や環境も非常によい。5. 研究スケジュールがうまく立てられており、研究資金も潤沢である。(人文研)

京都と長崎の学者との数多くの非常に有益なミーティングが私のために手配された。このことは、その後の日本訪問を含め、長期的な研究プロジェクトの開発をもたらした。(人文研)

京都大学の図書館の蔵書は、幅広くて奥が深い。中院家本の研究は特にやり甲斐があった。京大図書館の職員は非常に親切で助けになった。私の共同研究者は何についても非常に知識が豊かで、時間やアドバイスを惜しみなく提供してくれた。私の滞在中の成功にとって、彼の助力は大きな要因であった。京都は異なっており関西の学者も異なっている。共同研究会に出席した経験から多くのことを学んだ。(人文研)

一緒に働いたグループのメンバーたちととてもよい関係が築けた。彼らはとても親切で、私も努力をしたおかげで、グループに溶け込めたと思う。(人文研)

私が研究したことは成果をあげることができ、私の日本滞在中は大変充実したものとなった。とくに学生やスタッフは親切で親しみやすかった。(人文研)

研究に関しての論文がかけて、研究の成果も出せた。それに日本人研究者と素晴らしい経験が共有できた。(人文研)

再生医学研究所

JSPS 特別研究員としての京都滞在中(1999-2001年)が非常に実り多いものになったのは、京都の方々の友情や、京都大学再生医学研究所の 教授のご指導の下、バイオマテリアルについて意義ある意見交換ができたおかげである。日本人は非常に勤勉で、自分の研究に対して誠実である。だからこそ成功するのだろう。勤勉というモットーにより、私の考え方や研究の仕方とも前向きになった。私は京都大学滞在中に完成させた研究プロジェクトで、国際雑誌に2つの論文を発表した。是非も

う一度京都を訪問し、交換プログラムが、共同研究プロジェクトを行いたいと思う。(再生研)
日本の研究者同士のコンタクトの取り具合がすばらしく、感銘を受けた。大学の図書館はもっと定期的に関わればよかった。(再生研)

エネルギー理工学研究所

1) 日本語をいくらか学んだ。2) 研究成果が上がった。3) たくさんのお金を稼いだ。4) 日本と日本人について多くを学んだ。(エネ理)

木質科学研究所

第一に、("研究分野")技術を経験した。第二に、日本の優れた教授や研究者とコミュニケーションし情報交換をする機会を得た。(木研)

1. 完璧な組織。2. 大変オープンで友好的な人々。3. 講義のあとの優れた非常に重要な質問やディスカッション。(木研)

研究施設が整っており、監督教官と話し合うのが簡単だから。(木研)

滞在中は、ほとんどの時間を宇治キャンパスの木質研究所で過ごした。担当科学者は、私の研究分野に関係のある研究を行っている数人の教授に、私を紹介してくれた。その人たちの研究課題についてディスカッションを行った。また、図書館で文献を当たるのを楽しんだり、母国では利用できない専門誌の論文や記事のコピーを取ったりした。(木研)

私は京都大学の木質研究所で勉強していた。優れた機器があり、私の指導に当たってくれた素晴らしい教授がいた。(木研)

自分の研究課題に関して多くの情報が得られたから。さらには、日本での結果を含めた2件の論文を発表した。(木研)

割り当てられた研究の90%を終えることができた。それが、2001年の4月2日に東京で開かれた学会でのレポートに含まれている。レポートのタイトルは、「...」である。(木研)

1989年1月8日から2月8日までの最初の訪問: 京都大学農学部で、教授と議論を交わした結果、新しい研究協力を行うことになった。研究者: 博士(京都大学)、氏、氏、応用物理 LIPI の研究開発センター。氏は京都大学において、以下のように研究を行った:(以下"研究内容"と"研究成果")(木研)

食糧科学研究所

京都大学の設備やシステムのおかげ。特に 博士は、宇治キャンパスの食糧科学研究所への私の訪問の際に非常に尽力してくれた。X線実験室は設備が整っていた。(食研)

全てのことに感謝する。とても多くのことを学んだ。特に 先生。京都大学の状況は非常に優れていた。スタッフは全員とても科学的で、私にとっても非常に大きな成果を収めた。ありがとうございます。(食研)

23ヶ月間の京都大学滞在中、たくさんのノーベル賞受賞科学者の方々と交流し、また3つの良質な論文を発表することができた。1. ...、2. ...、3. ...。愛すべき研究室と、素晴らしい教授、優秀な仲間たち、美しい環境(宇治)に恵まれた。(食研)

京都大学に訪れることができてとても感謝している。2000年1月から2月の間、日本学術振興会のサポートで京都大学の木質研究所に滞在した。教授や研究室の人たちと私の研究について議論を交わすことができた。とくに 教授は私のホスト研究者で、私の研究に講義や議論や指導をとても親切にしてくれた。昨年 教授に招かれた。また近いうちに京都大学を訪れて、研究のメンバーたちと共同研究を行ったり、意見交換を行ったりしたいと思っている。(食研)

図書館などの教育機関や研究室の素晴らしい装置などが提供されてよかった。(食研)

6ヶ月間の日本滞在中、研究においては新しい経験ができ、結果も良いものになった。研究の概要は...。研究の成果は私が所属した研究室のおかげである。器具も化学薬品もすぐに手に入れることができた。この点ではインドネシアでは深刻な問題がある。私のスーパーバイザーは私に問題がおこれば研究だけでなく日本文化に関することでも、いつでも協力してくれた。外国人を受入れる体制が整っているように思えた。日々の生活を楽しむことができれば、研究においても素晴らしい成果を出すことができるものである。(食研)

私が会った日本人の科学者たちはとても親切で、仕事にも熱心であった。教授をはじめ研究室のメンバーとも自由にアイデアを出し合ったり問題について議論したりすることができ、私の研究をすすめるのにとっても役立った。宇治のインターナショナルゲストハウスは大変便利で施設もよくて、好印象を持った。私たち外国人にとっては、住環境はかなり重要な位置を占めているが、私はその心配もなく、仕事に専念できた。京都大学では大変よい経験ができて、またいつか訪れたい。(食研)

私はインドネシアから植物のサンプルを持って来て、2ヶ月間日本に滞在し、3種類の("研究内容")を研究した。うち2種類は成功したが、残りのひとつは結果を得ることがとても難しかった。そのため研究を終えることはできなかった。また、インドネシアの機械が日本のものとは異なるため、この研究をインドネシアで続けることもできない。インドネシアで続けるにしても、もう一度から研究をはじめなければいけない。しかし、そのための化学物質を得ることができない。だからもう一度日本で研究したいと願っている。(食研)

大変素晴らしい設備とサポートを得られる研究環境だった。京都大学の研究室の専門指導のもと、私は自分のプロジェクトを完成することができた。また、京都という街や文化も大変すきになった。日本の文化の中心である京都に滞在したことで空き時間には禅の庭や神社を訪れることができてとてもよかった。(食研)

防災研究所

桜島火山観測所に滞在中に、火山活動の監視について多くの経験と知識を得た。講義では("研究分野")について学んだ。(防災研)

共同研究プログラムのために京都滞在中に気付いた点は:- ("研究内容")。これらの一部は、自分の施設での研究に応用できる。- コンピュータ・プログラムの学習と実習は簡単に理解できる。- ("研究内容")に関するディスカッションや意見交換はテクノロジーと解決策を豊かにでき、インドネシアで適用可能である。- 1997年に京都で開催された("研究分野")に関する国際シンポジウムで発表された全ての論文は、母国での同様の問題をどうすれば克服できるかの点で私の意欲と創造力を高めた。- 河川/水力利用モデル研究所を視察し、最も優れた技法は私の研究所でも適用可能であり、研究所施設の次の開発のための提案事項と考える。- 京都周辺の河川や湖沼、特に河川施設への実地見学は私の視野を広げてくれる。- 最後になったが、日本の伝統・文化を深く知ることができる。(防災研)

滞在中は非常に楽しく、成果が上がった。担当は 教授で、受入れ先として特に素晴らしい人物であった。教授は、("研究

分野”)の日本のやり方を話し合えるように、日本人技術者や研究者との面談を数多く手配してくれ、私たちは米国と日本の技法を比較して、非常に優れた興味深い論文を書くことができた。教授はまた、妻と私のためにとてもすてきな社交行事を実施してくれた。知的に啓発される滞在であっただけでなく、日本の文化に触れる良い機会であった。後者の目的にとって、京都は最適な場所である。(防災研)

感謝を込めて、研究室のスタッフは非常に協力的であり、それによって私たちは優れた共同研究グループを築くことができた。また私の滞在は、“研究内容”の確立という点で、研究成果を収めるのに十分な期間である。それでも、日本語の習得が私には欠けており、そのことがいくらか影響し、京都大学での私の研究に対する評価を「十分に成果を上げた」にしないことにする。(防災研)

京都大学の防災研究所で日々を過ごした当時、私はその人たちに深く感動した。(1)そこでは、学術的な相互交流が非常に盛んであった。(2)研究所には先進的な試験設備や器具が多くある。(3)教授や研究者は、試験方法の分野で多くのよいアイデアや計画を持っている。(4)教授、学生を問わず、研究所の全ての人々が自分の研究に勤勉に取り組んでいる。(5)教授は政府や他の組織から十分な資金を得ることができるのでアイデアや計画をスムーズに実行に移せる。(防災研)

教授、学生の両方から多くを学んだ。地震学研究のための設備や実験室は、実験を行うのに十分である。しかし、私には本や参考書を読む時間は多くあったが、講師から地震学について何らかの他のこと/側面を学びたいと思った。残念ながら、英語で行われる地震学の必須の正規講座はなかった。非常に知識が豊かな教授からもっと多くのことが学べたのと思う。(防災研)

京都大学滞在期間中に、研究活動のなかで、防災研究所の教授と多くの学問的な問題を話し合ったり意見を交換したり、成果を上げてきた。このことは、私たちの研究プロジェクトにとって非常に有益となるだろう。(防災研)

研究支援スタッフと施設が非常に優れている。(防災研)

DPRI の部門は、学と学との分野で、外国の研究者との長い共同研究の歴史がある。そういった世界で最良の地震学研究施設との密接なつながりと、この研究所で行われている質の高い研究が、活発で意欲的な雰囲気を作り出してきた。日本と外国の施設間の密接な関係が、DPRI での共同研究や DPRI への訪問が成果を上げるための鍵である。(防災研)

神戸地震の(“研究分野”)の研究にとって、博士は優れた立案者で主導者であった。(“研究分野”)に関する特別の理論が編み出され発表された。博士は素晴らしい指導者でアドバイザーであった。(防災研)

*自分の研究分野に関して、日本の仲間と非常に実り多いディスカッションができた;*実地調査では、日本の(“研究分野”)の問題と解決策に直面した;*私が知ったことの一部を発表した;オーストリアへ帰ってから、日本の(“研究分野”)に関していくつかの発表を行った;*日本の仲間との科学的な共同研究を「拡大する」ことができた。*全体として:日本の京都大学での滞在は、個人的にも自分の研究活動に関しても、非常に重要であった。-日本に長期間滞在する機会が得られて感謝している。大変ありがとうございました!(防災研)

(1)京都大学が好きである。(2)防災研究所の素晴らしい研究に好印象を受けた。(防災研)

最終的には、研究の成否は個人的な関係に大きく掛かっている。私は幸運なことに京都大学の研究者と非常に良好な関係に恵まれ、私の訪問が非常に実り多く楽しいものとなった。(防災研)

私の訪問は大きな価値があった。受入れ教官やその研究仲間、同僚との交流は非常に重要であった。受入れ教官は日本中でミーティングを手配してくれた。かなり尽力して手配してくれ、私は大きなものを得た。私の日本人パートナーも、少なくとも私と話をしたことから恩恵を受けているよう期待している。受入れ教官と私は現在、私の訪問中に話し合った材料について論文の草案を作成中である。彼と私は、研究についてのディスカッションも続けている。こういったことの全てにより、私の訪問は大きな成功を収め、京都大学ではこういった国際交流を支援し続けられるよう期待する。(防災研)

次の点で大きな成果を上げた 1)担当教授が最大の指導、支援、協力してくれた。2)コンピュータ、インターネット、図書館などの設備があった。3)重要人物に紹介してもらった。(防災研)

(1)豊富な研究資料、(2)優れたオンラインライブラリ、(3)受入れ先の教授の強力なサポート、(4)会議やシンポジウム、ワークショップに数多く出席できたこと。(防災研)

評価のプロセスはスタッフが非常に良くサポートしており、全ての質問に自由に答えていた。評価での提案は受入れられ、それを元に運営方針が改善されて優れた機関となる。(防災研)

私が一緒に研究を行ったのは助教の博士である。博士は常に、この滞りを快適で実り多いものにしようと努め、彼の研究チームの中に作り出した自信と献身の雰囲気には喜びと感謝を感じているとしか言いようがない。彼の支援は、住居や日本人権威者へ礼儀、毎日の生活への順応など大学の外にまで広げられた。研究は、知識が豊かで熱意にあふれた人々とともに、様々な分野、数値モデル作り、実地研究、データ分析へと拡大された。私が学業を修めたアメリカの大学ではセミナーやグループミーティングが非常に重視されており、セミナーやグループミーティングを通じての英語でのコミュニケーションを少し懐かしかった。日本語がたんのうになるには、もっと長期の滞在が必要であろう。総括すると、将来の外国人研究者が同様の満足できる経験を得ることができるように願うばかりである。(防災研)

DRS や DPRI の全面的な支援を得て、研究を行うことができた。氏は私の研究分野に関する議論を受け止め、必要な本や書類のほとんど全てを提供してくれただけでなく、建設省や消防署など施設への連絡方法も教えてくれた。(防災研)

1)私の京都大学へのはじめての訪問は 1994 年の春のことで、の国際会議に出席したことである。会議の議長であった教授に招待していただいた。日本を始め様々な国からきた人たちに会って議論をできたことは大変よい経験であった。

2)2000 年の 6 月にハノイで国際ワークショップを私が組織した。京都大学の DPRI の教授も参加していただき、2001 年の 3 月に私を DPRI のほうに 2 週間ほど招待して下さった。そのときの滞在では、彼の研究室の人たちや教授自身だけでなく、工学部の DPRI の日本人科学者と出会い、議論して多くのことを学んだ。また、東京の研究施設を訪れる機会も得た。教授の助力により、ハノイ大学と京都大学の工学部大学院との間に交換留学制度を開くことができた。(防災研)

基礎物理学研究所

京都滞在中は言葉の問題に悩まされた。科学的な問題について話し合っている間も、英語はあまり使われない。中国では、中国での英会話のレベルを上げるために、教育省が全国の大学に対して授業の最低でも 30%を英語で行うよう求めている。これを成し遂げるのは簡単ではないが、正しい方向への一歩となっている。私たちには本の著作権をかうお金が十分になく、英語をうまく話せる教師が十分でないにもかかわらず、教科書の一部は英語のもので選ばれ、講義が英語で行われていることに注目するように。このプログラムを日本で実践するのは恐らく簡単ではないであろう。それでも、京都大学のようなトップ

の大学では可能だと思う。京都大学がもっと国際的な大学になることを心から望んでいる。大学とそこで学んだ両者にとってためになることは明らかである。(基礎研)

滞在は 教授との共同論文へとつながった。事前に計画していたことではなかった。基礎物理学研究所の多数の常駐スタッフ、訪問スタッフとのディスカッションから多くを得た。京都やその周辺を探索することは、私自身さらには妻や息子にとっても楽しいものであった。いつか戻ってきたいと思う。(基礎研)

自分の研究課題に関して主導的なチームと共同研究ができたので、成果が上がった。(基礎研)

基礎物理学研究所の図書室は 24 時間利用できて、非常に良かった。ゲストハウスの近くに便利な宿泊施設があった。悪い点：会議の連絡事項はほとんど日本語だった。(基礎研)

最初に 2 年間滞在了ときは、あまり成果が上がらなかった。それは、私の研究内容が教授の研究内容とあまり関連がなかったことと、言葉の壁があったためだ。2 回目は基礎物理学研究所での 2 年間の滞在中で、素晴らしい成果が上がった。それは、前の 2 つの問題がなかったからだ。(基礎研)

滞在中は素晴らしい経験ができたと思う。教授や学生たちと素晴らしい活動ができたし、京都での生活も楽しめた。(基礎研)

図書館で必要な文献も得ることができたし、「研究分野」について 教授やメンバーたちと大変濃い議論を交わすことができた。(基礎研)

日本学術振興会の論博プログラムに参加して、研究分野の知識や技術を伸ばし、日本をより理解することができた。それも日本学術振興会のおかげである。また京都大学の進んだ施設や素晴らしいサービス、友好にも大変好感を持った。私の「研究分野」へのより深い理解を深めるのを手助けしてくれた全ての方に感謝したい。(基礎研)

研究の分野だけでなく、文化的にもとても興味深い滞在中であった。(基礎研)

湯川研究所の教授陣やスタッフたちはとても親切でいつも手助けしてくれた。コンピュータの環境も素晴らしかった。湯川研究所の人たちに感謝の意を表したい。(基礎研)

ウイルス研究所

自分の研究プロジェクトを完了するには期間が短すぎた。(ウ研)

経済研究所

このアンケートには、第一面にある外国人研究者の立場で答える。私は京都大学の大学院生でもあった。そのことにより、環境に適応する必要がなかったことが、私の滞在の成功に貢献した一つの要因であるかもしれない。それ以上に、私の受入担当者からの温かいもてなしがとても重要な役目を果たした。(経研)

素晴らしい図書館の資料と研究所のスタッフ、便利のよい住居場所、研究所の素晴らしい教職員。(経研)

* 優れた研究環境。* 過度なほど親切な「受入れ教官」。(経研)

数理解析研究所

私が興味を抱きそうな多くのセミナーが行われたが、その案内を見付けるのが難しかったり、日本語だけで案内され、日本語の読めない人が取り残されたりしていた。担当教授ともしっかりとした共同関係ができれば心から望んでいた。私の社会的状況もよく理解されていないと感じていた。外国人を対象とした運営管理面での対応と、RIMS の図書館施設は非常に優れていた。外国人だけの研究室に入れられるのは嫌だと思った。それによって、日本人の同僚と交流する多くの機会が確かに奪われた。(数研)

特に 教授との交流が興味深かった。そのことから 2 人で、次の論文を発表した。「論文名」(数研)

RIMS には行き来する外国、国内からの訪問者の流れが常にあり、そのことが刺激的な雰囲気を出し、第一級の学術研究の実施を促している。(数研)

十分な図書館施設、優れたコンピュータ施設、秘書からの非常に優れた支援、優れた同僚(数研)

私は家族と一緒に来日し、住居の問題がありました：国際交流課事務所私たちに住居を提供することができなかった。自分の仕事をさせるのに、何回かけんかが必要であった！(数研)

教職員は非常に質が高い(特に私の一般分野である「研究分野」)においては。周囲の環境は研究と を促すようになっていく(これは数学における独創性にとって良いことである)。キャンパスの近くには便利なホテルがあり、そこから受入れ研究所へは簡単に歩いて行ける。(研究所の教員と共同で)京都大学で行った研究は、有名な研究専門誌に発表された。(数研)

1) 住まいとRIMSへの通勤。2) 図書館と図書館の職員。3) RIMSの事務管理部門。4) 全般的な雰囲気(ゼミ、訪問者など)など。これらの要因の全てにより、RIMSでの私の滞在は大きな成果を収めた。(数研)

RIMS は世界的な数学の研究センターである。私の滞在中は、そのとき行っていた研究にとって成果を収めただけでなく、私が今後研究を行う上でも有益となると思った。RIMS では毎年、数件の課題を選んで、専門家を集め最新の問題を話し合ってもらっている。これは、数学研究を促進する点で非常に有益である。(数研)

RIMS は素晴らしい場所で、スタッフは非常に効率が良い。(数研)

RIMS の SEPO 事務所の素晴らしいスタッフ(数研)

私は非常に興味深く高レベルな科学的プログラムに参加した。多くの人々とディスカッションをする機会があり、非常に優れた研究条件が整っていた。(数研)

今回の訪問では、指導や管理の仕事から離れて研究に集中することができた。 教授(R.I.M.S.)や 教授(大学院情報学研究所)、その他多くの皆様に非常に感謝している！京都やその他の場所で、日本における流体力学の一流の専門家の方々とお会いし、議論を交わすことができた。 教授との共同研究により 2 つのプロジェクトが成功を収め、既に発表している。R.I.M.S.の数学的ライブラリは、書籍や雑誌に関して本当に超一流であった。当然ながら、自分の歴史関係の研究に関する資料はそれ程豊富ではなかったが、十分な準備ができた。(数研)

教授、 教授、 教授(福岡)と有意義な議論を交わした。 教授と共に、「...」という共同論文を執筆した。(数研)

1) 出身大学の職務がないこと 2) 興味深い科学コミュニティへの関わり(長期間だが/数回の訪問の限られた交流) 3) 京都での暮らしやすさ(数研)

2000 年の 4 月から 5 月にかけて京都大学に環境マネジメントの研究員として滞在中。私の専門コースは「研究分野」で、

1ヶ月の滞在期間中、教授は実りある指導をしてくれ、また、様々な組織や会社を訪れる機会を与えてくれ、日本での(“研究分野”)に関する知識をたくさん得られた。また京都大学での研究を通して、(“論文名”)という論文を投稿することができた。資金面のサポートでは JICA が私の論文を高く評価してくれた。(数研)

2年間ものあいだ京都大学にいたのであるが、とてもいい印象を受けた。教授たちとともに、教えることから研究からも私は多くを学んだ。彼らの科学に対する情熱や勤勉さには頭のさがる思いである。数学部では日本人外国人を問わず多くのセミナーが開かれ、RIMS にいたことで私の研究の視野を広げた。京都大学の交換プログラムはとても成功していると思う。(数研)

原子炉実験所

KURRI の教授や専門家はとても友好的で、親切で、研究用原子炉の操作や維持に関する学問的な意見の交換の面で私を援助してくれた。KURRI から得た技術的な知識は、台湾の研究用原子炉にうまく適用することができる。教授によって、KURRI 内に宿泊できるよう特別に取り計らってもらった。教授の援助には深く感謝している。(原子炉実験所)

RIMS は客員を受入れるのにとっても熱心で、そこのメンバーと直接共同研究を行ってなくても、滞在するには素晴らしい。(原子炉実験所)

霊長類研究所

PRI は第一級の研究拠点である。設備は最高品質である。自分の研究結果を PRI と京都大学双方のスタッフに披露する機会があり、双方の人と行ったディスカッションは有益で参考になった。博士は特に非常に親切で、犬山と京都の両方で、博士、博士、その他の人たちと興味深い対話を行った。京都大学への訪問は大成功を収め、多くのデータを集めたことから分析を始めようとしているところである。次の日本滞りの機会を楽しみにしている。(霊長研)

カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) の大学院生だったときに初めて日本に来て、博士号の研究を行った。霊長類研究所 (PRI) の学、学、学という3つの分野と共同研究を行った。実習や共同研究を行うと同時に、自分の研究プロジェクトにも取り組ませてもらった。共同研究で非常に大きな成果が上がったので、ポストドクとして PRI に戻った。PRI の研究所や、屋久島のマカク(ニホンザル)の実習施設も思う存分使わせてもらった。将来は PRI の研究者の方々と共に屋久島で研究を続けたいと考えている。(霊長研)

東南アジア研究センター

1. 日本の面接で使われている研究課題は難しい、というのも、面接担当者は非常に忙しいから。2. 研究期間が非常に短く、課題の中には成果を上げなかったものもある。3. 受入れてくれた科学者は非常に良い。(東南ア)

受入れ科学者は、現地視察や面接調査を手配するうえで大きな手助けをしてくれた。研究施設(コンピュータ・システムや図書館など)が非常に優れている。(東南ア)

プログラムが系統立てて手配されていた。20日の間に、私は研究論文のために十分な情報を集め、図書館、特に私の研究課題に関係のある図書館を訪問し、文化的な場所を訪れた。私の研究課題が関西地区の住まいと地域社会に関するものであったことから、私は様々な場所で住居や地域社会に入り、日本人がどのような暮らしをしながら子どもを育てているのか、自分の子どもと関連して本や読書についてどのように考えているのかを経験することができた。そういった自然な設定の中で行う研究により、課題に関する洞察を得ることができると思う。言葉の壁にもかかわらず、多くを学んだ。(東南ア)

以下の理由により、私の滞在は非常に成果が上がった: 1. 図書館の書籍や文献、インターネット設備、人材など京都大学の有益な資源の助けを借りて、以前からやろうと計画していた研究の一部を正式に終えることができた。2. 研究室で研究したりセミナー、特にいくつかの行事(学術的、文化的、娯楽)に参加したりすることによって、京都大学のスタッフや学生と非公式に交流するよい機会があった。3. セミナーを実施することにより、自分の研究を披露し、京都大学のスタッフや学生と学問上の意見交換ができた。4. 日本の大学教育について様々な側面がよくわかるようになった。5. 日本の文化や言葉がよくわかるようになった。6. 日本の研究者仲間が多くなった。(東南ア)

最も重要なことは、日本の学者や他の国々の研究員と意見やアイデアを交換する機会である。(東南ア)

センターからは何についても一切の援助を受けていない。(東南ア)

成果を上げられた理由: 1. 予定していた論文を、少なくとも下書きの段階までは終えることができた。2. C.S.E.A.S.の図書館は、研究者にとって非常に有益である。3. C.S.E.A.S.は雰囲気落ち着いていて、執筆や研究に適している。4. C.S.E.A.S.の国際事務所のスタッフが有能で、常に力になってくれた。5. ホストの科学者の方々(及び教授)が非常に親切だった。6. 京都は読んだり書いたり考えたりするのに適した素晴らしい土地である。(東南ア)

大型計算機センター

毎年、たくさんの客員研究者が講義をしに訪れ、アカデミックな交流のチャンスに恵まれている。共同研究は素晴らしい協力体制のおかげでうまくいった。(大計セ)

宙空電波科学研究センター

私の滞りが大きな成功を収めた主な理由は、(“研究分野”)という私の専門研究分野と、この分野における京都の RASC(宙空セ)の先駆的な(“研究分野”)との適合に關係している。このグループを指導しているのはとてもダイナミックな教授、教授である。教授のグループは、(“研究分野”)に対して独創的な貢献をしており、私は(“研究分野”)に興味があった。(“研究内容”)を理解する上で、私たちのディスカッションは非常に実り多いものであった。教授の研究室で行われた毎週のお茶とセミナーは、私たちを教授の若い教職員や彼らの研究に大きく近づけてくれた。(宙空セ)

教授の研究室で、教授、博士、博士と定期的にミーティングを持てたことが、私の京都滞りで成果に大きく貢献した。(“研究分野”)を研究するために、RASCではGPS(グローバル・ポジショニング・システム)による測定が用いられていた。約400m規模の不規則性によって引き起こされる GSP シンチレーションの調査にその研究を拡大することについて話し合った。(“研究内容”)について話し合った。それは、(“研究内容”)の成功に寄与するかもしれない米国での研究にが出資すべきかを定める上で、私の助けとなった。国際グループの運営委員会として、(“研究分野”)の研究に貢献するかもしれない RASC のプログラムについてアドバイスをした。(宙空セ)

1. 独立資金による訪問者プログラムの存在。2. 私の滞りがうまくいくように取り計らってくれた担当教授の献身。(宙空セ)

1) 京都大学のスタッフは自分の分野の専門家であり、国際的に認められている。同様に重要なのが、彼らが友好的で親切なことである。2) 施設 - 「キャンパス内」も現場基地も - が一流である。3) 研究学生は頭がよく探究心を持っている。彼らはとても親切に訪問者を飲み屋や居酒屋に連れていってくれる。4) 滞在中に妻に出会った。(宙空セ)
京都大学での滞在は素晴らしい経験になった。宙空電波科学研究センターの教授と博士とともに研究を行った。私の経験が素晴らしい結果で終わったのも、1. 研究のレベルが世界でもトップであったこと。RASC のメンバーや日本の科学のコミュニティとの議論が私の研究をより深めてくれた。2. 学生、研究者、秘書たち私が出会った日本人はとてもやさしく接してくれた。自分の国とは全く異なった環境の日本にきて、私に親身になってくれ家族のように感じることも多々あった。3. 研究以外では、日本の社会、文化、日常生活にふれる機会があり、個人的にも研究者としても日本人たちとのかわりはよい経験になった。いまだに日本での愉しかった思い出を思い出す。日本で研究したり勉強したりする機会を外国人研究者に与え続けていってほしい。(宙空セ)

生態学研究センター

京大の人たちはとても私によくしてくれた。また、割り当てて貰った研究費も日本での生活では十分だった。(生態セ)
京都大学で科学の博士号をとることが私の目標の一つであったので、それを果たせた成果は私にとってはとても大きなものである。(生態セ)

高等教育教授システム開発センター

センターの研究者からは支援を得たが、教育以外に、異なった学校で私のプロジェクトを実施するうえで、大学の教授の支援を全て受けたわけではなかった。(高等セ)

アフリカ地域研究資料センター

大学内では、職員と学生は非常に友好的で親切だと思った。カルチャーショックはあったが、大学の内外のあらゆる人々からの支援のおかげで、私は京都の生活に簡単に適応することができた。そのため、私の滞在は楽しく思い出深いものとなった。私が関わっていたセンターでは、研究環境は助けとなり良好であった。コンピュータ、書籍、図書館といった利用施設とそれらの使いやすさによって、目的遂行が早められた。このことによって私の研究が容易になっただけでなく、以前は接したことのなかったコンピュータの使用といった新しい技術を学ぶこともできた。ただ、日本で研究を行う上で、言語の壁が大きな妨げであった。有意義な研究を行うためには、日本語の完璧な知識が必要と実感した。(ア資セ)

京都大学の国際交流会館は非常に役に立った。(不明)

私の滞在は非常に興味深いものであった。多くの新しいことを学んだ。私にとってとても良い経験であった。私が所属した研究室は設備が整っており、人々はとても親切に手を貸してくれた。しかし私の滞在は、科学的研究と言う点では、論文を書けなかったことから、あまり成果が上がらなかった。結果は期待したほどよくなかった。(不明)

京都大学での滞在を振り返って、今特に京都大学に何かメッセージがあれば、自由にお書きください。また、本アンケート調査に対するご意見、ご感想がありましたらお書きください。

文学部・文学研究科

* 私は自分の滞在を高く評価しています。滞在中に、日本の文化や芸術理念に対する知識と楽しみを深めることができました。物質面、精神面での教育を与えてもらい、母国で私自身が教えたり研究をしたりする際にそれを発揮することができます。
* 日本に滞在経験のある研究者に、滞在中に得たものや築いたつながりをどのように利用してきたか意見を求めるのが非常によいと思います。* 私はいつでも、大きな喜びを持って京都大学や京都市に戻るでしょう。(文)
京都大学に戻るたびにうれしく思います。外国人学者は歓迎されていると感じさせてもらえますし、図書館の設備は非常に優れています。(文)
私が京大を訪れると、私は修学院の国際交流会館に滞在する。そこは外国人の研究者が生活するのも研究するのに施設も素晴らしく整っており、滞在費も手頃である。(文)
京都大学の植物について研究している人たちとコンタクトをとっていききたいので、大学側の協力が得られればありがたい。(文)

教育学部・教育学研究科

教授と 教授には信じ難いくらいの親交とサポートをしていただいた。また彼らの科学への献身はいつも刺激になった。京都大学の突出した研究環境と日本学術振興会の奨学金は研究者が望んでいる条件である。とても恵まれたプロジェクトで、京都大学で研究する外国人研究者の環境はとても整備されている。このアンケートに関してはもっと詳細なことを列挙して欲しい。(教)

法学部・法学研究科

1. 当時は振り返ると、京都大学は忘れられない思い出をもたらしてくれる。2. 京都大学で学んだ外国人学者の同窓会が設立されたなら、アイデアや意見の更なる交換が可能となる。3. 京都大学は、セミナーや学会を開催することで、出身者の貢献を

評価することが必要。4. 京都大学は、出身者に研究論文を依頼することができる。(法)

経済学部・経済学研究科

私は日本では京大に4ヶ月ほど滞在したこと、幾度かの東京で講義を行ったことと神戸での法学者との研究を行ったことになる。とくに京大では2度の国際会議に出席し、講義を開けたことはとても意義のあることであった。(経)

理学部・理学研究科

京都大学は世界中に名の知れた一流の場所である。唯一の問題は短期滞在の住まいである。大学の宿泊施設が利用できるようなになれば、外国の学者は非常に感謝するであろう。(理)

私は大学の教授で、長期の海外滞在をするだけの余裕がない。日本の共同研究者との協力関係を強化するために、3年(あるいはそれ以上)続けて短期滞在の機会を持ちたいと考えている。(理)

プラスの経験であった。京都大学が今回のアンケートによって外国人研究者の見解や意見を求めていることを評価する。(理)

国際交流は、日本とフランスの両方の科学者にとって、共同研究を強化するとともに新たな共同研究を作り出す上で非常に重要である。(理)

京都大学と京都を訪問する素晴らしい機会を与えてもらったことに感謝する。(理)

日本を訪れる機会を非常に感謝する。日本の伝統や文化をもう少し知ることができたらと思った。(理)

日中両国の将来の繁栄のために、中国科学院と京都大学の間の科学や技術面での協力を最高点に到達できるよう願っている。2カ国の国民間の友情は不朽である。(理)

京都大学理学研究科の教授、教授の同僚、秘書、事務員の方々に対して、とても温かいもてなしと日本滞在中の私の研究のために非常に優れた条件を提供してもらったことを心から感謝する。ゼミに関する専門的に高レベルなディスカッション、非常に生産的で創造的な雰囲気、非常に優れていて使いやすいコンピュータ施設、外国人向けられる温かくて親切な関係について特に言及したいと思う。このアンケートはもちろん有益だと思う。(理)

日本文化に魅せられ、日本に多くの友達があり、再び日本を訪れる次の機会をいつも楽しみにしている。(理)

化学物質で汚染された紙くずの入ったビニール袋の処分に関して、京都大学が決定を下せばいいのと思う。そういった袋が研究室に山積みされているのを見たが、火事の危険性がある。(理)

官僚主義的なシステムはよい方向に展開しているように見える。もっとリラックスした雰囲気が、新しいアイデアや発見にとっては有益であろう。私の提案は：日本の若い研究者をヨーロッパや北米の研究所に派遣すること。言語の学習も重要。(理)

京都大学の滞在中は非常に楽しい経験だった。考慮していただきたい点はいくつかある：大学からある程度離れると、外国の新聞や雑誌を読むことができなかった。そのため日本の知識が得られなかった。これは世界のニュースから切り離されることになる。(ゲストハウスには日本語のテレビがなかった。)これは日本の学生にとっても非常に良いことではないかと思う。外国の文章に触れることで世界をより広い目で見られるようになるのではないか。もう一つは、特に勤務時間後に外国人の訪問者が集まってアイデアや意見を交換できるような集いの場があるとよいと思う。そうすれば文化の壁が取り去られ、日本という素晴らしい国をもっと早くから楽しめるのではないか。(理)

1997年の夏から1998年の夏まで、京都大学の教授の研究室で研究を行った。滞在中の教授の心遣いと援助には本当に感謝している。国際交流会館に滞在して日本の文化に触れたのは貴重な体験だった。また、京都のような街を散策して歴史を学べたのも良かった。私にとっては、韓国ではなかなか出会うことのない、日系韓国人の方々とお会いできたのも素晴らしい。嬉しいことに2人の娘にも会うことができた。1人は京都大学学部の博士過程に、もう1人は学部の修士課程に在籍している。1年間の滞在と研究の機会を与えてくれた京都大学にはいつも非常に感謝している。ありがとう。(理)

今も京都での滞在中は記憶に残っている。京都は今まで見た中で最も美しい街だった。特に思い出に残っているのは、京都大学の計らいによる新年会に2回出席したことだ。こうした行事は、我々外国人がお互いに知り合い、日本のホストの方々と親しくなれるきっかけになる。それがとても嬉しい。京都での研究の後、別の研究のためにフランスへ行ったが、フランスでは大学が主催するパーティーに招かれることはなかった。だからこそ、京都の方々の温かいもてなしにとても感謝している。(理)

今回の訪問は非常に刺激的で楽しいものであった。また、東京、仙台、名古屋などの他の多くの日本人研究者の方々とお会いすることができ、今はとても親しい関係になっている。2002年に広島で行われる第23回会議を楽しみにしている。(理)

(“研究分野”)グループのような外国人研究者との協力や友情が京都大学の全ての学部に広がることを希望する。このアンケートは、京都大学の外国人研究者の状況を維持、改善するのに非常に役立つだろう。(理)

関連する科学分野に関する印象：私の研究は主に(“研究分野”)に関するもので、日本における(“研究分野”)は理論面でも、観測の技術や施設でも他よりも進んでいる。例えば、…。一般的な日本の印象：日本に滞在した2ヶ月間に京都を訪れる機会があった。みんな私をとて温かく迎え、私が求める通りに親切に話してくれた。日本人の友人を何人が持つことができた。将来中国を訪ねたいと言ってくれた友人もいる。私ももう一度日本を訪れたいと思っている。英会話については、一般の人たちに限らず若い人の中でも普通に使えるということではなかった。(理)

図書館のシステムが複雑過ぎると思う。雑誌の論文のコピーをとるだけのために何枚も書類を出し、判子を押さなければならなかった。意見を聞いてくださって感謝する。(理)

私は1999年に8ヶ月間、2000年に2ヶ月間京大にいた。そして2002年にも一ヶ月ほど滞在できればと思っている。1980年、1983年、1988年にさかのぼる日本人数学者との交流のおかげで、ジョンズ・ホプキンス大学の数学科では、日米数学研究所がつくれ、以来毎年何人かの日本人数学者が当校を訪れている。日本と当校のつながりはとても強く重要視されている。私個人の話ではあるが、私自身も1999年に日本を訪れており、当時私の息子を日本の地元の学校に通わせ、息子も日本語を習うなど素晴らしい経験を、今でも息子の日本語のために個人レッスンを受けさせてもいる。私たち家族の来日は今10歳の息子にもとてもよい経験で私自身もそれに満足している。京都大学は研究でもプライベートな経験でもとてもいいところだった。どうもありがとう。(理)

私に日本での一ヶ月の滞在中を可能にしてくれた、日本学術振興会、教授や研究室のメンバーに特に感謝している。(理)

アンケート調査
外国人研究者

医学部・医学研究科

住んだり研究したりするのによい場所である。行ってよかった。(医)

京都大学での2年間の滞在は、一所懸命の研究とともに、よい、有益な経験に満ちていた。京都大学に感謝する。(医)

1. 仕事を持つ研究者にとっては、夜に日本語の授業を行ってもらうのが有益であろう。2. 外国人の研究者を助けるために、例えば銀行や滞在の保証など、暮らす上での諸手配の整理/促進を大学の事務所を通して行ってもらえれば助かるだろう。私の場合は受入れ研究者が非常に親切だったために幸運だったが、必ずしもそうだとは限らないだろう。3. 京都大学での経験について専門誌に私が書いた同封の短文をどうか読んでいただきたい。(医)

私の京都大学での滞在に関しては、誰からも財政援助がなかったことを除けば良好であった。大学が、最低でも宿泊と食事を提供してくれればと思った。なぜなら、それが日本で最も高くつく部分だからである。私たちはまた、あちらこちらから人がやって来てお互いが知り合いになるティーパーティーのような交流をもっと持つべきだった。大学は大学滞在中に研究関係者に身分証明書を発行したり、食費補助の目的に、生協の組合員証を発行したりすることもできるであろう。このアンケートは私が知る限りとてもよいアンケートであり、多くが判明し整理され、京都大学を再度訪れることが常に喜びとなるようにしてもらえよう。大学が今後努力をされるにあたって幸運を祈る。(医)

京都の環境は、私自身のような外国人科学者にとっては非常に良いと思った。研究施設は最先端で、京都大学の研究者は友好的で協力的である。居住条件はとても良く、私は「清風会館」に住んでいてそのことをとても楽しんだ。食事は素晴らしく、京都での観光は一生の経験となった。(医)

京都での滞在は非常に楽しかった。理由はいくつかある。受入れ先の研究室の質が高かったこと。素晴らしいチームだったこと。街が本当に素晴らしかったこと。しかし、京都で短期間の滞在をする場合、宿泊施設を見付けるのが難しい。実際、私の京都滞在中の宿泊施設も、条件の悪いところしかなかった。(医)

京都、そして京都大学に滞在し、研究を行うことができて幸せだった。京都での日々は、私の人生の中で素晴らしい貴重な経験だった。京都大学から学んだ全てのことに感謝している。京都と京都大学はいつも私の心の中にある。ご多幸をお祈りする。(医)

京都大学に滞在できる機会が与えられたことを大変光栄に思う。科学だけではなく、日本の文化や人からいろいろなことを学ぶことができた。私がこの大学での滞在を十分に楽しめたのも、分野での成果だけではなく、京都という歴史ある街の素晴らしい環境のおかげであると思う。私のこのアンケートがお役に立てばさいわいであるが、住宅事情に関しての質問内容が役にたったかは疑問に感じた。私がおこちらに来るまでは、滞在に関してすこし心配していたが、幸運にもとてもすてきなところに滞在でき、満足しているし、また京都大学に将来行こうと思う人たちにも薦めたいと思っている。ありがとうございました。(医)

薬学部・薬学研究科

京都大学で過ごした日々を振り返るとき、何よりもまず、教授、博士、大学院修士のさん、さん、薬学研究科物理科学研究室の全ての学生と、私の周り全ての日本人の親切さと寛大さを思い出す。薬学部図書館のスタッフに対しても非常に感謝する。京都大学の国際交流会館での居住環境は美しかった。日本人の方々に対する私の感謝の気持ちが絶えることはない。(薬)

学科は大学院生のためにもっと研究室スペースを確保する必要がある。機器は新しいものに交換する必要がある。2000年夏、大学は大学院生のさんを大学の費用負担で招いた。さんはイリノイ州の研究開発施設で3ヶ月を過ごした。大学と京都大学の交流を続けるべきだと思う。(薬)

日本の生活を高く評価しているが、提案がいくつかある: 1. 日本に着いて間もない頃に、少し日本語の単語を教えてもらえる滞在中にとても役に立つ、2. ゲストハウスに十分なスペースを用意して欲しい、3. 外国人を日本の観光地に案内してはどうだろうか。最後になったが、日本で過ごした日々は非常に楽しく、至るところで美しい花を見ることができた。(薬)

1. 適当な家賃の部屋を見付けるのが難しかった。2. ビジターにはゲストハウスにスペースを用意することを提案する。3. 日本に滞在できて非常に感謝しており、もう一度訪れたいと考えている。(薬)

大学側は十分なことをしてくれたと思う。ただ、大学が客員研究者たちに少なくとも初級レベルの日本語コースを受けよう勧めたほうが良いと思われる。別に大学内でコースを提供することもないかもしれないが、基本的な日本語を学んでおけば、日本を旅行したり移動したりするときとても役に立つと思われるからだ。(薬)

このアンケートの機会に、学部の教授とそこのスタッフの方々にお礼をいいたい。京都大学で勉強する機会をあたえてくれたこと、滞在中居心地よく過ごせたことに感謝したい。私が京都大学に滞在したことは、私の人生の中でも大変意義があり、とてもよい思い出である。(薬)

この場を借りて、私に京都大学で勉強する機会を与えてくれた貴大学に感謝の意を表したい。こうした形での国際交流は大変意義がある。また逆に京都大学は、日本人研究者に海外の大学に訪れる機会を与えるサポートをやっていただきたい。(薬)

私は京都大学のスタイルをととても気に入っている。優秀な大学はどの学術分野でももっと生産的であるべきで、優秀な分野が大学側を動かしてゆくだろう。(薬)

京都大学に訪れる機会を得ることができてとてもよかった。これから先も我々の大学間でより刺激のあるこの共同プログラムが続き、再来日できることを願っている。(薬)

学部の教授には、京都大学で勉強する機会を与えてくださったことを感謝している。また、学部のスタッフや多くの人たちには、とても親切に接してもらい、研究や日常生活でもいろいろと助けてもらった。京都大学ではとてもよい思い出があり、また機会があれば訪れたいと思う。博士号を京都大学でとることができ、京都で過ごしたことは私の人生の中でもとても重要なものである。(薬)

工学部・工学研究科

京都に住むのは、とてもよかったが、私の住んでいたアパートは、外国人専用のアパートで、家賃が非常に高かったにもかかわらず、部屋も狭く、台所が部屋になかったので不満だった。私の部屋には友達が泊まる事や、暖房器具を自分で購入して使用する事も禁止されていたので、とてもおかしいと思った。冷暖房代がとても高く、1度暖房代を1ヶ月3万円(電気代・水道代・給湯代は別)請求されたことがあった。こういう不都合が起こらないためにも、京都大学が外国人招へい研究者用の住居を所有することを望む。学生食堂の食事はいつも美味しく、値段も手ごろだった。大学内の書店には、様々な辞書や研究書

が販売されており、さらに生協カードで本が少し安く買ったのがとても良かった。研究室のメンバーだけではなく、他の人々もみんな親切だった。また機会があれば、ぜひ京都大学で研究をしたいです。(工)

私の滞在について特に不満はない。とても楽しみ、いつか戻れることを期待している。今後も良い仕事を続けるとともに、非常に高い水準を維持されますよう。幸運を祈る。(工)

京都大学の研究環境は理想に近いものであった。便利な移動、手ごろな家賃と食費、京都の古くて芸術的な特質は経験全体を研究活動に役立つものしてくれた。(工)

「一 好漢三箇」のことがありますがね。どんなに偉い人でも助手がいなければだめです。たくさんお金を払いましたが、一人だけで貴校へ参ったのは、自分の思想や研究などを進めるのが困難です。外国人の研究者 + その人の助手と、貴校の教授 + 助手が共同研究を行うほうがいいと思います。例えば、ある中国の研究者は、貴校で10ヶ月に共同研究をやりました。その人の助手は中国で手紙と E-mail によって助けていましたが、貴校の設備などが不明であったことから、研究が進みませんでした。研究は、一連のあるところに問題があれば、進まないと思います。助手もこの組の重要な一部分と信じています。(工) 京都大学の全ての友人へのメッセージ: 2000年夏に私に与えてくれた素晴らしい夏の経験に感謝する。京都での楽しい日々を決して忘れず、将来必ず皆様のもとを訪れる。ありがとうございます。(工)

このアンケート実施は素晴らしいアイデアである。これによって京都大学の高い質に対する私の見解と意見が強化される。京都大学に招請されたことを荣誉に感じ、大学、京都の町、日本人々に対して温かい感情を抱いている。もう一度戻ることを望む!(工)

京都大学で工学博士課程を終えた。京都は第二のふるさとのように感じており、京都大学へ戻っては、卒業していない研究室で卒業後の研究活動を行い、違った経験を分かち合ったり得たりするということが続いている。京都大学のスタッフと研究することに好印象を抱いている。(工)

研修者が中国出身であれ他の国の出身であれ、京都大学での全ての研究者に対して方針が公平であるべき。(工)

私は1997年に2ヶ月、1998年に1ヶ月それぞれ滞在しました。その間、私は住まいに関して大学から何の援助も得ることができませんでした。それで、長期滞在者よりも高いお金を払って大学の外で宿泊しました。そのことから、京都大学の短期滞在者のために大学のアパートを利用できる機会を広げるよう提案します。それに加えて、私が覚えている限り、大学にはバスケットボール、サッカー、テニス、水泳といったスポーツをする場所がほとんどありません。学生や外国人のためにレクリエーションの場を設けてください。最後に、短期滞在者に大学の図書館や公共施設利用の機会を与えてください。(工)

私はホテルに宿泊していたため、日本では滞在が長引けばお金が高くつくと感じた。大学が短期滞在の外国人訪問者のために、大学のそばにもっと安い滞在施設を提供してくれることになればよいであろう。(工)

京都大学での滞在は、人生で最良の時間の一つであった。とても歓迎されていると感じた。私の研究と、日本語技能の向上および日本文化の学習を融合させることができた。大学は街のよい場所にあり、そこからは自転車でもどこでも行けた。(工)

大好きな京都大学を訪れる機会に感謝する。近い将来再び訪れることができると思う。(工)

研究者が清風会館に1ヶ月以上滞在できればよくなるだろう。なぜなら、短期訪問は3ヶ月であるから。(工)

提案: 私個人の場合は、日本語がわからず、そのことがいくらかの困難を生じさせた。京都大学が12ヶ月以下しか滞在不い人を対象とした日本語/日本文化の授業を提供できるのではないかと提案する。それによって、日本文化の理解という点で、訪問者を非常に助けることになる。(工)

京都大学での滞在は、得た結果と人間的側面の両方にとって非常に実り多いものだった。京都大学では本当に、日本人々さらには多くの外国人と親しくいられる。日本の習慣や生活を発見し、世界中からの友達を作る上で、JSPSは理想的である。多くの外国人を融合させるこのやり方をどうか続けられるように願う。日本、特に京都大学で1年間を過ごせば、一生それが思い出に残る。ありがとう。(工)

* キャンパス内のカフェテリアや食堂は便利がよくない。* 建物は地方の研究施設のレベルでさえない(老朽化し維持管理が行き届いていない)。* スピードの速い公共交通機関が役立つであろう。(工)

京都での滞在をとっても楽しんだ。(工)

将来京都大学に戻るつもりである。(工)

1) 私の担当科学者は私とのディスカッションにほとんど時間を取ってくれなかった。2) 彼の研究助手に任せっぱなしにされた。3) 彼の研究室に連れて行ってもらえなかった。4) 研究分野に関連のある他の研究機関への十分な訪問を行う手配してくれなかった。5) それらの不十分な点に関わらず、何とかして多くの経験を学んだ。6) それでも、違う科学者が受入れてくれる機会があれば、再び京都大学を訪れたいと思っている。(工)

私が大学時代からお手本にしている、有名なノーベル賞受賞者 福井教授のキャビネットを使用させてもらい、大変光栄に感じた。友だち教授のような若い熱中者の中に明るい未来が見られる。日本では幸せを感じる。私の心の国である。私は京都大学を非常に尊敬しており、そこで研究できた機会に感謝している。私のメッセージ: 前へ進みなさい、協力ゲームをこなさい、人類の富のために努力をなさい。遺伝学をやっている友人が、私は遺伝的には日本に属していると言った。幸せと成功を祈る。日本に神の祝福がありますように。このアンケートは、システムの機能向上に不可欠な、重要なフィードバックである。非常に良いアイデアである。(工)

研究を行う上で、国際交流は非常に大切である。外国のものの考え方や研究の仕方などをよりよく理解できるチャンスである。したがって私はいろいろな国でさらに国際交流を深めていきたい。(工)

一般教養学科では、訪問学者を教員のメンバーに紹介しようとした。(工)

2 回目の京都訪問 日本の第一印象はこの一言にまとめられる: 「衝撃の美学」。ほんの短い期間に、たくさんの美しいもの、場所、人を目にすることができる。形、音、味、全てが新しい体験で、一種の過飽和状態となって感覚が失われ、通常と例外を区別するのにしばらく時間がかかるようになる。幸運なことに、素晴らしい女性の友人(国際交流会館での友人)の尽力で、再び訪れる機会に恵まれ、問題を片付けにかかった。「日本の女性は誰もが若くて美しい」という文は次のように言い換えられる「この中年の女性を見て下さい、なんて優雅なのでしょう」。そして「陶器と同じです。だから高価なのです」なるほど、有名な作家だったらどこまで値が上がるかわからないね。また、次のような言い換えもできる。「日本人はみんな親切で礼儀正しく、微笑みを絶やさず、手際が良い」とは「がんばってはいるのだが、幸せそうには見えないな...」となる。京都訪問は2回目でもやはり面白い。実に面白い。アパートの狭さが家族関係に与える影響なんて、雨が上がった後の澄んだ空に映える美しい屋根を見れば気にならなくなる。ごく普通の日本人が自然の移り変わりを楽しんでいる様子は、サクラそのもの以上に印象的だ。4000年の歴史を持つ国から日本にやって来て、ここの古い伝統的な生活と西欧の近代的な生活のすき間を日本人がどのようにつなぐのか気がかりだった。日本人との最初の接触は、礼儀と伝統と美学の厚いベールに包まれていたので、この使命は

実現不可能であるような気分になった。ありがたいことに、素晴らしい女性の友人がそのペールをめぐり上げてくれたので、中を覗くことができた。この伝統的態度は相手が家族か、社会か、職場での初対面か、あるいは現代的には個人的な初対面かによって様々であり、今でも区別するのは難しい。例えば、職場における女性差別は法律で禁止されている。これはわかりやすい例だ。しかし、キャリアウーマンの生活はキャリアマンの生活とは全く異なると思うが、説明には頭は大抵この言葉がつく：「日本では...」これは現代社会の法律でも古い伝統でもない。別の例を挙げよう。昇進で遠い支社への異動を言い渡されると、その人は非常に辛い選択を迫られることになる。異動で手に入るキャリアと、年老いた親に対する昔ながらの責任と、子どもの教育レベルの問題などとの板ばさみになるのは明らかだ。最後は個人的な解決方法となり、驚く程相当な犠牲を伴う。しかし、注意して欲しいのだが、一般的な日本人は自分の気分で予期しない状況に陥りがちだ。私は、民主社会では常識が答えを出す、と信じている。最後になったが、イスラエルは常に様々な言語を話す様々な国のユダヤ人移民を受入れている。自分自身が外国人の立場を経験できたことは特別に意味があった。基本的な情報が不足しているとき、人間がいかに神経質になるかを学んだ。実際、中心部での短い滞在では、英語の情報が十分に得られる。しかし、いろんな意味で大通りを離れてみると、困難にぶつかるだろう。興味深いことに、日本人はたいてい英語を学んでいて、たくさん単語も知っている。当初は「話したくないのだろう」と思っていたが、本当は「正しい言葉を選ぶのに時間がかかっている」のだ。誤解しないよう注意が必要だ。京都で正しい道を示してくれた女性の友人に感謝している。おかげで、新しい環境に入り込んで行くには、事務的な扱いよりも1人の現地の友人の方が何倍も価値があることを理解した。このメッセージを置いて国へ帰りたと思う。(工)

京都大学で温かく迎えていただいたことに感謝している。こうした共同研究が今後も継続し、お互いに大きな利益をもたらすよう希望する。(工)

いつか京都に戻ってきて、このアンケートが京大やヨーロッパの大学の「国際交流」改善に役立ち、生かされているのを確かめたいと思う。サヨナラ！(工)

1. 図書館には会議録が極端に少ない。この状況を変える手立てはあるのか？専門誌の論文は、たいてい質は高いが、少なくとも半年は遅くなる。2. 外国からの訪問者にとって住居は容易なことではない。恐らく大学が方針を打ち出す必要がある。訪問者を受入れる教授は、家の保証人を見付ける面倒から開放されるべきである。(工)

農学部・農学研究科

1. 問題 研究者や訪問者の時間を取らないように、1週間に12時間から始められるリラックスした日本語プログラムを開発する。基本単語を対象とした、10-20時間を超えないプログラム。現時点では、長期滞在者向けの非常に集中したプログラムがある。しかし、ほとんどのゲストや研究者がやって来るのは1-6ヶ月、あるいは年間1-2回もしくはそれ以上、あるいは

2. 住居礼金が問題。最長2年間あるいはそれ以上滞在する外国人のために住居を建ててください。家主によると全くばかげたことで考えられない。3. このアンケートを、パッケージの一環としてやってくる全ての人に実施してください。プログラムの修了後にコメントを取ってください。京都大学を訪問する全員が参加しなければならないので、締め切りは設けないように。ありがとうございました。4. 研究者にも、外国人学生に提供されるのと同様の見学が提供されるべき。5. 日本人は、はっきりしない答えをするのではなく、常にはいいいえを言う必要がある。(農)

日本語コースや訓練は、外国人学者が日本人学者とより幅広い交流をするうえで有益だろう。(農)

親切な支援、提供された機器や材料、励まされたディスカッションのこの例に出てくる様々な人たちや、京都大学の正規メンバーの協力と支援によって、私の研究活動は可能となった。まずは、監督教官であった京都大学の 博士と、 博士に深く感謝する。2人はJSPS(博士号取得)プログラムの研究生として私の研究活動を受入れてくれた。京都大学の名誉教授の 博士に対しても、私の研究員を通しての貴重な指導に特別の謝意を表したい。京都大学の 博士に対しても、「(研究分野)」の調査の専門的指導、手助けをしてくれたことに特別の謝意を表したい。また、日本滞在中私の研究活動のために様々な機器、用具、材料を提供してくれたことに感謝するとともに、 博士の家族から受けたもてなしにも感謝したい。忘れてならないのが京都大学出身の 博士で、「(研究分野)」に関する情報を提供してくれ、私の初稿の批評をしてくれた。さらには、機器を提供してくれた京都大学農学部の さんと さんにも感謝したい。かつて助教授だった 博士は、京都大学に在職中に、親切にも 分析手順と称賛を与えてくれた。もう一人京都大学出身者で、研究所の さんにも、情報提供をしてくれたことに謝意を伝えたい。私は、京都大学の教官さらには、京都大学の 研究室および 研究室の過去・現在のメンバーからももらった、多くの研究機器使用に対する援助と指導、親切な支援、励まし、もてなし、その他の様々な助けを忘れることはできない。(農)

京都大学での滞在は非常に有意義であった。素晴らしい研究室、申し分のない大学、美しい街並み。離れるのが寂しく感じられる。京都大学がますます発展を遂げ、研究や教育に一層重要な役割を果たすよう希望する。(農)

なし。(農)

1) 全体的に言って、京都での滞在は楽しかった。研究室のメンバーは皆家族のように受入れてくれた。 教授に非常に感謝している。2) 私はイスラム教徒なので、京都大学の学長に、イスラム教徒の学生が祈りを捧げるための特別室を設けるよう提案したい。オランダの ITC(国際航空宇宙・地球科学研究所)での経験では、イスラム教徒の学生のために大きな部屋を使わせてもらった。文明や言語、文化は異なるが、我々は一つだ。一つしかない地球という惑星で一緒に生きているのだ。3) 博士号のプログラムを終えたい。そして再び京都大学を訪れ、研究や執筆活動を行いたい。ありがとう。(農)

財政支援がなかったため、京都大学での滞在は大変で、博士号コースの学生と一緒に狭いスペースで小さな机を使った。そのとき私は韓国の国立大学の助教授で40代半ばを越えていた。JSPS から高給をもらっている外国人学者や、文部省から過剰な給付金を受けている独身学生もいたが、訪問学者や自費留学生は学校から奨学金や財政支援は受けられなかった。日本の制度はヨーロッパやアメリカの制度と何が違うと思う。一人の教授に数人のメンバーという研究室のシステムは、学校管理という点では良いが、私は好きではない。場合によっては研究室の環境が非常に悪く、結果として研究活動の意欲が削がれる。大学改革でこうした点が改善されることを望む。外国人学生の財政支援に関しては、奨学金や特別研究員の機会を増やして、金額を減らすことを提案したい。ただし、著名な外国人学者を招待する場合は話が変わってくる。京都大学に一度でも関わった人とは良い友好関係を育ててもらいたい。貴方と京都大学に祝福がありますように。(農)

機会があれば、喜んで京都大学に戻って来たい。(農)

1998年にJICAを通じて共同研究プロジェクトを提起したが、京都大学のメンバーとともにこれを実現することはできない。何故なら、研究チームの編成に困難が生じ、新たに予算が削減されたからだ。従って、我々の科学的協力関係はまだ確立できていない。しかし、両大学の協力関係を強化していきたいと思っている。ジョイントベンチャーは持続的な関係になるのではない

かと考える。(農)

ビジターセンターは外部の者にもう少し便利であればいいと思われる。例えば、京都大学の歴史、レストランなどが、様々な言語で書かれてあったり、あと大学周辺や大学内の地図などのサインなどが充実していたりすればよい。(農)

京都大学での滞在はとても充実したものだ。特に 教授は知識も豊富で、協力的で、とても親切にしてくれた。彼からの招待のおかげで私たちの研究は大変成果をあげられた。ひとつ思うことは、私自身学生用のインターナショナルハウスよりも、京都大学ホテル?に滞在したかった。つまり、こういった滞在場所が使用できるように、できれば一年前から予約できればとてもありがたい。いずれにせよ、この交換プログラムが続くことを祈っている。(農)

私の滞在中、様々な気遣いや対応してくれた大学に感謝したい。(農)

特に中国を含め発展途上国から来た研究者にとって、日本での研究は楽ではない。もっと大学側が外国人研究者に研究の機会を与えて欲しい。(農)

私は高い水準の実験施設を持つ京都大学のいくつかの研究室と交流がある。特に、 教授の研究室は のトップ水準の施設や、電子顕微鏡を使つての微小構造を研究する機械などを備えている。("研究分野")の日本の研究室は一般に設備がとてもよく整っており、かれらの研究活動は世界でも最先端である。(農)

私の滞在先の名前は覚えていないが、とにかくとても高かったのを覚えている。京都大学側で、もっと安い場所を短期滞在者に提供してくれたらと思う。(農)

京都大学は世界的にも評価の高い大学である。組織としても確立されており、世界水準での高い教育が受けられる。しかし、最近はその良さをもっと自分たちからアピールしていくべきであるし、また社会とつながりのある活動を行うべきである。日本学術振興会や京都大学はこの点を努力しているように思われ、日本社会や京都大学の科学の分野が、より世間に知られるようになることを願っている。(農)

京都という街は、とても美しく寂しげであじのあるまちである。特に冬の夕方の鴨川沿いにあるいているときにそういう気分が味わえたものである。京都大学もまたそういった風情を持っていると思われる。研究を行う快適さと、自分の時間を持つときのもの悲しさを思い出すと、そういったイメージが甦ってくる。あと、こういったアンケート調査は、将来訪れる外国の研究者の大学での環境をよりよくするのに生かすには、少し回り道ではないかと私は思う。(農)

京都大学での滞在を楽しむことができた。 教授の研究室で与えられた研究やコンピュータの環境は素晴らしかった。私の研究も進み私の所属するカナダの大学にもインターネットですぐと接続することができた。2ヶ月という期間は、 教授のグループとの大きな共同研究を行うには短かったが、セミナーや講義をおこなったり研究のアイデアを交換したりするには十分な長さだったと思う。また、電力会社、徳島大学の研究室、九州大学、ソフィア大学でセミナーを開くこともできた。個人的な部分に関して言えば、私にとって、日本文化を身近に接するはじめての機会が、京都滞在中であった。日本の歴史や言語、文学に今でも高い関心を持っている。あと、こうしたアンケート調査に参加できて嬉しく思う。フィードバックを与える機会をありがとう。(農)

住所は次の通り: …(農)

京都大学は日本で最高の大学であると感じられたし、また世界でもトップクラスであると思った。この環境や状況を保って、がんばって行って欲しい。(農)

日本に来る以前から大学の講座システムの存在を聞いてはいたが、実際に京大に滞在中に講座システムのことをよりよく知り、それが大学の基礎をなしているというのが良く良くわかった。そのシステムのおかげで特に分野を絞って教育を受けたり研究を進めたりすることが一定の期間以上可能であることやある分野ではそれが伝統であるということも知った。グループのメンバーは教授のリーダーシップのもと、共同作業をスムーズに行うだけでなく競争してお互いを刺激しあっていた。このシステムはアメリカや私の出身(韓国)のものとも別物である。このところ、科学や工学における重要な発見や発展は個人の業績よりもチームワークが目立っている。この点では講座システムは21世紀につなげていくべき価値あるものである。しかしそれは、教授自身が本当に能力があり分野における明晰なビジョンを持ちえてリーダーシップを発揮していけるときにのみうまく働くものである。そうでなければ、講座システムはうまく機能せず失敗するであろう。つまり言い換えれば、講座システムを担当する教授の人選が重要である。しかし一般に、アメリカの大学システムがヨーロッパのものよりうまく機能しているようで、徐々にヨーロッパの大学もアメリカのものに近づこう方向を変えている。他山の石のような状況である。また、私の印象では、日本の大学ではそれぞれの研究室が意思決定などの力を持っており、学長はそれに対してほとんど役割を果たす余地がないように思われる。これはとても健全なかたちであり、大学はこうあるべきである。しかし現在のように変化の激しい社会では、大学全体としてうまく働くための管理システムの効率を考えなければならない。学部システムというのが長い伝統と強固な基礎であった日本で、このようなシステムの転換がほとんど気付かれていないように思え、それが日本の大学制度のもろさかもしれない。(農)

科学に対する十分な環境が与えられているだけでなく、京都大学の関係者の好意や助力のおかげで、私の京都大学での滞在ははじめて有意義なものになった。京都大学での素晴らしい経験のおかげで、滞在以降日本にたびたび訪れている。(農)

研究室の皆さんには本当に手厚くもてなしてくれて感謝したい。また、京都大学の事務の関係者、図書館、コンピュータやその他技術者にも彼らの仕事ぶりに感謝したい。日本の特殊な賃貸システムがあるがばかりに、外国からの訪問者にとっては、住むところを見つけるのが一番大きな問題である。大学のゲストハウスがあるのはとても便利である。ゲストハウスはもっと支援をうけて、拡大していただきたい。もしくは、短期滞在者が部屋を借りられるようなオフィスを構えていてもらいたい。そうすれば、自分たちでそのオフィスに直接連絡して部屋を見付けることもできる。あとこのアンケートはよいアイデアである。私の経験をお伝えする機会があつてうれしい。大学側にはこうしてフィードバックを得てこれからは役に立って欲しい。(農)

京都大学附属図書館での英語で書かれた文献などをもっと充実させて欲しい(農)

人間・環境学研究科

東洋文庫が見られなかったのが非常に残念であった。(東洋(方?)文化研究所:キャンパスの端にある)(人・環)

京都大学の農学部に属する舞鶴水産実験所は、大変静かで居心地のいい環境であった。ただ、この魚類の収集に携わる人が少なすぎると感じた。この研究は西南太平洋の魚の生態に関する世界でも大変重要な研究であるにもかかわらず、博士夫婦がなされている。京大の上層部にこの魚類の収集がこれからも守り続けていけるよう最大限の努力をしていただきたい。(人・環)

京都大学に滞在中の間に、私は日本語を学びたかったが、1ヶ月という短い滞在期間では良い個人指導を見付けることができなかった。もし事前にプログラムについて知っていれば、日本語をもっと学びたかった。あと、大学や政府がスポンサーに

なって、現在行われていたり将来予定されたりしている国際共同研究のプログラムなどの情報も、もっと知りたかった。京都での滞在は短かったが、日本の文化に触れることができ、ホストである教授はすばらしい助言を与えてくれたと思う。(人・環)
京都大学に来た外国人研究者たちからのこうしたアンケートなどのコメントや意見を聞いて活かすことで、交換制度が日々よりよくなっていることと思う。(人・環)

日本語コースなどがあれば、外国人研究者が日本人研究者とより広い情報交換の手助けになったと思われる。(人・環)
農学部海洋生物部門での研究で京都大学に来て、素晴らしいときをすごした。また、それが私にとっては日本への旅となった。日本人や、日本の多彩な文化に触れることができた。センターのスタッフたちは私の滞在スケジュールの様々な点で大変協力的であった。どうもありがとう。(人・環)

1988年にJICAの共同研究プロジェクトに応募しているのだが、研究チームを組織したり新しく研究費を節約したりすることが難しいためにそのプロジェクトを実施するのが実際には大変難しいということがわかった。だから研究の協力の点では進展はみられなかったが、私たちの大学間での関係や協力体制が強固なものにこれからなっていくことを大いに期待している。共同事業で私たちの関係が長期にわたることを願っている。(人・環)

エネルギー科学研究科

京都大学への主なメッセージは、日本の学生が外国へ行ったり、私のような訪問者が日本で滞在したりできるように、科学者の出張・留学の支援を続けてくださいということである。特に学生レベルではこれは真実である。もっとも安価な研究形態は旅である。提案されている特定の研究分野での最新の展開を学生や教授が知らないということで、何年もがプロジェクトに無駄に費やされかねない。アイデア、発見事項あるいは研究所の手法についての簡単なアドバイスさえ、国際的な交換により基礎研究での優秀性の基礎を提供することができる。もちろん、独自開発のレベルでは、特許性の概念を保護するために注意を払わなければならない。それでも、このことが秘密主義の文化につながるものがあっては決してならない。オープンな意見交換は、全ての科学の源泉である。このアンケートはいい考えである。訪問者に出張の目的と結果を明確にさせる。また、スポンサーが提供したお金の価値を得たかどうかの指標も与えてくれる。この出張を実現させてくれた日本に感謝する。(エネ科)

* 質を維持するように。* 共同研究を続けるように。(エネ科)

日本人研究者や学生たちと出会えたことはなにより大きな成果であった。当時私はほかのイギリスの研究者たちよりも日本に関心が高かったと思う。以前から日本への関心や知識はあったが、それにも増して実際の滞在によってたくさん刺激を受けた。私の外国文化の経験は、西ヨーロッパか西ヨーロッパの文化を受けている国に限られていたのであるが、日本と西ヨーロッパの文化の差異がそれほど大きくないことも知った。外見の違いを省けば、私たちは互いに似通っている。私のこうした気持ちが俳句のようにこの文のなかにうまく凝縮されていれればいいのだが、京都大学にはこのような刺激や研究への感謝の意を表したい。(エネ科)

アジア・アフリカ地域研究研究科

日本語の知識が少ない外国人には京都に滞在するのはとても辛いと感じられた。(ア・ア)

2つのことが指摘できるかと思う。ひとつめは、修士課程や博士課程学生の英語上達のために、年に2、3回でも、30分程度の英語でのプレゼンテーションを全ての人に行わせるべきである。ふたつめは、科学の分野での議論において、自分の立場や役職に関係なく、自分の意見を言えるようになることは大変重要なことである。学生や助手たちは、教授に礼儀正しく接しすぎて、反対意見を述べるできないでいる。私のような外国人教授にとっては、かれらが賛同しているのかしていないのか判断するのは大変難しい状況である。こうしたことが、議論された内容において発展させるのを妨げているように思える。礼儀正しさのせいで、学生の独創性がないがしろにされたり、そのまま見過ごされたりしている。これが、私にとって理解に苦しみ、なれることができないものであった。(ア・ア)

残念ながら農学部大学院の総合陸上競技用グラウンドは、私の出身大学の中国 大学よりも劣っていた。走行トラックの回りは鉄棒や平行棒がない。中距離を走ったあとでそれらを使いたかった。(ア・ア)

情報学研究科

* 私にはすてきな専用アパートがあったが、近くの大学ゲストハウスに滞在するのも良かっただろう。* 図書館や読書場所は毎日あり、英語に翻訳された日本の文献があったが、外国の新聞があってもよかった；これは行われているだろうが、私には見付けられなかった。* 学生を対象とした正規の英語コースの一部を、客員研究者も利用できるようなれば、学生とのアイデアの交換がもっと向上できるだろう。(情)

* 私の研究仲間と「京都」を恋しく思う。* 文化的価値と厚遇を恋しく思う。(情)

京都大学に滞在するのは素晴らしい経験であった。京都大学の学生が英語で意見交換するのに困難を感じているのを目にした。しかし、教職員は日本で教育を受けたにもかかわらず、外国で研究をするプログラムのおかげで上手な英語を話す。(情)

最近になって、京都大学が大学を改善しようという姿勢が伺える。しかしまだ改善の余地はたくさんある。最も大きな問題は、教授が学生の指導に力を注いでいないことだ。京都大学には日本で最も才能のある学生が集まっているが、大半の教授が学生の指導にほとんど興味を持っていないため、学生の潜在能力が十分に開発されていない。どの教授も多くの学生を抱えすぎている。最も優秀な学生でさえ、経済的な援助が十分ではないため副業せざるを得ず、研究に集中することができない。全体的に良くない状況なので、部外者にとっては日本の大学が工業国の大学とは思えない。(情)

京都大学へ到着して以降、あらゆる人の援助のおかげで、非常に良い経験をした。職業上の視点、個人としての視点の両方から見て、良い経験であった。滞在中は何の問題もなかった。京都大学に滞在し、その設備全てを好きなように利用し、日本語や日本文化を学ぶ機会を得て理解を深めることは私の夢であった。この素晴らしく忘れられない経験を与えてくれた京都大学に謝意を伝えたい。(情)

生命科学研究科

京都では住居が問題である。修学院国際交流会館は素晴らしいが、滞在期間に関する管理が厳しすぎる(最長1年)。2年間の滞在期間中に、私はアパートから別のアパートへ3回引越しなければならなかった。京都では住居費が非常に高く(礼金/敷金の「伝統」)、大学が居住改善の提案をする努力をすべきだと思う。(生命科)

例えば一ヶ月に一度くらい、大学全体で外国人研究者やその日本人ホストたちが集まる社交のような場を提供してもらえればありがたい。(生命科)

化学研究所

私は黄檗地区に滞在していたのですがすてきで静かだった。大学のバスで本校のキャンパスによく通ったが、バスの便が十分ではなかった。JR を利用すれば時間が掛かり、結果的に私は長時間を浪費した。ICR の大学院生も本校のキャンパスとの行き来に膨大な時間を費やしていると思う。彼らのためにバスの本数をもっと増やしてもらえたらよくなる。私のような訪問者にとっては、住居が大きな問題であった。キャンパスの外に暮らさざるを得なかったのが高かった。受入れ担当者が親切にも費用を負担してくれたが、もっと利用しやすいゲストハウスを維持する必要があると思う。その他の点では素晴らしい滞在であった。(化研)

私は約 10 年前に日本で大学院の勉強を行った。過去 3 年間の京都大学での私の短期滞在により、質の高い研究には必ずしも先端施設や機器の使用を必要とするわけではないとの印象を再度受けた。過去 2、30 年間の経済発達のおかげで、多くのアジア諸国が今では高額の研究機器や最新設備を購入することができる。それでも、研究資金を最大に利用できるようになるために研究文化を作り出すまでには、まだまだ長い道のりがあると感じている。仲間の日本人研究者からは学ぶことが多い。(化研)

以前の経験から、私はあと 2 回短期の訪問を手配した：2002 年 1 月に 2 週間、2002 年 5 月に 3 週間。もっと長い滞在が望ましいが、授業、研究、大学院生、コンサルティング、所属大学の拡張を放っておけないので難しくなっている。(化研)

私が京都で過ごした時間と、そのお返しに学生がマンチェスターで過ごした時間の両方が非常に充実していた。アイデアの交換は実際の交換訪問が終了するときは終わらず、強い協力関係として継続した。私の訪問の全般的な成果は、専門誌での発表の促進という形になった。(2001) 40 (3) pp 603-608(化研)

日本の皆様に感謝する。素晴らしい、美しく、安全な国だ！(化研)

日本は、人々が親切で思いやり深いことから、非常に優れた受入国である。いつかは是非戻りたい。(化研)

外国人の学者を対象とした住居はあまり便利ではなく、生活費は非常に高かった。(化研)

私の経験から言うと、京都大学の国際交流会館の新しいシステムはうまく機能していない。今では、全ての申込を修学院の会館事務所でやっている。以前は、宇治キャンパスで研究を行っている科学者は宇治の会館で、本校のキャンパスで研究をしている人は修学院の会館で申し込んでいた。そのほうが、アパートに配属されるうえでの柔軟性と効率性をもたらし、もっと論理的だった。私の意見では、修学院と宇治に独立した事務所を設ける以前のシステムを再度採用すべきである。(化研)

京都大学の関係の方々は大変お世話になりました。感謝いたします。その経験はこちらの仕事の励みになりました。(化研)

いくつかの化学物質は見つかっていないが、気長にやっていくことにする。しかし、多くの分析設備、最新機器、コンピュータ、図書館のたくさん本、どれも素晴らしかった。2ヶ月でももう一度来たいと心から希望する。このような機会を与えてもらった京都大学に非常に感謝している。(化研)

京都大学が国際的な共同研究の機会を増やすことで一層有名になることを希望する。(化研)

日本の同僚の親しみやすさと進んで手を貸してくれることに非常に感動した。多くの友人ができ、個人的レベルでは多くの非常に良い経験をした。残念なことに、これらの例外なく良好な個人的印象とは反対に、私の日本滞在の主目的であった科学的レベルでは問題があった(前の指摘を参照)。私が話した外国人研究者のほとんど全員が同様の経験をしており、日本政府が外国人研究者に注ぎ込んでいる多くのお金のことを考えると、それがほんの月並みな研究成果と対比されることも多く、改善が不可欠である。このような評価調査は、きっとこの目的を達成する一助となるであろう。外国人客員研究者の研究活動の効率性を上げられる可能性は多くある。例えば、客員研究者の研究活動の最初に、受入れ教授がその人の研究に関係のある修士論文、博士論文の英語の要約を渡すことを義務化すべきである。さらには、日本語以外の OS システムとソフトがインストールされたコンピュータが利用できたら有益となるだろう。(化研)

人文科学研究所

京都大学での滞在についてコメントさせてもらえるのなら、言語クラスへの出席が許されたならば役立ったと思う。「特別授業」とは言わないが、招へい学者も望むなら、そのときに日本語クラスに出席している他の外国人の仲間入りができるよう提案したいと思う。私の場合は、自分自身の研究をするために図書館へ行く前後どちらかの日に、1 時間の授業が受けられたらよかったと思う。このアンケートは、外国人研究者が自分の滞在についてどう考えているかを知る素晴らしい方法であると思うし、可能ならば将来の外国人研究者の滞在をより良いものにする、優れた手段となるかもしれない。中国で研究生として 4 年間学んだが、自分の滞在について意見を求められたことはない。配慮に感謝する。(人文研)

京都大学は有名な学術機関である。多くの国際交流を実現してきた。私の研究所と京都大学の人文科学研究所との間の密接な関係は長期にわたって築かれてきたが、学術交流が始まったのは大変遅くしかもほとんどなかった。長期的な関係(研究者の訪問を含む)を築くとともに、私たちの共同研究活動を世界のこの分野での先進的位置に推し進めるために、連絡を絶やさないことを期待する。(人文研)

京都訪問は興味深く刺激的だった。戻ることを非常に楽しみにしている！(人文研)

住宅事情だけが、問題であるように感じた。私はとてもよいところに滞在できたが、私の周りの人のほとんどは私のようにはいってなかった。もっと良いシステムがあるべきだと感じられる。例えば、大学がある程度の数の家を所有してそれを外国からの招待者などに貸すなど。(人文研)

このようなアンケートを行うことは、私たち研究者が日本にきて実際何を行っているかということを知るうえでも大変重要であると思う。特に私の大学との間の交換プログラムが続いてくれればと思う。(人文研)

再生医学研究所

京都での滞在は楽しいことばかりだった。日本の家や神社、お寺、レストラン、そして日本人のもてなしの心に見られる日本文化は、とても魅力的だ。日本人は非常に心優しく、親切な人々だ。京都の絵のように美しい景色や素晴らしい風景はまだ鮮明に記憶に残っている。教授という非常に思いやりのある人物と一緒に研究できて大いに満足しているし、若い研究者のチームと協力することもできた。教授の精力的な活動に導かれて、学生の科学研究も優れたものになっている。こうした経験で、私も自信を持って研究していこうと励まされた。世界で名高い研究大学である京都大学で研究できたことを誇りに思っている。

自分にとってはきつく感じられることもあったが、大学の教育システムは素晴らしく、私にとって学術的に良かったといえる。バイオマテリアルと組織工学分野の情報や専門知識が得られ、実験のデザインの仕方や一連のセミナーを通じて、この分野での自信が持てるようになった。最後になるが、京都滞在中ずっと私を励まし、精神的に支えてくださった 教授には心から感謝している。国際交換プログラム(1999-2001)の間援助してもらった JSPS にも感謝している。また、教会などの教職者の方々と親しくさせていただき、京都滞在中の心の慰めとなったことも述べておきたい。学生からのフィードバックを希望する。(再生研)

エネルギー理工学研究所

京都大学がアジアで最高の大学になるよう望んでいる。京都大学からノーベル賞受賞者がもっと多く出るよう望んでいる。(エネ理)

木質科学研究所

日本の木質研究所と韓国の Research Institute の間で、共同研究のような密接な関係を築くことを望んでいる。ありがとうございました。(木研)

アンケートはよいアイデアであり、必ず弱点を見付け出す助けとなるだろう。私が訪問した全ての大学(京都、東京、名古屋)で目にした奇妙なことは、ごみや紙、ガラスなどが建物の床に捨てられていることである。(木研)

* 専門の研究者にとっては、国際会館のような便利な寮に入るのが非常に難しい。* 京都大学は外国人の研究者を対象とした寮をもっと建設する必要がある。(木研)

私の短期訪問中には京都大学の学術的活動にはあまり関わらなかったため、そのことについてコメントすることは控える。京都大学の学術的活動は非常に優れていると確信している。大学にとっては余り重要でないかもしれない他のことについてコメントする。私が米国で修士課程の勉強をしていたとき、北部から南部へ、中西部から太平洋岸へと、アメリカの他の大学を訪問した。訪問した大学の全てに美しい庭があり、学生の中にはその美しい風景を楽しみながら、読書したりディスカッションをしたり休息している人があった。とても素晴らしいことだと思う。京都大学での短期訪問中には、そういった状況は目にしなかった。(木研)

京都大学は世界の有名大学の一つであり、京都大学の卒業生として誇りに思う。私は担当教授とともに多くの論文を発表した。私の人生全ての中で、6年間の忘れられない経験であった。可能であるなら、京都大学で博士課程修了者のプログラムを受講したいと考えている。(木研)

京都大学は調査や研究を行うのに非常に良い場所である。日本に招待し、旅費を援助してくれた日本政府に感謝の意を表したい。日本に滞在中の受入れ先の皆さん、特に 教授、 教授、 教授、 博士と家族の方々に感謝している。(木研)

JSPS にはもう少し論博プログラムを支援してほしい。この調査は、JSPS にとっても拠点大学プログラムに関わる研究者にとっても必要なもので、有益である。次の機会により良い結果を生み出せるよう、自分自身を評価することができる。この場を借りて、このような機会を与えてもらい、採用され、次回は 学会への訪問を認めてもらった JSPS に個人的に感謝の意を表したい。(木研)

日本学術振興会のほうで、論博プログラムの割り当がもっと増えればよいと思う。このアンケートは日本学術振興会にも、Core University プログラムにかかわっている研究者にとっても、自己評価ができ、またこれからのプログラムの発展のためにも意義がある。この機会に、私にプログラムを受けるチャンスをくれた日本学術振興会と、京都大学木質研究所に感謝したい。(木研)

食糧科学研究所

キャンパス内か近くに、長期だけでなく短期滞在中も対象とした施設が必要。(食研)

大変感謝する。日本が好きである。(食研)

京都大学と関係することができて、本当に誇りに思っている。日本を離れた後も京都大学の人々とのつながりを大切にしていきたい。過去の京都大学ニューズレターにあったように、研究開発の成果は国際交流を深めることになるだろう。京都大学のウェブページの「英語版」は、それぞれの機関や研究室の詳細な情報を載せるよう更新してほしい。(食研)

短期滞在中の研究者のためのインターナショナルゲストハウスが宇治キャンパスの近くにあればよいと思った。(食研)

このアンケートに対する意見: 私たち外国人の京大での研究の成果を推し量る意味でもこのアンケートはとても重要であるし、私自身、このアンケートに参加する意義を感じられる。(食研)

京都大学をとても気に入っているため、最近の状況をもっと知りたいと思う。もし可能であれば、去年の活動、現在行われている研究のトピック、来年のスケジュールなどが掲載された年報のようなものを配布してもらえればありがたい。そうすることで、外国客員研究員と大学とのつながりを強いものにできると思われる。このようなアンケートを行うことは大切であり、この機会に私が思っていることを伝えることができ嬉しく思う。(食研)

防災研究所

このプログラムは発展途上国出身の若い火山学者/地震学者にとって非常に重要であることから、今後も続けられるように願う。この訓練を受けた参加者が、新しい手法と特別の課題を開発する JICA による別のコースを受講できることを望む。(防災研)

* 洪水や地形変化による災害対策による災害の予報と軽減に関する共同研究が継続され、水資源の管理といった新たなトピックを加えることでグレードアップされることを心から望む。その理由は: 自治政策に起因する、異なる地域間の利己主義の間で生じている水紛争について、母国で適用できそうな、水資源管理での日本の経験を研究するため。* 同様の分野の研究者交流。* 水資源工学や管理の分野で、Matsumae International Foundation のような国際基金から奨学金を得る提案をする。(防災研)

京都大学の研究室(教授)と強い関係を保つ点での私の経験は非常によく、研究室が所属学生との活発な関係を保つとする誠意の表れの好例である。彼らを逆に招き、共同研究プロジェクトに参加することは両者にとって非常に有益である。(防災研)

私的な研究プロジェクトでもっと最近に DPRI を訪れた際には、DPRI が DRRI のそばに住まいを手配してくれた。それはよい経験で、博士を含む受入れ担当者が私の滞在の世話をしてくれた。(防災研)
交流プログラムをどうか続けるように！(防災研)
「京都大学は、リラックスした平和な知識の充実に理想的に適った条件を備えた、とても自由で、美しく、よい場所である。」「京都大学が大好きである。」(防災研)
京都大学に来る前は、京都大学のことをほとんど知らなかった。東京大学や早稲田大学など日本の他の大学は私の国でもよく知られている。自分が経験してみて、京都大学は日本でトップクラスの大学だということがわかった。個人的な考えだが、いろいろな国で京都大学の名前と業績を知ってもらえるよう大学当局がもっと努力した方がよいのではないだろうか。また、大学当局は、英語のコースを開けるような国際的な学者に教員の職を任せてみるよう提案する。(防災研)
宇治研究所のキャンパスでは、京都大学国際交流会館で週 1 回日本語の授業が提供されていた。この努力をもう少し展開して、週に 2 回か 3 回の授業にできないだろうか？このアンケートを実施し、コメントや提案を分かち合ってもらえることに感謝する。それらは、多様性に富み多岐にわたる環境に対する順応と交流を容易にしてくれる。(防災研)
滞在中に、京都大学の外国人研究者国際交流のための会議に招かれた。そこで面白い人々に会うことができた。様々な国の研究者の方々と出会うために、こうしたイベントを勤める。時によって、日本人が外国人に与えるものは少し違ったものを必要としているからだ。(防災研)
組織は素晴らしく、提供してくれた向島センターでもとても快適だったが、少し京都の中心街からは離れているように思う。私が関係した DPRI へのアドバイスは、様々なセクション内の活動を知る機会があればよいと思う。同じ組織内で、日本人や外国の研究者が定期的集まる機会が必要である。私が DPRI にいたときは、研究は大変進んでいるのに、外とのつながりがなくて、刺激が少なく感じた。最後に、こうしたアンケートをとることを素晴らしく思う。続けていってください。(防災研)

基礎物理学研究所

基礎物理学研究所には素晴らしい図書館があり、棚や書庫から取り出して簡単に利用できる、数学や物理学の有益な専門誌が多くある。この施設を支え続けるよう願う。基礎物理学研究所の古い建物を新しくする資金調達を期待する。(基礎研)
こう行ったアンケートを有効にするためには、もっと詳細に亘った多くのセクションを設けるべきである。どのように受け入れられたか、宿泊やその他の施設(コンピュータ、図書館など)について、遭遇した困難についてなど。私の場合は、研究所の秘書に常にとてもよくしてもらい、私のあらゆる問題をとても効率よく扱ってもらえた。修学院のハウスは、私が利用できたときには家族もとても感謝した。研究所の北白川ゲストハウスもとても便利である。最後に、研究所の図書館に感動し、コンピュータ担当チームの効率のよさに感心した。(基礎研)
私と似たような問題を抱える他の外国人研究者たちと話したことが役に立ち、京都大学での会議を開催するのに助けとなった。全体として、京都大学での滞在は非常に楽しかった。(基礎研)
素晴らしい学校での素晴らしい経験だった。(基礎研)
日本の科学や教育のレベルが高いことに驚かされた。また、私を暖かく迎え入れてくれた方々に深く感謝したい。(基礎研)
オフィスでのスペースはとても狭く感じられた。(基礎研)
日本を訪れるのはこれが初めてだったので、朝私が乗った飛行機が到着したときの日本の風景は私にとってほんとうに日が出る国というものだった。海の中に立てられた関西空港に降り立つということ自体、日本の技術力を顕著に示すものだ。私ははじめ京都大学のゲストハウスに滞在したのであるが、そこの人はとても親切で礼儀正しく接してくれた。またゲストハウスにはインターネットにアクセスすることができ、とても便利な京都の地図を見付け、京都大学附属図書館を見付けた。のちにその他の図書館も大学にあることを知った。そのなかの、湯川研究所の図書館の人たちには大変お世話になったことをお礼申し上げたい。新しい建物や古い建物が並んでいる京都の街や鴨川沿いをよくあるいた。また日本人の礼儀正しさには驚いた。私は本当に日本の文化に興味を持ったのであるが、情報を瞬時に手に入れるためにはやはり難しい日本語が読めなければいけないようだ。研究の面でも滞在は有意義なものであった。ヨーロッパのもの見方とは多く異なる日本の暮らしや文化を発見したが、基本的な価値はたくさん共有していることも知った。この滞在を可能にしてくれた京都大学基金や迎えてくれた人たちの手厚いサポートにはとても感謝している。(基礎研)

ウイルス研究所

京都の町はとても美しく、京都大学の科学的研究の環境は非常に優れています。将来は再び京都大学で何らかの共同研究を楽しむ機会が得られればと願っています。(ウ研)
私の 2 人の子供を含めた家族が私と一緒に京都に来たのであるが、住宅事情がより家族での滞在中にあわせてあればもっと快適に過ごせたと思う。長期滞在者の住んでいるところは清潔で快適であるようだが、設備のリフォームがなされればいいのにと思う。庭付きの家に住んでいる私たちには、アパートで暮らすのは少々きつかった。(ウ研)

経済研究所

住居手配の選択肢がもっと提供できるようにすることが重要。利用できる住居が非常に不足しているように思え、それが更なる実り多い交流を妨げる障害となっている。そのこと以外は、街は本当に楽しめる。(経研)
Q5 に対して得られる回答は役に立たないと思う - 質問が明確ではない。(経研)

数理解析研究所

大学が運営する修学院の宿舎に暮らすのが大変なときがあった。私の部屋は台所のすぐ隣で、掃除が行き届いていなかった。私の部屋にもドアの下からゴキブリが入ってきた。修学院の管理者は、私の不満について(私が見る限り)何もしてくれなかった。私は日本に来る前、但し海外から修学院に居住申込をした後に結婚した。家族向けアパートへの変更は拒否された。これは私にとって非常に辛いことだった。私がドイツ政府から受けている奨学金の少額の増額を、私の受入れ担当者は支援できなかったであろう。彼は断った。なぜだかわからない！RIMS の当時の所長はそれとは反対にとても協力的であった！(数研)
素晴らしい滞在だった。国際的な研究者なら誰でも、機会があれば京大を訪れるように全面的に勤める。(数研)
一つ前の質問を参照のこと。(数研)
京都大学には美しいキャンパスがあるのが分かっており、韓国、香港、中国といった近隣国への旅行に併せて京都大学を訪

問する機会を常に歓迎している。教職員の質は非常に優れている。しかし、最も優秀な教職員の一部分が、運営管理面(とそれに関連した)仕事に追われることがあり、才能を開花させる十分な機会が与えられていないと感じる。恐らくこのことは日本の大学が抱える一般的な問題なのであろう。それでも、質の高い研究機関である京都大学は、この問題に取り組んでみるべきである。(数研)

私にはアンケートは大変素晴らしいように思える。付言することは何もない。(数研)

京都大学での滞在はとても記憶に残る期間となった。RIMS(数研)に提供している支援をどうか続けるようお願いしたい。RIMSに滞在することの恩恵は、滞在そのものにある。将来に亘ってプラスの影響をもたらしてくれる。(数研)

全般的に言って、私は日本の仲間との協力関係およびRIMS全般に非常に満足している。私が唯一除外したいのは、日本の官僚主義が少し厳し過ぎるということである。しかし恐らくそうすることが。(数研)

RIMSは非常に重要な施設であり、支援が必要。(数研)

(1) 図書館のシステムは、学部や学校やサブライブラリが多すぎて全体的に使いにくい。そのため、特に外国人にとっては資料の場所を見付けるのが難しく、無駄な時間がかかる。ただし、私の滞在中に大学の電子カタログはいくらか改善された。(2) 様々な地域から来た同僚たちが、日本人も外国人も、気軽に集まれるような「学部クラブ」やその他の集会所があると、大学にとっても有益だろう。「生協」では代わりにならない!(数研)

かなり頻繁に京都大学を訪れた。京都大学国際交流会館に滞在した(例えば、修学院は非常に便利で、質が良く、キャンパスにも近く、家賃も安い)。(数研)

京都大学でもっと勉強や研究の機会があればと思う。(数研)

原子炉実験所

京都大学は日本で、世界でさえも最高の大学のひとつである。KURRIに1ヶ月滞在し、KURRIの専門家と詳細の話し合いをする経験が持てたことを誇りに思う。強力な背景を持つ大学として、京都大学には優れた伝統的特徴がある。他の国の、他の施設や大学を援助できるだけの力を備えていると思う。様々な分野の研究開発の面で、台湾を支援するこのやり方をどうか続けていただきたい。ありがとうございました!(原子炉実験所)

私の滞在に当たって、担当のスタッフの人たちが特に力になってくれた。(原子炉実験所)

霊長類研究所

パートIIで述べたように、京都大学の研究者たちと共同研究ができて非常に嬉しかった。しかし特に2人の方々に感謝したい。霊長類研究所の前所長の氏と、学部長の氏である。2人も素晴らしい同僚であり、友人であり外国人研究者との実りの多い共同研究に着手し、継続している。おふたりには本当に感謝している。(霊長研)

東南アジア研究センター

研究プロジェクトについて *研究は2大学間のチーム研究にする必要がある。*研究課題は学際的なプロジェクトで、地元の人々が参加できるような異文化間のものにするべきであると希望する。ありがとうございました。(東南ア)

京都では素晴らしいときを過ごした。学術的な雰囲気とともに、文化的、友好的な雰囲気に感動した。将来はまた戻りたい。(東南ア)

日本の人たちは高い教養を備えている。毎日の交流の中で示された温かい歓迎、親切な心遣いや友情を楽しんだ。そういったプログラムは、研究だけでなく、両国の人々の間の平和と理解をも促進する。京都は、色彩が少なくなり日が短くなる冬であっても、美しく魅力的な街である。(東南ア)

1. 同じ研究室に所属する教授と学生(学部の4年生と大学院生)の間の密接な関係に感心している。2. 日本の大学のシステムが変えられて、学術スタッフが自分の潜在能力を開花できるようになればいいと思う。現在は、研究室には正規の教授が一人しかいることができない。多くの学術スタッフが、あまり優秀ではないという理由ではなく、ポジションに空きがないという理由で、最高のポジションに到達することができない。優秀なスタッフにとっては、意欲をそぐことになりかねない。3. 国際化を促進するために、大学で英語がもっと使われるよう望む。(東南ア)

交流プログラムは非常に優れたプログラムだが、長期的展望に立て、財政的能力のある少数の国にしか参加することができない。京都大学は国際交流に真摯に取り組む限り、第一級の機関であり続けるであろう。(東南ア)

京都での滞在に非常に満足していた。ただ、時にはとても寒かった。C.K.(東南ア)

宙空電波科学研究センター

京都大学への訪問は、京都の史跡への週末旅行や 教授の自宅での忘れられないもてなしによって非常に高められました。全般的に、若い大学生はとても丁寧ですが、内気で他人行儀に見えました。恐らく言語の壁によるものだったのでしょう。私は日本語が話せず、学生は英語を話すことに馴れていなかったのでしょう。(宙空セ)

外国からの訪問者として、私の京都大学への訪問は京都周辺の史跡見学や 教授やご家族の温かいもてなしによって非常に高められた。成功を収めている女性科学者(Program Director at U.S. National Scientific Foundation)として、私は他の若い女性研究者の手本を務めた。(宙空セ)

京都大学のRASCで過ごした時間を非常に楽しんだ。人々は素晴らしく、設備は立派で、全体的な雰囲気はとても好ましいものだった。1996年から1997年にかけての最初の訪問以降、1度再訪し(1999年)、2003年に再び訪れようと計画している。旧交を温め、新しい友人を作るととても楽しみにしている。(宙空セ)

この調査を行うことは、大学のこうしたプログラムに参加した人からフィードバックが得られて大変良いと思う。こうした努力に私も最大限協力したいと思うし、お役に立てれば幸いです。ありがとうございました。(宙空セ)

生態学研究センター

特に無し。どうもありがとうございました。(eMail address: …)(生態セ)

高等教育教授システム開発センター

全般的に素晴らしい経験でした。センターの研究者とは今でも連絡を取り合っている。そのうちの一部は私の大学を訪問し、

2002 年に来る予定の人もある。ということで、この経験は両大学間の共同研究の機会を開いてくれた。それでも、京都の教授が中南米諸国の出身者に対してもっとオープンになり、進んで受入れてくれればもっとよくなるだろう。ある意味では、私を過小評価した人もあったと感じた。(高等セ)

アフリカ地域研究資料センター

京都大学は、優れた学術実績のある偉大な大学である。私のメッセージは、それを続けるようにということである。この偉大な大学と関係が持てたことは大きな喜びであった。京都大学をさらに偉大な知識の源泉にしようとされている努力が実るよう願っている。この調査は正しい方向に向けての正しい一歩である。調査結果を私たちにも披露していただけるよう願っている。可能であるなら、この回答者から参加者を募り、セミナーを開催することもできる。そういったフォーラムは、大学が明言している国際交流の現状の改善という目的をさらに練り上げていくうえで迅速なフィードバックを提供してくれるであろう。(ア資セ)

とても良い経験だった。とても興味深かった。誰に対しても日本で学ぶことを薦める。(不明)

関係各位

このたび、京都大学におきましては、本学の「国際交流」の実状を把握し、現状の改善と今後の在るべき姿を探るために、自己点検・評価を実施することになり、順次作業を進めてまいりました。その作業の過程におきまして、本学を訪ねられた外国人研究者の方のご意見やご感想をお伺いすることが不可欠であると考え、アンケート調査を企画いたしました。

つきましては、本調査の主旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

なお、この調査で得られたデータはすべて統計的に処理し、皆様にご迷惑をおかけすることはございません。

ご回答は、10月26日までに、同封の封筒により、切手を貼らずにそのままご返送願います。あるいは、インターネットを通して、次のホームページ (<http://www.adm.kyoto-u.ac.jp/kikaku/ga/>) で、回答を入力し、送信することが出来ます。

おって、この調査結果を踏まえて作成する自己点検・評価報告書は、2002年3月に、京都大学ホームページ (<http://www.kyoto-u.ac.jp>) 上で公表する予定です。

平成13年9月18日

京都大学大学評価委員会
自己点検・評価等専門委員会
委員長 丸山正樹

自己点検・評価等専門委員会
「国際交流」作業部会
主査 紀平英作

C 京都大学を訪れた外国人研究者へのアンケート調査

あなたご自身についてお伺いします

Q 1 . 性別をお答え願います

- (1) 男 (2) 女

Q 2 . 年齢をお答え願います

- (1) 20 ~ 29 才 (2) 30 ~ 39 才 (3) 40 ~ 49 才
(4) 50 ~ 59 才 (5) 60 才以上

Q 3 . 現在の勤務先等についてお答え願います

- (1) 大学 (2) 研究機関 (3) 民間企業 (4) 政府機関
(5) その他 ()

Q 4 . 現在居住されている国名・地名等をお答え願います

Q 5 . 出身国名をお答え願います

Q 6 . 京都大学滞在時の資格についてお答え願います

- (1) 招へい外国人学者
(2) 外国人共同研究者

Q 7 . 京都大学での留学期間をお答え願います

- (1) 6 ヶ月未満 (2) 6 ヶ月
以上 1 年未満
(3) 1 年以上 2 年未満 (4) 2 年以上

Q 8 . 滞在了した学部等をお答え願います

【留学生センター】	(1) 留学生センター
【学部・研究科】	(2) 総合人間学部
	(3) 文学部・文学研究科
	(4) 教育学部・教育学研究科
	(5) 法学部・法学研究科
	(6) 経済学部・経済学研究科
	(7) 理学部・理学研究科
	(8) 医学部・医学研究科
	(9) 薬学部・薬学研究科
	(10) 工学部・工学研究科
	(11) 農学部・農学研究科
	(12) 人間・環境学研究科
	(13) エネルギー科学研究科
	(14) アジア・アフリカ地域研究研究科
	(15) 情報学研究科
	(16) 生命科学研究科
	【研究所・センター】

次ページへ続く

Q 9 . 専門の研究分野をお答え願います

Q 1 0 . 滞在にあたっての財政支援についてお答え願います

- (1) 出身国の公的資金もしくは在籍大学からの支援
- (2) 京都大学や日本政府などの日本側からの支援
- (3) その他の支援 ()
- (4) 支援を受けなかった

Q 1 1 . 滞在の目的についてお答え願います (いくつかも を付けてください)

- (1) 京都大学において特別講義を行うため
- (2) 京都大学教官との共同研究のため
- (3) 京都大学が所蔵する書物・資料の調査のため
- (4) 京都大学を含めた日本の大学教員・研究者との情報交換のため
- (5) 京都を含めた関西地域の日本研究を行うため
- (6) その他 (ご自由にお書きください)

次ページへ続く

滞在の成果についてお伺いします

Q12. あなたは滞在を終えられて、当初の目的に関して成果を上げることが出来ましたか？
(数字に を付けてください)

十分な成果を 上げることが 出来た	成果を 上げることが 出来た	あまり成果を 上げることが 出来なかった	まったく成果を 上げることが 出来なかった
4	3	2	1

成果を上げることが出来なかった理由、または成果を上げることが出来た理由等についてお気付きになったことをご指摘願います

次ページへ続く

京都大学での滞在を振り返って、今特に京都大学に何かメッセージがあれば、自由にお書きください。また、本アンケート調査に対するご意見、ご感想がありましたらお書き下さい。

ご協力ありがとうございました

アンケート調査 D：学術交流協定校（回答集計結果）

	回答	回答数	割合
Q1	機関名称	45	(100.0%)*
Q2	担当組織名称	37	(82.2%)*
Q3	(1)学術資料、刊行物及び情報の交換	42	(93.3%)*
	特に期待している	21	(50.0%)
	期待している	16	(38.1%)
	少し期待している	5	(11.9%)
	(2)教員及び研究者の交流	40	(88.9%)*
	特に期待している	23	(57.5%)
	期待している	16	(40.0%)
	少し期待している	1	(2.5%)
	(3)学生の交流	40	(88.9%)*
	特に期待している	17	(42.5%)
	期待している	14	(35.0%)
	少し期待している	9	(22.5%)
Q4	(4)共同研究及び研究集会の実施	40	(88.9%)*
	特に期待している	25	(62.5%)
	期待している	13	(32.5%)
	少し期待している	2	(5.0%)
	記述	37	(82.2%)*
	(1)学術資料、刊行物及び情報の交換	42	(93.3%)*
	非常に活発である	3	(7.1%)
	活発である	17	(40.5%)
	あまり活発ではない	22	(52.4%)
	(2)教員及び研究者の交流	41	(91.1%)*
	非常に活発である	4	(9.8%)
	活発である	22	(53.7%)
あまり活発ではない	15	(36.6%)	
Q5	(3)学生の交流	40	(88.9%)*
	非常に活発である	1	(2.5%)
	活発である	10	(25.0%)
	あまり活発ではない	29	(72.5%)
	(4)共同研究及び研究集会の実施	39	(86.7%)*
	非常に活発である	4	(10.3%)
	活発である	15	(38.5%)
	あまり活発ではない	20	(51.3%)
	記述	39	(86.7%)*

	回答	回答数	割合
Q5	(1)意見交流・施設視察	39	(86.7%)*
	あり	32	(82.1%)
	なし	7	(17.9%)
	(2)共同研究	38	(84.4%)*
	あり	24	(63.2%)
	なし	14	(36.8%)
	(3)学生の留学	43	(95.6%)*
	あり	23	(53.5%)
	なし	20	(46.5%)
	記述	33	(73.3%)*
	記述	29	(64.4%)*

別紙参照

*回答者数に対する割合（回答数/回答者数×100）

他はのべ回答数に対する割合（回答数/のべ回答数×100）

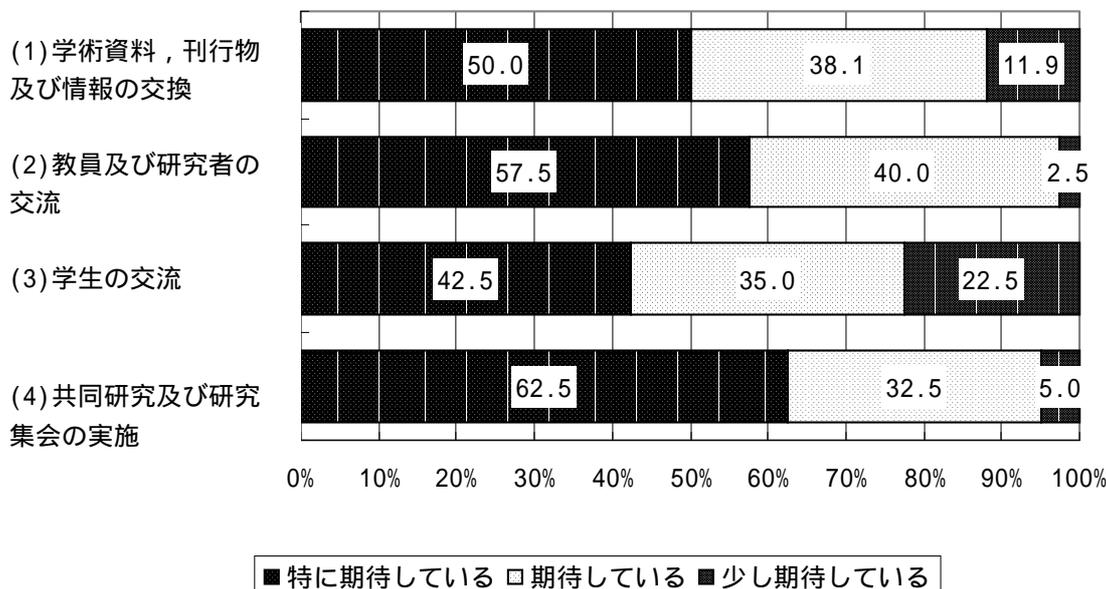
発送数 203
 有効送付数 198
 回答者数 45
 回答率 21.7%

・ Q1, Q2

Q1:機関名称	Q2:担当組織名称	(国名)	(協定締結部局等)
延世大学校	国際教育及び交流部門	韓国	全学
慶北大学校	国立キョンボク大学国際業務オフィス	韓国	全学
浦項科学技術大学	-	韓国	工+化研+原子炉
仁済大学校医生命工学大学/仁済大学校大学院	機関名称と同じ	韓国	農学部・農学研究科
東義大学校工科大学	研究・交流オフィス	韓国	エネルギー理工学研究所
韓陽大学校 経済研究所	漢陽経済研究所長	韓国	経済研究所
韓国原子力研究所	技術情報部門	韓国	原子炉実験所
清華大学	国際協力・交流オフィス	中国	全学
北京大学	国際関係オフィス	中国	全学
武漢大学	国際交流部	中国	全学
第四軍医大学	国際業務オフィス	中国	医学部・医学研究科
中国科学院プラズマ物理研究所	-	中国	原子炉実験所
インドネシア鉱山エネルギー省地質鉱物資源総局	火山・地質危険緩和部門	インドネシア	防災研究所
ハサヌディン大学大学院プログラム及び研究機構	大学院プログラム	インドネシア	アア研究科+東南アジア
マレーシア理科大学生物学部	機関名称と同じ	マレーシア	木質科学研究所
シンガポール国立大学	協定調停担当部 国際交流オフィス(IRO) 交換留学の申請、認可、その他交換留学生の問題の担当部門	シンガポール	全学
シンガポール国立大学人文社会科学学部	-	シンガポール	アア研究科+東南アジア
ナンヤン工科大学	国際関係オフィス	シンガポール	工+エネ科+情報
カセサート大学	2大学間、特に学部間の実質的な学術交流はない。なぜなら、2大学間で学部組織が非常に異なるためである。林学は京都大学では農学部に属するが、タイでは農学部とは別の学部である。	タイ	全学
チュラロンコン大学 工学部	-	タイ	工+エネ科+情報
チュラロンコン大学 工学部	チュラロンコン大学工学部	タイ	工+エネ科+情報
チュラロンコン大学 工学部	チュラロンコン大学工学部土木工学部門	タイ	工+エネ科+情報
ブトラ大学林学部	-	マレーシア	木質科学研究所
タフツ大学	タフツ国際プログラム	アメリカ	全学
ジョージワシントン大学	海外留学オフィス	アメリカ	全学
カリフォルニア大学	大学事務局、海外留学プログラム	アメリカ	全学
ウィスコンシン大学マディソン校工学部	国際的工学研究とプログラム	アメリカ	工学部・工学研究科
カリフォルニア大学バークレー校工学部	工学部国際プログラム部門	アメリカ	原子炉実験所
ハーヴァード大学燕京(イェンチン)研究所	-	アメリカ	文+教+法+経+人文研
ウィーン大学	国際オフィス	オーストリア	全学
デルフト工科大学原子炉実験所	原子炉物理学科	オランダ	原子炉実験所
ストックホルム大学	国際協力関係オフィス	スウェーデン	全学
スウェーデン王立工科大学	国際関係オフィス	スウェーデン	化学研究所
ボン大学	-	ドイツ	全学
アルベルト・ルードヴィヒ大学	国際オフィス	ドイツ	経済学部・経済学研究科
ノルウェー科学技術大学	国際オフィス(交換留学関係) 担当教授(研究関係)	ノルウェー	工学部・工学研究科
パリ第7大学	機関名称と同じ	フランス	全学
ストラスブール第1大学(ルイ・パスツール)	外国交流部門	フランス	全学
ストラスブール第2大学(マルク・ブロック)	国際関係サービス	フランス	全学
ニュー・サウス・ウェールズ大学	国際交流プログラム	オーストラリア	全学
シドニー大学	国際事務局	オーストラリア	全学
オークランド大学	国際室	ニュージーランド	全学
カザフ農業大学	-	カザフスタン	農学部・農学研究科
ソコイネ農科大学	(i) 農学部教員、(ii) 農村開発センター	タンザニア	農学部・農学研究科

回答が不明確であった1件を除いた

Q3. 京都大学との学术交流協定について、特に期待するもの



Q3. 今後の学术交流に期待されることについてお書きください

1986年に関係を開始して以来、京都大学と論文や学生の交換を行うことで非常に良い経験をさせてもらっている。今後も2校間の積極的な交流を続けていきたい。特に、近い将来京都大学の学生を当校のキャンパスに迎えることを楽しみにしている。(慶北大学校・韓国){京大側締結部局: 全学}

1. 環境調査の分野における両大学間の学术交流を深めたい。2. 京都大学のノーベル賞受賞者の方に学术交流で清華大学にお越しいただきたい。(清華大学・中国){京大側締結部局: 全学}

これから両大学の学术交流がもっと多くなっていることを希望している。(武漢大学・中国){京大側締結部局: 全学}

NUSと京都大学との繋がりを深めていきたい。そのためには職員と学生の間の双方向のやり取りを進めて行くべきだ。他のプログラムも一緒に検討して行きたい。(シンガポール国立大学・シンガポール){京大側締結部局: 全学}

交換制度は一方的ではなく、双方の協力がなくてはならない。一般的に京都大学からの研究員や学生の方がカセサート大学の研究者よりも遥かに活発に研究している。全ての学术交流プログラムで双方のバランスがとれていなければならない。(カセサート大学・タイ){京大側締結部局: 全学}

ジョージ・ワシントン大学の留学生オフィスは一般に海外で学ぶ意欲のある学生たちのバランスの取れた交換留学を維持している。(ジョージ・ワシントン大学・アメリカ){京大側締結部局: 全学}

交流に関しては上手くいっているようだが、交流の拡大に関しては予算に限りがある。(ウィーン大学・オーストリア){京大側締結部局: 全学}

将来的には、互いの関心分野で科学協力プログラムも行いたい。(ストックホルム大学・スウェーデン){京大側締結部局: 全学}

両機関の交流をもっと実効あるものにすべきだ。特に、学生交流を期待する。(ボン大学・ドイツ){京大側締結部局: 全学}

博士留学生の交換。(パリ第7大学・フランス){京大側締結部局: 全学}

教員と学生とのコミュニケーションをもっと活発にしたい。(ストラスブール第2大学(マルク・ブロック)・フランス){京大側締結部局: 全学}

あらゆる研究レベルの学生の交換留学。共用論文(京都大学とルイ・パスツール大学の両方から博士号が取得できる論文)が申請できる。学生による学生のための共同研究の検討。両大学間のテレビ会議による講義の試用。(ストラスブール第1大学(ルイ・パスツール)・フランス){京大側締結部局: 全学}

かなり多数の学生の交換留学を行っている。(ニュー・サウス・ウェールズ大学・オーストラリア){京大側締結部局: 全学}

Q4で述べるようにより成果のある交流と学生の交換(シドニー大学・オーストラリア){京大側締結部局: 全学}

交流プログラムによって派遣する留学生を増やし、学術の点から研究者と学生の交流プログラムを促進したい。(オークランド大学・ニュージーランド){京大側締結部局: 全学}

機会があればお互いに研究者を招待しあっても良いと考える。(第四軍医大学・中国){京大側締結部局:医学部・医学研究科}

KURRIにおける46 MeVの電子ライナックのニュートロン施設とPohang 加速器研究所の100 MeVの電子ライナックで共同実験と、中性子関連実験における共同ワークショップに参加できる研究者を期待する。(浦項科学技術大学・韓国){京大側締結部局:工+化研+原子炉}

私は学生交換に関して仕事をしただけなので、以下の質問に関しては空白にしておく。学生交換に関しては、NTNU から優秀な学生を京都大学に送るためにも、京都大学からの学生をNTNUに歓迎できるようになればというのが私の願いである。

(ノルウェー科学技術大学・ノルウェー){京大側締結部局:工学部・工学研究科}

我々は科学的な材料や情報の交換、共同研究活動、学部メンバーや研究生、教育や研究の訓練のための学生交換をしたい。(仁済大学校医生命工学大学/仁済大学校大学院・韓国){京大側締結部局:農学部・農学研究科}

1.学生の為に農業生態学と農業経済の統合コースとプログラムを組織すること。2.統合科学研究者を指揮し、会議を開くこと。3.国際的観測と環境制御の研究室を走らせること。(カザフ農業大学・カザフスタン){京大側締結部局:農学部・農学研究科}

更なるタンザニアと日本の共同研究。2 大学間の更なる職員交換。更なる交換留学生。現在は日本からタンザニアにきている学生のみである。(ソコネ農科大学・タンザニア){京大側締結部局:農学部・農学研究科}

主に修士論文に関連した研究の為に修士学生の交換。(ストックホルム王立工科大学・スウェーデン){京大側締結部局:化学研究所}

(1)学部職員を、共同研究に参加していただくために招待することで学部交流を促進すること。(2)学術情報や、出版物の交換。(3)所属学生の交換を含む学術的な活動の促進。(東義大学校工科大学・韓国){京大側締結部局:エネルギー理工学研究所}

当校と木質科学研究所の間の共同研究が盛んに行われるよう、心より願っている。また、互いの関心分野に関連した部門の間で情報やアイデアを交換し、双方の利益となるよう、近い将来ワークショップを開きたいと考えている。ここには植物や動物などの自然資源が豊富にあるので、その可能性を共に引き出すことができるだろう。(マレーシア理工科大学生物学部・マレーシア){京大側締結部局:木質科学研究所}

JSPSの拠点大学方式プログラムなどにより、共同研究プロジェクトや研究者及び学生の交換留学が増えていくことを期待する。ゲスト講義のような学術交流、既存のカリキュラムや研究施設の評価、修士や博士号の外部の試験など。(プトラ大学林学部・マレーシア){京大側締結部局:木質科学研究所}

将来的には、継続的な交換留学を増加させたい。火山、地震、地すべりの研究や監視、危険緩和の能力。火山、地質の危険緩和の分野での人的資源の能力。(インドネシア鉱山エネルギー省地質鉱物資源総局・インドネシア){京大側締結部局:防災研究所}

共同研究プログラム(韓陽大学校 経済研究所・韓国){京大側締結部局:経済研究所}

プラズマ物理の論文とレポート(中国科学院プラズマ物理研究所・中国){京大側締結部局:原子炉実験所}

増加させたい。(カリフォルニア大学バークレー校工学部・アメリカ){京大側締結部局:原子炉実験所}

我々はフレームレートの高い高速中性子ラジオグラフィ施設を共同開発している。この点で、訪問した研究者と共同で実験を行い、情報を交換している。(デルフト工科大学原子炉実験所・オランダ){京大側締結部局:原子炉実験所}

貴校の最も将来有望な若い学生に1年間我々と共に研究してもらいたい。(ハーヴァード大学燕京(イェンチン)研究所・アメリカ){京大側締結部局:文+教+法+経+人文研}

将来の学術交換に、1. 博士過程 SANDWICH PROGRAMS 2. ポストドクターの共同研究計画を期待する。(ハサヌディン大学大学院プログラム及び研究機構・インドネシア){京大側締結部局:ア・ア研究科+東南アジア}

将来は職員や学生の正規交換留学を行いたい。(シンガポール国立大学人文社会科学学部・シンガポール){京大側締結部局:ア・ア研究科+東南アジア}

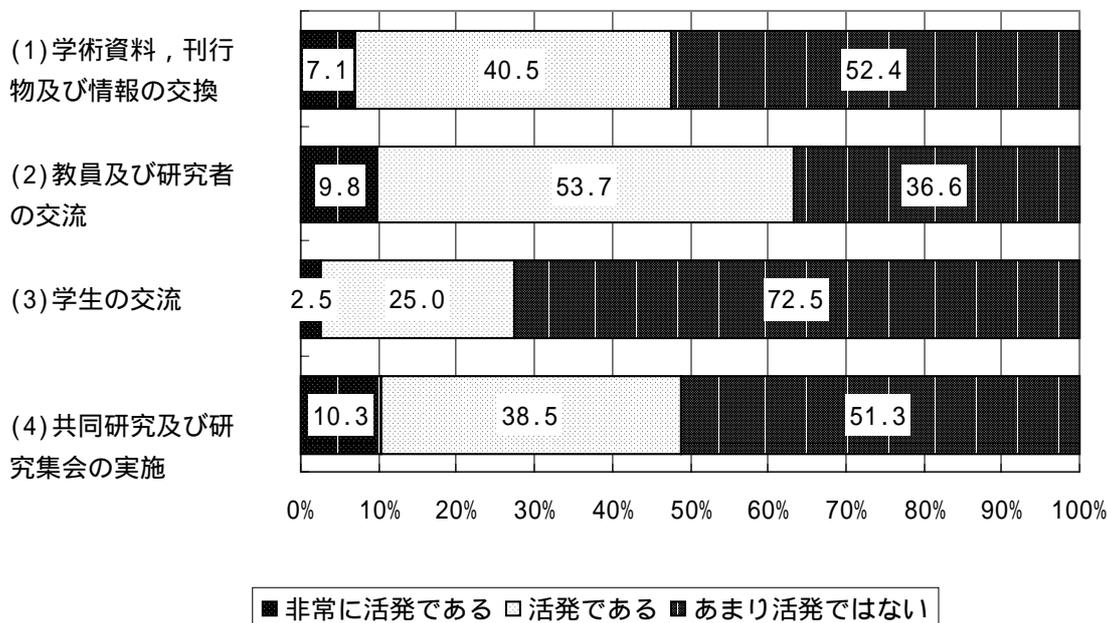
学部生や大学院生の交換留学の増加(ナンヤン工科大学・シンガポール){京大側締結部局:工+エネ科+情報}

資源の回収と再生に関する短期トレーニング(チュラロンコン大学 工学部・タイ){京大側締結部局:工+エネ科+情報}

より活発な学術交流。材料化学と工学部の統合研究を設立中。(チュラロンコン大学 工学部・タイ){京大側締結部局:工+エネ科+情報}

上記に示された4つのエリアとのより密接なコンタクトを期待する。(チュラロンコン大学 工学部・タイ){京大側締結部局:工+エネ科+情報}

Q4. 京都大学との学术交流協定の現状について



Q4. あまり活発でない理由等、学术交流協定の現状について、お書きください

非常に数多くの論文の交換や交換留学を実施してきた。毎年京都大学の各学部から多くの論文を受け取る。こうした論文は図書館に置いて教員や学生が活用できるようにしている。2校間の交換留学協定に基づき、毎年2-3名の学生を留学させている。留学生が韓国に帰って来ると、学術的にも文化的にも極めて貴重な経験をしたと皆話してくれる。教員や職員の活発な交換も増やしていきたい。(慶北大学校・韓国){京大側締結部局:全学}

財政的な問題のために、学生間の交流が困難になっている。学术交流には政府や産業界からの財政支援が必要である。(清華大学・中国){京大側締結部局:全学}

既に交換プログラムが存在するにもかかわらず、協定を実行に移すには、プログラムの要件の差異の調整など、多くの作業が必要となる。更なる協力関係が必要だ。(北京大学・中国){京大側締結部局:全学}

今まであまり多くなかった。多分相手校の状況や交流できる専攻などはっきり分からないからかもしれない。(武漢大学・中国){京大側締結部局:全学}

1. 学術的な書類、論文、情報の交換: 現状: NUSは2000年3月に京都大学との提携を行い、日本学術振興会により京都大学の2名の教授が土木工学部を訪れた。積極的でない理由: 協定調停の後、大学職員とのやり取りがほとんどない。NUSは、提携関係を開始し、より緊密な関係を構築するためのスタートとして、大学の職員が互いに相手の大学を訪問するよう提案したい。3. 学生間の交流: 現状: NUSと京都大学は1999年6月に結んだ交換留学生協定(5年間)に従い、両大学ともこのプログラムに参加する学部生を2名まで送り、受入れることに同意している。しかし、1999-2000年にこのプログラムに参加した京都大学からの学生は1名だけだった。積極的でない理由: NUSの学生がこのプログラムに参加しない理由: 日本語に対する基礎知識が不足しており、日本での講義やコースに出席するのに大きな障壁となっている。(シンガポール国立大学・シンガポール){京大側締結部局:全学}

学部や大学レベルではなく、京都大学からの研究員のみが彼ら自身の特定の研究分野に興味を持ち、KUの個々の研究員との共同研究を求めている。我々2大学間に公平な恩恵はない。より具体的で実質的な計画が練られるべきであり同意が明確になされ、毎年の研究計画が両者によって同意されるべきである。KUが常に不平に思っていることは、両大学のニーズに充分に応えるような計画がないことであり、そのためにこの活動があまり活発でないのである。(カセサート大学・タイ){京大側締結部局:全学}

現在のところ当大学は京都大学と学部学生の交換留学を行っている。これまで以上のことは施設上容易ではない。(ジョージ・ワシントン大学・アメリカ){京大側締結部局:全学}

教養課程と学部学生の交流という素晴らしい仕事を続け、新たな国際的な機会で合衆国と日本を活性化する。(カリフォルニア大学・アメリカ){京大側締結部局:全学}

現在のところ、1学年あたり3人の研究者を交換している。ウィーン大学からの研究者の関心は非常に高いため、我々の大学間でより多く研究者を交換する場を設ければ良いのではないかと考える。(それは現在の予算状況によって制限されるが)交換留学に関する限りは受入れ学生と送り出す学生のバランスは良くとれている。(ウィーン大学・オーストリア){京大側締結部局:全学}

「あまり活発でない」と答えたのは、今回の交流が正式な協力協定はなるべくできるだけ通常の方法で行われていることを反映している。(ストックホルム大学・スウェーデン){京大側締結部局:全学}

1)キャンパス訪問の機会がほとんどない。2)研究プログラム等の情報が不足している。3)言語の問題がある。4)学生宿舎の問題 5)費用? (ボン大学・ドイツ){京大側締結部局:全学}

教官の研究者により学術出版物の交換が行われている。全学レベルでの交流はない。京大との交流は、学生交流の受入れが機能していない。(パリ第7大学・フランス){京大側締結部局:全学}

まだ交換留学を始めたばかりである。(ストラスブルグ第2大学(マルク・ブロック)・フランス){京大側締結部局:全学}

一つの問題としては、当校で日本を学ぶ学生の多くはかなり高いレベルまで上達しているため、京都大学で他の日本人学生とともに正規の授業を受けさせたい。これを実現するのに、日本の他の教育機関ではもっと困難ではないかと思う。KUINEPプログラムに興味を示している学生はいるが、彼らは京都で正規の授業を受けたいと考えているため、これを促進したい。また、より多くの京都大学生を UNSW に迎えたいので、どうやって奨励していくかについて議論したいと思う。(ニュー・サウス・ウェールズ大学・オーストラリア){京大側締結部局:全学}

我々は次のような活動を行っている。1.School of Aerospace, Mechanical and Mechatronics Engineering では京都大学機械工学専攻の と と共著で論文を発表した。2.工学部では京都大学の化学工学の分子工学の分野で応用研究を行って 教授と繋がりを持つ。また、分子工学の分野における研究課題を検討している。3.物理学部では 教授と非公式に共同研究を行っている。 博士と共著で論文を発表した。 教授と交流している。(シドニー大学・オーストラリア){京大側締結部局:全学}

交流プログラムを知っている学生は少なく、交流実績はほとんどない。(オークランド大学・ニュージーランド){京大側締結部局:全学}

アルベルト・ルードヴィヒ大学では、「日本人学生のためのサマープログラム」に毎年最大 140 名の学生を招いている。現在のところ、京都大学の学生は1名しか参加していない。(アルベルト・ルードヴィヒ大学・ドイツ){京大側締結部局:経済学部・経済学研究科}

我々2大学の研究協力は脳の研究、遺伝学とその応用、生物学に関心が集まっている。京都大学で研究を行った 教授、 教授、 教授は中国において一流の研究者となりつつあり、また現在でも京都大学の研究者と密接な交流を保っている。(第四軍医大学・中国){京大側締結部局:医学部・医学研究科}

現在の学術交流状況:POSTECHの研究者が年に2,3度、京都の46 MeV電子ライナックの中中性子施設の実験に参加した。KURRIでのワークショップのために毎年浦項科学技術大学で研究者を招待している。我々は実験や、関連する課題についてメールを通じてコミュニケーションをはかっている。(浦項科学技術大学・韓国){京大側締結部局:工+化研+原子炉}

京都大学と UW-Madison(ウィスコンシン大学マディソン校)は、特に化学工学の分野で強力な関係を結んでいる。UW-Madisonの学生にもっと多く京都大学に行って欲しい。学生が京都のプログラムに申し込みたがらない一番の理由は、日本語能力が不足していることだと思う。(ウィスコンシン大学マディソン校工学部・アメリカ){京大側締結部局:工学部・工学研究科}

新入生の交換留学のために益々努力をすることによって、交換留学に興味を持つより多くの学生が見つかるだろうと信じている。現在のところ多くの学生がそのカリキュラムに気付かず、その交換に参加するために日本語がしゃべれなければならないと推測している。(ノルウェー科学技術大学・ノルウェー){京大側締結部局:工学部・工学研究科}

カザフ農業大学と京都大学は研究協力をしている。(カザフ農業大学・カザフスタン){京大側締結部局:農学部・農学研究科}

これまでのところほとんどの交流は、JICA が資金援助しているプロジェクトを通じて、京都大学アフリカ地域研究資料センターと、SUA Centre for Sustainable Rural Developmentの間で行われている。他の分野の交流は、資金やスポンサーの不足によって制限されている。(ソコイネ農科大学・タンザニア){京大側締結部局:農学部・農学研究科}

残念ながら我々の共同研究は期限が切れ、新たな申請を行っている。修士課程の学生の交換は東京大学との間で上手く協力し合えたので、京都大学とも上手くいくだろうと信じている。(ストックホルム王立工科大学・スウェーデン){京大側締結部局:化学研究所}

京都大学エネルギー理工学研究所(2000.7.24)との研究協力の合意は取れているが、大学間での公式な契約はない。(東義大学校工科大学・韓国){京大側締結部局:エネルギー理工学研究所}

現段階で学術交換に改善の余地があるとした主な理由は、今年(2001年)7月に木質科学研究所と正式なMOU(覚書)を確立したばかりであるためだ。近い将来には今の状況よりもずっと活発な段階に達するものと確信している。(マレーシア理科大学生物学部・マレーシア){京大側締結部局:木質科学研究所}

研究情報の交換は行われているが、それほど活発ではない。主な原因は、両機関とも様々な活動を行う様々な内部又は外部の組織に委託していることにある。しかし双方とも情報交換や交流のための時間を作ろうと努力している。ワークショップやシンポジウムを開催することによって、交流が活発になっていくと考えている。学生間の交流の欠如は、ほとんどの場合言葉の壁によるものだろう。(ブトラ大学林学部・マレーシア){京大側締結部局:木質科学研究所}

交流の現状:ジャワ島西部のグントール火山観測所における火山や地殻変動の監視ネットワークが、京都大学防災研究所の桜島火山活動研究センターのハイテク機器や専門研究員を活用して設置された。人的資源:DVGHMの職員4名が修士号を取得している。DVGHMの職員3名は修士号取得見込みである。学術文書や論文、情報の交流が活発でない理由は、優先順位の問題だろう。(インドネシア鉱山エネルギー省地質鉱物資源総局・インドネシア){京大側締結部局:防災研究所}

なし。(韓陽大学校 経済研究所 韓国){京大側締結部局:経済研究所}

レポートを受け取っていない。(PPLK)(中国科学院プラズマ物理研究所・中国){京大側締結部局:原子炉実験所}

特に大学院生は、プログラムによって時間をとられることを嫌がる。2001年9月11日の出来事により、全ての交換留学の継続が困難になり、減少している。(カリフォルニア大学パーカー校工学部・アメリカ){京大側締結部局:原子炉実験所}

1ページ目のQ3を参照のこと。(デルフト工科大学原子炉実験所・オランダ){京大側締結部局:原子炉実験所}

連絡を頂ければ、当機関に滞在する学生の申し込み用紙を送付する。受入れる学生については、完全な奨学金、航空運賃、生活費などを提供する。学生は準博士か博士で、42歳までとする。分野は基本的に人類学とする。(ハーヴァード大学燕京(イェンチン)研究所・アメリカ){京大側締結部局:文+教+法+経+人文研}

学术交流があまり活発でない理由は以下の通りである: 1) 学术交流プログラムの詳細な実施計画を立てていない。これは共同協定を実際に行うには非常に重要なことである。ハサヌディン大学と京都大学とが協力して詳細な実施計画を立てなければならない。2) 経済危機にあるため、資金が制限されている。(ハサヌディン大学大学院プログラム及び研究機構・インドネシア){京大側締結部局:ア・ア研究科+東南アジア}

当校の学生が文部省の特殊な奨学金プログラムで京都大学へ行った。我々は正規のプログラムを希望している。当校の職員は東南アジア研究所と人文研に連絡をとったが、正規の教授交換訪問を希望している。(シンガポール国立大学人文社会科学学部・シンガポール){京大側締結部局:ア・ア研究科+東南アジア}

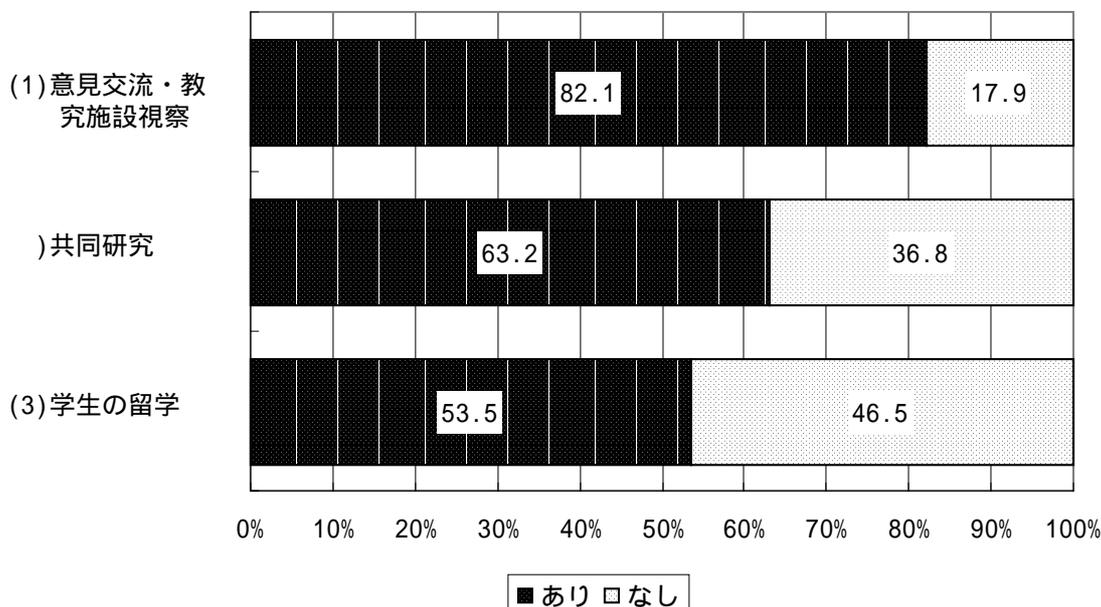
(1)について、指導や研究の正式な共同学術プログラム、つまり学位認定コースや博士号の共同研究などはない。(3)について、まだ交換留学生がいない。(ナンヤン工科大学・シンガポール){京大側締結部局:工+エネ科+情報}

現在のところ未だ親しい教授も京都大学とのつながりもない。(チュロンコン大学 工学部・タイ){京大側締結部局:工+エネ科+情報}

質問点に関してはあまりにも数少ない活動しか行っていない。殆どの学部では行われていない。材料化学と工学部の統合研究は未だ存在しない。将来すぐにも統合されることを希望している。我々の学部では京都からの大学院生はいない。このように京都大学との交流がないため京都大学における学部や研究室との共同研究を確立することは容易ではない。我々の大学のいくつかの研究室では東京大学と関係を持っているが、それは東京大学出身者がいるためである。チュロンコン大学でいくつかの学术交流があるようであるが、それは日本語を話せる京都大学出身者がいるためである。以前京都大学の化学工学の学部の教授と良い交流を持ったことがある。(チュロンコン大学 工学部・タイ){京大側締結部局:工+エネ科+情報}

No.1とNo.2 学術的資料の交換は、個人的な接触のみを活性化させる。このような活動を拡張しようとするような機構はない。No.3 学生間での双方向コミュニケーションは合衆国において殆どない。(チュロンコン大学 工学部・タイ){京大側締結部局:工+エネ科+情報}

Q5. 過去5年間の交流について



Q5.

京都大学から受入れた研究者あるいは留学生に対して、どのような印象をお持ちになりましたか？また、何か気付かれた点があれば、自由にお書きください

京都大学の職員の方々ととても良い関係を保っている。非常に親切に交換留学生プログラムに協力してくれる。今後もさらに交流を図っていきたい。(慶北大学校・韓国){京大側締結部局:全学}

京都大学から来た研究者は厳格で、熱心で、正直である。何事に対しても綿密な計画を立て、非常に効率良くこなしていく。(清華大学・中国){京大側締結部局:全学}

京都大学からの研究者や学生が NUS にいる間、彼らに会う機会が持てなかったのが残念だ。今後は会う機会を設けたいと思う。彼らを招き、地元のもてなしで迎えたいと思う。(シンガポール国立大学・シンガポール){京大側締結部局:全学}

より具体的な計画と実施は、農学に限らず、あらゆる研究分野と活動分野における2大学間の MOU 計画を利用することによってなされるべきである。私が京都大学の教授を通して個人的に世話をしている殆どの留学生は優秀であるが、それは京都大学の学生のみであってこの計画を通してカセサート大学から交換留学で渡った学生は一人もいない。京都の教育機関や研究機関の訪問を通して意見交換をすることに加えて教官の交換も奨励されている。(カセサート大学・タイ){京大側締結部局:全学}

1998-99年と1999-2000年の期間に、KUINEPプログラムで4名の学生を送った。交換留学生として、京都大学から3名の学生を受入れた。現在は交換協定の期間が終了している。(タフツ大学・アメリカ){京大側締結部局:全学}

京都大学からの学生は優秀で、ホストとして喜ばしい。(ジョージ・ワシントン大学・アメリカ){京大側締結部局:全学}

入ってくる研究者は皆、交流のため良く準備し非常に計画性がある。(ウィーン大学・オーストリア){京大側締結部局:全学}

大学の学術訪問や共同研究の中央レベルでの登録はない。そのため質問(1)及び(2)には答えられない。質問(3)については、交換留学が良く機能した経験がある。ただ一つの問題は、KUINEPプログラムで研究していたスウェーデンの学生が、ストックホルム大学での試験が認められず、京都で研究できなくなっていることだ。この問題は、前もって認められた学生のみを送るという方法で解決した。京都からの学生に関して問題は報告されていない。一般的な印象では非常に優秀である。(ストックホルム大学・スウェーデン){京大側締結部局:全学}

研究者と学生は優秀であり、当方へ来て欲しい。(ボン大学・ドイツ){京大側締結部局:全学}

教官や研究者との交流は評価でき、共同研究は大変有益である。本学は、京大との交流において学術活動の促進を重要と考えている。(パリ第7大学・フランス){京大側締結部局:全学}

研究者: 研究者は専門の研究分野においては素晴らしいレベルにあり、交流前には存在しなかった研究プログラムを共同で行った。友好的な関係も交換プログラムの成果の一つだ。交換を行う分野は少しずつ広がっている。このプログラムは、後に関わらざるを得ない関係を築きかけとなる。学生: フランスでは「プログラム 8」というプログラムが昨年から始まり、ルイ・パスツール大学がストラスブールで実施している。これは大学での研究を始めたばかりの学生を対象にしている。2001年9月に第二弾の学生がストラスブールを訪れ、フランスの教育制度にうまく組み入れられた。ご存知のように、このプログラムは前進を続けている。2001年に訪問学生のための別のプログラムが始まった。これは修士の学生を対象にしている。「ルノー財団」がス

ボンサーとなっている。京都大学の学生は、日本の他の学生と共にこのプログラムの対象となる。(ストラスブール第1大学 (ルイ・パスツール)・フランス){京大側締結部局:全学}

我々が世話をした京都からの交換学生はシドニー大学で良い研究を行った。交換留学は我々の学生間(特に我々の大学の芸術学部)で人気がある。比較的最近になって1年間に2人のFTEを交換する合意がなされている。これまでは京都大学から一学生、シドニー大学から3人の学生を交換してきた。我々はこの合意を喜ばしく思い、またうまくいくようにしたい。(シドニー大学・オーストラリア){京大側締結部局:全学}

学生は勉学に熱心である。英語の熟達はそれほどではないが、早くマスターする。いい学生がいると思う。(オークランド大学・ニュージーランド){京大側締結部局:全学}

4年前に が京都大学を訪れた。今年の夏に 教授が共同研究のため京都大学を訪れた。 教授はフライブルグ大学の卒業生である。(アルベルト・ルードヴィヒ大学・ドイツ){京大側締結部局:経済学部・経済学研究科}

我々が受入れた教授、及び研究者は全て良く研究を進め、突出した結果を出している。特に 教授と 教授らは我々に寛大で私欲のない援助をしてくれた。(第四軍医大学・中国){京大側締結部局:医学部・医学研究科}

UW-Madison で研究している京都の学生は、学術的なモチベーションが非常に高い。このような学生を我々の社会に受け入れることができ嬉しい。(ウィスコンシン大学マディソン校工学部・アメリカ){京大側締結部局:工学部・工学研究科}

今春まで学生と仕事をしていないのでこの質問には答えられない。 に電子メールで連絡を取り、彼女にこの質問に答えて貰えるように頼もうと思う。(ノルウェー科学技術大学・ノルウェー){京大側締結部局:工学部・工学研究科}

仁済大学校医生命工学大学の 学部の大学院生である は交換留学生として2000.8-2001.2の間、京都大学の宇治キャンパスにある食糧科学研究所(大学院農学研究科) 教授の研究室を訪問した。仁済大学校医生命工学大学の 教授は訪問教授として2001.12-2001.2の間、同教授の研究室を訪れている。我々の意見は、この2つの訪問がきっかけとなり仁済大学と京都大学の間で、より活発で深い関係を持つたと考えている。日本人学生がこの地韓国で勉強や研究を経験することで、学生教育交換と共同研究計画がより現実的に発展する事を期待している。(仁済大学校医生命工学大学/仁済大学校大学院・韓国){京大側締結部局:農学部・農学研究科}

彼らは様々な研究プロジェクトや様々な研究方法をもたらしている。言語障壁のため、共同研究の成果を発表する雑誌をSUA職員が利用できる範囲に限られている。(ソコイネ農科大学・タンザニア){京大側締結部局:農学部・農学研究科}

最も最近の学生で5年前である。一般的に日本の学生と上手くいっている。(ストックホルム王立工科大学・スウェーデン){京大側締結部局:化学研究所}

彼等は非常に親切である。(東義大学校工科大学・韓国){京大側締結部局:エネルギー理工学研究所}

最近京都大学から当部門に来た研究者の委託レベルに非常に感激している。(マレイシア理科大学生物学部・マレイシア){京大側締結部局:木質科学研究所}

京都大学から来た研究者や学生は、たいてい自分の専門分野に関する知識を全く自由に使いこなすことができる。非常によく鍛えられており、他の文化や社会にも問題なく適応できる。研究者も学生も、自分の持っている知識を仲間と進んで共有しようとする。研究者は研究の方向性に先見の明を持っている。(プラ大学林学部・マレイシア){京大側締結部局:木質科学研究所}

京都大学のSVO-DPRIに受け入れられた研究者と学生は、研究分野において非常に優秀な人材だ。大半が緊密なコミュニケーションをとっており、共同研究や研究のワークショップの実現は期待に沿うものであり、我々の研究能力に良い影響を与えるだろう。(インドネシア鉱山エネルギー省地質鉱物資源総局・インドネシア){京大側締結部局:防災研究所}

なし(韓陽大学校 経済研究所・韓国){京大側締結部局:経済研究所}

京都大学の学生は良く教育されていて、研究熱心である。一般的にうまくやっている。(カリフォルニア大学バークレー校工学部・アメリカ){京大側締結部局:原子炉実験所}

学術レベルが高く、高いモチベーションを持ち、国際指向で、進んで協力する。(デルフト工科大学原子炉実験所・オランダ){京大側締結部局:原子炉実験所}

京大から来た学生を高く評価している。この交換留学を強化していきたい。(ハーヴァード大学燕京(イェンチン)研究所・アメリカ){京大側締結部局:文+教+法+経+人文研}

京都大学から幾人かの優秀な卒業生を受け入れている。彼等はハサヌディン大学のいろいろな研究分野での学部メンバーである。過去5年間で幾人かの京都大学からの学生と研究者が我々の大学で研究活動を行っている。彼等は非常に良く働き、また友好的である。(ハサヌディン大学大学院プログラム及び研究機構・インドネシア){京大側締結部局:アア研究科+東南アジア}

京都大学の学生や教授の存在に非常に感謝している。ここでの学習や研究に役立つものをたくさん持っているからだ。(シンガポール国立大学人文社会科学学部・シンガポール){京大側締結部局:アア研究科+東南アジア}

過去10年間、毎年教員が互いに相手の大学を訪問している。同時に共同研究プロジェクトも行う。若い教員が京都大学で研究を行い、博士号を取得する。(ナンヤン工科大学・シンガポール){京大側締結部局:工+エネ科+情報}

我々の学部では上記のような活動は行っていない。それを行おうとしている。(チュラロンコン大学 工学部・タイ){京大側締結部局:工+エネ科+情報}

我々の大学研究の促進のため、京都大学との共同研究、及び学生交換(特に大学院生)を期待する。さらに、もし出来ることならば、共同研究や土木工学の分野における国際的な大学院研究のような特別な研究計画を通して、研究資金を得られればと期待する。(チュラロンコン大学 工学部・タイ){京大側締結部局:工+エネ科+情報}

今特に京都大学に何かメッセージがあれば、自由にお書きください。
また、本アンケート調査に対するご意見、ご感想がありましたらお書きください

質の高い交換留学を行うために力や時間を費していただき、ありがたく思っている。ご協力に感謝する。(慶北大学校・韓国){京大側締結部局: 全学}

京都大学との協力や交流を更に深め、京都大学の国際交流課と清華大学の国際協力・交流オフィスの間で情報交換することを希望する。(清華大学・中国){京大側締結部局: 全学}

詳細な情報が必要であれば、遠慮なく連絡してもらいたい。(北京大学・中国){京大側締結部局: 全学}

貴学の国際交流調査表(International Exchange Survey)を記入させていただいたことを感謝いたします。21世紀に入った今日は大学間の国際交流のやり方などを検討するのが非常に有意義なことだと思います。貴学は歴史が長く、先進的な設備や優秀な教職員などを有する世界にも有名な大学です。貴学と学術交流ができれば幸いに存じます。武漢大学は1893年に創立され、中華人民共和国教育部に所属される有数の総合大学の一つであります。いま理学、工学、農学、文学、史学、法学、医学、商学など11分野にわたる29の学院から成り、計学部85、修士課程189、博士課程99、博士後期課程研究室11専攻を設置しております。本学には5000人の選任教師が揃い(この中にはユーラシア・アカデミー会員や中国アカデミー会員なる教授が9人)、毎年在校生が4000人あまりいます。両大学はずっと前から往来関係があります。1995年や1999年本学の学長を始めとする武漢大学訪日団は貴学を訪問して、貴学総長の井村裕夫先生及び諸先生の方々の熱烈な歓迎をいただきました。そして、1995年3月に正式な覚書を締結しました。貴学80年代の左右田健次教授、伊藤清教授、谷川道雄教授、及び90年代の萩原宏教授、松本 教授などが本学にいる成功的な学術訪問は、いつまでも武漢大学の史書に残っています。貴学のご来訪を心から歓迎いたします。また、両大学の交流関係をいっそう発展していこうと願っております。(武漢大学・中国){京大側締結部局: 全学}

NUSとしては、貴大学とさらに交流を深め、学術的な協力関係をさらに開始したいと考えている。(シンガポール国立大学・シンガポール){京大側締結部局: 全学}

京都大学の卒業生として、1972年以来長い間、個人的に京都大学と密な交流を持つて私は、両大学間の密接な関係からより多くの恩恵を得、両大学間でいくつかの学問分野における研究とその他のメリットを利用して出きる限りその計画を活用できるような合意を得られることを期待している。京都大学とカセサート大学間のMOU計画の遂行は、双方向の学術的な合意と対等な立場を守ることができれば持続するだろう。全ての交換計画をますます推し進めるべきである。学術的なあらゆるレベルにおける交流活動は双方向の行政レベルで頻繁に会合を開き、1984年に発足して以来行なわれてきたように一方のみがその恩恵にあずかるのではなく、双方が適時に恩恵を得られるように、その計画に対するより目的をより明確にし、理解すべきである。もちろん京都大学が高水準と評判を得た人材、高額の予算を有しているという点で優位にあるのは言うまでもないが、もしこの計画が真摯に遂行されるならば、現在のような一方のみではない、確かに双方がより多くの恩恵を得られるであろう。

(カセサート大学・タイ){京大側締結部局: 全学}

我々の関心は、共同研究やワークショップというよりはむしろ、優秀な学生の交換のための設備を整えることである。(カリフォルニア大学・アメリカ){京大側締結部局: 全学}

研究者の交換に関する仕事(つまりInternational Affairs Division and the Foreign Student Division.)につけて幸いである。(ウィーン大学・オーストリア){京大側締結部局: 全学}

こうした調査を行うのはすばらしいアイデアであり、結果を教えて欲しい。(ボン大学・ドイツ){京大側締結部局: 全学}

アンケートの気遣いがありがとう。(パリ第7大学・フランス){京大側締結部局: 全学}

基本的に、交流は改善を続け、大きな成果を得ている。情報:「日仏大学会館」フランスは、フランスと日本の学術交流をあらゆる面で検討できるよう、「日仏大学会館」(フランスと日本の大学のための施設)を設立した。この機関はストラスブールのルイ・パスツール大学の建物の中に置かれ、ルイ・パスツール大学の学術スタッフとの綿密な関係を保つ。改善の可能性: 小さな問題だが、技術面で双方に改善の余地がある。年ごとに優先される化学研究又は指導分野について明確な考えを示すと、新たな交流を進める化学者を選択する際に参考になる。招待する教員について、ルイ・パスツール大学の考えと京都大学の提案を同期させるのは難しい。京都の方が、交換プログラムの候補者の選択に時間がかかる。我々としては、ルイ・パスツール大学の学生を毎年2名ずつ京都に送ることを期待している(相互努力の原則)。(ストラスブール第1大学(ルイ・パスツール)・フランス){京大側締結部局: 全学}

我々は京都大学との関係に価値を置いている、また互いに関連のある学術分野に関しても強化していきたい。(シドニー大学・オーストラリア){京大側締結部局: 全学}

学生交流プログラムや大学の情報は重要だと考えている。(オークランド大学・ニュージーランド){京大側締結部局: 全学}

調査に協力できて非常に嬉しく思っている。このような調査は良いことで、また必要なことである。貴サイトで良いニュースが見られることを楽しみにしている。(第四軍医大学・中国){京大側締結部局: 医学部・医学研究科}

KURRIの研究者は非常に核実験データの作成の経験に富んでいる。彼等はまたその分野で非常に活発な研究者でもある。(浦項科学技術大学・韓国){京大側締結部局: 工+化研+原子炉}

唯一のメッセージとしては、外国人学生のプログラムについてもっと情報を得たい。(ウイスコンシン大学マディソン校工学部・アメリカ){京大側締結部局: 工学部・工学研究科}

私の名前は である。最近になって、NTNUと京都大学との間の交換留学のための学生の世話をする責任を与えられた。私の連絡先は... 調査にすぐに完備できなくて申し訳ない。このことで何か問題を起こしていないように心から願う。共に仕事が出来ることが楽しみにしている。誠意をこめて。(ノルウェー科学技術大学・ノルウェー){京大側締結部局: 工学部・工学研究科}

仁済大学と京都大学における他の学部も、この素晴らしい国際交換プログラムに参加していただけたらと思う。(仁済大学校医生命工学大学/仁済大学校大学院・韓国){京大側締結部局: 農学部・農学研究科}

全体的には、京都大学との共同研究は双方にとって有意義である。しかし、双方とも、共同研究を維持し、大学内のほかの分野にまで共同研究の範囲を広げるために努力が必要だ。共同研究における主な制限は、スポンサーの不足による。願わくば、

将来は更に財政支援を受けて共同研究の範囲を広げたい。(ソコネ農科大学・タンザニア){京大側締結部局:農学部・農学研究科}

私は京都大学工学部との契約を得るために連絡をとった。教授は親切にも適当な人に(2001年3月)メッセージを転送して頂いたが、未だ返事はない。(ストックホルム王立工科大学・スウェーデン){京大側締結部局:化学研究所}

東義大学校は京都大学と公式な関係を結びたい。(東義大学校工科大学・韓国){京大側締結部局:エネルギー理工学研究所}

1. 少なくとも2年に一度は職員の学術交流を行いたい。交流の期間は最短で1-2週間とする。この期間に連絡やネットワークが刷新され、より広がっていく。また、共同研究を行うこともできる。手始めに、毎年1週間までの期間で、両機関の教員の交換訪問を提案したい。2. 大学院生については、共同で監督を行いたい。これは双方にとって利益となり、また学生の研究成果の発展にもつながる。京都大学の教員が当校の修士と博士号の学生を共同監督し、逆も行う。これにより、両機関の共同研究活動も早まるだろう。(マレーシア理工科大学生物学部・マレーシア){京大側締結部局:木質科学研究所}

UPMは、京都大学、特に農学部や木質科学研究所の教員との密接な協力関係に期待している。JSPSの拠点大学プログラムのような国際的な共同プログラムにもっと積極的に参加したい。また、京都大学が更に多くのマレーシアの大学や研究機関との協力関係を確立し、日本とマレーシアの強力な結びつきが生まれることを希望している。(プトラ大学林学部・マレーシア){京大側締結部局:木質科学研究所}

1. 火山、地震、地すべりの監視を行うため、火山などの分野に長けた人材がもっと必要である。2. 交流の継続を期待している。3. この調査は、現在の交流の状況を評価する上で役に立つだろう。(インドネシア鉱山エネルギー省地質鉱物資源総局・インドネシア){京大側締結部局:防災研究所}

なし(韓陽大学校 経済研究所・韓国){京大側締結部局:経済研究所}

有名大学である貴校に敬意を払っており、有意義な交換留学に期待している。(ハーヴァード大学燕京(イェンチン)研究所・アメリカ){京大側締結部局:文+教+法+経+人文研}

京都大学が、特に共同研究や博士課程 SANDWICH PROGRAMS に関して学術交流プログラムを増やして貰えたら光栄である。過去5年間で、京都大学から来た何名かの学生や研究者が当校で研究を行っている。彼らは勤勉で、とても友好的である。(ハサヌディン大学大学院プログラム及び研究機構・インドネシア){京大側締結部局:アア研究科+東南アジア}

京都大学は日本で非常に定評があり、名の知られた大学である。しかし、国際化という点でも世界クラスの大学になるべきだ。この調査はちょうど良いタイミングで行われた。京都大学が国際化の中でより積極的な役割を果たせるよう、立場を考え直すのに役立つだろう。(ナンヤン工科大学・シンガポール){京大側締結部局:工+エネ科+情報}

京都大学との研究交流を楽しみにしている。(チュロンコン大学 工学部・タイ){京大側締結部局:工+エネ科+情報}

(学術交流協定機関名)
(学術交流協定担当者) 殿

このたび、京都大学におきましては、本学の「国際交流」の実状を把握し、現状の改善と今後の在るべき姿を探るために、自己点検・評価を実施することになりました。本自己点検・評価を実施するにあたり、本学と学術交流協定を締結された貴機関のご意見や感想をお伺いすることになり、アンケート調査を企画いたしました。

つきましては、本調査の主旨をご理解いただき、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

なお、この調査で得られたデータはすべて統計的に処理し、皆様にご迷惑をおかけすることはございません。

ご回答は、10月19日までに、同封の封筒により、切手を貼らずにそのままご返送願います。あるいは、インターネットを通して、次のホームページ (<http://www.adm.kyoto-u.ac.jp/kikaku/kyo/>) で、回答を入力し、送信することが出来ます。

おって、この調査結果を踏まえて作成する自己点検・評価報告書は、2002年3月に、京都大学ホームページ (<http://www.kyoto-u.ac.jp>) 上で公表する予定です。

平成13年9月18日

京都大学大学評価委員会
自己点検・評価等専門委員会
委員長 丸 山 正 樹

自己点検・評価等専門委員会
「国際交流」作業部会
主 査 紀 平 英 作

D 学術交流協定校へのアンケート調査

貴機関についてお伺いします

Q1. 貴機関の名称をお答え願います

Q2. 京都大学との学術交流協定について、交流を直接担当する組織の名称についてお答え願います

(以下の質問については、交流を直接担当する組織がお答え願います)

学術交流についてお伺いします

Q3. 京都大学との学術交流協定について、貴機関は、特に何を期待しておられますか？

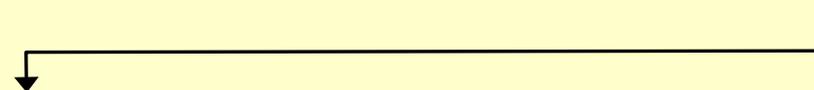
(それぞれの数字に を付けてください)

	特に期待 している	期待 している	少し期待 している
(1) 学術資料, 刊行物及び情報の交換	3	2	1
(2) 教員及び研究者の交流	3	2	1
(3) 学生の交流	3	2	1
(4) 共同研究及び研究集会の実施	3	2	1
(5) 今後の学術交流に期待されることについてお書きください			

次ページへ続く

Q4 . 京都大学との学术交流協定の現状についてお答え願います(それぞれの数字に を付けてください)

	非常に 活発である	活発である	あまり 活発でない
(1) 学術資料, 刊行物及び情報の交換	3	2	<u>1</u>
(2) 教員及び研究者の交流	3	2	<u>1</u>
(3) 学生の交流	3	2	<u>1</u>
(4) 共同研究及び研究集会の実施	3	2	<u>1</u>



あまり活発でない理由等、学术交流協定の現状について、お書きください

次ページへ続く

Q5 . 貴機関は、過去5年間に京都大学との間に次のような交流がありましたか？

- | | | | |
|-------------------|--------------|---|-------|
| (1) 意見交流・教育研究施設視察 | 1) <u>あり</u> | ・ | 2) なし |
| (2) 共同研究 | 1) <u>あり</u> | ・ | 2) なし |
| (3) 学生の留学 | 1) <u>あり</u> | ・ | 2) なし |

↓
京都大学から受け入れた研究者あるいは留学生に対して、どのような印象をお持ちになりましたか？

また、何か気付かれた点があれば、自由にお書きください

次ページへ続く

今特に京都大学に何かメッセージがあれば、自由にお書きください。また、本アンケート調査に対するご意見、ご感想がありましたらお書き下さい

ご協力ありがとうございました

-4-

資料 分類表 (国の地域別分類)

地域	国名	地域	国名	
東アジア	韓国	西欧	ドイツ	
	中国		ノルウェー	
	台湾		フィンランド	
	日本		フランス	
	モンゴル		ベルギー	
東南アジア	インドネシア		ボスニア・ヘルツェゴビナ	
	ヴェトナム		ポルトガル	
	カンボディア		マケドニア	
	シンガポール		マルタ	
	タイ		モナコ	
	フィリピン		ユーゴスラヴィア	
	ブルネイ		リヒテンシュタイン	
	マレーシア		ルクセンブルグ	
	ミャンマー		東欧	アゼルバイジャン
	ラオス			アルバニア
南アジア	インド	アルメニア		
	スリランカ	ウクライナ		
	ネパール	エストニア		
	パキスタン	キルギス		
	バングラデシュ	グルジア		
	ブータン	チェコ		
	モルディヴ	ハンガリー		
北米	アメリカ	ブルガリア		
	カナダ	ベラルーシ		
中南米	アルゼンチン	ポーランド		
	ヴェネズエラ	モルドヴァ		
	エクアドル	ラトヴィア		
	キューバ	リトアニア		
	コスタリカ	ルーマニア		
	コロンビア	ロシア		
	チリ	オセアニア	オーストラリア	
	パナマ	ニュージーランド		
	パラグアイ	中東・中央アジア	イスラエル	
	ブラジル		イラン	
	ペルー		エジプト	
	ホンデュラス		サウジアラビア	
	メキシコ		ヨルダン	
	西欧		アイスランド	トルコ
			アイルランド	レバノン
アンドラ		カザフスタン		
イタリア		アフリカ	アルジェリア	
ヴァチカン			エチオピア	
英国			ガーナ	
オーストリア			ケニア	
オランダ			コンゴ	
ギリシャ			ザンビア	
クロアチア			スーダン	
キプロス			コートジボアール	
サンマリノ			タンザニア	
スイス			チュニジア	
スウェーデン			ナイジェリア	
スペイン			マダガスカル	
スロヴァキア			南アフリカ	
スロヴェニア			モロッコ	
デンマーク				

地域ごとに 50 音順とした

分類表（部局の専門分野別分類）

分類	部局名
C	総合人間学部
A	文学部・文学研究科
A	教育学部・教育学研究科
A	法学部・法学研究科
A	経済学部・経済学研究科
B	理学部・理学研究科
B	医学部・医学研究科
B	薬学部・薬学研究科
B	工学部・工学研究科
B	農学部・農学研究科
C	人間・環境学研究科
C	エネルギー科学研究科
C	アジア・アフリカ地域研究研究科
B	情報学研究科
B	生命科学研究所
B	化学研究所
A	人文科学研究所
B	再生医科学研究所
B	エネルギー理工学研究所
B	木質科学研究所
B	食糧科学研究所
B	防災研究所
B	基礎物理学研究所
B	ウイルス研究所
A	経済研究所
B	数理解析研究所
B	原子炉実験所
B	霊長類研究所
C	東南アジア研究センター
B	大型計算機センター
B	放射線生物研究センター
B	宙空電波科学研究センター
B	生態学研究センター
B	放射性同位元素総合センター
B	環境保全センター
B	遺伝子実験施設
A	留学生センター
A	高等教育教授システム開発センター
C	総合博物館
B	総合情報メディアセンター
B	保健管理センター
C	体育指導センター
A	埋蔵文化財研究センター
C	アフリカ地域研究資料センター
A	カウンセリングセンター

分類	専門分野
A	文系
B	理系
C	融合系